

健大で学ぶWell-being

英文名：Steps to Well-being at KENDAI.

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング : LAB000

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

单位数：1单位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性と倫理観

1 専門知識・技術の活用力

1 論理的思考力

2 チームへの貢献力

1 生涯學習力

すべて開く▼

すべて閉じる

担当教員

【情報】：松尾仁司【福祉】：出雲春明【栄養】：高梨美穂【薬】：松岡功、須藤豊、高橋恵美利、田中祐司【看護】：吉田久美子、倉林しのぶ、北原恵美【理学】：中川和昌【子ども】：栗原幸正【農】：橋田庸一、大政謙次、吉積毅、石神靖弘、松岡寛樹、谷顕子

科目に関連した実務経験

【子ども】栗原：公立学校教諭・教頭・校長。教育委員会指導主事。群馬県人権教育・啓発推進懇談会座長。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

[illegible]

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標

高崎健康福祉大学（健大）を知り、健大への理解と自身の所属学科以外の他学科の理解をもとに、多様な職種に対する理解や自校理解の礎を作る。

健大の精神「自利利他」は、「人の喜びを自分の喜びとする心」であり、学生生活から将来に至るまで様々な局面での行動・成長基盤となりうるものである。健大精神のあり方を考えるきっかけとなる講義を行い、成長につなげる。SDGs（Sustainable Development Goals）は、持続可能な未来を形成するために意識すべき目標である。SDGsを知り、また具体的な関わりの例などから考えることで、様々な局面で貢献する為の素養を身につける。

以上を通じて、Well-being社会に貢献する人材へ成長するための基盤構築を本講義の目標とする。

②講義の実施方法

全講義オンデマンド式とする。

1. 講義の開講について

講義は第1回から9回までの講義で構成される。原則として毎週水曜日15時に1講義分の動画が公開されるので、各自で受講時間を確保して学習を進める。公開から1週間以内にオンラインシステムのリンクからアクセスし、講義動画視聴を行い、その後、オンラインシステム内で小テストを実施すること。

なお、動画へのアクセスは、高崎健康福祉大学Googleアカウントにログインした状態でのアクセスが必要となる。第1回の講義前、各学科ガイダンス等の中で受講方法に関する説明があるのでその指示に従い、各自で受講準備を行う事。

2. 講義の出席について

原則、各学科が1回を担当し学科の理解、学科における自利利他・SDGsとの関わりについて例を含めながら講義を行う。講義動画へのアクセスと小テスト実施をもって出席とする。

3. 講義後の入力提出について

講義視聴後に自身が感じた自利利他やSDGsへの考え、講義の感想など思った事をオンラインシステム上からアンケートに回答すること。アンケートは自由記述とするが講義改善の指標とするので、積極的な参加を期待する。

到達目標



1. 健大の学部・学科について知り、理解を深める。
2. 健大精神「自利利他」を知り、理解を深める。
3. SDGsを知り、理解を深める。■

使用教材



各講義回で利用する資料・教材がある場合にはオンラインシステムを通じて電子ファイルで配布を行う。

評価方法



第1回の受講（4%）と各講義回の講義動画閲覧と小テスト：2～9回（各12%）の合計100%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



小テストは点数のみ公開する。不正解の問題があった場合には講義を再視聴し、公開期間内に小テストをやり直したのち、自身の考えを醸成させること。小テストは再解答を3回まで認めるので、各自で適宜復習を行い、考えを発展させてほしい。

オフィスアワー



質問はオンラインシステムの連絡機能やメールで受け付ける。対面による質問を希望する場合はメールで事前に相談すること。

情報：松尾（1号館607研究室）

福祉：出雲（1号館511研究室）

栄養：高梨（3号館研究室）

薬：松岡（7号館312研究室）

看護：吉田久（5号館410研究室）

理学：中川（4号館413研究室）

子ども：栗原（8号館 学部長室）

農：橋田（10号館604研究室）

メールアドレス（#→@）



情報：松尾

matsuo#takasaki-u.ac.jp

福祉：出雲

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

栄養：高梨
 takanashi-m#takasaki-u.ac.jp
 薬：松岡
 isao#takasaki-u.ac.jp
 看護：吉田久
 yoshikumi#takasaki-u.ac.jp
 理学：中川
 nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp
 子ども：栗原
 kurihara-y#takasaki-u.ac.jp
 農：橋田
 hashida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	本学の歴史、大学としての自利利他、SDGsの考え（高崎健康福祉大学 学園長、学長）。	1, 2, 3	自利利他の意味、SDGsについて調べておく。 自身の端末で高崎健康福祉大学のアカウントにログオンできるようにしておく（各学科ガイダンス等で受講法の説明があるので、各自で第1回講義前までにオンライン受講準備を整え、ガイダンス動画を閲覧しておくこと）。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
2	医療情報学科（松尾）：情報技術が支える健康・医療	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
3	社会福祉学科（出雲）：誰も置き去りにしない社会	1, 2, 3	「誰も置き去りにしない社会」や「地域社会における支え合いの意義」について、調べておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。 講義で取り扱ったケースについて調べ、周囲と話しあってみる。	1h
4	健康栄養学科（高梨）：食と健康・福祉・医療	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
5	薬学部（松岡、須藤、高橋、田中）：Well-beingとクスリ	1, 2, 3	薬剤師の業務について調べておく。オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
6	看護学科（吉田、倉林、北原）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
7	理学療法学科（中川）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
8	子ども教育学科（栗原）：学校教育とLG	1, 2, 3	LGBTに関する新聞等の報道記事に目を通し、社会の動向を掴んでおく。	1h	講義動画での学びを基に、自身が今後どのような	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	BT ■				な行動をすべきかについて、身近な友人・知人との話し合いを通して明確にする。	
9	農学部（橋田、大政、吉積、石神、松岡、谷）	1, 2, 3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h

合計時間（予習・復習）



18h

備考



授業の時間について
記載した予習復習時間で、講義内容の不明点が残る場合には各自で補完すること。

動画へのアクセスについて
各回講義動画の閲覧には、「高崎健康福祉大学のGoogleアカウント」にログオンした状態で端末でアクセスする必要があります。講義動画にアクセスできない場合、アカウント設定やアクセス方法などを確認するようにして下さい。

質問などについて
各講義回で生じた内容に関する質問は講義回担当者へ、受講法に関する事は自学科担当教員に質問する事。

連絡をオンラインシステム経由で行う際には、「連絡・相談機能」を活用し、所属学科と学籍番号、氏名を記載の上、誰に対するどのような質問かを明記する事。返信がない場合にはE-mailで再度連絡を行う事。

成績評価について
講義回数は全9回で終了だが、成績付与は学期末に行われる。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。

なお、令和4年度以前の入学者が本講義を受講する場合は、単位認定時評価は「認定（N）」となり、GPA算出、卒業必要単位の対象外となる。また、履修登録時のCAPのカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

基礎教養ゼミ

英文名：Freshman Seminar (FYE)

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB001

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

解良武士，他学科教員

科目に関連した実務経験

理学療法士として長年総合病院に勤務し，臨床実習指導（経験）

非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①医療を学ぶ学生としての態度や医療人としての基礎を形成する。

②専門教育を受けるために必要な知識や心構えを学科教員からオムニバス形式で学ぶ。物事を多角的に考えるためにグループワークや障がい体験などを通して学ぶ。

到達目標

1. 大学教育を受けるための学習方法が身に付く。■
2. 考えをまとめ整理するスキルが獲得できる。■

3. 広く問題解決能力が身につく。■
4. 理学療法士としての社会における役割などの自覚が生まれ、責任ある行動がとれる。■

使用教材 ▲

特に指定せず、随時資料を渡します。

参考文献 ▲

特に指定せず、随時資料を渡します。

評価方法 ▲

講義で提出される課題・成果物等70%、グループワークにおける役割と講義参加状況30%

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

課題・成果物についてはS～C（合格点）、D（不合格）で総合評価をつけて標記し、全体総評の中でレポートの書き方、課題のポイントの整理などをフィードバックする。

オフィスアワー ▲

各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	大学における学習への取り組みと学習方法について	1	医療に携わる際の心構えについて調べておく。	1.5h	医療人としての心構えのポイントを整理しておく。	1.5h
2	自己分析と目標の立て方および生活管理について	1,2,4	自己分析をしてみてその必要性について考える。	1.5h	自分の生活状況を見直し、大学生活を送るために現状を分析する。	1.5h
3	理学療法士の道と基本的なコミュニケーションスキル■	1,2,4	理学療法士の仕事について調べ、どのような資質が必要か考える。	1.5h	理学療法士になる者として必要なコミュニケーションスキルについて考える。	1.5h
4	書くためのスキル（レポート作成など）、自分の考えをまとめて意見を述べる■	1,2,3	レポートの書き方のポイントを調べる。	1.5h	自分の書いたレポートをチェックし、考えのまとめ方を確認する。	1.5h
5	医療人としての心構え■	1,4	医療に携わる際の心構えについて調べておく。	1.5h	医療人としての心構えのポイントを整理しておく。	1.5h
6	チームアプローチの必要性■	1,4	チーム医療論で学んでいる内容をまとめて整理しておく。	1.5h	チームアプローチの必要性についてのポイントについて整理しておく。	1.5h
7	物事を多角的な視点でとらえる ①医療問題（グループワーク）	1,2,3,4	新聞などから身近な社会問題について抽出し、ポイントを捉える。	1.5h	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5h
8	物事を多角的な視点でとらえる ②社会問題（グループワーク）■	1,2,3,4	日本の医療・介護制度について調べてポイントを整理する。	1.5h	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5h
9	物事を多角的な視点でとらえる ③倫理的問題（グループワーク）	1,2,3,4	医療の中で生じる倫理的問題にはどのようなものがあるか調べる。	1.5h	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5h
10	物事を多角的な視点でとらえる④医療人としての成長	1,2,3,4	医療人の学びと学習成果の可視化について	1.5h	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	物事を多角的な視点でとらえる ⑤問題解決方法（グループワーク） ■	1,2,3,4	問題解決のプロセスにはどのようなものがあるか調べる。	1.5h	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5h
12	プロフェッショナルの条件について（グループワーク） ■	1,2,3,4	どのような人をプロフェッショナルと考えるかまとめておく。	1.5h	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5h
13	チームダイナミクス（グループワーク） ■	1,2,3,4	事前に題材を用意するので各自学習しておくこと。	1.5h	提出した電子ポスターへのコメントを行う。	1.5h
14	障がいをもつということ（体験） ■	1,2,3,4	障害疑似体験を元にどのような対応が必要か考える。	1.5h	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5h
15	障がいをもつということ（体験） ■	1,2,3,4	障害疑似体験を元にどのような対応が必要か考える。	1.5h	グループワークを通して考えたことを整理しておく。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



課題が多く出るので、きちんと課題に取り組み、決められた内容を決められた期限で提出できるようにする。このような課題を通じて、大学における学修の仕方やルールを学ぶ。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷



日本語表現法

英文名：Japanese Expression Method

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB002

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と倫理観

3 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

古澤 良文

科目に関連した実務経験

記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆、読者欄の投稿を添削。

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるために、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。

②現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を3回程度実施する。

到達目標

- 1.自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。
- 2.日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。
- 3.日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■
- 4.文章の組み立て方を理解し、習得できる。
- 5.日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■

使用教材 担当教員作成のプリント。							^
評価方法 筆記試験（80％）・授業参加度（20％）によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。							^
課題・評価に対するフィードバック方法 提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。							^
オフィスアワー 授業の前後1～2時間。							^
メールアドレス（#→@） 連絡手段は授業時に説明する。							^
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	原稿用紙の書き方（テーマに基づいて実際に執筆する）■	1	400字詰め原稿用紙の使い方	1.5h	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる	1.5h	
2	日常生活の心掛け 小テスト（漢字の特殊読み）■	1,4	社会の変動に関心を持つ	1.5h	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える	1.5h	
3	三段論法と逆三角形 小テスト（書けそうで書けない漢字）■	2,4	新聞記事を段落ごとに考えながら読む（新聞は図書館にある）	1.5h	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する	1.5h	
4	文章をうまく見せる3カ条 小テスト（同音異義語）■	2,4	1回目に書いた文章を見直す	1.5h	1回目に書いた文章を書き直してみる	1.5h	
5	主語と述語 小テスト（四字熟語ことわざ①）■	2,3	テキストをチェックしておく	1.5h	テキストの悪文例を正しく直す	1.5h	
6	小論文執筆（複数のテーマから1つを選んで書く）	1,2,3	4回目のプリントチェック	1.5h	書き足りなかったことがないか	1.5h	
7	修飾語 短歌・俳句 小テスト（間違い探し①）■	2,4	文章はリズムが大切 短歌・俳句を作ってみる	1.5h	プリントの悪文例を見直す	1.5h	
8	話し言葉と書き言葉 小テスト（四字熟語ことわざ②）■	2,3	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5h	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5h	
9	「心ひかれる一曲」などテーマに応じてエッセイを書いてみる	1,4	その曲になぜ、心ひかれるのか。具体的な体験を交えて表現する	1.5h	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5h	
10	センテンスは短く 小テスト（同義語反対語）■	3,4	新聞のコラムを読む	1.5h	悪文例を直す	1.5h	
11	小論文執筆（同じ形容詞や動詞を何度も使わないように）■	1,2,3	4回目、7回目のプリント見直し	1.5h	別のテーマで書いてみる	1.5h	
12	敬語 小テスト（四字熟語ことわざ③）■	3,4	敬語の種類を調べる	1.5h	プリントの問題を解く	1.5h	
13	推敲 小テスト（間違い探し②）■	2,4,5	書籍、新聞を声に出して読む	1.5h	自分の文章を直してみる	1.5h	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	覚えておきたい短詩と台詞	3,4,5	知っている俳句や短歌を思い出してみる	1.5h	声に出して読んでおく	1.5h
15	小論文執筆（小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く）■	1,2,3	社会問題を考える	1.5h	別のテーマで書いてみる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

^

■：実務経験に基づく内容を示す
読者投稿欄のデスクを長く務めた経験を生かして、「読みやすい文章とは何か」「人の心を捉える文章とは何か」を伝えていきたい。

印刷



HOME > 日本国憲法

日本国憲法

英文名：Japanese Constitution
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB003
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と倫理観
0 専門知識・技術の活用力
3 論理的思考力
1 チームへの貢献力
0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

新田 浩司

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

法規範は、強制力を持つ社会規範であり、憲法は最も重要な法規範である。憲法は国家の根本法ないしは最高法規であり、国家の組織や構造並びに国民の人権を保障する。講義では、この憲法について学ぶ。

【授業期間全体を通じた授業の進め方】

授業はパワーポイントのスライドをもとに説明を行いながら進める。最後に理解度確認のための小テストを行う。

到達目標

- 1.国家がどのように成立しているか、憲法の各条規は、社会において具体的に生きているのか、等について理解を深める。
- 2.一般国民も、裁判員制度が始まり、憲法を初め様々な法律に触れる機会が増えているので、憲法や各種の法律の理解を深めることを目標とする。

使用教材

新田浩司編著『法学憲法基礎』八千代出版

評価方法

^

定期試験 80%、講義に対する感想文（リアクションペーパー） 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テスト実施した場合、評価の上返却する。

オフィスアワー

^

木曜5限

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示します。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
2	憲法の基礎知識 (1)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
3	憲法の基礎知識 (2)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
4	憲法の基礎知識 (3)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
5	日本国憲法の制定過程	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
6	日本国憲法の基本原理	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
7	国家の安全保障	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
8	精神的自由権 (1)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
9	精神的自由権 (2)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
10	経済的自由権	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
11	社会権 (1)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
12	社会権 (2)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
13	参政権、国務請求権	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
14	統治機構 (1)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
15	統治機構 (2)	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	教科書及び配布資料を参照しながら講義ノートを完成させる。全講義のまとめ。	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

45h

備考



授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁。

予習・復習について、試験前後の学習にて補完すること。

オンライン講義を行う場合、講義はビデオ録画をC-Learning内の「教材倉庫」にて公開する。また出席は「出席管理」にて行う。フィードバックについては、同様に、「アンケート」にて講義の感想を提出する。評価は、アンケート及び期末試験のレポートで総合的に行う。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



HOME > 法学

法学

英文名：Law
 科目区分：教養基礎
 科目ナンバリング：LAB004
 学年：1年
 開講期：前期
 選択・必修：選択
 単位数：2単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 6 豊かな人間性と倫理観
 0 専門知識・技術の活用力
 3 論理的思考力
 1 チームへの貢献力
 0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

新田 浩司

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

社会のルールである法は、我々が生活する上で不可欠であり、我々が社会人として身につけるべき能力である法的思考（リーガル・マインド）を身に着けることが目標です。
 【授業期間全体を通じた授業の進め方】
 授業はパワーポイントのスライドをもとに説明を行いながら進める。最後に理解度確認のための小テストを行う。

到達目標

- 1.社会における法規範の意義について理解する。
- 2.法的思考を身につけることにより、社会における様々な問題を法的に分析できるようになる。

使用教材

新田浩司編著『法学憲法基礎』八千代出版

評価方法

^

定期試験 80%、講義に対する感想文（リアクションペーパー） 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テスト実施した場合、評価の上返却する。

オフィスアワー

^

木曜4限

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示します。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2	教科書を事前に読んでおくこと。	1.5h	配布資料と教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
2	第1章 法と法学	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
3	第2章 法と国家	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
4	第3章 法と他の社会規範との関係	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
5	第4章 法の目的	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
6	第5章 法の構造	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
7	第6章 法の淵源	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
8	第7章 法の分類	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
9	第8章 法の解釈	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
10	第9章 法の適用—法が適用される事実、法を適用する機関	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
11	第10章 法の効力	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h
12	第11章 権利と義務	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを作成させる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	まとめ(1)	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
14	まとめ(2)	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h
15	まとめ(3)	1,2	指定した教科書の該当箇所を読んでおくこと。	1.5h	教科書を参照しながら講義ノートを完成させる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

^

授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁

予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。

オンライン講義を行う場合、講義はビデオ録画をC-Learning内の「教材倉庫」にて公開する。また出席は「出席管理」にて行う。フィードバックについては、同様に、「アンケート」にて講義の感想を提出する。評価は、アンケート及び期末試験のレポートで総合的に行う。

印刷





HOME > 経済学

経済学

英文名 : Economics

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB005

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と倫理観

1 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

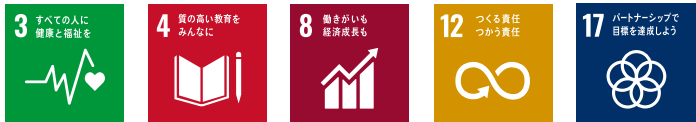
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

町田修三

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業内での問いかけ、QUIZ、質疑応答（ミニツツペーパー上の質問を含む）などを用いた双方向性授業。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、学生が新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。

②授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。

到達目標

- 1.日本の経済の現状を説明できる
- 2.需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる
- 3.景気やGDPについて理解を深め、概説できる
- 4.国の予算や税金制度について説明できる
- 5.お金の流れや物価変動について説明できる
- 6.経済政策について理解を深め、他者に説明できる
- 7.為替レートの変動と貿易の実態について概説できる
- 8.新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる

使用教材

^

必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。

参考文献

^

推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。

評価方法

^

学期末試験80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物（クイズ、小レポートなど）20%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。

オフィスアワー

^

月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

メールアドレス（#→@）

^

machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション（一部AL[アクティブラーニング]実施）	8	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく	1h	ニュースに触れる習慣（新聞、テレビ、ネット）を開始する	1h
2	日本経済の流れ（世界との比較のなかで）	1,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
3	経済政策の2大潮流―マーケットorケインズ（一部AL実施）	1,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
4	需要と供給（需要曲線の意味）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
5	市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう？）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
6	価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう？）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	国民所得Ⅰ（国の経済力はどう測るんだろう？GDPって何？）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
8	国民所得Ⅱ（あなたが1万円使うとGDPはいくら増える？）（一部AL実施）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
9	財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）	1,4,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
10	景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）（一部AL実施）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
11	金融（日本銀行は何をすること？）（一部AL実施）	1,5,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
12	経済政策のしくみ（アベノミクスは何をした？トランプは何をする？）	1,6,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
13	為替レートの変動メカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）	1,7,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
14	世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）（一部AL実施）	1,7,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
15	まとめと確認のためのテスト	1,2,3,4,5,6,7,8	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3h	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5h

合計時間（予習・復習）



39h

備考



AL（アクティブラーニング）は、クローズドクエスション、オープンクエスション、ペアワーク、グループワークなど。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修（推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等）により、必要な学修時間を各自で補完すること。

印刷



[HOME](#) > 社会学

社会学

英文名 : Sociology

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB006

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達 正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会学的なものの見方とは、どういうものなのか、社会学的にもの考えるときに使用する専門的概念・用語には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本的理解を目指す。

②使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説することによって、基本的な社会学の考え方を身につける。

到達目標



- 1.大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。
- 2.社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。
- 3.日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。
- 4.社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。
- 5.現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■

使用教材



篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房。

参考文献



講義中に、適宜指示する。

評価方法



平常点（毎回提出してもらうリアクションペーパー（設問形式）については、第1回目の講義で説明します）50%、学期末試験50%です。

課題・評価に対するフィードバック方法



各受講生の提出したリアクションペーパー（設問形式）に書かれた質問、意見、要望などに対して、つぎの講義の前に答える。

オフィスアワー



火曜日5限・6限

メールアドレス（#→@）



adachi-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、第1章社会学とは何か（1～12頁）について解説する。	1,2,3,4	第1章を読んでおくこと。	1.5h	第1章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
2	第2章社会を観察する方法（13～24頁）を解説する。	1,2,3	第2章を読んでおくこと。	1.5h	第2章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
3	第3章社会で生きる「私」（25～35頁）を解説する。	1,2,3	第3章を読んでおくこと。	1.5h	第3章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
4	第4章変容する家族のかたち（36～47頁）を解説する。実務で得た調査結果を提示する。■	1,2,3	第4章を読んでおくこと。	1.5h	第4章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
5	第5章性の多様なあり方を考える（48～59頁）を解説する。	1,2,3	第5章を読んでおくこと。	1.5h	第5章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
6	第6章「現実を生きる」ための社会学―労働・産業・消費―（60～72頁）を解説する。	1,2,3,4	第6章を読んでおくこと。	1.5h	第6章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
7	第7章日本で進展する環境・災害社会学（73～86頁）を解説する。	1,2,3,4	第7章を読んでおくこと。	1.5h	第7章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	第8章社会学から医療を見つめる（87～97頁）を解説する。	1,2,3,4	第8章を読んでおくこと。	1.5h	第8章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
9	第9章社会学は教育とどう向き合うのか（98～109頁）を解説する。	1,2,3,4	第9章を読んでおくこと。	1.5h	第9章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
10	第10章逸脱行動と社会問題（110～121頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第10章を読んでおくこと。	1.5h	第10章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
11	第11章「格差」の社会学（122～134頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第11章を読んでおくこと。	1.5h	第11章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
12	第12章生活空間としての地域社会（135～149頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第12章を読んでおくこと。	1.5h	第12章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
13	第13章グローバル社会とエスニシティ（150～162頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第13章を読んでおくこと。	1.5h	第13章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
14	第14章宗教から社会を捉える（163～176頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第14章を読んでおくこと。	1.5h	第14章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
15	第15章社会の中のメディア／メディアが動かす社会（177～189頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第15章を読んでおくこと。	3h	第15章を再読して、その内容を理解しておくこと。	3h

合計時間（予習・復習）



48h

備考



各受講生が、毎回の講義内容を自分自身の身近な具体的な状況のなかで理解することによって、社会学の考え方を深めることができるので、そうした観点から意欲的に講義に臨んでほしい。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



生涯健康論

英文名：Lifelong Health Theory

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB007

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

5 豊かな人間性と倫理観

2 専門知識・技術の活用力

0 論理的思考力

3 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

渡邊秀臣、五十嵐康、蒲章則

科目に関連した実務経験

渡邊：非常勤医師（整形外科医）として病院に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約10年も短い。①本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。②実施方法は、講義により知識の習得を図り、理解を確認するために時々学生に意見を求め、あるいは指名してディスカッションを行う。

到達目標

- 1.健康の定義と集団の健康評価指標について理解できる。■
- 2.個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解できる。■

- 3.環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解できる。■
- 4.健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解できる。■

使用教材 ▲

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

参考文献 ▲

参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向2020/2021」を利用する。

評価方法 ▲

授業参加内容：40点、課題に対するレポート内容：60点　：総合60点以上を合格とする。（対面講義でもオンライン講義でも同様）

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

レポートに対し必要なコメントをする。（対面講義でもオンライン講義でも同様）

オフィスアワー ▲

渡邊：（金）13：00～14：30
研究室　5号館1階学部長室

メールアドレス（#→@） ▲

渡邊：watanabe-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康の定義と健康評価指標（渡邊） WHOの提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、<平均寿命>、<平均余命>、<健康寿命>、<最長寿命>などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■	1	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。	1. 5h	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。	1. 5h
2	健康を維持するための食物と物質代謝（五十嵐） 食物（栄養素）は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝（同化・異化作用）に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。	2	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1. 5h	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。	1. 5h
3	恒常性維持機構の役割と相互作用（五十嵐） 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構（ホメオスタシス）」が偏わっている。このシステムは主に神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する	2	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1. 5h	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1. 5h
4	運動と健康（渡邊） 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。する。また、運動による突然死防止のための運	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	動前内科的メデイカルチェックの重要性について理解する。■					
5	喫煙による健康障害（渡邊） たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの＜喫煙と健康障害＞のメカニズムについて理解する。＜受動喫煙の影響＞についても考える。■	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1. 5h
6	生活習慣病の起因となる肥満（五十嵐） 肥満は原因により原発性肥満（エネルギー摂取過多など）と二次性肥満（性腺機能低下など）に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1. 5h
7	生活習慣病の危険因子としての糖尿病（五十嵐） 2型糖尿病（インスリン抵抗性糖尿病）は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。	2, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	糖尿病の病態と対策を理解する。	1. 5h
8	生活習慣病(脳血管障害)と認知症（五十嵐） 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで2番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。	1, 3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1. 5h
9	ロコモティブシンドローム（渡邊） 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。	3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1. 5h
10	生活習慣病(がん)と生活習慣（渡邊） 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣＜(がん発症危険因子)>を知る。また、＜がん予防のための生活習慣＞及び早期発見・早期治療のための＜がん検診＞の重要性について理解する。■	3,4	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1. 5h
1 1	WHOの歴史と活動内容（蒲） 第2次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証する。WHOの取り組みを理解し、現在あるWHOの問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力（国力）に寄与するかを理解する。	1,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1. 5h	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1. 5h
1 2	WHOの戦略（蒲） アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、」各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保	1,4	WHOウェブサイトで該当	1. 5h	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標（SDGs）に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）にいたることを検証する。		部分を学習する			
1 3	途上国の保健行政（蒲） 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する	1, 3,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1. 5h	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1. 5h
1 4	日本の保健行政と世界の保健行政（蒲） 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。	1, 3,4	厚生労働省のウェブサイトにて該当部分を学習する。	1. 5h	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1. 5h
1 5	地域における健康支援チーム構成員とその役割（チーム医療）（渡邊） これまで、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くことされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる＜健康支援チームによるチーム医療＞が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。■	4	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1. 5h	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。
レポートの提出をもって出席とする。

印刷

生涯学習概論

英文名 : Introduction to Lifelong Learning

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB008

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と倫理観

1 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

1 チームへの貢献力

4 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

平林 茂、三村 国宏

科目に関連した実務経験

（平林）公立小学校・中学校の教員、校長（経験）。群馬県教育委員会(指導主事、所長)では生涯学習教育の推進業務、社会教育主事及び地域・学校ボランティア対象の生涯学習推進に関わる研修会講師（経験）。

（三村）公立中学校の教員、高等学校、中等教育学校の校長（経験）。伊勢崎市教育委員会（指導主事、指導係長、教育プラン推進担当課長、学校教育課長）にてコミュニティ・スクール推進（経験）。大学・企業との教育連携協定推進等（経験）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト等についてコメントを行い、授業中に振り返り質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人が学習する場は学校だけではなく、図書館・公民館等の社会教育施設やさまざまな団体での学習機会などがある。本授業では生涯学習を実践していく上で必要な基礎的知識や多様な生涯学習施設、学校の現状を学び、理解を深めていく。

②授業の進め方：各テーマの説明に加え、話し合い活動や調査活動などを通して課題に取り組み、その成果の発表などの学習活動を行います。今後、変化の激しい現代社会において重要になる「生涯学習」について学ぶことは、社会の一員としての自己の生き方を考える上で意義が大きいと思います。

到達目標 ^

- 1.生涯学習の理念や学校や社会教育施設などで行われる学習について理解する。■
- 2.生涯学習に関わる様々な現代的課題の内容を把握しその解決に向けた考察をする。■
- 3.社会を構成する一員として自らの生き方を積極的に考える。

使用教材 ^

『よくわかる生涯学習 改訂版』（香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2024年2,500円（税別）

参考文献 ^

講義中に適宜、紹介する。

評価方法 ^

テストに50%、小テストの評価30%、日常点（授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献度等）に20%を配分して総合評価をする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

授業中の貢献度や発表については、その都度評価する。
試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー ^

月曜・1限、水曜・1限、
教職支援センター

メールアドレス（#→@） ^

平林 s-hirabayasi#takasaki-u.ac.jp
三村 k-mimura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、生涯学習の定義、制度（平林、三村）	1,3	シラバスを読み、講義の概要及び、「生涯学習とは何か」を理解する。	1.5h	テキストをまとめ、生涯学習の定義や制度について理解する。	1.5h
2	生涯学習と人間形成■（三村）	3	生涯学習にわたる人間形成についてテキストなどで調べる。	1.5h	テキストや配布資料をまとめ、生涯学習について理解する。	1.5h
3	生涯学習を支える思想（三村）	1,3	「生涯学習を支える思想」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	生涯学習における「生きがい・健康づくり」についてまとめ、内容を理解する。	1.5h
4	生涯学習の現代的課題①■（三村）	2,3	「健康・高齢者等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
5	現代的課題②■（三村）	2,3	「高度情報化と人権等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料を読んで、内容を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	現代的課題③ ■（三村）	2,3	「国際交流と人権尊重」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
7	現代的課題④ ■（三村）	2,3	「まちづくり等」についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
8	生涯学習の多様な学習方法 ■（三村）	1,2	学習方法の類型等について関連する図書などで調べる。	1.5h	学習方法及び、持続可能な社会づくりへの取組について理解する。	1.5h
9	行政による生涯学習の振興（前編）（平林）	1,2	国の行政による生涯学習支援策についてテキストなどで調べる。	1.5h	テキストや協議内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
10	行政による生涯学習の振興（後編） ■（平林）	1,2	都道府県レベルの生涯学習支援策についてテキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
11	民間団体・機関による生涯学習支援（前編） ■（平林）	1,2	それぞれの団体の活動内容について、テキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや協議・発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
12	民間団体・機関による生涯学習支援（後編） ■（平林）	1,2	NPO、カルチャーセンターやスポーツ施設について、図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
13	施設に基づいた生涯学習活動（前編）（平林）	1,2	社会教育施設についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
14	施設に基づいた生涯学習活動（後編） ■（平林）	1,3	博物館や青少年・女性教育施設についてテキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
15	生涯学習社会において、どう生きるか（職業能力開発の生涯学習）（平林）	1,2,3	講義内容に関連する項目について、図書などで調べておく。	1.5h	図書や資料を読んで、内容を理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回小テストや資料の提示をC-learningで行いますので、パソコン等を持参してください。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 



[HOME](#) > 生命と環境の科学

生命と環境の科学

英文名 : Science of Environment and Life

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB009

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と倫理観

2 専門知識・技術の活用力

1 論理的思考力

1 チームへの貢献力

3 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

奥 浩之

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。(パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。)

到達目標

- 1.地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。
- 2.生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。
- 3.私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。
- 4.グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。
- 5.様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

評価方法

レポート課題50%、授業参加度50%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。

オフィスアワー

質問等は、授業中でもよく、授業開始前もしくは終了後にも応じる。

メールアドレス（#→@）

oku#gunma-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生命と環境－自己紹介と研究について	1,5	(1) 免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 (2) DNA配列を測定する方法について調べてみよう。	1h	(1) 抗体医薬品について (2) 免疫グロブリンの分子構造と役割について（特にIgGを構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか？着目してみよう。） (3) 次世代シーケンサーについて	1.5h
2	生命と環境－地球における元素の循環	1,5	元素周期表（ http://stw.mext.go.jp/series.html ）を読んでみよう。	1h	(1) 人体を構成する元素の存在比 (2) 主要元素・微量-超微量元素の具体的な元素名 (3) 様々な元素の生体または医薬品における役割	1.5h
3	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	1,5	(1) ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	1h	(1) 大気・土壌における物質循環 (2) 水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3) 人類の活動による物質循環への影響	1.5h
4	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	1,5	(1) 温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1h	(1) 地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する （大気を暖める要因と冷やす要因） （物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測） (2) IPCC第5次報告書（2014年）におけるRCPシナリオ （気候モデルによって予測された21世紀末の世界の気温） （世界全体のCO2累積排出量と気温上昇量は比例する） (3) 国連気候変動枠組条約	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					(日本における温室効果ガス削減目標)	
5	生命と生体分子・・・DNA二重らせんとX線構造解析	2,5	ワトソンとクリックによるDNA二重らせんモデル (1) 当時用いられた分子モデル (ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2) 1953年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3) DNA構造について (英文なので、最初は図を見るのがよい) 特にFigure 5を見て、3種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397	1h	(1) DNAの分子構造はX線回折法によって求められる (2) ブラッグの回折条件式 (3) DNA繊維写真のX型パターン	1.5h
6	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能	2,5	(1) タンパク質を構成する20種類のアミノ酸とは？ (2) アミノ酸の“光学活性”とは？	1h	(1) アミノ酸20種類の分子構造 (2) X線回折測定によるタンパク質の3次元構造解析 (3) NMR測定によるタンパク質の3次元構造解析	1.5h
7	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質	2,5	(1) 膜タンパク質とは？ (2) リボソームにおけるタンパク質合成 (3) アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪なのか？調べてみよう。	1h	(1) 70S リボソームとtRNAの分子構造 (PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra) (2) カルモデュリンの分子構造変化 (PDB ID: 3cln) (PDB entry 2bbm)	1.5h
8	生命と生体分子・・・ヘム蛋白 (Mb、Hb、Cyt c、CYP450)	2,5	(1) ヘムタンパク質とは？ (2) ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3) CYP3A4とは？	1h	(1) ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2) チトクロームc (PDB ID, 2B4Z) (3) チトクロームP450 (PDB ID, 1W0E) (4) 医薬品の代謝におけるCYP3A4の影響について	1.5h
9	ヒトの活動と環境・・・さまざまな医薬品	2,5	(1) コレステロールと高コレステロール血症 (2) 認知症とコリン仮説について (3) ポリ乳酸とは？	1h	(1) スタチン (2) タクロリムス (3) ドネペジル (4) レボフロキサシン	1.5h
10	ヒトの活動と環境・・・バイオマスとバイオリファイナリー	3,5	(1) バイオマスとは？ (2) バイオエタノールとは？ (3) プラスチックゴミ問題とは？	1h	(1) バイオリファイナリーとは？ (2) バイオガソリンの成分は？ (3) バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 1	ヒトの活動と環境・・・食品の安全確保（加工食品の成分）	3,5	(1) アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1h	(1) 行政（農水省）では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5 h
1 2	ヒトの活動と環境：食べると甘い香りが発散するお菓子について	3,5	(1) ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう（ヘッドスペース装置の付いたガスクロトグラフィー/質量分析計） (2) ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1h	(1) ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ (2) お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ (ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。)	1.5 h
1 3	生命と環境・・・さまざまな感染症（AIDS, 結核, マラリアなど）	4,5	(1) 感染症とは？	1h	(1) さまざまな感染症について (2) 薬剤耐性について	1.5 h
1 4	生命と環境・・・インフルエンザワクチンの成分	4,5	(1) ワクチンによる予防免疫のしくみ	1h	(1) 様々なインフルエンザの治療薬について (2) 様々なインフルエンザワクチンについて	1.5 h
1 5	生命と環境・・・グローバル化によって必要となる新しいワクチン	4,5	(1) 蚊によって媒介される感染症とは？ (2) グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1h	(1) グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ (2) 新しいワクチンの開発例について	1.5 h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。

印刷



HOME > 国際関係論

国際関係論

英文名 : International Relations
科目区分 : 教養基礎
科目ナンバリング : LAB010
学年 : 2年
開講期 : 前期
選択・必修 : 選択
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
3 豊かな人間性と倫理観
2 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
1 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

片桐 庸夫

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回当日の講義内容に関する10-15分程度のレポートを課し、学んだ内容についての確認を求める。翌週に問題提起、結論、段落の付け方、使用すべき漢字、レポートの書き方、内容の評価、問題点を指導する。授業中に質問をすることによって学生との対話の機会を設け、参加意識を高める。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①新聞、テレビ、インターネット等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。
- ②配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録したDVDを数回用います。また、授業

の最後に毎回レポートを実施する。指導方法は上記の通り。毎回課すレポートの評価を基に成績評価を行うので、前期試験は行わない。

到達目標

^

- 1.現代世界の理解
- 2.第2次世界大戦後の世界の基本構造の理解
- 3.国家間の対立要因の理解
- 4.国家間の相互理解の理解
- 5.自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解
- 6.現代の戦争の特徴についての理解
- 7.国家の安全保障の理解
- 8.核の下での平和の理解
- 9.国際秩序概念の理解
- 10.国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解
- 11.戦後日本の原型についての理解
- 12.戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解
- 13.日本の課題である国際貢献問題の理解

使用教材

^

配布するプリントを教材として用いる。

参考文献

^

細谷雄一『国際秩序』中公新書。高坂正堯『国際政治』中公新書

評価方法

^

講義の最後に毎回行うレポート評価試験（60％）、講義参加・貢献度（40％）等により総合評価を行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

原則としてレポートを課した翌週の講義の際に論文やレポートの書き方、文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。

オフィスアワー

^

- ・ 前期木曜日の昼休み
 - ・ 非常勤講師控室
- 随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可。

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義概要（講義の展開、出席の取り方、レポートの書き方、成績評価等）についての説明を行う。	1	シラバスを読んでおくこと。	0h	講義概要の確認を行いこ と。	1h
2	世界の混迷した状況、中国の現状打破勢力としての台頭、米中の覇権争い等について理解する。	1,3, 7,8, 10	1週間分の新聞の1,2面の記事に目を通しておくこと。	2h	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	2h
3	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。	1,2, 3,9	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5 h	細谷雄一『国際秩序』中公新書のp.115-120,282を読み、内容をノートにまと	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					めること。	
4	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。	2,4,7	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5h	『国際秩序』のp.121-124を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
5	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。	3,4,5	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.128-130を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
6	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。	2,3,4,5,8	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
7	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。	3,5,7	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
8	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化（DVD画像による）について理解する。	6,7,8	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	2h	DVD画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	2h
9	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。	2,6,7,8	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5h	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社のp.6-10を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
10	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下での平和について理解する。	1,6,7,8	究極の兵器がもたらした核の下での平和についての項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.253-255を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
11	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。	1,7,8,9	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.256-260を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
12	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。	2,7,9	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.281-285を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
13	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生、冷戦と呼ばれた戦後の米ソ対立と今日の米中対立との違いについて理解する。	6,7,10	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5h	『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書のP.21-36を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
14	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF講和、憲法第9条、日米安保について理解する。	7,11,12	プリントの終戦からSF講和に至る項を読んでおくこと。	1.5h	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会のp.288-306を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
15	「戦後」の克服の意味、今日の日本が直面する外交の課題について理解する。	1,10,13	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおくこと。	1.5h	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

世界の動き、平和、戦争、日本の進路などについて関心のある学生の履修が望ましい。

「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねている。随時利用すること。予習・復習の結果、不明な点、理解しにくい、または出来ない点などあれば、遠慮なく質問すること。

印刷



Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

体育理論

英文名：Theory of Physical Education

科目区分：教養基礎

科目ナンバリング：LAB011

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

6 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

0 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

入澤孝一

科目に関連した実務経験

中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験

日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験

JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①スポーツ科学及びトレーニングの基礎理論について学び、医療従事者として社会に貢献する人材を育成する。体力測定の結果を活用してトレーニングと体力についての基礎を習得する。

②対面方式授業で実施する。

- 



- 



- 対面授業で実施し、授業資料は事前にC-Learningにアップする。
- レポート提出により、評価と出欠確認を行う。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

[HOME](#) > 体育実技

体育実技

英文名 : Physical Education

科目区分 : 教養基礎

科目ナンバリング : LAB012

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

0 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

入澤孝一

科目に関連した実務経験

中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験

日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験

JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

身体活動の実技を通して、自らの健康と指導者としての指導力を育成する。

対面実技

到達目標

- 1 新体力測定の方法と評価について理解する
- 2 バドミントン、各種レクリエーションスポーツ等のルールと実技を習得する。
- 3 自重負荷でのレジスタンス運動に習熟し、指導方法を身に着ける。

使用教材

自作教材 自作配信ビデオ

参考文献

各スポーツのルールブック等

評価方法

課題レポート70% 講義参加状況10% 最終授業でのレポート試験20%
オンラインによる実技映像を配信し、理論部分はレポート提出とする。
実技部分は、映像を見ながら個人練習の形式で実施する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出レポートにコメントを加える。

オフィスアワー

火曜日 3号館3階 入澤研究室

メールアドレス（#→@）

irisawa#takasaki-uac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス及び新体力テストの概要について理解する	1	事前配信のシラバスを確認してくる	0.5h	授業内容、評価方法、新体力テストについて確認する	0.5h
2	新体力テストについて説明・理解する■	1	事前配信の新体力テストの実施方法について練習してくる	0.5h	新体力テストが正しく実施できたかを確認する。	0.5h
3	新体力テストの結果と評価方法について理解する■	1	事前配信の資料を確認する。	0.5h	自己の測定結果、全体との比較、分析する。	0.5h
4	身体組成（インピーダンス）測定と評価について理解する■	1	事前資料により身体組成について事前学習する	0.5h	簡易体重計等により自己の測定データを確認する。	0.5h
5	有酸素運動を理論と実践を通じて理解する■	1	事前資料により有酸素運動について事前学習する	0.5h	有酸素運動について確認する	0.5h
6	競技エアロビ運動を理論と実践を通じて理解する■	1	事前資料で競技エアロビを確認する	0.5h	映像を使って反復練習する。	0.5h
7	競技エアロビを実践する■	2	毎日30分程度の練習を実践する	0.5h	正確な動きが出来ているかを確認する。	0.5h
8	競技エアロビを実践する■	2	毎日30分程度の練習を実践する	0.5h	正確な動きが出来ているかを確認する。	0.5h
9	競技エアロビを実践する■	2	毎日30分程度の練習を実践する	0.5h	正確な動きが出来ているかを確認する。	0.5h
10	自重負荷レジスタンストレーニングを実践する①■	3	自重負荷運動の留意点を調べてくる。	0.5h	自重負荷トレーニングを実践する	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	自重負荷レジスタンストレーニングを実践する②■	3	自重負荷運動の留意点を調べてくる。	0.5h	自重負荷トレーニングを実践する	0.5h
12	エアロビと自重負荷レジスタンス運動プログラムを作成する③■	3	5分間のプログラムを練習してくる。	0.5h	指導方法を加えた練習をする。	0.5h
13	指導プログラムによる実技練習■	3	指導プログラムによる指導。	0.5h	自己作成プログラムに習熟する。	0.5h
14	実技試験・自己作成プログラム実技・指導■	3	実技試験の練習。	0.5h	実技試験結果の修正。	0.5h
15	実技試験 実技試験の総括 課題レポート	1,2,3	授業で実施した内容を復習してくる。	0.5h	新体力測定や初動負荷理論が理解できたか。	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



対面授業と映像配信によるオンライン授業として実施する。
 授業前に十分なアップとダウンを実施する事
 オンライン授業は各自がパソコンの前で実技を実施する形式となる。
 映像は事前配信するので、オンデマンドによって自習できるように配慮する。
 レポート提出によって出席を確認する。
 実技内容のレポート課題は、実技を実施・体験したときの感覚や自己評価を中心とした課題とする。
 ■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷





[HOME](#) > キャリア形成論

キャリア形成論

英文名：Career Development
 科目区分：教養基礎
 科目ナンバリング：LAB013
 学年：1年
 開講期：前期
 選択・必修：選択
 単位数：2単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 3 豊かな人間性と倫理観
 3 専門知識・技術の活用力
 2 論理的思考力
 1 チームへの貢献力
 1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

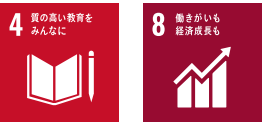
担当教員

小泉英明

科目に関連した実務経験

社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

AI（人工知能）をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わりつつあります。
 本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。
 授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎力』

を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。

【授業期間全体を通じた授業の進め方】

教員作成のレジユメを使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら、卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか実体験を織り交ぜた説明を行います。また必要な箇所に於いてはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。

到達目標

^

1. 社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■
2. 自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■
3. 社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■
4. コミュニケーションの基本を身につけ、高次元のコミュニケーション力を身につける。■
5. 論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■
6. アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■
7. 気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■
8. 問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■
9. 自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■
10. 自律型人材に向けての目標管理ができる。■
11. 社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■

使用教材

^

C-learningを利用し、各学生に教員作成の教材データを授業前に配信します。

参考文献

^

授業内で提示します。

評価方法

^

ファイナルレポート60%、毎授業後の提出課題30%、授業参加度・授業態度10%
それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価60%以上を合格とします。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業後の課題レポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。
ファイナルレポートに関するフィードバックは、出題テーマの意図などを含め掲示等で行います。

オフィスアワー

^

木曜日（12～17時）

メールアドレス（#→@）

^

初回到提示する

授業計画表

^

回数	講義内容	該当 到達 目標	予習内容	予 習 時 間	復習内容	復 習 時 間
1	ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■	1	事前配信教材をはじめ、新聞、テレビなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む。	1.5 h	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。	1.5 h
2	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■	1,3	事前に配信する第2回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 h	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。	1.5 h
3	自己の理解■	2	事前に配信する第3回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 h	自己理解を深め、自己効力感と自身のパーソナリティを理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	コミュニケーション力■	3,4	事前に配信する第4回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。	1.5h
5	実践コミュニケーション力■	3,4	事前に配信する第5回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	コミュニケーションの重要ポイントを理解し、自身の弱点と強化ポイントをつかむ。	1.5h
6	気づく力（問題発見能力）■	3,7	事前に配信する第6回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究に取り組む。※問題解決に繋がることを理解する。	1.5h
7	考える力Ⅰ（ロジカルシンキング・クリティカルシンキング）■	3,5	事前に配信する第7回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって論理的思考を理解する。	1.5h
8	考える力Ⅱ（クリエイティブシンキング）■	3,6,7,8	事前に配信する第8回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想の演習を行う。	1.5h
9	創造力を伸ばす■	3,6,7,8,9	事前に配信する第9回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって創造力の阻害要因を理解し、力を伸ばすポイントをつかむ。	1.5h
10	問題解決能力Ⅰ（問題点を探る・WHYツリー）■	3,7,8,9	事前に配信する第10回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身が抱える問題の「問題点」をWHYツリーで探る。	1.5h
11	働く意味／「仕事力」と「就業力」■	1,3	事前に配信する第11回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身の「仕事観」「就業観」を見つめ、自身の将来について深く考える。	1.5h
12	問題解決能力Ⅱ（問題解決の手法・HOWツリー／課題発見・目標設定）■	3,8,9,10	事前に配信する第12回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身の課題をHOWツリーで探り、今後の目標・計画を設定する。	1.5h
13	社会における人間関係■	3,11	事前に配信する第13回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5h
14	自己の確立（バリュープロポジションとキャリア自律）■	3,10	事前に配信する第14回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。	1.5h
15	ストレスマネジメント■	3,11	事前に配信する第15回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	ストレス対処法と対人耐性力を理解し、社会進出後のストレスに対する耐性力を高める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

C-learningにて配信する教材をもとに予習し、授業に臨んでください。教材はファイリングし、いつでも内容を振り返ることができるようにしてください。また、毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。授業は積み上げ方式で進めていきますから、わからないことがないように授業後は必ず復習してください。新聞、テレビ、ネットなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。

〔理学療法士求められる基本的な資質〕

理学療法士として、人の役に立つという心構え

患者・生活者本位の視点
コミュニケーション能力
チーム医療への参画
自己研鑽

■：実務経験に基づく内容を示す。

※教員作成のレジュメ(上記使用教材)を使い、要点をまとめていきます。授業では、ニュースで取り上げられる時事について考察しながら卒業後における社会の中でどのように取り組んでいくべきか、実体験を織り交ぜた説明を行います。必要な箇所においてはグループディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための課題を課します。

※オンラインで授業を行う場合（※オンデマンド）

- ① 教材のデータを授業日の3日前までに配信します。
- ② 事前に配信された教材の内容を良く理解して講義に臨んでください。
- ③ 毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。（提出期限を厳守してください）
- ④ 提出されたレポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。
- ⑤ 授業への出席は、レポートの提出をもって「出席」とします。

期末試験はレポート(ファイナルレポート)にて行い、第15回の授業後に提出の予定です。

- ⑦ 評価方法は以下の通りです。

ファイナルレポート60% 毎授業後の提出課題レポート 30% 授業参加度10%

印刷 

[HOME](#) > 哲学

哲学

英文名 : Philosophy

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH001

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と倫理観

2 専門知識・技術の活用力

1 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く 

すべて閉じる 

担当教員



大石 桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



「他者とどう関わっていけばよいか」「正しいと信じられていることは、なぜ正しいと言い切れるのか」「病気や“弱さ”とどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち探究するのが哲学である。本講義では、共生社会、健康と病、技術者の社会的責任など、医療に従事するものとして考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの思想も手引きとして、みずから論理的に思考し、適切に表現することを目標とする。

なお、講義は配布プリントの資料を中心に行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設ける。

到達目標



1. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。
2. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。
3. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。
4. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。

使用教材

^

講義中に適宜プリントを配布する。

参考文献

^

講義中に指示する。

評価方法

^

定期試験（60％）、ミニ・レポート（40％）に、講義への参加度等を加えて総合的に評価する。

ミニ・レポートの評価基準については、初回講義で説明する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートの内容についてコメントを加え、講義中に紹介する。

オフィスアワー

^

水曜日の2時限、金曜日の2時限。

（1号館6階601）

メールアドレス（#→@）

^

oishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス		シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。	1h	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。	1.5h
2	自分と他者（1）人間は人から認められたいのか——ヘーゲル	2	配布プリントに目を通す。	1h	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。	1.5h
3	自分と他者（2）本当の自分とは——キルケゴール	2	配布プリントに目を通す。	1h	キルケゴールの「大衆と実存」を理解し、ヘーゲルの人間像と比較する。	1.5h
4	平等と共生（1）誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5h
5	平等と共生（2）隔離や拘束を減らす——ノーマライゼーション	1,2,3	配布プリントに目を通す。	1h	ノーマライゼーションの意義を理解する。	1.5h
6	平等と共生（3）生活の中の「依存」——ケアの倫理	1,2,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	ケアの倫理と正義の倫理の違いを理解する。	1.5h
7	多様性と公共空間（1）ユニバーサルデザイン	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを理解する。	1.5h
8	多様性と公共空間（2）バリアの再生産を防ぐために	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	設計の発想や技術が社会に与える影響を理解する。	1.5h
9	エンハンスメント（1）変化する「病」と「弱さ」への介入	1,2,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5h
10	エンハンスメント（2）記憶と共感の役割	1,2,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	「空気」を意識する	2	配布プリントに目を通す。	1h	「空気」の作用や問題点を理解する。	1.5h
12	医療者のための哲学（1）誰の利益を守るのか——ステイクホルダー・アプローチ	2,4	配布プリントに目を通す。	1h	専門職が消費者や市民に対してもつ責任を理解する。	1.5h
13	医療者のための哲学（2）東西の死生観	2,4	配布プリントに目を通す。	1h	死の捉え方、受けとめ方について東西の思想を理解する。	1.5h
14	医療者のための哲学（3）専門職の社会的責任	2,4	配布プリントに目を通す。	1h	専門職の「誇り」の根拠について理解する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	第1回～14回のノートに目を通す。	1h	配布プリントを解き、完成させる。	2h

合計時間（予習・復習）

38h

^

備考

本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組んで下さい。
予習・復習については試験前の学習で補完してください。
*オンライン授業となった場合は、C-Leaningで講義資料を閲覧し、課題を提出する形式になります。

^

印刷



HOME > 倫理学

倫理学

英文名 : Ethics
科目区分 : 人間理解
科目ナンバリング : LAH002
学年 : 1年
開講期 : 前期
選択・必修 : 選択
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
6 豊かな人間性と倫理観
0 専門知識・技術の活用力
3 論理的思考力
0 チームへの貢献力
1 生涯学習力

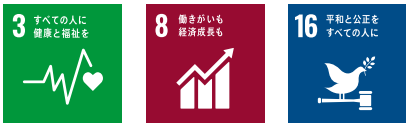
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標 :
近年、価値の多様化や先端医療技術の発展によって、人間が「生む・生まれる」「生きる」「死を迎える」というそれぞれの段階に、様々な葛藤がある。本講義では、「善さとは何か」「善く生きるためには、どうすればよいのか」「医療技術は私たちの生き方／死のあり方をどう変えていくのか」といったトピックを取り上げる。そうした対立が生じる背景、問題を理解するとともに、みずから判断する力を養う。

②講義の実施方法 :
配布プリントを中心に講義を行う。定期的に課題を提示し、学生同士が意見を共有する場を設ける。

到達目標

- 自己決定の重要性と課題について理解し、説明できる。
- 善悪の判断基準（目的論と義務論など）について理解し、説明できる。
- 尊厳死、脳死臓器移植など、現代医療の問題を多角的に理解し、説明できる。

- 4. 個人と社会の関係性を考察し、よりよいあり方について考えを深めることができる。
- 5. 各テーマに関してみずから考え、その考えを適切に表現、伝えることができる。

使用教材 ^

講義中にプリントを配布する。

参考文献 ^

講義中に指示する。

評価方法 ^

定期試験（60％）、予習課題・ミニレポート（40％）に、講義への参加態度等を加えて総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポート課題については、コメントを添えて講義中に紹介する。

オフィスアワー ^

水曜日の2時限、金曜日の2時限。
（1号館6階601）

メールアドレス（#→@） ^

oishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバスに目を通し、講義目標や内容を確認する。	1h	講義内容、評価方法などについて理解する。	1h
2	なぜ自己決定が重視されるのか——「自由」の社会的・思想的背景	1	配布プリントに目を通す。	1h	自己決定権が重視される思想基盤、医療事情を理解し、考察する。	1h
3	善悪の基準(1)：幸福のための道徳——目的論	2	配布プリントに目を通す。	1h	功利主義の思想と問題点を理解する。	1h
4	善悪の基準(2)：公正のための道徳——義務論	2	配布プリントに目を通す。	1h	カントの義務論の思想と問題点を理解する。	1h
5	なぜ人命は尊重されるのか——パーソン論とカント	2,5	配布プリントに目を通す。	1h	人命尊重の二つの根拠の相違点を理解し、課題を完成させる。	1h
6	グループワーク：自分の価値観をみつめる	1,5	配布プリントに目を通す。	1h	グループワークを振り返って課題を完成させる。	1.5h
7	医療における自己決定と代理決定	1	配布プリントに目を通す。	1h	医療倫理の四原則について理解する。	1h
8	尊厳死とACP	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	尊厳死のあり方について、課題を完成させる。	1h
9	海外の安楽死	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	安楽死問題の現状と課題を理解する。	1h
10	道徳性の発達理論とケアの倫理	2,4	配布プリントに目を通す。	1h	正義・公正の倫理とケアの倫理の視点の違いを理解する。	1.5h
11	人が道徳的な行動をとるのに何がなか	1,4,	配布プリントに目を通す。	1h	良心、共感のあり方について理解する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	脳死臓器移植	3,4	配布プリントに目を通す。	1h	脳死の定義と臓器移植法、脳死への多様な見解を理解し、考察する。	1h
13	価値の相対化と価値の共有	2,4	配布プリントに目を通す。	1h	人間に共通する価値観があるかについて考察する。	1.5h
14	グループワーク：「生きがい」について	5	配布プリントに目を通す。	1h	グループワークを振り返って課題を完成させる。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	第1回～第14回のノートを読み返す。	1h	各テーマについての自分の考えを再確認する。	2h

合計時間（予習・復習）

33h

^

備考

本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組んで下さい。
予習・復習については試験前の学習で補完すること。
オンライン授業となった場合は、C-Leaningで講義資料を閲覧し、課題を提出する形になります。

^

印刷





[HOME](#) > 心理学

心理学

英文名：Psychology
 科目区分：人間理解
 科目ナンバリング：LAH003
 学年：1年
 開講期：前期
 選択・必修：必修
 単位数：2単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 3 豊かな人間性と倫理観
 3 専門知識・技術の活用力
 1 論理的思考力
 2 チームへの貢献力
 1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

内田祥子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、自己理解・患者理解に必要な基礎的知識の習得を目指す。
授業は教員の作成した資料に基づき、講義形式でおこなう。また復習課題のなかで疑問点などを確認する。

到達目標

- 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。
- 人間の行動の基礎過程について説明できる。
- 人間の発達と心理との関係について説明できる。
- 社会的環境が人の心理に対して及ぼす影響について説明できる。
- 心理的支援の方法と実際について説明できる。

使用教材

授業内で必要に応じて提示する

参考文献

^

授業内で必要に応じて提示する

評価方法

^

宿題30%、学期末テスト70%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テスト（予習・復習課題）の解説を次の授業で毎回おこなう。

オフィスアワー

^

月曜日3限（8号館410研究室）

メールアドレス（#→@）

^

uchida-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション「心理学を学ぶ意義」	1	シラバスに目を通す	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
2	心理学とは	1	心理学を学ぶ意義について考える	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
3	環境を認知する心の働き（1）知覚	2	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
4	環境を認知する心の働き（2）学習	2	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
5	環境を認知する心の働き（記憶）	2	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
6	環境を認知する心の働き（4）言語・思考	2	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
7	環境を認知する心の働き（5）情動・動機づけ	2	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
8	社会の中の人間（1）人格	4	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
9	社会の中の人間（2）自己	4	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
10	社会の中の人間（3）社会心理	4	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
11	生涯発達のしくみ、アイデンティティの生涯発達	3	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
12	脳科学と心理学	3	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
13	発達臨床・心理臨床（1）発達臨床	5	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
14	発達臨床・心理臨床（2）心理臨床	5	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h
15	まとめ	3	小テスト形式の予習課題	1.5h	小テスト形式の復習課題	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



[HOME](#) > 文学と人間

文学と人間

英文名 : Literature and Humanity

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH004

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

1 論理的思考力

0 チームへの貢献力

4 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員



菅野 陽太郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標

近現代の文学作品を読み、文学が人間の営みや文化の形成にどのように関わっているかを考え、文学を今後の生活に役立てていけるようになるための素地を養うことを目標とする。

②講義の実施方法

各回の授業では、予習した教材についての解説や話題提供を行った後、ディスカッションやアンケート等による意見の交流を行う。

到達目標



- 1.文学を楽しみ、今後の生活に役立てていくことができる。
- 2.授業で取り上げる文学作品の内容や特徴等について考え、理解することができる。
- 3.授業で取り上げる文学作品について、オマージュやアダプテーションの見地から批評することができる。

使用教材

『伊豆の踊子』，川端康成，新潮社，1950，473円

参考文献

『〈転生〉する川端康成Ⅰ引用・オマージュの諸相』，仁平政人・原善，文学通信，2022，2700円
『〈転生〉する川端康成Ⅱアダプテーションの諸相』，仁平政人・原善，文学通信，2024，3500円

評価方法

・各回の課題（30％）・レポート（70％）

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートは評価とコメントを付して返却する。

オフィスアワー

水曜2限、木曜2限（8号館508研究室）

メールアドレス（#→@）

kanno-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、「物語」とその効用	1	シラバスを読み、これまでに読んだ文学作品について振り返る。	1h	授業内容を振り返り、課題に取り組む。	2h
2	文学のジャンルと要素	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
3	作品構造の理解①	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
4	作品構造の理解②	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
5	比喩表現の理解と効用	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
6	アフォリズムの魅力	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
7	比べるという思考①（二つの文学作品）	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
8	比べるという思考②（J-POPと文学作品）	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
9	引用・オマージュ①	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
10	引用・オマージュ②	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
11	引用・オマージュ③	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
12	アダプテーション①	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
13	アダプテーション②	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	アダプテーション③	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
15	他学問との関わり	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h

合計時間（予習・復習）

^

45h

備考

^

授業時にC-learning等を使用した意見の交流を行うので、ノートPCやタブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。

印刷





[HOME](#) > 芸術論

芸術論

英文名 : Art Theory

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH005

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

5 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

1 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石原 綱成、志尾 睦子

科目に関連した実務経験

志尾 : 映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○					○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術（絵画、映像等）を深く理解する。

②講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる（オムニバス形式）となる。

到達目標

1. 視覚芸術の歴史を理解できる
2. 芸術を人間の営為の総体として理解できる。
3. 映像芸術を通して、映画の文化的意義を理解できる。■
4. 様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■

使用教材

↑

講義スライドの資料を配布する。

参考文献

↑

担当教員が逐次紹介する。

評価方法

↑

試験を実施する。（石原50点、志尾50点、計100点）

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。

オフィスアワー

↑

石原：月曜3限、金曜2限、
志尾：火曜日2限

メールアドレス（#→@）

↑

石原：ishihara#takasaki-u.ac.jp
志尾：m-shio#takasaki-cc.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（石原・志尾）	2	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する	1.5h	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する	1.5h
2	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー	1,2,4	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5h	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する	1.5h
3	芸術史概説	1,2,4	芸術史の流れを体系的に理解しておく	1.5h	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する	1.5h
4	宗教芸術とは何か	1,2,4	世界の主要な宗教の特色を理解する	1.5h	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する	1.5h
5	キリスト教美術とシンボル	1,2,4	シンボルの本質について理解する	1.5h	キリスト教のシンボルの法則性を理解する	1.5h
6	ルネサンス美術ー古典古代の芸術ー	1,2,4	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する	1.5h	遠近法と人間の「主体」への意識を考える	1.5h
7	ルネサンス美術ー図像解釈学と美術ー	1,2,4	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する	1.5h	アイデア論の違いが視覚芸術にいかに現れるかを理解する	1.5h
8	中間テスト	1,2,4	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5h	試験内容を自分なりに再考する	1.5h
9	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■	2,3,4	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5h	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5h
10	映画の誕生と変遷を辿る■	2,3,4	映画の仕組みを理解する	1.5h	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5h
11	映画の表現方法について学ぶ■	2,3,4	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5h	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	映画の構造を知る ■	2,3,4	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5h	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5h
13	演習1：見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する ■	2,3,4	映画を観てみる	1.5h	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5h
14	演習2：演出とは何か ■	2,3,4	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5h	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5h
15	総論：映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る ■	2,3,4	興味のある国について調べる	1.5h	映画が語る文化、時代性を考える	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

^

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



[HOME](#) > ボランティア・市民活動論

ボランティア・市民活動論

英文名 : Civil and Voluntary Activities

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH006

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と倫理観

3 専門知識・技術の活用力

0 論理的思考力

1 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



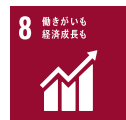
一柳 大輔

科目に関連した実務経験



前職でボランティア団体の運営支援に従事。災害ボランティアセンター職員として派遣経験も多数あり。また、様々なボランティア活動実践者と交流がある。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動である。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在である。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成する。

②毎回の授業は、ボランティアのテーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義（予定）、振り返り、次週の予定、という流

れで進める。

③1、2回目の講義は対面、3回目以降の講義はオンデマンド形式で進める。詳細は、初回ガイダンス時に説明する。

到達目標

- 1.ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■
- 2.ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■
- 3.ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■
- 4.参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■

使用教材

各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業・c-learningにて配布する。テキストは使用しない。

参考文献

その他、講義に必要な教材・資料は適宜配付する。

評価方法

成績評価

- ①毎回の授業後に作成するリアクションペーパー(c-learning)による評価（84%）。
- ②ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価（16%）。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価する。
- ③追再試は実施しない。

その他の評価

- ①授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とします。
- ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出（要添付書類）を提出すれば出席扱いとする。なお、15分以上の遅刻は欠席とみなす。
- ③ボランティア実践の時間（1回当たり4時間×2回＝8時間相当）も本時の講義時間に含める。

課題・評価に対するフィードバック方法

質問や相談についてはC-learningで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー

質問は授業の前後、またはC-learningでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

hitotsuyanagi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター（VSC）の活用方法、授業の進め方を確認する。 (教室にて行う)	1,3	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。	1. 5h	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC利用方法などを確認する。	1. 5h
2	ボランティアの力を活かす仕組み～	1, 2,	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織	1. 5h	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	ボランティアセンターの役割 ■ (教室にて行う)	3,4	や活動内容を調べる。			
3	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1. 5h	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1. 5h
4	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか～欧米と日本の歴史(オンデマンド)	1, 2, 3,4	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1. 5h	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1. 5h
5	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1. 5h	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1. 5h
6	被災地に届け、災害支援ボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1. 5h	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1. 5h
7	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1. 5h	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1. 5h
8	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1. 5h	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1. 5h
9	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～ ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1. 5h	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1. 5h
10	生活課題を抱えた方への支援とボランティア活動について ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	福祉における"複合的な課題"、"重層的な課題"を調べる。	1. 5h	"複合的な課題"、"重層的な課題"等の生活課題を抱えている地域住民の事例紹介、そういった住民を対象とした居場所事業やコーディネート実践の紹介を通してボランティアとしてどう関われるかを考察する。	1. 5h
11	ボランティアとNPO法人 ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	NPO法人とは何かについて調べる。	1. 5h	NPO法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1. 5h
12	"ごみ屋敷"とボランティアについて ■(オンデマンド)	1, 2, 3,4	ごみ屋敷の住人に関する課題について調べる。	1. 5h	ごみ屋敷の住人の支援において、ボランティアがどのように関わるかという点を理解する。	1. 5h
13	行政に協力するボランティア ～民	1, 2,	行政に協力するボランティアについて調べる。	1. 5h	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	生委員・児童委員の活躍～■(オンデマンド)	3,4				
14	ボランティアに関する企業の取り組みについて(オンデマンド)	1, 2, 3,4	ボランティアに関する企業の取り組みについて調べる。	1. 5h	民間企業の社会貢献活動の取り組みを紹介し、卒後の専門職キャリアを歩むうえでのボランティア活動の捉え方を考察する。	1. 5h
15	まとめ～新しい支え合いと20年後の自分の生き方■(オンデマンド)	1, 3,4	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。 また、既に提出のあったボランティアレポートの紹介をする。	1. 5h	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・ボランティア実践は、もちろん強制ではないので、自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定している。大学生として様々な活動にチャレンジすること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう（予定）。
 - ・ボランティア・市民活動支援センター（VSC、9号館1階）を活用すること。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じる。
- VSC直通TEL：027-352-1108、VSCメールアドレス：vsc#takasaki-u.ac.jp（#→@）
- ・シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。

印刷



HOME > 人権論

人権論

英文名 : Theory of Human Right
科目区分 : 人間理解
科目ナンバリング : LAH007
学年 : 1年
開講期 : 後期
選択・必修 : 選択
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
2 豊かな人間性と倫理観
1 専門知識・技術の活用力
4 論理的思考力
1 チームへの貢献力
2 生涯学習力

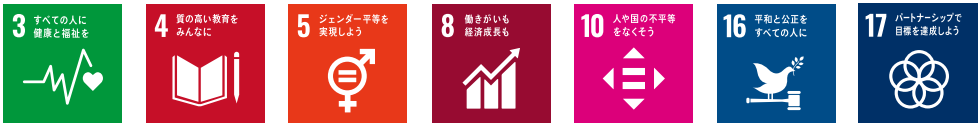
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

金井 洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッシ ョン、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマについての課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性（human nature）との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。

②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入りの的に割り込ませることがある。

到達目標

- 1.人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。
- 2.人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。
- 3.個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。
- 4.人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。
- 5.人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。

使用教材

テーマ別レジュメ、基礎知識資料（テキストに代替するプリント） *テーマによってDVDの視聴あり

評価方法

- ・平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間小テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
- ・課題は概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト

課題・評価に対するフィードバック方法

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する（テーマについては適宜指示）

オフィスアワー

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

メールアドレス（#→@）

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人権の観念と内容	1	日本国憲法における基本的人権の項目の資料等による再チェック	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	人権の享有主体と人権規定の適用関係	1,2	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	人権の制約と限界	1,2,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	個人主義の観念と幸福追求権の意義	1,2,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	法の下の平等－平等権と平等原則－	1,2,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	人間の内心の価値と保護	1,3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	自由と自由主義	1,3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	表現の自由とその抑制	3,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	経済活動の自由と財産権	3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	人身の自由と刑事手続の保障	3,4,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	政治活動の自由と参政権	3,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
12	生存権の意義と福祉国家の諸権利	3,4,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	教育を受ける権利と学習権	3,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	人権の国際化	3,5	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	世界の情勢と人権(AIと人権、戦争と人権等)	1,4	配布レジメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

^

備考

^

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。

印刷



HOME > 人間関係論

人間関係論

英文名 : Theory of Human Relations
科目区分 : 人間理解
科目ナンバリング : LAH008
学年 : 1年
開講期 : 後期
選択・必修 : 選択
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
5 豊かな人間性と倫理観
2 専門知識・技術の活用力
3 論理的思考力
0 チームへの貢献力
0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田 純喜

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人間関係論という言葉は、大別すると二通りの意味がある。一つは、ホーソン実験を基盤として体系化された、主に経営学で用いられる理論のことである。もう一つは、人間の行為や生活上の諸現象を、人と人との関係において研究しようとする社会科学における研究アプローチのことである。本講義では本学の特性を考慮し、後者の観点から、生活上の人と人との関係を理解することを目的とする。ただし、本講義を受講することで、すぐに良好な人間関係を築けるようになるわけではない。人と人との関係とはいかなるものか、人との関係において喜びや苦しみが生まれるのはなぜか、といった根本的な問いを探ることが中心的な課題となる。

②授業は主に講義形式で進めるが、事前課題や授業内のワークを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

到達目標

- 人間関係論の基礎的内容を理解している。
- 社会状況・生活形態と人間関係との関連を説明できる。
- 身の周りの人間関係を多角的な視点から説明できる。
- 現代社会で生じている人間関係に関する諸問題への対応について考察できる。

使用教材

菅野仁（2008）『友だち幻想―一人と人の〈つながり〉を考える―（ちくまプリマー新書）』筑摩書房.

参考文献 ^

授業内で適宜紹介する。

評価方法 ^

レポート（50％）、試験（30％）、課題・参画度（20％）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー ^

水曜5限、木曜5限（8号館406）

メールアドレス（#→@） ^

tomita-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ホーソン実験と人間関係論	1	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。	1h	人間関係論の成り立ちについて理解する。	1h
2	「友人重視指向」の日本の高校生（はじめに）	1	テキストの該当ページ（p.11-16）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
3	人は一人では生きられない？（第1章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.17-26）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
4	幸せも苦しみも他者がもたらす（第2章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.27-37）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
5	幸せも苦しみの他者がもたらす（第2章）②後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.37-46）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
6	共同性の幻想（第3章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.47-55）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
7	共同性の幻想（第3章）②中盤	2,3,4	テキストの該当ページ（p.55-63）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
8	共同性の幻想（第3章）③後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.63-79）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
9	「ルール関係」と「フィードバック共有関係」（第4章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.80-96）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
10	熱心さゆえの教育幻想（第5章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.97-105）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
11	家族との関係と、大人になること（第6章）①前	2,3,4	テキストの該当ページ（p.106-113）を読み、事前課題に	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	半		取り組む。		深める。	
12	家族との関係と、大人になること（第6章）②後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.113-120）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
13	「傷つきやすい私」と友だち幻想（第7章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.121-131）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
14	言葉によって自分を作り変える（第8章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.132-153）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
15	まとめ（これまでの授業の復習をとおして理解を深める）	4	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2h	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

^

印刷



[HOME](#) > ジェンダー論

ジェンダー論

英文名 : Gender Theory

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH009

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

10 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

0 論理的思考力

0 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く 

すべて閉じる 

担当教員



山田秀頌

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



教員が提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標

ジェンダーをめぐるさまざまな問題についての正しい知識と考え方を身につけることは、自分が生きていく上ではもちろんのこと、多様化する社会においてプロフェッショナルとして働いていく上でも重要なことがらとなっている。この授業では、主に女性やセクシュアルマイノリティに対する不利益がどのような社会的なしくみの下で生み出されているのか、そうしたしくみに対してどのような批判がなされてきたのかを学ぶことで、性にかかわる社会問題について多面的に考えるための方法を獲得する。

②実施方法

教科書および配布資料の内容をふまえながら、各回のテーマにおける主要な問題や概念について解説する。教員が提示す

るトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。現在の社会問題とのつながりを意識してもらうため、講義の内容に関連するニュース動画を流すことがある。

到達目標 ^

- 1. ジェンダーやセクシュアリティにかかわる重要概念について説明できる。
- 2. ジェンダー論の基本概念や枠組みにもとづいて、性にかかわる社会問題について自分の考えを表現できる。
- 3. 性の多様性をはじめ、様々な社会的背景を持つ人々とともに性にかかわる社会問題に取り組むための視点を、自分の考えに反映させることができる。

使用教材 ^

『フェミニズムってなんですか？』清水晶子著、文春新書、2022年。他に文献資料を適宜配布する。

評価方法 ^

中間レポート（40％）および期末レポート（60％）で評価する。
総合評価60％以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

中間レポートについては簡単な講評を行う。

オフィスアワー ^

質問等は、授業中もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体の説明		性にかかわる身近な問題について考える。	1.5 h	講義内容、到達目標、成績評価法などを確認する。	1.5 h
2	フェミニズムの歴史	1,2,3	教科書の「はじめに」、第1章、第2章を読む。	1.5 h	フェミニズムの4つの波について再確認する。	1.5 h
3	公的領域と私的領域	1,2,3	教科書第3章、第7章を読む。	1.5 h	公的領域と私的領域の違いを確認し、なぜ私的領域の問題が重要なのかについて理解を深める。	1.5 h
4	第三波フェミニズムと「ガールパワー」	1,2,3	教科書第4章、対談Iを読む。	1.5 h	ジェンダーの自由を商業主義的な自由として考えることの問題を理解する。	1.5 h
5	インターセクショナリティ	1,2,3	教科書第5章、第6章を読む。	1.5 h	さまざまな差別の重なりについて考察を深める。	1.5 h
6	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ①（性教育）	1,2,3	教科書第10章を読む。	1.5 h	リプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける性教育の重要性について理解する。	1.5 h
7	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ②（中絶）	1,2,3	教科書第14章を読む。	1.5 h	中絶をめぐる歴史と現代の状況について理解する。	1.5 h
8	セクシュアル・ハラスメントと性暴力	1,2,3	教科書第8章を読む。	1.5 h	権力関係の問題として理解する。	1.5 h
9	結婚と家族	1,2,3	教科書第11章を読む。	1.5 h	伝統的家族観と制度の問題について理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	フェミニズムとケア	1,2,3	教科書第9章、第16章を読む。	1.5h	なぜケア労働は軽視されているのか、どのようにケアが重要なのかについて考える。	1.5h
11	セックスワーク	1,2,3	教科書第12章を読む。	1.5h	セックスワークという考え方について理解を深める。	1.5h
12	セックス／ジェンダー／セクシュアリティの概念	1,2,3	教科書第15章を読む。	1.5h	ジェンダー論の基本概念について再確認する。	1.5h
13	レズビアン、トランスジェンダーとフェミニズム	1,2,3	教科書「対談Ⅱ」「対談Ⅲ」を読む。	1.5h	インターセクショナリティの視点から理解する。	1.5h
14	トランスジェンダーと医療・法律をめぐる問題	1,2,3	指定する文献資料を読んでおく。	1.5h	トランスジェンダーに対するケアのあり方や、戸籍の性別変更をめぐる状況について理解を深める。	1.5h
15	大学教育とジェンダー／全体のまとめ	1,2,3	教科書第13章、「おわりに」を読む。	1.5h	講義で得た自分の問題関心について、考察を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

教科書と事前配布する資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。
ジェンダー論では、自身の経験や価値観もふまえながら、自分なりの考えを深め、表現することにもっとも大切な意味がある。したがって、レポート課題で生成AI（chatGPT等）の文章をそのまま使うことは認めないので注意すること。AIの使用が強く疑われる場合は大幅な減点の対象となる。

^

印刷 

HOME > 共生の倫理

共生の倫理

英文名 : Ethics of Symbiosis
科目区分 : 人間理解
科目ナンバリング : LAH010
学年 : 1年
開講期 : 後期
選択・必修 : 選択
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
5 豊かな人間性と倫理観
1 専門知識・技術の活用力
1 論理的思考力
2 チームへの貢献力
1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員 ▲

大石 桂子

SDGsとの関連 ▲



アクティブラーニング実施方法 ▲

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法 ▲

①現代では多様な価値観・文化をもつ人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。誰もがもちやすい偏見や排除をのりこえ、共生を実現するためどのような取り組みができるか。多くの事例から基礎的な理論と方法の知識を習得し、今後の生活に生かす基盤を培うことを目標にする。

②授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料分析、考察する機会を設ける。

到達目標 ▲

- 1.現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。
- 2.共生の歴史について理解し、説明できる。
- 3.共生を支える社会学、倫理学、心理学また教育的・臨床的なアプローチを理解し、説明できる。

- 4.共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。
- 5.各テーマについて自分の考えをもつことができる。

使用教材 ^

講義中にプリントを配布する。

参考文献 ^

講義中に指示する。

評価方法 ^

定期試験（60％）、講義中に作成する課題（40％）に、参加態度を加えて総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。

オフィスアワー ^

月曜日の3時限、金曜日の2時限。
（1号館6階601）

メールアドレス（#→@） ^

oishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。	1h	講義の目的や学ぶ意義を理解する。	1.5h
2	ノーマライゼーションから当事者主権へ	1,2	ノーマライゼーションの定義を調べる。	1h	障害者の権利をめぐる歴史を理解する。	1.5h
3	障害者権利条約と意思決定支援	1,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	各国での意思決定支援の制度・取り組みを理解し、課題を作成する。	1.5h
4	ユニバーサルデザイン	1,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5h
5	優生思想	2,5	配布プリントに目を通す。	1h	20世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5h
6	援助行為の動機とは	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	人がなぜ他者を援助できるのか、様々な理論を理解する。	1.5h
7	偏見といかに向き合うか	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	偏見が生じるメカニズムを理解し、その解消に向けた取り組みについて考える。	1.5h
8	認知症介護・ケアへの取り組み①社会制度の側面から	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	認知症介護をめぐる現代の課題を理解する。	1.5h
9	認知症介護・ケアへの取り組み②身体拘束を減らすために	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	拘束を減らす手法、コミュニケーション改善の取り組みを理解し、考察する	1.5h
10	いじめ問題にどう取り組むか①いじめが発生する	3,5	配布プリントに目を通す。	1h	国内でのいじめの状況、発生メカニズムを理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	メカニズム					
11	いじめ問題にどう取り組むか②いじめへの対応策	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	国内外でのいじめ予防・対応の実践例を理解し、有効な手段を考察する。	1.5h
12	環境問題と世代間倫理① ヨナスの世代間倫理	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	現在世代が未来世代への責任をどのようにもつか、理解できる。	1.5h
13	環境問題と世代間倫理② 環境問題をめぐる論争	1,2,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	環境問題についての議論を理解し、みずからの考えをもつ。	1.5h
14	社会のレジリエンスを高める	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	災害復興支援、暴力犯罪の低減などの事例をもとに、有効な手段を考察する。	1.5h
15	まとめ・共生社会へ向けて	1,2,3,4,5	これまでのノート・資料に目を通す。	1h	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）



38h

備考



予習・復習については試験前の学習で補完すること。
*オンライン授業となった場合は、C-learning上で講義資料（PDFファイル等）を閲覧し、課題を提出する形式とする。

印刷



HOME > チーム医療アプローチ論

チーム医療アプローチ論

英文名 : Team Approach to Health Care

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH011

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と倫理観

2 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

3 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫、高橋雄太

科目に関連した実務経験

大川（情報）：診療情報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）

加藤（福祉）：医療ソーシャルワーカーとしてケアミックス病院に勤務（経験）

竹内（栄養）：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）。健大附属クリニック管理栄養士兼務

梅原（看護）：看護師として病院に勤務、病棟・外来・地域医療連携室の管理業務（経験）

渡邊（理学）：整形外科医として医療機関に勤務（非常勤）

篠原（理学）：急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務

小竹（子ども）：障害児母子通所支援施設に勤務（経験）

高橋（薬学）：薬剤師として大学病院に勤務（経験）、調剤薬局に非常勤勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

より安全で質の高い医療の提供にはチーム医療が欠かせない。

①福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解す

る。

②各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。

到達目標

- 1.チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■
- 2.各専門職の役割と活動について理解できる。■
- 3.チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■

使用教材

講義のスライドのファイルおよび資料をC-learningに公開する。

評価方法

授業参加への積極性40%、レポート60%

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・多学科の学生が参加していることからC-learningの協働板機能を用いてパソコン上での双方向の通信手段によって行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。
- ・課題レポートや小テストの成果から感じた点や補足すべき点について文章化し、C-learningを用いて受講生にフィードバックする。

オフィスアワー

大川（情報）
木曜3限（1号館609研究室）
加藤（福祉）
火曜4限（1号館515研究室）
竹内（栄養）
金曜3限（1号館308研究室）
梅原（看護）
金曜1～2限（5号館502研究室）
渡邊（理学）
金曜3限（5号館1階学部長室）
篠原（理学）
水曜3限（4号館416研究室）
小竹（子ども）
水曜3時限（8号館403研究室）
高橋（薬学）
水曜2限、7号館323研究室

メールアドレス（#→@）

大川（情報）
okawa-ki#takasaki-u.ac.jp
加藤（福祉）
kato-d#takasaki-u.ac.jp
竹内（栄養）
mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp
梅原（看護）
umehara#takasaki-u.ac.jp
篠原（理学）
shinohara-t#takasaki-u.ac.jp
小竹（子ども）
kotake#takasaki-u.ac.jp
高橋（薬学）
takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp
※メールでの質問可の教員のみ掲載

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■	1	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。	1.5h	21世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5h
2	チーム医療における看護師の役割と活動■	1,2,3	看護師の役割や業務について調べる	1.5h	看護師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5h
3	チーム医療における理学療法士の役割と活動■	1,2,3	理学療法士の一般的な役割について調べる	1.5h	チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5h
4	チーム医療における薬剤師の役割と活動■	1,2,3	チーム医療（病院・薬局）における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1.5h	医薬品が患者や社会に与える影響（メリットとデメリット）を考え、その上でチーム医療を行うことの有益性についてレポートにまとめる。	1.5h
5	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■	1,2,3	今までに学習した1～4のコメディカルの役割と活動について復習し、一般的な管理栄養士の役割と活動について各自で調査する。	1.5h	管理栄養士と他のコメディカルとの関わりについて理解し、それぞれの立場においてチーム医療で求められる役割・活動と、多職種連携について考察する	1.5h
6	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■	1,2,3	①高齢化社会の現状を調べる ②地域における医療・介護・福祉の連携、地域包括ケアシステムの進展を調べる。 ③医療ソーシャルワーカーについて調べる。	1.5h	地域での自立生活に必要となる、チーム医療における社会福祉士の役割を考察する。	1.5h
7	チーム医療における特別支援学校教諭の役割と活動■	1,2,3	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5h	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5h
8	チーム医療における診療情報士の役割と活動■	1,2,3	診療情報管理士と病院事務職について調べてみる。	1.5h	診療情報管理士と病院事務職について得た知識を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

【キーワード】 専門職、チーム医療、チームアプローチ、多職種連携
「チーム医療アプローチ演習」（3または4年次開講）履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。
本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷





[HOME](#) > 国際保健医療論

国際保健医療論

英文名 : Theory of International Health

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH012

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 豊かな人間性と倫理観

2 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

李孟蓉, 町田修三

科目に関連した実務経験

開発途上国の健康支援（経験）

元JICA専門家をゲストスピーカーとして招く（第11回）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○		○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

クローズドクエスション、オープンクエスションなど、授業中に質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標であるSDGsを軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。また本講義では、学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的に、学生が実際に海外に赴き実体験として諸外国の医療事情を見聞することにより、単位を取得

することができます。

②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めいく。また、学生が自律的に学習を進められるようグループワークを取り入れ、発表させる。

到達目標



1. 国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。
2. 保健医療分野での国際協力の必要性と意義を理解できる。
3. 諸外国の医療教育や医療の実態、医療制度、福祉を理解し、日本との違いを説明できる。
4. 国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■
5. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■
6. 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。（海外研修参加者）

使用教材



配布資料、各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと

参考文献



- ①「国際保健医療学」第3版 国際保健医療学会編 杏林書院
- ②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」 山本敏晴 小学館
- ③「国際協カ―その新しい潮流」 下村恭人 有斐閣
- ④ 世界の厚生労働2019 有限会社正陽文庫/
厚生労働省. 2023年海外情勢報告 https://www.mhlw.go.jp/stf/toukei_hakusho/kaigai23_00001.html
- ⑤「国民衛生の動向2024/2025」 厚生労働統計協会
- ⑥「SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社」（電子ブック）
- ⑦「世界の貧国 1日1ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック 青土社 適宜参考書を紹介する

評価方法



【学内授業の場合】

・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、授業・発表・討論の参加度30点（30%）（個人/グループワーク、プレゼンテーション）、期末レポート70点（70%）の配分で合計60点以上を合格とする。
海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中のパフォーマンス（40%）

【オンライン授業の場合】

・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート10点（10%）、授業・参加度20点（20%）（個人/グループワーク、プレゼンテーション）、期末レポート70点（70%）の配分で合計60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法



授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。

発表や討論については、その都度コメントやアドバイスをする。レポーについては、コメントを付して返却する。（対面授業・オンライン授業とも共通）

オフィスアワー



李：木曜日2限目、金曜日3限目；研究室：5号館3階 302

町田：月曜日4限目、金曜日2限目；研究室：1号館 6階 603

メールアドレス（#→@）



ri#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義オリエンテーション、国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念（一部 AL 実施）	1,2	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく。国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読むこと。	1. 5h	配布資料を目を通し、国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念についてまとめ、理解を深めること。また、自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する。	1. 5h
2	グローバルヘルスと開発理念の変遷（プライマリーヘルスケア～SDGs）（一部 AL 実施）	1,2	参考文献①「国際保健医療学」第3版の第Ⅰ部1～4、10～11まで目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、MDGsの基本理念と変遷について理解を深め、SDGsの目標と活動について興味関心をまとめること。	1. 5h
3	国際保健医療関連の国際機関、NGOの取り組みと日本の国際協力（一部 AL 実施）	1,2	参考文献②「世界で一番いのちの短い国 シェラレオネの国境なき医師団」、③国際協力ーその新しい潮流に目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関やNGO団体、ODAの活動についてまとめ、理解を深めること。	1. 5h
4	日本の医療教育、医療制度、医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
5	諸外国（イギリス）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
6	諸外国（ヨーロッパ①）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
7	諸外国（ヨーロッパ②）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
8	諸外国（アメリカ）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1. 5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1. 5h
9	諸外国（発展途上国、インドネシア）における健康の格差①（保健指標、母子保健）（一部 AL 実施）	2, 3,4	参考文献④世界の厚生労働2019 p. 102-136、⑤「国民衛生の動向2024/2025」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向（人口動態、生命表、母子保健など）について目を通しておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、世界で生じている健康格差の実態とその原因についてまとめ、理解を深めること。	1. 5h
10	諸外国（発展途上国、タイ・ベトナム）における健康の格差②（感染症と非感染性疾	2, 3,4	参考文献⑥SDGsを学ぶ 国際開発・国際協力入門 法律文化社（電子ブック）第2章 保健・健康SDG3に目を通しておくこと。	1. 5h	開発途上国の保健医療課題とその原因についてまとめて、理解を深めること。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	患) (一部 AL 実施)					
1 1	国際保健医療協力と異文化理解 ■ (一部 AL 実施) 元JICA専門家を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する	2, 3, 4,5	世界で行われてる国際保健医療協力を調べておくこと。	1. 5h	配布資料に目を通し、国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応について考察したことをまとめ、理解を深めること。	1. 5h
1 2	訪日外国人・在日外国人の背景、医療における課題と健康支援	5	日本、群馬県内の在日外国人(人口、国籍、在留資格、居住地域、生活など)について調べ、体験、新聞等の媒体から実情に関心をもち把握しておくこと。	1. 5h	在日外国人が抱えている健康問題と健康支援について理解を深める。また、異文化に遭遇した際に求められる必要な対処について考え、今後学習や実践に活用できる資料をまとめておく。	1. 5h
1 3	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク① (一部 AL 実施)	2, 3, 4, 5,6	興味ある国の医療事情や興味関心のあるSDGの目標について調べておくこと。	1. 5h	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGの目標やターゲットについてまとめて、発表の準備をすること。	1. 5h
1 4	諸外国の医療事情、グローバルヘルス 個人ワーク/グループワーク② (一部 AL 実施)	2, 3, 4, 5,6	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGにおける諸外国、国際機関や世界でのNGO、企業等の活動・取り組みを調べておくこと。	1. 5h	調べてまとめた興味関心のあるSDGについて、第12回講義と関連付けて自分たちが取り組めることをまとめて、発表の準備をすること。	1. 5h
1 5	学生プレゼンテーションとまとめ	2, 3, 4, 5,6	第13回～第14回の個人ワーク/グループワークの発表資料と発表の準備。	1. 5h	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入。	1. 5h

合計時間 (予習・復習)

45h

備考

AL (アクティブラーニング) は、ペアワークを含むグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー、その他クローズドク

エスチョン、オープニングエスチョンなど、授業中に質疑応答の時間を設ける。

1. 単位修得に必要な時間を満たしていない場合

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

2. ルール

1) 能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。

2) 他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。

3. 出席登録の方法

出席の登録は、C-learningの下記1)～2)のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。

1) 「レポート」の課題をする。

2) 「アンケート」を提出する。

4. グループワークとレポートの詳細については授業を進めながら提示する。

5. オンライン講義を実施する場合には、講義内容のワークショップを変更することがある。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



[HOME](#) > Introduction to Healthcare Sciences

Introduction to Healthcare Sciences

英文名 : Introduction to Healthcare Sciences

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH013

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

3 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

1 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

町田 修三、東福寺 幾夫、松尾 仁司、ターン・クリストファー、應本 真、今井 純、大石 時子、富田 洋介

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

QUIZ、問いかけ、授業内カンバセーション等による双方向性授業

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

②数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。

到達目標

^

- 1.医療に関する基礎的な内容に関して，英語での説明を理解できる
- 2.理解した内容について，第三者に説明できる
- 3.医療に関するトピックに関して，英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる
- 4.医療に関するトピックについて，外国の学生と話をすることができる

使用教材

^

各教員が作成した資料やデータを用いて講義する

評価方法

^

担当各教員による評価を総合して決定する．各教員は，毎回の授業参加度（20%程度）や講義終了時に課す提出物または小レポート（80%程度）により，それぞれの持ち点に応じて学生を評価する

課題・評価に対するフィードバック方法

^

提出物や小レポートには，コメントを付して返却する

オフィスアワー

^

月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

メールアドレス（#→@）

^

machida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction of the course（町田）	1	シラバスを熟読し，講義の概要や目標を理解しておく	1h	講義内容の復習，特に専門用語（英語）を覚える	1h
2	Medical globalization and Japan's healthcare system（町田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
3	Healthcare system of foreign countries（町田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
4	Introduction of nursing education in Japan and other countries（大石）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
5	Introduction to telemedicine（東福寺）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
6	Using Medline Plus to obtain medical information in English I（小澤）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	Using Medline Plus to obtain medical information in English II（小澤）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
8	Immunity and diseases I（今井）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
9	Immunity and diseases II（今井）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
10	Medical information system（松尾）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
11	Introduction to sensory science（應本）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
12	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation I（富田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
13	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation II（富田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
14	Mental health and social skills（ターン）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
15	Summary and concluding remarks（ターン）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h

合計時間（予習・復習）



44h

備考



講義内容は学生の興味を持てそうな分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。

印刷



Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

[HOME](#) > 囲碁の世界

囲碁の世界

英文名 : Introduction to Igo

科目区分 : 人間理解

科目ナンバリング : LAH014

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と倫理観

3 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

0 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く 

すべて閉じる 

担当教員



三谷 哲也

科目に関連した実務経験



2002年に公益財団法人日本棋院に入段。囲碁教室や他大学の囲碁授業の講師（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



インターネット・携帯電話アプリケーションでの対局を指示する場合あり

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標

近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。

また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。

②実施方法

- ・講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。
- ・囲碁の心得や法則「ナナメにご用心」等、言葉で表したものを積極的に使い上達を図る。
- ・決め打ち碁（模範的な碁を並べ、途中から打つ）で布石の考え方を身につけ、初心者でもすぐに終局まで打てるようになる。

到達目標 ^

- 1. 囲碁を全く知らない状態から囲碁の世界を知り、19路盤で最後まで打てるようになる。■
- 2. 「囲碁の心得、法則」の形を言葉で覚え、積極的に使い囲碁の考え方を身につける。■

使用教材 ^

光文社新書「東大教養囲碁講座」 （備考欄を要確認）

参考文献 ^

日本棋院「実践囲碁総合演習」

評価方法 ^

毎回の授業貢献度、コメントシート、技術の習熟度を総合的に判断する（60%）
試験（20%）×2回 ※対局結果は成績評価に含まない

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

試験後に解説を行う。

オフィスアワー ^

質問及び学習相談は授業の前後に応じる。状況により次回の授業での対応となる場合がある。

メールアドレス（#→@） ^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	囲碁の歴史と基本ルール■	1,2	教科書 第1章1～3に目を通し講義の目的を理解する。	1.5 h	囲碁の基本的なルールを理解する。	1.5 h
2	ルールの復習（1）■	1,2	教科書 第2章1-1～1-3に目を通し基本ルールを確認する。	1.5 h	囲碁の5つの基本ルールを理解する。	1.5 h
3	ルールの復習（2）■	1,2	教科書 第2章1-4～1-5に目を通し基本ルールを確認する。	1.5 h	打てない場所、打てる場所を理解する。インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 h
4	ルールの復習及び初歩技術（1）■	1,2	教科書 P97に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5 h	基本的な3つの心得を理解する。	1.5 h
5	ルールの復習及び初歩技術（2）■	1,2	教科書 第3章2に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5 h	取れている石、シチョウを理解する。	1.5 h
6	問題演習■	1,2	教科書 第2章1～2に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5 h	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5 h
7	技術の解説（1）■	1,2	教科書 P188～199に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 h
8	技術の解説（2）■	1,2	教科書 P173～188に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 h
9	技術の解説（3）■	1,2	教科書 P158～172に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	9子局の解説・連碁（対局）■	1,2	教科書 第5章1に目を通し9子局の打ち方を理解する。	1.5h	9子局の打ち方を理解する。	1.5h
11	技術の解説（4）■	1,2	教科書 P207～220に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5h	隅の死活を理解する。	1.5h
12	技術の解説（5）とペア碁■	1,2	教科書 第4章に目を通し、19路盤の考え方を理解する。	1.5h	19路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5h
13	問題演習■	1,2	教科書 第2章4に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5h	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5h
14	技術の解説（6）■	1,2	教科書 P259～267に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5h	19路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5h
15	イベント対局とまとめ■	1,2	教科書 第4章～5章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5h	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

- 履修条件
 - ・本講義は、囲碁を知らない状態から19路盤で最後まで打てるようになることが目標です。
 - ・囲碁の未経験者や囲碁のルールを知らない者を強く求めます。
- その他、授業に関する事項
 - ・第5回目の授業までは基本的なルールを学び復習します。欠席や遅刻などしないこと。
 - ・使用教材（教科書）は、授業形態（オンラインや録画配信）への変更により使用しない場合があります。
 - ・授業では毎回対局を行います。道具の準備や片づけも授業の一環であるため、積極的に関わること。
 - ・PCや携帯端末で囲碁の対局ソフト（アプリ）を指示、使用する場合があります。

■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷 



[HOME](#) > 英語IA

英語IA

英文名 : English IA
科目区分 : リテラシー
科目ナンバリング : LAL001
学年 : 1年
開講期 : 前期
選択・必修 : 必修
単位数 : 1単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
4 豊かな人間性と倫理観
0 専門知識・技術の活用力
3 論理的思考力
1 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

織原 義明（おりはら よしあき）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ バート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 日常的・社会的なトピックを扱ったテキストに触れ、大学生レベルの英文を読むために必要となる基礎的能力を身につける。また、一般的な英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 日常的・社会的な話題に関する語彙を身につける。
2. 日常的・社会的な話題についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を英語で表現できるようになる。

使用教材

AMBITIONS: Elementary 4 技能統合型で学ぶ英語コース：初級編
VELC研究会教材開発グループ / 静哲人 / 望月正道 / 熊澤孝昭 編著, 金星堂, 税込 ￥2,200

評価方法

授業への参加度と平常点（小テスト含む）40%、期末試験60%から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。

オフィスアワー

^

授業開始前または終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

orihara#u-gakugei.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、Unit 1 - Cross-Cultural Understanding	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
2	Unit 2 - Foods	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
3	Unit 3 - Foreign Language Learning	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
4	Unit 4 - Sports	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
5	Unit 5 - Fashion	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
6	Unit 6 - Living Things	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
7	Unit 7 - Art	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
8	Unit 8 - Global Issues	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
9	Unit 9 - Japanese Culture	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
10	Unit 10 - Human Rights	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。R	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PAR	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			EADING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。		T のFind Out を音読する。	
11	Unit 11 - Health & Medical Issues	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
12	Unit 12 - Environmental Issues	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
13	Unit 13 - Economy & Industry	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
14	Unit 14 - Legal Issues	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h
15	Unit 15 - Science & Technology	1,2,3	Listing Focus と Reading Focus を読んで学習ポイントを事前にイメージしておく。READING PART のFind Out を読んで、自分なりに内容を把握する。	0.5h	音声教材を使って復習する。READING PART のFind Out を音読する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

^

備考

音声教材はC-learningにアップします。

^

印刷





[HOME](#) > 英語IB

英語IB

英文名：English IB
 科目区分：リテラシー
 科目ナンバリング：LAL001
 学年：1年
 開講期：前期
 選択・必修：必修
 単位数：1単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 4 豊かな人間性と倫理観
 0 専門知識・技術の活用力
 3 論理的思考力
 1 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

下田 尾 誠

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○	○			○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①異文化理解、食、外国語学習、スポーツ、ファッション、生物、芸術、グローバル問題、日本文化、人権、健康・医療、環境、経済・産業、法律、サイエンス・テクノロジーをテーマにしたテキストを活用することを通じて、現代社会に生きる人が知っておくべき事実への認識と問題意識を深めていくことを目標とする。
 ②1ユニットはリスニングとリーディングから構成されているが、授業では単なる理解にとどまらず、使用される表現を実際に自分で口にとってみる、書いてみる、さらには自分の意見を作文するという行為を通して、それらの定着を確実なものにするというアプローチを実践する。

到達目標

上記のテーマに関わるマテリアルを活用することにより、4技能にわたる英語運用能力を高めることのみならず、情報を収集し、それらの事実を批判的にとらえ、自分の意見をまとめて発表する力を身に着ける。
 1. 環境と健康についての基本的な語彙を修得する。
 2. 大学生基礎レベルのリーディング・スキルを身につける。
 3. 関連テーマについて英語で簡単な作文ができる表現力を身につける。

使用教材

VELC研究会教材開発グループ、AMBITIONS Elementary 4技能で学ぶ英語コース：初級編（南雲堂、2018）2,000円

評価方法

^

学期末試験（70%）、授業参加度（質問に対する応答）（20%）、課題提出（10%）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題に関しては授業時に解説する。

オフィスアワー

^

質問および学習相談には、授業終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Cross-Cultural Understanding 強く発音される語を聞き取る 分の主語を見つける	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
2	Foods 語順のまま理解する 文の動詞を見つける	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
3	Foreign Language Learning 消えるtとdを聞き取る 動詞の目的語を見つける	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
4	Sports 似た音に注意して聞き取る 補語を見つける	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
5	Fashion nでつながる語句を聞き取る 代名詞を理解する	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
6	Liiving Things 弱いcanを聞き取る 不定詞を理解する	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
7	Art 話の展開を予測する 動名詞を理解する	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
8	Global Issues 強弱のリズムになれる 受動態を理解する	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
9	Japanese Culture tでつながる語句を聞き取る 後置修飾を見抜く	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	Human Rights Iでつながる語句を聞き取る	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
11	Health & Medical Issues 弱いofを聞き取る 関係代名詞を理解する	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
12	Environmental Issues 対比による強調を理解する andがつなぐものを見抜く	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
13	Economy & Industry rでつながる語句を聞き取る butやorがつなぐものを見抜く	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
14	Legal Issues のみこまれるtnを聞き取る 文脈に合った意味を選ぶ	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h
15	Science & Technology 弱いforを聞き取る 知らない単語の意味を推測する	1,2,3	テキストの該当するUnitを読んでおくこと。	0.5h	指示された復習課題を行うこと。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

課題の提出については、PCで作成する。

印刷





[HOME](#) > 英語IIA

英語IIA

英文名 : English IIA
科目区分 : リテラシー
科目ナンバリング : LAL002
学年 : 1年
開講期 : 後期
選択・必修 : 必修
単位数 : 1単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
4 豊かな人間性と倫理観
0 専門知識・技術の活用力
3 論理的思考力
1 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員



Angela Marli Karsten Tsunoda
アンジェラ マルリ カルステン 角田

科目に関連した実務経験



Over 30 years of experience as an English language educator. Has taught from kindergarten to university students in Japan and abroad. 国内外で30年以上の英語指導経験（幼稚園から大学生まで）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



1.Course Objectives

実施概要 講義の目標

- Improve self-confidence and accurateness in English skills (writing, reading, speaking, listening)

英語の4技能と自信の向上

- Gain experience in making use of technology while using English.

デバイスや機器を利用した英語学習

- Gain a better understanding of oneself and of human life & culture related topics, while relating these to the use of English language.

自己理解、人間関係、文化といったトピックスについて英語を通じて学ぶ

- Practice of interactions and presentations in English

英語での相互作用とプレゼンテーションの練習

2. Implementation Method

講義の実施方法

•Target topics will be discussed in class. English sentences related to the topics will be practiced, while enhancing vocabulary, grammar and communication skills.

授業では、目標とするトピックについて話し合います。トピックに関連する英語の文章を練習しながら、語彙、文法、コミュニケーションスキルを強化します。

•Students will also work in groups while researching, discussing and creating presentations to share what they have learned with the rest of the class.

生徒はグループで作業しながら、リサーチ、ディスカッション、プレゼンテーションの作成を行い、学んだ内容をクラスの他の生徒と共有します。

到達目標

Attainment Target

1. Being able to understand English vocabulary related to daily life at university;

大学生生活に関わる英語の語彙が理解できる。

2. Being able to engage in simple English conversation related to common daily topics;

日常的な話題に関連した簡単な英会話ができる

3. Being able to make effective use of online tools to improve English skills in general;

オンラインツールを効果的に活用して、英語力全般を向上させることができる。

4. Being able to perform short presentations in English while using classroom tools;

教室のツールを使用しながら英語で短いプレゼンテーションを行うことができる。

5. Being able to recognize and effectively write the parts of an English paragraph;

英語の段落の各部分を認識し、効果的に書くことができる。

6. Being able to express opinions in simple English;

簡単な英語で意見を述べることができる。

使用教材

ワークシートは教師から提供されます。教科書を購入する必要はありません。

参考文献

<https://www.allthingstopics.com>

<https://www.allthingsgrammar.com>

Reference book 参考書籍: ※購入の必要はありません。

Topic Talk – David Martin

(No need to buy books. Material will be provided by the instructor).

評価方法

15% - Participation in online questionnaires (アンケートへの参加)

40% - Group Assignments & Presentations (2 X) 月次レポートとプレゼンテーション (2X)

20% - Homework (大学の宿題)

25% - Final Report & Presentation (once in the end of the term)

最終レポート、プレゼンテーション (学期末1回)

課題・評価に対するフィードバック方法

Self-assessment 自己評価 / Peer assessmentピアアセスメント

Instructor's comments 教員によるコメント

Assignments/Final Report assessment 課題、最終レポート評価

オフィスアワー

Feel free to talk to the instructor every Tuesday, right after class.

毎週火曜日の授業終了後、インストラクターに気軽に相談してください。

メールアドレス (#→@)

Please use C-Learning - messages

C-Learning上 (連絡・相談) を通して

More details will be provided on the first class. 詳細は初回授業時にお知らせします。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	TALKING ABOUT MYSELF 1	1,2,3	Please read this syllabus carefully and send me any questions you may have. You can use C-learning ➡ messages for this. シラバスを読み、質問がある場合はC-ラーニング、Message(連絡・相談)から質問する。 Please take a look at C-learning using the English display (Change display) C-learning上の英語ディスプレイを確認	1.5h	Reread this syllabus. シラバスの再確認 Review vocabulary, phrases and sentences 単語、表現、文の復習 (check "Teaching Materials") C-learning➡教材倉庫より Please do your weekly homework 毎週宿題をしてください	1.5h
2	TALKING ABOUT MYSELF 2	1,2,3,5,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5h
3	HUMAN RELATIONSHIPS 1	1,2,3,5,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる	1.5h
4	HUMAN RELATIONSHIPS 2	1,2,3,5,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 Please work on your First Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーション準備をすすめる	1.5h
5	FIRST ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日	4,5,6	First Assignment Deadline! Please send it to the instructor. 課題提出期限! (教員へWeb上の提出) Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み	1.5h
6	INTERESTS 1	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 文、表現、文の復習 Please work on your Mid-term Assignment/Presentation	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					課題、プレゼンテーションへの取り組み Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	
7	INTERESTS 2	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5 h
8	INTERESTS 3	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 Please work on your Mid-term Assignment/Presentation 課題、プレゼンテーションへの取り組み	1.5 h
9	MID-TERM ASSIGNMENT PRESENTATION DAY レポート発表日	1,2,3,4	MID-TERM Assignment Deadline! Please send it to the instructor. 課題提出期限! (教員へWeb上の提出) Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework. 宿題への取り組み	1.5 h
10	HEALTH AND WELL-BEING 1 /FINAL REPORT INSTRUCTIONS最後のレポートの指示	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework 宿題への取り組み Please review the instructions for the FINAL REPORT and start working on it 最終レポートについて内容確認し取り組み開始	1.5 h
11	HEALTH AND WELL-BEING 2	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習 Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5 h
12	HEALTH AND WELL-BEING 3	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5 h	Review vocabulary, phrases and sentences (check "Teaching Materials") 単語、表現、文の復習	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					Please work on your weekly homework 宿題への取り組み Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	
13	OPINIONS & REFLECTIONS 1	1,2,3,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5h	Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 Please work on your FINAL REPORT 最終レポートへの取り組み	1.5h
14	FINAL REPORT PRESENTATION DAY ファイナルレポートプレゼンテーションデー	1,2,3,4,6	FINAL REPORT Deadline! Please send it to the instructor. 最終レポート提出期限！（教員へWeb上の提出） Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5h	Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習 Please work on your weekly homework 宿題への取り組み	1.5h
15	OPINIONS & REFLECTIONS 3	1,2,3,4,6	Please answer the weekly questionnaire アンケート回答 (go to C-learning ➡ questionnaire)	1.5h	Review vocabulary, phrases and sentences (check “Teaching Materials”) 単語、表現、文の復習	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h



印刷





[HOME](#) > 英語IIB

英語IIB

英文名：English IIB
 科目区分：リテラシー
 科目ナンバリング：LAL002
 学年：1年
 開講期：後期
 選択・必修：必修
 単位数：1単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 4 豊かな人間性と倫理観
 0 専門知識・技術の活用力
 3 論理的思考力
 1 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

Louise Arai

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。
 ②授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

- 1.理学療法を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。
- 2.理学療法についての英語を読めるようになる。
- 3.理学療法について英語で話せるようになる。

使用教材

Everything will be provided by the instructor

評価方法

Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%,
Final report 30%

課題・評価に対するフィードバック方法



Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking.

オフィスアワー



授業の前後に対応する。

メールアドレス（#→@）



louisebarnett75@yahoo.co.nz

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English	1,2,3	Look at syllabus and make name cards	0.5 h	Self introductions and read Useful Classroom/online English	0.5 h
2	Learn how to write an email	1,2,3	Read handout	0.5 h	Send email to teacher	0.5 h
3	Meeting people and Flipgrid introduction	1,2,3	Read handout	0.5 h	Submit video on Flipgrid	0.5 h
4	Restaurant English and Movies	1,2,3	Read handout	0.5 h	Introduce your favorite movie	0.5 h
5	Talking about events and festival	1,2,3	Prepare to talk about your favorite festival	0.5 h	Introduce your favorite festival	0.5 h
6	Food Culture and Cooking in English	1,2,3	Be ready to talk about your favorite recipe	0.5 h	Introduce a healthy recipe	0.5 h
7	Emergencies	1,2,3	Think about emergency kit	0.5 h	Prepare an emergency kit	0.5 h
8	Useful travel English	1,2,3	Read handout. Be ready to talk about the best place you have visited	0.5 h	Write about your favorite place	0.5 h
9	Talking about pets	1,2,3	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 h	Review the benefits of having pets	0.5 h
10	Online Friends	1,2,3	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication	0.5 h	Write about the benefits of both	0.5 h
11	Corona Virus and stress	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
12	A healthy lifestyle	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
13	Make a blog	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Prepare blog	0.5 h
14	Blog presentation	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Review blogs in groups	0.5 h
15	Communication activities	1,2,3	Prepare for fun!	0.5 h	Review the activities	0.5 h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

Syllabus may change a little.

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



[HOME](#) > 英語IIIA

英語IIIA

英文名：English IIIA
 科目区分：リテラシー
 科目ナンバリング：LAL003
 学年：1年
 開講期：前期
 選択・必修：必修
 単位数：1単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 4 豊かな人間性と倫理観
 0 専門知識・技術の活用力
 3 論理的思考力
 1 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

ステイシー・クロース

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

Peer to peer review of projects

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①このコースの目標は、実用的で意味のある状況で英語を使用するための基盤を提供することです。

②本コースでは、話す、書く、聞く、読むという4つの言語スキルを発展させ、個人的および学術的な情報を効果的に伝えることを重視します。学生は、ビデオ、ポスター、スピーチなど、さまざまな形式を活用して自分のアイデアを形にし、意義のある対話に参加します。また、協働活動や仲間からのフィードバックを通じて、英語を使う自信とスキルをさらに向上させます。

The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical and meaningful situations. This course will emphasize the development of all four language skills—speaking, writing, listening, and reading—to effectively communicate personal and academic information. Students will use a variety of formats, such as videos, posters, and speeches, to bring their ideas to life and engage in meaningful interactions. Collaborative activities and peer feedback will further enhance your confidence and proficiency in using English.

到達目標

1. 様々な状況において、話し言葉や書き言葉で明確かつ意味のあるメッセージを英語で伝える。

2. 英語の資料を活用して、世界的または個人的な関心のあるテーマを調査、分析、理解する。

3. 英語を学び、楽しみ、効果的に使うための生涯学習の習慣を身につけ始める。
1. Communicate clear and meaningful messages in spoken and written English in various contexts.

2. Research, analyze, and understand ideas of global or personal interest using English resources.

3. Begin developing lifelong habits for learning, enjoying, and effectively using English.

使用教材

^

Provided by instructor

評価方法

^

平常点40%（単語試験、提出物など）、発表30%、定期試験30%を総合的に評価する。
Quizzes or homework due every week based on previous lesson.

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題はコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

^

水曜日の4限、金曜日の2限・質問はメールでも受け付ける(9号館307研究室)

メールアドレス（#→@）

^

stacy-c#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

このコースの焦点は「英語を使って何ができるか」にあります。特定の語彙や文法を学ぶのではなく、中学・高校で学んだ英語を活用することが重要です。学生は自分自身のプロジェクトを作成し、そのために必要な英語を調査することがコースの重要な要素となります。

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction of the course	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
2	Introducing yourself to others	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
3	Narrative story techniques and practice	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
4	Telling a narrative story	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
5	Presenting narrative stories	2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
6	Peer review of narrative stories	1,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
7	Practicing grammar and vocabulary for demonstrations	1,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
8	Practice for demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
9	Techniques and practice for presenting a demonstration	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
10	Demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
11	Peer review of demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	Differences in popular culture	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
13	Pop culture and life long learning of English	2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
14	Presenting a summary of popular culture topic	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
15	Peer review of popular culture topics	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



このコースの焦点は「英語を使って何ができるか」にあります。特定の語彙や文法を学ぶのではなく、中学・高校で学んだ英語を活用することが重要です。学生は自分自身のプロジェクトを作成し、そのために必要な英語を調査することがコースの重要な要素となります。

印刷





[HOME](#) > 英語IIIB

英語IIIB

英文名 : English IIIB

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL003

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員



姉崎達夫

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義では4技能（聞く・話す・読む・書く）を取り扱うが、特に「聞く」「話す」に重点を置き、外国人患者とコミュニケーションを取る基礎力を養うことを目標としている。
②英単語の発音と意味を事前に調べる。授業ではテキストに沿って薬学に関する英語表現を学修する。ペアやグループで実際の場面を想定しながら練習を行って英語表現を身につける。

到達目標



- 理学療法に関する基本的な英語の語彙を獲得する。
- 理学療法士と外国人患者との会話を聞いて、内容を理解することができる。
- 実際の場面を想定した英語表現を用いて、簡単な意思疎通をすることができる。
- 理学療法士に関するさまざまな英語表現を使って、状況に応じた対応することができる。

使用教材



三木貴弘・今本大地・岡谷内美乃里. (2018). 『PT・OTが書いた リハビリテーション英会話』. 東京: メジカルビュー社. ISBN: 978-4-7583-0965-3

参考文献



講義内で適宜紹介する。

評価方法

授業への参加態度（20％）、ミニテストと課題（40％）、試験（40％）から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題のフィードバックは翌週に提示する。

オフィスアワー

火曜3限、水曜3限
研究室：9号館3階303研究室

メールアドレス（#→@）

anezaki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、Lesson 1 初回の挨拶をしよう	1,2	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。Lesson 1 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 h	Lesson 1の本文を音読練習する。ミニテストに備え復習する。	0.5 h
2	Lesson 2 痛む部位を聞いてみよう	1,2,3	Lesson 2 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 h	Lesson 2の本文を音読練習する。ミニテストに備え復習する。	0.5 h
3	Lesson 3 痛みの種類や程度を聞いてみよう	1,2,3	Lesson 3 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 h	Lesson 3の本文を音読練習する。ミニテストに備え復習する。	0.5 h
4	Lesson 4 痛みの経過を聞いてみよう	1,2,3,4	Lesson 4 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 h	Lesson 4の本文を音読練習する。ミニテストに備え復習する。パフォーマンス課題の準備を行う。	0.5 h
5	Lesson 1～4 まとめ、音読課題、パフォーマンス課題	1,2,3,4	Lesson 1～4の本文を音読、暗唱する。	0.5 h	Lesson 1～4の語彙と重要表現を復習する。	0.5 h
6	Lesson 5 基本的な肢位を指示してみよう	1,2,3	Lesson 5 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 h	Lesson 5の本文を音読練習する。ミニテストに備え復習する。	0.5 h
7	Lesson 6 応用的な肢位を指示してみよう	1,2,3	Lesson 6 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 h	Lesson 6の本文を音読練習する。ミニテストに備え復習する。	0.5 h
8	Lesson 7 バイタルサインを確認しよう	1,2,3	Lesson 7 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 h	Lesson 7の本文を音読練習する。ミニテストに備え復習する。	0.5 h
9	Lesson 8 自動可動域を測定してみよう	1,2,3	Lesson 8 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5 h	Lesson 8の本文を音読練習する。ミニテストに備え、復習する。パフォーマンス課題の準備を行う。	0.5 h
10	Lesson 5～8 まとめ、音読課題、	1,2,3	Lesson 5～8の本文を音読、暗唱する。	0.5 h	Lesson 5～8の語彙と重要表現を復習する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	パフォーマンス課題					
11	Lesson 9 他動可動域を測定してみよう	1,2,3	Lesson 9 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5h	Lesson 9の本文を音読練習する。ミニテストに備え復習する。	0.5h
12	Lesson 10 体幹の可動域を測定してみよう	1,2,3	Lesson 10 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5h	Lesson 10の本文を音読練習する。ミニテストに備え復習する。	0.5h
13	Lesson 11 頸部の可動域を測定してみよう	1,2,3	Lesson 11 の最初のページに目を通し、未知語の発音と意味を調べる。	0.5h	Lesson 11の本文を音読練習する。ミニテストに備え復習する。パフォーマンス課題の準備を行う。	0.5h
14	Lesson 9～11 まとめ、音読課題、パフォーマンス課題	1,2,3,4	Lesson 9～11の本文を音読、暗唱する。	0.5h	Lesson 9～11の語彙と重要表現を復習する。パフォーマンス課題の準備を行う。	0.5h
15	Lesson 1～11 まとめ、音読課題、パフォーマンス課題	1,2,3,4	Lesson 1～11の本文を音読、暗唱する。	0.5h	Lesson 1～11の語彙と重要表現を復習する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h



印刷



[HOME](#) > 英語IVA

英語IVA

英文名 : English IVA
科目区分 : リテラシー
科目ナンバリング : LAL004
学年 : 1年
開講期 : 後期
選択・必修 : 必修
単位数 : 1単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
4 豊かな人間性と倫理観
0 専門知識・技術の活用力
3 論理的思考力
1 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員



出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○								

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



- ① 理学療法・医療に関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った中級レベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標



1. 理学療法・医療に関する語彙を身につける。
2. 理学療法・医療についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を簡単な英語で表現できるようになる。

使用教材



The Art of Healing 医療・リハビリテーションを学ぶ学生のための総合英語, 荒金房子・村上仁之・Mark Lemon, 南雲堂, 2012年, ￥1,700+税.
ISBN: 9784523177074

評価方法



授業への参加態度（資料の閲覧、発言、ドリルの実施状況など）・・・40%
課題・確認テスト・・・60%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題や試験はコメント・添削の上返却する。

オフィスアワー

^

1号館511研究室
面談希望の場合はC-learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

メールアドレス（#→@）

^

izumo-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス Chapter1 Higher B rain Dysfunction (1)	1,2,3	C-learning「ニュース」を読み、 授業の進め方と成績評価の方法を 確認しておく。 Chapter1に一通り目を通し、不明 な単語や表現について調べてお く。	1h	重要な単語や表現を復習 し、それをういて自分で表 現してみる。	1h
2	Chapter1 Higher B rain Dysfunction (2)	1,2,3	C-learning の小テストに公開する Chapter1に関する課題を実施して おく。	1h	重要な単語や表現を復習 し、それをういて自分で表 現してみる。	1h
3	Chapter2 Parkinso n’s Disease (1)	1,2,3	C-learning の小テストに公開する Chapter2に関する課題を実施して おく。	1h	重要な単語や表現を復習 し、それをういて自分で表 現してみる。	1h
4	Chapter2 Parkinso n’s Disease (2)	1,2,3	C-learning の小テストに公開する Chapter2に関する課題を実施して おく。	1h	重要な単語や表現を復習 し、それをういて自分で表 現してみる。	1h
5	Chapter3 Osteopo rosis (1)	1,2,3	C-learning の小テストに公開する Chapter3に関する課題を実施して おく。	1h	重要な単語や表現を復習 し、それをういて自分で表 現してみる。	1h
6	Chapter3 Osteopo rosis (2)	1,2,3	C-learning の小テストに公開する Chapter3に関する課題を実施して おく。	1h	重要な単語や表現を復習 し、それをういて自分で表 現してみる。	1h
7	Chapter4 Cerebr al Apoplexy (Strok e) (1)	1,2,3	C-learning の小テストに公開する Chapter4に関する課題を実施して おく。	1h	重要な単語や表現を復習 し、それをういて自分で表 現してみる。	1h
8	Chapter4 Cerebr al Apoplexy (Strok e) (2)	1,2,3	C-learning の小テストに公開する Chapter4に関する課題を実施して おく。	1h	重要な単語や表現を復習 し、それをういて自分で表 現してみる。	1h
9	Chapter5 Cardiova scular Disease (1)	1,2,3	C-learning の小テストに公開する Chapter5に関する課題を実施して おく。	1h	重要な単語や表現を復習 し、それをういて自分で表 現してみる。	1h
10	Chapter5 Cardiova scular Disease (2)	1,2,3	C-learning の小テストに公開する Chapter5に関する課題を実施して おく。	1h	重要な単語や表現を復習 し、それをういて自分で表 現してみる。	1h
11	Chapter6 Diabetes Mellitus (1)	1,2,3	C-learning の小テストに公開する Chapter6に関する課題を実施して おく。	1h	重要表現を復習し、それを ういて自分で表現してみ る。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	Chapter6 Diabetes Mellitus (2)	1,2,3	C-learning の小テストに公開するChapter6に関する課題を実施しておく。	1h	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1h
13	Chapter7 Respiratory Disease (1)	1,2,3	C-learning の小テストに公開するChapter6に関する課題を実施しておく。	1h	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1h
14	Chapter7 Respiratory Disease (2)	1,2,3	C-learning の小テストに公開するChapter7に関する課題を実施しておく。	1h	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1h
15	まとめ	1,2,3	これまでに学習した表現を見直しておく。	1h	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1h

合計時間 (予習・復習)



30h

備考



C-learning「ニュース」に【授業の進め方】【成績評価】について詳細を公開するので、各自で確認しておくこと。

印刷



HOME > 英語IVB

英語IVB

英 文 名 : English IVB
科 目 区 分 : リテラシー
科 目 ナンバリング : LAL004
学 年 : 1年
開 講 期 : 後期
選 択 ・ 必 修 : 必修
単 位 数 : 1単位
講 義 形 態 : 講義
学 位 授 与 方 針 と の 対 応 :
比重 DP
4 豊かな人間性と倫理観
0 専門知識・技術の活用力
3 論理的思考力
1 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

織原 義明（おりはら よしあき）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 理学療法・医療に関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った基礎的なレベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
- ② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 理学療法・医療に関する基礎的な語彙を身につける。
2. 理学療法・医療についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。

使用教材

The Art of Healing 医療・リハビリテーションを学ぶ学生のための総合英語, 南雲堂,
著者 荒金 房子 著, 村上 仁之 著, Mark Lemon 著, 2,090円（本体1,900円＋税）

評価方法

授業への参加度と平常点（小テスト含む）40%、期末試験60%から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。

オフィスアワー

^

授業開始前または終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

orihara#u-gakugei.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、Chapter 1 Higher Brain Dysfunction（高次脳機能障害）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に見直す。	0.5h
2	Chapter 2 Parkinson's Disease（パーキンソン病）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に見直す。	0.5h
3	Chapter 3 Osteoporosis（骨粗鬆症）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に見直す。	0.5h
4	Chapter 4 Cerebral Apoplexy (Stroke)（脳卒中）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に見直す。	0.5h
5	Chapter 1 ～ 4 の未習内容の学習と復習	1,2,3	Chapter 1 ～ 4 の未習内容を予習する。既に学習した内容を見直しておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に見直す。	0.5h
6	Chapter 5 Cardiovascular Disease（循環器疾患）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に見直す。	0.5h
7	Chapter 6 Diabetes Mellitus（糖尿病）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に見直す。	0.5h
8	Chapter 7 Respiratory Disease（呼吸器疾患）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に見直す。	0.5h
9	Chapter 8 Chronic Rheumatoid Arthritis（慢性関節リウマチ）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に見直す。	0.5h
10	Chapter 5 ～ 8 の未習内容の学習と復習	1,2,3	Chapter 5 ～ 8 の未習内容を予習する。既に学習した内容を見直しておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に見直す。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					する。間違った問題を中心に 見直す。	
11	Chapter 9 Femoral Neck Fractures（大腿骨頸部骨折）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に 見直す。	0.5h
12	Chapter 10 Spinal Cord Injuries（脊髄損傷）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に 見直す。	0.5h
13	Chapter 11 Cerebral Palsy（脳性麻痺）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に 見直す。	0.5h
14	Chapter 12 Case Study（事例研究）	1,2,3	1.Warm-up と 2.Reading の問題を解いておく。5.For Your Information は、日本語で答えられるように調べておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に 見直す。	0.5h
15	Chapter 9 ～ 12 の未習内容の学習と復習	1,2,3	Chapter 9 ～ 12 の未習内容を予習する。既に学習した内容を見直しておく。	0.5h	音声教材を参考に 2.Reading と 3.Dialogue を音読する。間違った問題を中心に 見直す。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

音声教材は C-learning にアップします。

印刷 



[HOME](#) > Integrated English I

Integrated English I

英文名 : Integrated English I

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL005

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員



Tarn, Christopher

ターン・クリストファー

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○		○			○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



ケーススタディ：福祉分野のシナリオを英語で分析する。

ロールプレイ：面接や紛争解決など、現実的な状況を練習する。

フィードバックセッション：コミュニケーションスキルの改善に向けた振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



1. 学生がコミュニケーション能力を向上させ、感情知能（EQ）、異文化理解、実践的な英語の応用力を身につけることを目的としています。基礎的スキル、英語力、リーダーシップの開発を統合し、学生が多様な個人、学術、職業的な場面で自信を持って効果的にコミュニケーションできるよう準備します。

2. グループディスカッション、ケーススタディ、プレゼンテーション、ロールプレイを中心としたアクティブラーニング

到達目標



1. コミュニケーションの概念、自分自身の理解、マインドフルネスについて理解できる。

2. 異文化における言語および非言語的コミュニケーションの違いを理解できる。

3. 共感、ストレス管理、アサーティブネス、アクティブリスニングを活用できる。

4.リーダーシップのためのコミュニケーション能力を身につけ、効果的にソーシャルメディアとオンラインコミュニケーションを活用できる。

使用教材 ^

授業中に配布されるハンドアウトおよびデジタルリソース

評価方法 ^

- 1.授業参加: 30%
- 2.グループワークとプレゼンテーション: 40%
- 3.最終発表と振り返り: 30%

オフィスアワー ^

C-Learning + mail

メールアドレス（#→@） ^

tarn#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コミュニケーションとは何か？ ・コミュニケーションの定義（内的、外的、言語的、非言語的）。 ・現在のコミュニケーション習慣の自己評価。 ・コミュニケーションにおける文化的影響（日本の文脈）を探る。	1	コミュニケーションに関する自身の考えや経験を事前に整理する。	1.0 h	授業で提示されたコミュニケーションの定義や文化的影響の具体例をまとめる。	0.5 h
2	EQ（感情知能）と自己認識 ・感情知能（EQ）の導入。 ・自分の感情を認識し、理解する。 ・コミュニケーションにおける感情を管理するための戦略を学ぶ。	1,3	感情知能（EQ）に関する基本的な知識を事前に調査する。	1.0 h	自身の感情認識と管理の傾向について分析し、授業で学んだ戦略を適用する方法を考える。	0.5 h
3	マインドフルネスと内的対話 ・自己認識を高めるためのマインドフルネスを実践する。 ・否定的な自己対話を認識し、再構築する。 ・コミュニケーション経験を振り返るジャーナリングを行う。	1	自己認識を高めるためのマインドフルネスの実践方法を調べ、簡単なエクササイズを試みる。	1.0 h	授業で行ったマインドフルネスの体験を振り返り、自己対話のパターンに気づいた点を記録する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	コミュニケーションのための基本的な英語 ・日常の挨拶、自己紹介、質問を練習する。 ・発音とスピーキングの流暢さに焦点を当てる。 ・簡単なロールプレイシナリオを取り入れる。	1	基本的な英語の挨拶、自己紹介、質問の表現を練習する。	1.0 h	授業で学んだ発音や流暢さのポイントを意識しながら、自己紹介などのロールプレイを再度行う。	0.5 h
5	異文化における非言語コミュニケーション ・ジェスチャー、ボディランゲージ、表情を解読する。 ・日本と他文化の非言語的手がかりの違いを比較する。 ・感情を当てようなどのアクティビティを通じて練習する。	2	日本と異なる文化における非言語コミュニケーションの例をいくつか調査する。	1.0 h	授業で扱われた非言語的手がかりの違いを整理し、感情を当てるアクティビティでの気づきを考察する。	0.5 h
6	コミュニケーションスタイルと適応 ・直接的スタイルと間接的スタイル、形式性、礼儀正しさを探る。 ・対象者や状況に応じたコミュニケーションを調整する戦略を学ぶ。 ・異なるコミュニケーションスタイルのシナリオを用いたロールプレイを行う。	2	直接のおよび間接的なコミュニケーションスタイルについて考え、自身がどちらの傾向があるか分析する。	1.0 h	異なるコミュニケーションスタイルのロールプレイを振り返り、状況に応じたコミュニケーションの調整方法を検討する。	0.5 h
7	コミュニケーション障壁の克服 ・日本人学習者が直面する英語コミュニケーションの課題を特定する。 ・誤解や言語的な困難に対処する方法を学ぶ。 ・翻訳ツールや技術を利用してコミュニケーションを支援する。	2	自身が英語コミュニケーションで課題を感じる点を具体的な場面を想定して考える。	1.0 h	授業で学んだ課題への対処法や翻訳ツールの活用方法を、具体的な場面を想定して試す。	0.5 h
8	感情スキルと社会的コミュニケーション ●第2回で学んだ共感とアクティブリスニングを再確認する。	1,3	共感とアクティブリスニングが重要となる具体的な場面を想像する。	1.0 h	共感とアクティブリスニングを意識した会話を実践し、相手の反応や自身の気づきを記録する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	- 社会的なコミュニケーションにおけるストレス管理を学ぶ。 - 共感を実践するロールプレイとアクティブライスニングの練習を行う。					
9	実践的かつアサーティブなコミュニケーション - コミュニケーションの課題に対してクリティカルシンキングを応用する。 - アサーティブネス（要求を伝える、ニーズを表現する、境界を設定する）を練習する。 - 自信を高めるための言葉によるセルフディフェンスを探る。	1,3	アサーティブなコミュニケーションの具体的な表現例を調べ、練習する。	1.0 h	授業で行ったアサーティブネスのロールプレイを振り返り、より効果的な自己表現のための改善点を明確にする。	0.5 h
10	リーダーシップのためのコミュニケーション - 説得力のある技術と明確な指示の出し方を学ぶ。 - リーダーシップの「声」を発展させる。 - グループディスカッションをリードする練習を行う。	1,4	効果的なリーダーシップを発揮するためのコミュニケーション要素を考察する。	1.0 h	グループディスカッションをリードする練習を行い、参加者からのフィードバックを分析する。	0.5 h
11	ソーシャルメディアコミュニケーション - 英語で効果的なソーシャルメディア投稿を作成する方法を学ぶ。 - オンラインのエチケットと自分をポジティブに表現する方法を議論する。 - グループプロジェクトでシンプルなソーシャルメディアキャンペーンを作成する。	4	英語での効果的なソーシャルメディア投稿の例をいくつか分析し、自身の投稿のアイデアを考える。	1.0 h	授業で作成したソーシャルメディアキャンペーンの内容を改善するためのアイデアを考える。	0.5 h
12	プレゼンテーションと振り返り - 学んだコミュニケーションスキルを活用して短いプレゼンテーションを行う。 - コース全体の学習成	1,3,4	これまでの授業で学んだコミュニケーションスキルをどのように活用するかを具体的に考え、プレゼンテーションの構成を計画し、発表練習の準備をする。	1.0 h	自身のプレゼンテーションを振り返り、改善点と今後の学習目標を定める。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	果を振り返る。 ・実生活でのスキル活用について議論する。					
1 3	交渉と紛争解決 ・個人と職業的なコミュニケーションのための交渉戦略を学ぶ。 ・ロールプレイを通じて紛争解決技術を練習する。 ・紛争解決における文化的な違いを議論する。	2,3, 4	個人と職業的なコミュニケーションにおける交渉や紛争解決の基本的な戦略を調べる。	1.0 h	ロールプレイで行った交渉や紛争解決の場面を分析し、学んだ戦略がどのように適用できたか考察する。	0.5 h
1 4	協力的コミュニケーションとチームワーク ・効果的なコミュニケーションにおけるチームワークの重要性を探る。 ・グループ問題解決タスクなどの協力的な活動を実践する。 ・建設的なフィードバックの提供と受け取り方を学ぶ。	3,4	効果的なチームワークに貢献するために必要なコミュニケーションスキルを考える。	1.0 h	グループワークでの自身の役割とコミュニケーションを振り返り、建設的なフィードバックの提供と受け取り方について考察する。	0.5 h
1 5	実世界応用とキャリアコミュニケーション ・職場コミュニケーション技術（例：Eメールの書き方、ブリーフィングの実施）を学ぶ。 ・就職面接やキャリアに関する議論での英語コミュニケーションを練習する。 ・コミュニケーションスキルがキャリアの成功をサポートする方法を議論する。	3,4	職場やキャリアに関する英語コミュニケーションの具体的な場面（メール、面接など）を想定し、必要な表現やスキルを調べる。	1.0 h	模擬面接やキャリアに関する議論を振り返り、今後の学習課題を明確にする。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

22.5h



印刷



[HOME](#) > Integrated English II

Integrated English II

英文名 : Integrated English II

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL006

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

4 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員



高橋栄作

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○								○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標

英語の基礎文法事項を整理し、語彙力をつけながらTOEIC®テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を目指す。

②講義の実施方法

TOEIC®テスト形式の問題演習を中心に、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。練習問題の音声リピートしたり、スクリプトを音読したり、耳に英語が入った瞬間に理解できるようにインプットする。リーディングでは正解不正解の確認だけでなく、解答の根拠を理解し、応用可能な解法を身につける。

到達目標



1. TOEIC®テストの形式と内容を理解できる。
2. 語彙力が身につく。
3. 文法事項を理解できる。
4. リスニング力が身につく。
5. リーディング力が身につく。

使用教材

^

Ayako Yokogawa and Tony Cook. (2016). Level-up Trainer for the TOEIC® TEST. 東京：センゲージラーニング.

参考文献

^

授業内で紹介する。

評価方法

^

授業への参加度、発表、課題（40％）、期末試験（60％）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題は返却して解説する。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

eisaku#tcue.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・TOEICテストとは Pre-test	1, 2, 3, 4, 5	教科書の「はじめに」「目次」「本書の使い方」「シラバス」などの内容を読んで、講義の目標などを理解する。	0.4 5 h	Pre-testの誤りを復習する。	0.3 h
2	Unit 1: テスト形式を知る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 1 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
3	Unit 2: 基本戦略①	1, 2, 3, 4, 5	Unit 2 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
4	Unit 3: 基本戦略②	1, 2, 3, 4, 5	Unit 3 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
5	Unit 4: 英文の基本構造を見抜く	1, 2, 3, 4, 5	Unit 4 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
6	Unit 5: 解答根拠の登場順	1, 2, 3, 4, 5	Unit 5 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
7	Unit 6: 正解の言い換えパターンを知る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 6 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて	0.3 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					練習問題に回答する。	
8	Units 1-6のまとめ	1, 2, 3, 4, 5	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.4 5 h	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.3 h
9	Unit 7: 機能疑問文を聞き取る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 7 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
10	Unit 8: 動詞の時制を見極める	1, 2, 3, 4, 5	Unit 8 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
11	Unit 9: 接続詞 v s. 前置詞	1, 2, 3, 4, 5	Unit 9 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
12	Unit 10: 複数パッセージ問題の攻略	1, 2, 3, 4, 5	Unit 10 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
13	Unit 11: 接続副詞に強くなる	1, 2, 3, 4, 5	Unit 11 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
14	Unit 12: NOT型設問のコツ	1, 2, 3, 4, 5	Unit 12 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.4 5 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
15	まとめ Post-test	1, 2, 3, 4, 5	Post-testの問題を解く。	0.4 5 h	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.3 h

合計時間（予習・復習）



11.25 h

備考



予習をして授業に出席してください。
テキストは新しいものを購入してください。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



[HOME](#) > ドイツ語

ドイツ語

英文名：German
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL007
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と倫理観
0 専門知識・技術の活用力
3 論理的思考力
1 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石 桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標：
日常生活でよく登場する話題を題材に、ドイツ語で自己表現できる力を養成する。発音・会話練習を通して、理解力と表現力を養う。またドイツ語圏の文化、マナー、産業、医療に関連する知識（医療用語を含む）を取りあげ、異文化への関心と理解を喚起する。

②講義の実施方法：
教科書の他に配布プリント等によって、表現の演習、文化紹介を行う。

到達目標

- ドイツ語のあいさつ、自己紹介や買い物表現など、基本の会話表現を活用できる。
- ドイツ語の初級文法を理解し、活用できる。
- ドイツ語圏の文化、マナー、医療関連の知識について理解を深める。

使用教材

^

『アプファールト<ノイ>』三修社。また、講義中に補助プリントを配布する。

参考文献

^

講義中に指示する。

評価方法

^

定期試験(50%)、小テスト・提出課題(50%)に、授業への積極性などを加味する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テストや提出課題は採点して返却し、解説を行う。

オフィスアワー

^

月曜日の2時限、金曜日の2時限。
(1号館6階601)

メールアドレス（#→@）

^

oishi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、ドイツ語のABC、挨拶	1	テキストの付属音声でアルファベットの発音を確認する。	1h	アルファベット、挨拶の表現を復習する。	1.5h
2	発音練習、ドイツ語を使う国々の紹介	1,3	ウムラウトなどの発音を確認する。	1h	配布プリントの発音を確認する。	1.5h
3	Lektion 1 名前、出身、住所をたずねる / ドイツ語圏の文化①Sieとdu	1,3	テキストのLektion1の会話文の音声を聞く。	1h	自己紹介の仕方を確認する。	1.5h
4	Lektion 1 職業・専門をたずねる / ドイツ語圏の文化②学校制度	1,2,3	動詞の現在人称変化を確認する。	1h	配布プリントの問題を解く。	1.5h
5	Lektion 1 趣味を尋ねる/ ドイツ語圏の文化③学生生活	1,2,3	テキストのLektion 1の会話文の音声を聞く。数字の発音を確認する。	1h	0～20までの数字の発音を定着させる。	1.5h
6	Lektion 2 約束をする/ ドイツ語圏の文化④食事	1,2,3	不規則変化を確認する。	1h	配布プリントの問題を解く。	1.5h
7	Lektion 2 食事の表現 / ドイツ語圏の文化⑤産業	1,2,3	テキストのLektion 2の会話文の音声を聞く。	1h	好きな食べ物の伝え方を確認する。	1.5h
8	Lektion 3 道の尋ね方 / ドイツ語圏の文化⑥音楽	1,2,3	冠詞・命令形などを確認する。	1h	配布プリントの問題を解く。	1.5h
9	Lektion 4 買い物 / ドイツ語圏の文化⑦歴史	1,2,3	テキストのLektion 4の会話文の音声を聞く。	1h	値段の表現を確認する。	1.5h
10	Lektion 4 誕生日と日付/ ドイツ語圏の文化⑧年中行事	1,2,3	買い物の表現・日付の表現を確認する。	1h	配布プリントの問題を解く。	1.5h
11	Lektion 5 予定を立てる / ドイツ語圏の文化⑨休暇の過ごし方	1,2,3	テキストのLektion 5の会話文の音声を聞く。	1h	道案内の表現を確認する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	Lektion 5 助動詞を使った表現/ ドイツ語圏の文化⑩医療・医療用語(1)	1,2,3	助動詞の仕組みを確認する。	1h	配布プリントの問題を解く。	1.5h
13	Lektion 6 過去のできごと / ドイツ語圏の文化⑩医療・医療用語(2)	1,2,3	テキストのLektion 6の会話文の音声を聞く。	1h	現在完了の表現を確認する。	1.5h
14	まとめ・学生発表①	1,3	ドイツに関する任意のテーマについて調べる。	1.5h	学習した表現・内容を再確認する。	1h
15	まとめ・学生発表②	1,3	ドイツに関する任意のテーマについて調べる。	1.5h	学習した表現・内容を再確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

38h

^

備考

予習・復習については試験前の学習で補完してください。
*オンライン授業となった場合は、C-Leaningで講義動画を閲覧し、課題を提出する形式になります。

^

印刷



HOME > フランス語

フランス語

英文名：French
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL008
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と倫理観
5 専門知識・技術の活用力
0 論理的思考力
0 チームへの貢献力
1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員▲

松島 洋子

科目に関連した実務経験▲

医療通訳・翻訳（産婦人科、形成外科、外科）

SDGsとの関連▲



アクティブラーニング実施方法▲

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法▲

フランス語を通じて世界に関心を持ち、豊かな人間性を育む。
①フランスの文化や習慣に触れ、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。
②毎回1つのテーマを中心に、「伝わるフランス語」を学ぶ。文法は会話に取り入れ、生徒が楽しんで身に付けられるように進める。

到達目標▲

- 1. フランス語で簡単な会話ができる ■
- 2. フランス語検定4級相当の文法を理解する ■

使用教材



- ①新ゼロからスタート フランス語単語集 BASIC1000/Jリサーチ出版
ISBN-13 978-486392543-4
- ②フランス語をひとつひとつわかりやすく。一超基礎からの個人授業／学研教育出版
ISBN-13 978-4-05-303813-5

評価方法



授業内の課題及び期末テストにて文法理解度を確認60%、
授業内の発言・質問・ロールプレイ等40%

課題・評価に対するフィードバック方法



授業内で取り組んだ課題とテストをチェックして返却する。

オフィスアワー



質問等は、開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）



連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	フランス語の基本／アルファベの発音、発音記号、挨拶、仏語の特性や文化に触れる ■	1,2	第1回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第1回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
2	名詞／男性名詞と女性名詞の単数形、複数形 ■	1,2	第2回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第2回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
3	動詞の活用① ■ ・フランス語の基礎となる不規則動詞 ・名詞「性格」「国名」 ・自分のことを紹介する	1,2	第3回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第3回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
4	動詞の活用② ■ ・不規則動詞avoirの使い方 ・英語のhaveとの共通点	1,2	第4回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第4回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
5	動詞の活用③ ■ ・不規則動詞 aller ・英語のGoとの共通点 ・目的地の場所につける前置詞	1,2	第5回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第5回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
6	所有形容詞 ■ ・「私の」「彼の」 ・名詞「家族・友人・日用品」 ・名詞と冠詞の関係	1,2	第6回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第6回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
7	否定文の作り方 ■ ・動詞「話す」の活用 ・名詞「職業」	1,2	第7回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第7回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
8	動詞の活用④ ■ ・ER動詞の使い方 ・数えられる名詞と数えられない名詞	1,2	第8回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第8回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
9	疑問文① ■ ・答えが「はい・いいえ」になる疑問文と「具体的な答え」を求める疑問文	1,2	第9回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第9回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	動詞の活用⑤ ■ ・「faire～する」の使い方 ・日常生活での活用	1,2	第10回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第10回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
11	疑問文② ■ ・「どこですか？」 ・「誰ですか？」 ・友人や家族を紹介する	1,2	第11回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第11回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
12	疑問文③ ■ ・方向、位置を尋ねる ・「上下」「前後」「左右」	1,2	第12回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第12回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
13	動詞の活用⑥ ■ ・「faire」の応用 ・名詞「スポーツ」との活用	1,2	第13回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第13回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
14	時計の読み方 ■ ・時間、曜日、月、季節 ・「何時ですか」と質問する	1,2	第14回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第14回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
15	動詞の活用⑦ ■ ・「○○が欲しい」 ・「○○ができる」 ・ 基礎～応用まとめ	1,2	第15回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第15回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷

HOME > ポルトガル語

ポルトガル語

英文名 : Portuguese
科目区分 : リテラシー
科目ナンバリング : LAL009
学年 : 1年
開講期 : 前期
選択・必修 : 選択
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
5 豊かな人間性と倫理観
5 専門知識・技術の活用力
0 論理的思考力
0 チームへの貢献力
0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

アンジェラ マルリ カルステン 角田

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ロールプレイングと教育的ゲーム

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- 1. クラスでは、基本的なポルトガル語を紹介し、練習しながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、および基本的な文法知識の習得と語学スキルの向上を目指す。
- 2. クラスは、ディスカッションやビデオ視聴による日常会話に役立つポルトガル語の導入と、練習で構成され、その後、ロールプレイ、教育的ゲーム、グループ活動を通じて実用性を高める。

到達目標 ^

- 1. 初級レベルの日常会話
- 2. 各回に、ポルトガルの文化に触れる時間を設け、自身の文化と比較し、多様な価値観への関心を深める。

使用教材 ^

教材プリント

参考文献 ^

ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語著者: Silvia Noriko Kaneyasu

評価方法 ^

- 15% - アンケートへの参加
- 25% - 宿題
- 30% - 中間グループプレゼンテーション
- 30% - 最終グループプレゼンテーション

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

教員は学生の授業活動をチェックしながら、実践的な活動や内容についてアドバイスや指導を行う。

オフィスアワー ^

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じる。

メールアドレス（#→@） ^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コースとクラスの紹介	1,2	シラバスを読み、疑問点があればメモしておく。	1.5 h	1. 授業で練習した自己紹介や挨拶を覚える。 2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。	1.5 h
2	ブラジルについて。自分自身について話す。(ポルトガル語の“Be”動詞 – ser/estar)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	自己紹介文を見直す。	1.5 h
3	家族について。(私の、あなたの、彼女の、彼の... meu, seu, dele, dela...)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	家族についての話し、文を見直す。	1.5 h
4	数字、曜日、月、天気、について。	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語で曜日、1から10までの数字、月を学ぶ。	1.5 h
5	好き嫌いについて。 動詞「gostar」（ポルトガル語	1,2	宿題、アンケート実施。	1.5 h	好きなことや嫌いなことについての話し方、文を見直す。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	で色、食べ物、飲み物など)		質問があればメモしておく。			
6	物事の説明。(形容詞、反対語)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語の便利な形容詞とその反対語を見直す。	1.5 h
7	日常の活動について。(よく使われる規則動詞)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	動詞「comprar」、「estudar」、「trabalhar」、「comer」、「beber」、「escrever」、partir、abrir の活用と使い方の練習。	1.5 h
8	これまでの内容の復習、中間グループ発表。	1,2	中間グループプレゼンテーション準備。	1.5 h	授業で示される重要語彙の復習。	1.5 h
9	疑問詞の使い方。(Como? Onde?, O que? Quem?...)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語での質問文を見直す。(どのように、いつ、どこで、誰...)	1.5 h
10	時間について。	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語で時間を言う練習をする。	1.5 h
11	ポルトガル語の動詞「estar」の使い方。 (前置詞、動詞の動名詞形)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	動詞の継続時制を使う練習をする。	1.5 h
12	私たちが持っているもの、欲しいもの、やっていること。 (不規則動詞「ter」、「querer」、「fazer」)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	あなたが持っているもの、欲しいもの、やっていることについて書き、話す練習をする。	1.5 h
13	予定について。(動詞「行く」と「来る」-「ir」と「vir」)	1,2	宿題、アンケートの実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	予定の短いリストを書き、読む練習をする。	1.5 h
14	知っていること、できることについて。(動詞「saber」と「conhecer」の使い方)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく	1.5 h	自分にできることについて書き、話す練習をする。	1.5 h
15	プレゼンテーション。クラス全体でのディスカッション。	1,2	グループプレゼンテーションの準備。	1.5 h	学習した動詞を使用しながら自分自身について話す練習をする。	1.5 h

合計時間 (予習・復習)



45h

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



[HOME](#) > 中国語

中国語

英文名：Chinese
 科目区分：リテラシー
 科目ナンバリング：LAL010
 学年：1年
 開講期：前期
 選択・必修：選択
 単位数：2単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 1 豊かな人間性と倫理観
 3 専門知識・技術の活用力
 0 論理的思考力
 0 チームへの貢献力
 6 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊 賢

履修を必須とする資格

無し

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。
 ②1) 授業は全15回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性とある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に着けられたい。
 2) 毎回、中国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

到達目標

- 中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。
- 中国語音を表記する音声記号を習得する。
- 中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。
- 中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。
- 日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。

使用教材

^

教科書『大学一年生のための合格る中国語』小幡敏行著（朝日出版社）
ISBN97-4-255-45224-1C1087

参考文献

^

講義中に適宜指示する。

評価方法

^

毎回の小試験20%、発音中間試験30%、学期末筆記試験50%により評価する。
総合評価60%以上を合格とみなす。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。

オフィスアワー

^

授業開始前もしくは授業終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

公開しない。必要があれば適宜指示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバス内容、教科書第8頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。	1h	不要	0h
2	発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
3	発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
4	発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
5	教科書第1課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第1課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
6	教科書第2課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。	2,3,4,5	教科書第2課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
7	教科書第3課、形容詞述語文や数量表現などの学習。	2,3,4,5	教科書第3課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	教科書第4課、存在文や構造助詞「的」などの学習。	2,3,4,5	教科書第4課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
9	教科書第5課、介詞構造や方位詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第5課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
10	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
11	教科書第7課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。	2,3,4,5	教科書第7課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
12	教科書第8課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。	2,3,4,5	教科書第8課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
13	教科書第9課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。	2,3,4,5	教科書第9課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
14	教科書第10課、方向補語や結果補語などについての学習。	2,3,4,5	教科書第10課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
15	教科書第11課、主述述語文や比較表現などについての学習。	2,3,4,5	教科書第11課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

26h

^

備考

復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

^

印刷 



[HOME](#) > ハングル語

ハングル語

英文名：Korean

科目区分：リテラシー

科目ナンバリング：LAL011

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

3 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

0 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

丁 美貞

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。

②ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。毎回、韓国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

到達目標

1. 正確なハングル文字の表記及び発音を習得する。
2. 합니다体の叙述・疑問に関する表現を習得する。
3. 100語程度を用いた簡単な挨拶や自己紹介などの基本文型を習得する。
4. 日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、簡単な会話ができる。

使用教材

朴庚卿, 仲島淳子, 金美順, 徐明煥（2023）『ワンアクション韓国語』朝日出版社

参考文献

評価方法 ^

授業への参加度10%、課題・小テスト30%、定期試験60%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

課題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。

オフィスアワー ^

質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。

メールアドレス（#→@） ^

mjjeong621#gmail.com

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業概要、ハングルについて、基本母音	1	テキストを用意し、2頁～6頁を読んでくる。韓国語のノートを用意すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
2	基本子音（平音、激音、濃音）	1	7頁～17頁を読んでくる。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
3	複合母音	1	18頁～21頁を読んでくる。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
4	終声（パッチム）	1	22頁～25頁を読んでくる。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
5	発音の変化	1	26頁～30頁を読んでくる。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
6	基礎まとめ、日本語のハングル表記、ハングル入力（メール）	1	31頁～32頁を読んでくる。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
7	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다	1,2,3,4	32頁～35頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
8	「挨拶をする」입니다、助詞「는/은」、助詞「도」、라고/이라고 합니다、作文練習	1,2,3,4	34頁～43頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	「状況を説明する」합니다体、助詞「를/을」	1,2,3,4	44頁～47頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
10	「状況を説明する」助詞「에서」、助詞「에」（位置）、否定形「지 않다」、作文練習	1,2,3,4	48頁～53頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
11	「買い物をする」指示語、助詞「가/이」、助詞「와/과」	1,2,3,4	54頁～59頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
12	「買い物をする」漢数詞、가/이 아니다、作文練習	1,2,3,4	60頁～65頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
13	「予定を述べる」固有数詞、助詞「에」（時間）、助詞「에」（方向）	1,2,3,4	66頁～71頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
14	「予定を述べる」助詞「에서/부터～까지」、否定形「안」、를/을 좋아합니다、作文練習	1,2,3,4	72頁～77頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
15	総まとめ	1,2,3,4	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5h		1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回課題や小テストを行うため必ず予習・復習を行うこと。音源を活用しテキストの読みを練習すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。

印刷



HOME > 情報リテラシー I

情報リテラシー I

英文名 : Information Literacy I
科目区分 : リテラシー
科目ナンバリング : LAL012
学年 : 1年
開講期 : 前期
選択・必修 : 選択
単位数 : 1単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
6 豊かな人間性と倫理観
0 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
1 チームへの貢献力
1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員▲

齊田高介、木幡直樹

科目に関連した実務経験▲

システムエンジニアとしてシンクタンクへの勤務経験あり。基本情報技術者資格所持。（齊田）

SDGsとの関連▲



アクティブラーニング実施方法▲

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法▲

- ①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標▲

- 1.書誌的事項を過不足なく記載でき、参考資料や引用文献を適切に取り扱い、レポートが作成できる。
2.メールやSNSを正しく扱うことができる。
3.授業における調べものやレポート作成に使用するパソコンを適切に取り扱うことができる。
4.大学のメールや学生ポータルサイト、学習支援サイトを適切に利用できる。
5.情報倫理やアクセシビリティを理解し、パソコンや情報機器を利用できる。

使用教材

▲

配布資料

評価方法

▲

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

▲

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。

オフィスアワー

▲

水曜3限 4号館3階308研究室（齊田）
水曜3限 1号館6階615研究室（木幡）

メールアドレス（#→@）

▲

saida#takasaki-u.ac.jp（齊田）
kohata#takasaki-u.ac.jp（木幡）

授業計画表

▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	レポートの書き方 ①レポートの記載事項 ②参考文献・資料引用の注意点 ③知的財産権・著作権の取り扱い上の注意点	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	メール・SNS利用のマナーと注意点 ①メールの書き方(件名、本文の書き方、TO/CC/BCCの使い分け、署名) ②ファイルの添付/添付ファイルのダウンロード ③不審メールへの対処 ④SNS利用上の注意（マナー、リスク、注意事項） ⑤クラウドサービス利用上の注意事項	2,4	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	Widows PCの操作 1 (基本操作編) ①起動、シャットダウン、スリープ、ロック、サインアウト/サインイン ②文字入力とカナ漢字変換 ③ネットワークの接続設定(無線/有線)とWebサイトへの接続 ④Webブラウザの便利機能とセキュリティ管理	3	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	Widows PCの操作 2 (エクスプローラ操作編) ①各種表示機能のON/OFF ②フォルダ・ファイル操作に関する基本機能と応用機能 ③ファイル情報の表示と検索 ④ショートカットの作成	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	Widows PCの操作 3 (実用操作編) ①画面キャプチャ、アプリ強制終了、スタートアップ設定 ②Windowsの各種設定とメンテナンス ③アプリのインストール/アンインストール	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	ール、関連付け、メニュー登録 ④パーティションの作成 ⑤クラウドの利用 (OneDrive、GoogleDrive)					
6	Gメールの設定と利用 ①本学メールシステムへのログイン・ログアウト ②画面構成（受信トレイ・送信済み・迷惑メール・ゴミ箱） ③メールの作成・送信(To/Cc/Bcc)・返信・転送 ④署名の設定、ファイルの添付 ⑤実践（履修者同士での練習）	2,4	6回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	情報の倫理とモラル ①個人情報保護と情報倫理 ②情報利用のモラル	5	7回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	情報通信のアクセシビリティ ①アクセシビリティについて ②キーボード補助機能・マウス補助機能・見やすさの機能・他機能 ③音声認識アプリ・会話補助装置・意思伝達装置・他	5	8回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

印刷





[HOME](#) > 情報リテラシーⅡ

情報リテラシーⅡ

英文名：Information LiteracyⅡ
 科目区分：リテラシー
 科目ナンバリング：LAL013
 学年：1年
 開講期：前期
 選択・必修：選択
 単位数：1単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 6 豊かな人間性と倫理観
 0 専門知識・技術の活用力
 2 論理的思考力
 1 チームへの貢献力
 1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

齊田高介、木幡直樹

科目に関連した実務経験

システムエンジニアとしてシンクタンクへの勤務経験あり。基本情報技術者資格所持。（齊田）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的スキルを身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

- 1.情報量の表示に関わる接頭語が理解でき、正しく使える。
2.論理演算が理解でき、真値表やベン図で説明できる。
3.コンピュータの5大要素を説明でき、主要な入出力装置やインターフェースを適切に利用できる。
4.OSの役割を説明できる。

使用教材

↑

オンラインでPDF資料を配布、動画閲覧

評価方法

↑

各単元で実施する小テストの合計を100点満点に換算し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。

オフィスアワー

↑

水曜3限 4号館3階308研究室（齊田）
水曜3限 1号館6階615研究室（木幡）

メールアドレス（#→@）

↑

saida#takasaki-u.ac.jp（齊田）
kohata#takasaki-u.ac.jp（木幡）

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コンピュータの仕組み1 ①情報量と補助単位（接頭語） ②2進数、8進数、16進数	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	コンピュータの仕組み2 ①2値論理 ②真理値表 ③ベン図	2	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	コンピュータの仕組み3 ①コンピュータの概要（5大要素） ②コンピュータの種類	3	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	コンピュータの仕組み4 ①入力装置 ②出力装置 ③記憶装置 ④演算装置 ⑤制御装置	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	コンピュータの仕組み5 ①周辺装置（入力装置・出力装置） ②周辺装置（補助記憶装置） ③ドライバ	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	コンピュータの仕組み6 ①OSの種類 ②OSの役割（ファイル管理） ③OSの役割（タスク管理・メモリ管理・デバイス管理） ④OSとGUIインターフェイス	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	コンピュータの仕組み7 ①LANとインターネット ②IPアドレスとルーティング ③ファイヤーウォール ④WebとWebアプリ	4	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	コンピュータの仕組み 8 ①パソコンの構造 ②筐体 ③マザーボード ④各種拡張ボード	3	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

^

印刷





[HOME](#) > 情報リテラシーⅢ

情報リテラシーⅢ

英文名 : Information Literacy Ⅲ

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL014

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



齊田高介、木幡直樹

科目に関連した実務経験



システムエンジニアとしてシンクタンクへの勤務経験あり。基本情報技術者資格所持。(齊田)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



- ①大学での学習に必要な文書作成やプレゼンテーションの基礎的技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標



1. Wordを使って各種文書を作成できる。
2. PowerPointを使ってスライドを作成でき、プレゼンテーションが出来る。

使用教材



30時間でマスターOffice2021 実教出版

評価方法

^

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。
課題が期限内に提出されない場合、減点する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。

オフィスアワー

^

水曜3限 4号館3階308研究室（齊田）
水曜3限 1号館6階615研究室（木幡）

メールアドレス（#→@）

^

saida#takasaki-u.ac.jp（齊田）
kohata#takasaki-u.ac.jp（木幡）

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Word利用の基礎（演習）1 ①Wordの起動と画面構成 ②文書の入力と編集 ③ページ設定	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
2	Word利用の基礎（演習）2 ①文書の作成 ②文字の配置 ③文字の修飾	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
3	Word利用の基礎（演習）3 ①表の作成 ②表のレイアウトの変更 ③表の編集	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
4	Word利用の基礎（演習）4 ①ページの色や罫線 ②ワードアートの利用 ③図形の挿入 ④テキストボックスの挿入	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
5	Word利用の基礎（演習）5 ①文書作成のまとめ（文書資料の作成）	1	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2h	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1h
6	PowerPoint利用の基礎（演習）1 ①PowerPointの画面構成 ②プレゼンテーションの作成 ③文字修飾と図形の活用	2	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
7	PowerPoint利用の基礎（演習）2 ①グラフの活用 ②スマートアートの活用 ③アニメーション効果 ④その他の機能	2	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
8	PowerPoint利用の基礎（演習）3 ①プレゼンテーション資料作成のまとめ（プレゼンテーション資料の作成）	2	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2h	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

講義での演習は、大学から推奨された性能のPCで進めること。なお、講義ではoffice系ソフト（Word、PowerPoint）を使用するものとする。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



[HOME](#) > 情報リテラシーⅣ

情報リテラシーⅣ

英文名 : Information Literacy Ⅳ

科目区分 : リテラシー

科目ナンバリング : LAL015

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

6 豊かな人間性と倫理観

0 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

齊田高介、木幡直樹

科目に関連した実務経験

システムエンジニアとしてシンクタンクへの勤務経験あり。基本情報技術者資格所持。(齊田)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①大学での学習に必要な表計算処理の基礎的技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

- Excelを使って基本的な集計ができる。
- Excelの簡単な関数機能が利用できる。
- Excelの表データからグラフを作成できる。
- Excelでデータの検索や並べ替えができる。

使用教材 ⤴

30時間でマスターOffice2021 実教出版

評価方法 ⤴

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ⤴

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。

オフィスアワー ⤴

水曜3限 4号館3階308研究室（齊田）
水曜3限 1号館6階615研究室（木幡）

メールアドレス（#→@） ⤴

saida#takasaki-u.ac.jp（齊田）
kohata#takasaki-u.ac.jp（木幡）

授業計画表 ⤴

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Excel利用の基礎（演習）1 ①Excelの画面構成 ②ブックの操作 ③データの入力と編集 ④オートフィル	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	Excel利用の基礎（演習）2 ①計算式の入力 ②表示形式の変更 ③書式の変更	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	Excel利用の基礎（演習）3 ①合計（SUM）関数 ②平均（AVERAGE）関数 ③最大（MAX）最小（MIN）	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	Excel利用の基礎（演習）4 ①グラフの作成	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	Excel利用の基礎（演習）5 ①条件判定（IF関数）と順位付け（RANK.EQ関数）I	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	Excel利用の基礎（演習）6 ①条件判定（IF関数）と順位付け（RANK.EQ関数）II ②検索関数の利用	4	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	Excel利用の基礎（演習）7 ①セルの参照機能 ②文字列の結合 ③セルの条件付き書式 ④並び替え	4	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	Excel利用の基礎（演習）8 ①フィルター ②文字の結合 ③WordとExcelの活用	4	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

講義での演習は、大学から推奨された性能のPCで進めること。なお、講義ではoffice系ソフト(Excel)を使用するものとする。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

HOME > 情報リテラシーⅤ

情報リテラシーⅤ

英文名 : Information Literacy Ⅴ
科目区分 : リテラシー
科目ナンバリング : LAL016
学年 : 1年
開講期 : 後期
選択・必修 : 選択
単位数 : 1単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
6 豊かな人間性と倫理観
0 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
1 チームへの貢献力
1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員▲

齊田高介、木幡直樹

科目に関連した実務経験▲

システムエンジニアとしてシンクタンクへの勤務経験あり。基本情報技術者資格所持。（齊田）

SDGsとの関連▲



アクティブラーニング実施方法▲

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法▲

- ① ネットワークに情報機器を接続し、安全かつ適切に利用できる基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。
② 授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標▲

- 1.ネットワーク利用に必要な基礎知識があり、利用できる。
2.情報セキュリティに関する基礎知識があり、安全に気を配り情報機器やシステムを利用できる。
3.専攻領域におけるICTの利用事例や先進的利用について、説明できる。

使用教材▲

配布資料

評価方法

^

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。

オフィスアワー

^

水曜3限 4号館3階308研究室（齊田）
水曜3限 1号館6階615研究室（木幡）

メールアドレス（#→@）

^

saida#takasaki-u.ac.jp（齊田）
kohata#takasaki-u.ac.jp（木幡）

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ネットワークの基礎知識 1 ①DHCP(IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS) ②ブラウザ ③プロバイダと回線接続業者	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	ネットワークの基礎知識 2 ①Wi-Fiによるネットワーク接続（SSIDとパスワード、接続周波数） ②4Gと5G・無線LAN規格、テザリング ③セキュリティの選択、トラブル対策	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	情報セキュリティの基礎 1 ①情報資産の脅威・脆弱性とリスク ②サイバー攻撃 ③マルウェア対策	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	情報セキュリティの基礎 2 ①アクセス管理と認証 ②不正アクセス対策 ③暗号とデジタル署名	2	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	情報セキュリティの基礎 3 ①組織のセキュリティ対策 ②情報セキュリティ関連の法規と制度 ③知的財産保護と個人情報保護	2	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	社会とICT活用 1 ①医療・健康分野でのICTの活用 ②社会福祉分野でのICTの活用 「※健康・医療・福祉分野のICT活用」	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	社会とICT活用2 ①教育分野でのICTの活用	3	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	社会とICT活用 3 ①農業・食糧生産分野でのICTの活用 ②食品産業分野でのICTの活用 「※食品・農業分野のICTの活用」	3	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

^



Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

HOME > 情報リテラシーVI

情報リテラシーVI

英文名 : Information Literacy VI
科目区分 : リテラシー
科目ナンバリング : LAL017
学年 : 1年
開講期 : 後期
選択・必修 : 選択
単位数 : 1単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
6 豊かな人間性と倫理観
0 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
1 チームへの貢献力
1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員▲

齊田高介、木幡直樹

科目に関連した実務経験▲

システムエンジニアとしてシンクタンクへの勤務経験あり。基本情報技術者資格所持。（齊田）

SDGsとの関連▲



アクティブラーニング実施方法▲

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法▲

①情報数理統計・データサイエンスの基礎的知識と処理の技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標▲

- 1.度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理ができ、ヒストグラムによるデータの可視化ができる。
- 2.最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法が説明できる。
- 3.四分位数、5数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法を理解し、説明できる。
- 4.分散と標準偏差の意味、定義、計算方法を理解し、説明できる。

使用教材

^

オンラインでPDF資料を配布

評価方法

^

各単元で実施する小テストの合計を100点満点に換算し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義に回答する。

オフィスアワー

^

水曜3限 4号館3階308研究室（齊田）
水曜3限 1号館6階615研究室（木幡）

メールアドレス（#→@）

^

saida#takasaki-u.ac.jp（齊田）
kohata#takasaki-u.ac.jp（木幡）

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	データサイエンスの基礎 1 ①データサイエンスとは何か、 ②度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理 ③ヒストグラムによるデータの可視化 ④ヒストグラムから読み取るデータの特徴	1	1回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	データサイエンスの基礎 2 ①Excelを使った度数分布とヒストグラムの作成	1	2回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	データサイエンスの基礎 3 ①最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法 ②最頻値、中央値、平均値と度数分布、累積度数分布、ヒストグラムの関係	2	3回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	データサイエンスの基礎 4 ①Excelを使った代表値の算出	2	4回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	データサイエンスの基礎 5 ①分位数の考え方 ②四分位数、5数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法 ③箱ひげ図による5数要約の可視化 ④箱ひげ図とヒストグラムの形状との関係	3	5回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	データサイエンスの基礎 6 ①Excelを使った5数要約の算出、箱ひげ図の作成	3	6回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	データサイエンスの基礎 7 ①Σ記号の定義と性質 ②分散と標準偏差の意味、定義、計算方法 ③データの一次変換と平均、分散、標準偏差 ④変動係数の定義と性質	4	7回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	データサイエンスの基礎 8 ①Excelを使った分散、標準偏差、変動係数の算出	4	8回目の講義内容を 予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

^

印刷





HOME > 論理学

論理学

英文名 : logic
 科目区分 : 専門教養科目
 科目ナンバリング : LSC001
 学年 : 2年
 開講期 : 前期
 選択・必修 : 選択
 単位数 : 1単位
 講義形態 : 講義
 学位授与方針との対応 :
 比重 DP
 6 豊かな人間性と倫理観
 0 専門知識・技術の活用力
 3 論理的思考力
 0 チームへの貢献力
 1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

米田和美

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力と、事実を正しく解釈できる思考を訓練する。
 授業は次の①②③を繰り返す行う。
 ①資料文の内容を正確に読みとる。
 --いつ、どこで、だれが、だれに、なにを、どうしたか
 ②登場人物の言動の問題点を抽出する。
 --問題は何か、なぜ問題か
 ③対処法を提案する。
 --どうすべきか

到達目標

論理的思考を養う。（文章の読解及び表現ができる。物事の筋道をたてて正しく考える。）
 1.読む、書くを中心に文章の書き方を身につける。「一文一義」の文が書けるようになる。
 2.聞く、話すを中心に言葉の運用能力の向上を図る。

使用教材

使用しない（講義 2 ～ 3 週間前までにプリントを配布します。事前に読んでおくこと。）

参考文献

プリントにて配布します。

評価方法

意見文30%、小テスト30%、提出物30%、講義参加状況10%の割合で評価します。

課題・評価に対するフィードバック方法

意見文、提出物はチェックを入れて返します。

オフィスアワー

初回授業で提示する

メールアドレス（#→@）

初回授業で提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	引用 （正確な引用）	1,2	「先天異常児の助命は絶対か」を読んでおく。	1.5h	「引用は一字一句正確に」を理解する。	1.5h
2	悪文①書き改め （段落は意味のまとまり）	1,2	「食欲のない患者に看護師が行う援助」を書き改める。	1.5h	「段落、箇条書き、しかしの使い方」を理解する。	1.5h
3	資料文の読み方 （1.5W1H読み取り）	1,2	「物差し狂っている母娘」を読んでおく。	1.5h	「いつ、どこで、誰が、誰に、何を、どうしたか」を理解する。	1.5h
4	悪文②書き改め （頭括法と尾括法）	1,2	「専門的な母」を書き改める。	1.5h	「主張を断定、理由を箇条書き」を理解する。	1.5h
5	主張と理由 （主語と引用）	1,2	「個性と異常の境界線は」の意見文を書く。	1.5h	検討内容を参考に意見文を直す。	1.5h
6	悪文③書き改め （根拠の基礎知識）	1,2	「経静脈栄養注射」を書き改める。	1.5h	「()」の使い方、『こと』の使い方」を理解する。	1.5h
7	「変」を見つける① （文型「AはBである」）	1,2	「体位変換」「コオロギ」の「変」をみつける。	1.5h	「体位変換」「コオロギ」を正しい文章に書き改める。	1.5h
8	「変」を見つける② （問題抽出）	1,2	「告知」を読んでおく。	1.5h	「問題は何か、なぜ問題か、どうすべきか」を理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h



HOME > 人間発達論

人間発達論

英文名 : Human development
 科目区分 : 専門教養科目
 科目ナンバリング : LSC002
 学年 : 1年
 開講期 : 前期
 選択・必修 : 必修
 単位数 : 2単位
 講義形態 : 講義
 学位授与方針との対応 :
 比重 DP
 3 豊かな人間性と倫理観
 2 専門知識・技術の活用力
 2 論理的思考力
 2 チームへの貢献力
 1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

角野善司

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①本講義は人間の生涯にわたる発達を受胎から死まで視野に入れて学び、考察を深めることを目的とする。合わせて、疾患・障害が人間の発達に及ぼす影響にも目を向け、検討する。
 ②授業期間全体を通じた授業の進め方：毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。

到達目標

- 1.生涯発達について説明できる。
- 2.発達段階および発達課題について説明できる。
- 3.疾患・障害が発達に及ぼす影響について説明できる。
- 4.発達検査について説明できる。

使用教材

^

「ガイドライン生涯発達心理学 第2版」二宮克美ほか ナカニシヤ出版 2012年

評価方法

^

毎回の課題・小レポート45%（3点×15回）、学期末筆記試験30%、学期末レポート25%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。

オフィスアワー

^

初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する（8号館405室）

メールアドレス（#→@）

^

zsumino#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	発達の理論 (1) 生涯発達	1	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。	1.5 h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を始める。	1.5 h
2	発達の理論 (2) 発達段階と発達課題	2	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を重ねる。	1.5 h
3	生涯発達の様相 (1) 胎生期・周産期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
4	生涯発達の様相 (2) 乳児期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
5	生涯発達の様相 (3) 幼児期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
6	生涯発達の様相 (4) 児童期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
7	生涯発達の様相 (5) 青年期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
8	生涯発達の様相 (6) 成人期前半	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
9	生涯発達の様相 (7) 成人期後半	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
10	生涯発達の様相 (8) 老年期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
11	疾患・障害と発達 (1) 慢性疾患や障害のある子どもの発達	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 2	疾患・障害と発達 (2) 慢性疾患や障害のある子どもの親・きょうだい	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
1 3	疾患・障害と発達 (3) 発達期における各種の障害	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
1 4	疾患・障害と発達 (4) 重症心身障害	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
1 5	疾患・障害と発達 (5) 発達検査	4	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h

合計時間（予習・復習）

^

45h

備考

^

仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする：
毎回の課題・小レポート75%（5点×15回）、学期末レポート25%

印刷



HOME > 人間行動学

人間行動学

英文名 : Behavioral Science
科目区分 : 専門教養科目
科目ナンバリング : LSC003
学年 : 1年
開講期 : 後期
選択・必修 : 選択
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
4 豊かな人間性と倫理観
2 専門知識・技術の活用力
1 論理的思考力
2 チームへの貢献力
1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

上原 徹、服部 卓

科目に関連した実務経験

精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている（上原）。臨床心理士として大学病院等で勤務経験は約35年、現在に至る（服部）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

前半の授業で、一部実技や演習を取り入れる

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生が行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。前半を服部、後半を上原が担当する。
②前半授業では配布資料も使って要点をまとめ、後半ではDVDを視聴しつつ進める。

到達目標

- 1.医療などの対人支援における基本的姿勢を身につける
- 2.ケアを受ける人の心理や行動を理解できる
- 3.適切な対人的交流のための知識と技術が説明できる
- 4.他職種と機能的に連携する視点を持てる■
- 5.行動科学や心理学の初級知識を解説できる

使用教材 ^

特定の教科書は指定しない。服部担当授業では、印刷プリントを配布する。上原担当授業では、おもにDVD教材を用いるが、補助的にC-learning上に資料をアップする。

参考文献 ^

福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕 現代心理学のアプローチ」など

評価方法 ^

レポートを90%とし、授業中の態度を10%程度参考にして総合評価する。授業態度（不適切な授業態度、不必要な私語など）に問題がある場合は、個別に減点する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポートについては、事前に課題内容を告知し、記載方法や出題意図、評価の目安を伝える。

オフィスアワー ^

月3 金2 研究室:1号館5階512（上原）

メールアドレス（#→@） ^

授業で提示する

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	青年期の心理と性格	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	0.5h	ノートを読むこと。	2.5h
2	ノンバーバルコミュニケーション	1,2	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
3	人と人との関係■	2,3,4	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
4	集団■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
5	見る・感じる・考える	1,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
6	ポジティブサイコロジー■	2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
7	生涯発達心理学	2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
8	行動と錯覚	1,2,3	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
9	発達	1,2,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
10	記憶	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
11	睡眠■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	ストレス■	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
13	音楽と脳	3,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
14	傾聴とカウンセリングマインド■	4,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h
15	まとめ（レポート準備）	1,2,3,4,5	参考書などで講義に関係する部分を読むこと。	1h	ノートを読むこと。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

複数の学科学生が多人数で聴講し、非常勤講師を迎え行うので、静粛に臨むこと。授業中の不必要な私語や不謹慎な態度は、厳に慎むこと（成績評価に影響する）。DVD上映による映像授業を多用する。場合によって代替えとなるパワーポイントおよびウェブサイト動画の紹介を行う。

予習・復習については、試験前後の学習などで各自補完すること。オフィスアワーや連絡先は、主任講師の上原がオリエンテーション時に案内する。■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷





[HOME](#) > 化学

化学

英文名：Chemistry
 科目区分：専門教養科目
 科目ナンバリング：LSC004
 学年：1年
 開講期：前期
 選択・必修：選択
 単位数：2単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 3 豊かな人間性と倫理観
 2 専門知識・技術の活用力
 3 論理的思考力
 0 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

信田智哉

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①医療現場で必要となる、基礎的な化学の知識を習得する。前半は基礎化学として、原子の構造や周期表、化学結合、溶液、酸・塩基、酸化・還元を学ぶ。後半は主に有機化学として、有機化合物の結合や構造、高分子や生体内に存在する有機化合物、栄養素等の知識を習得する。
 ②授業は教科書と教員の作成するプリントを使って、要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行っていく。

到達目標

1. 原子の構造を説明できる。また、放射線を列挙し、特徴を説明できる。
2. 電子殻や電子配置を説明できる。
3. 周期表を理解し、代表的な元素の特徴を説明できる。
4. 化学結合を列挙し、特徴を説明できる。
5. 原子量や分子量を理解し、溶液の濃度を説明できる。また、物質の状態を説明できる。
6. 物質の溶解を説明できる。また、蒸気圧と浸透圧を説明できる。
7. 酸・塩基の定義とその反応を説明できる。

8. 酸化・還元の定義とその反応を説明できる。
9. 有機化合物の結合を説明できる。また、官能基を列挙し、特徴を説明できる。
10. 異性体を列挙し、特徴を説明できる。特に鏡像異性体の特徴を説明できる。
11. 化学反応とエネルギーを説明できる。また、有機化学の反応を説明できる。
12. 高分子化合物を列挙し、特徴を説明できる。
13. 糖類を列挙し、特徴を説明できる。また、脂質を列挙し、特徴を説明できる。
14. アミノ酸を列挙し、特徴を説明できる。また、タンパク質の構造や機能を説明できる。
15. DNAやRNAの構造や機能を説明できる。また、ビタミンを列挙し、構造や機能を説明できる。

使用教材

^

コ・メディカル化学（改訂版）医療・看護系のための基礎化学
齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二共著
裳華房、2022年11月15日 [改定] 第1版1刷発行、2,400円（税抜）
また、使用教材として教科書の他に毎回プリントを配布する。

評価方法

^

教科書の各章の内容をまとめたレポート（A4用紙1枚×15回）により、評価する（100％）。
筆記試験は行わない。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートにコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

^

火曜日2限目、水曜日2限目
研究室：7号館2階203室

メールアドレス（#→@）

^

nobuta#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	原子の構造と放射能	1	教科書第1章に目を通しておく。	1h	教科書第1章に記載されている演習問題を解く。 教科書第1章の内容をレポートにまとめる。	2h
2	原子の電子構造	2	教科書第2章に目を通しておく。	1h	教科書第2章に記載されている演習問題を解く。 教科書第2章の内容をレポートにまとめる。	2h
3	周期表と元素	3	教科書第3章に目を通しておく。	1h	教科書第3章に記載されている演習問題を解く。 教科書第3章の内容をレポートにまとめる。	2h
4	化学結合と分子	4	教科書第4章に目を通しておく。	1h	教科書第4章に記載されている演習問題を解く。 教科書第4章の内容をレポートにまとめる。	2h
5	物質の量と状態	5	教科書第5章に目を通しておく。	1h	教科書第5章に記載されている演習問題を解く。 教科書第5章の内容をレポートにまとめる。	2h
6	溶液の化学	6	教科書第6章に目を通しておく。	1h	教科書第6章に記載されている演習問題を解く。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					教科書第6章の内容をレポートにまとめる。	
7	酸・塩基	7	教科書第7章p. 57～63に目を通しておく。	1h	教科書第7章に記載されている演習問題7.1～7.7を解く。 教科書第7章p. 57～63の内容をレポートにまとめる。	2h
8	酸化・還元	8	教科書第7章p. 63～67に目を通しておく。	1h	教科書第7章に記載されている演習問題7.7～7.10を解く。 教科書第7章p. 63～67の内容をレポートにまとめる。	2h
9	有機化合物の構造	9	教科書第8章に目を通しておく。	1h	教科書第8章に記載されている演習問題を解く。 教科書第8章の内容をレポートにまとめる。	2h
10	異性体と立体化学	10	教科書第9章に目を通しておく。	1h	教科書第9章に記載されている演習問題を解く。 教科書第9章の内容をレポートにまとめる。	2h
11	有機化学反応	11	教科書第10章に目を通しておく。	1h	教科書第10章に記載されている演習問題を解いてみる。 教科書第10章の内容をレポートにまとめる。	2h
12	高分子化合物	12	教科書第11章に目を通しておく。	1h	教科書第11章に記載されている演習問題を解く。 教科書第11章の内容をレポートにまとめる。	2h
13	糖類と脂質	13	教科書第12章に目を通しておく。	1h	教科書第12章に記載されている演習問題を解く。 教科書第12章の内容をレポートにまとめる。	2h
14	アミノ酸とタンパク質	14	教科書第13章に目を通しておく。	1h	教科書第13章に記載されている演習問題を解く。 教科書第13章の内容をレポートにまとめる。核酸とビタミン	2h
15	核酸とビタミン	15	教科書第14章に目を通しておく。	1h	教科書第14章に記載されている演習問題を解く。 教科書第14章の内容をレポートにまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h



印刷





[HOME](#) > 統計学

統計学

英文名 : Statistics
 科目区分 : 専門教養科目
 科目ナンバリング : LSC005
 学年 : 2年
 開講期 : 前期
 選択・必修 : 必修
 単位数 : 1単位
 講義形態 : 講義
 学位授与方針との対応 :
 比重 DP
 3 豊かな人間性と倫理観
 2 専門知識・技術の活用力
 3 論理的思考力
 0 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

福島博

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テストに対してコメントを付し返却する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

医療の現場で役に立つ統計的思考力が身に付く。
 具体例を通して統計学の知識や方法の実際の使い方を学ぶ。

到達目標

- 1.平均、メジアン、分散、標準偏差、相関係数 等の基本的 統計量の意味を理解する。
 2.統計的手法を学ぶことにより、いろいろの情報の意味を正しく理解できるようになる。

使用教材

はじめての統計 1 5 講、小寺平治、講談社、2015年、2000円（税別）

評価方法 ^

期末試験 7 0 % とレポート 3 0 % で評価する。総合得点 6 0 % 以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポートにはコメントを付けて返却する。

オフィスアワー ^

木曜日 4 時限 非常勤講師室

メールアドレス（#→@） ^

必要に応じて提示する。

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	平均と分散	1	教科書 1 , 2 , 3 講を読んでおく。	1.5h	平均と分散について、具体例の計算を通して理解する。	1.5h
2	相関係数	1	教科書 4 講を読んでおく。	1.5h	相関係数、共分散について理解する。	1.5h
3	確率変数	1	教科書 5 講を読んでおく。	1.5h	確率変数とその期待値、分散について理解する。	1.5h
4	正規分布	2	教科書 6 講を読んでおく。	1.5h	正規分布とその期待値、標準偏差について理解する。	1.5h
5	二項分布	2	教科書 7 講を読んでおく。	1.5h	二項分布の正規分布近似について理解する。	1.5h
6	標本平均	2	教科書 8 講を読んでおく。	1.5h	標本平均の平均、中心極限定理について理解する。	1.5h
7	区間推定	2	教科書 9 講を読んでおく。	1.5h	区間推定、t 分布について理解する。	1.5h
8	母平均の検定	2	教科書 1 0 . 1 1 講を読んでおく。	1.5h	検定について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習） ^

24h

備考 ^

オンラインで実施する場合、レポート 7 0 % と出席 3 0 % で評価する。

印刷 



[HOME](#) > 生物学

生物学

英文名 : Biology
 科目区分 : 専門教養科目
 科目ナンバリング : LSC006
 学年 : 1年
 開講期 : 前期
 選択・必修 : 選択
 単位数 : 2単位
 講義形態 : 講義
 学位授与方針との対応 :
 比重 DP
 3 豊かな人間性と倫理観
 2 専門知識・技術の活用力
 3 論理的思考力
 0 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

今井 純、坂井 隆浩 高崎健康福祉大学薬学部

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○									

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義に関わる質問に詳細に回答すると共に、任意提出のレポートに対してコメントを付けて返却し、適切な論理展開方法を学ぶ。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生物として「健康」であるため、細胞はその恒常性を維持するように機能している。そこで、生物の基本単位である細胞の構造と機能を学習し、細胞社会の統合体としての個体が恒常性を維持する仕組みについての基本的知識を習得する。
 ②教科書、配布資料に基づき講義を進める。前回の授業を振り返る理解度確認を最初の 10 分実施する。

到達目標

- (1) 細胞の構造や細胞での物質代謝を説明できる
- (2) 細胞内外の情報伝達機構を説明できる
- (3) 遺伝や遺伝子について説明できる

- (4) 発生現象を配偶子形成から個体発生まで説明できる
- (5) 免疫反応を分類し説明できる

使用教材 ^

教科書「ヒトを理解するための生物学」八杉貞雄著（裳華房）
ISBN978-4-7853-5226-4
講義のスライドを随時プリントして配布する。

参考文献 ^

教科書「ヒトを理解するための生物学」八杉貞雄著（裳華房）
ISBN978-4-7853-5226-4
講義のスライドを随時プリントして配布する。

評価方法 ^

定期テスト（90%）と授業中に興味を持った話題に対するアクティブラーニング形式のレポート（10%）で評価する。総合評価60%以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポートには授業中にコメントをつける。定期試験の解答を掲示し、間違えた部分の復習を促す。

オフィスアワー ^

金曜日の16：00－17：00、メールによる質問は随時、研究室：7号館3階326（今井）、7号館2階201（坂井）

メールアドレス（#→@） ^

今井（jimai#takasaki-u.ac.jp）
坂井（sakai#takasaki-u.ac.jp）

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生物学とはどのような学問か	1	教科書の1～8ページを読んで内容を理解する。	1.5h	生物学について理解する。	1.5h
2	生命とはなにか、生物はどのようなものか。	1	教科書の10～17ページを読んで内容を理解する。	1.5h	生物について理解する。	1.5h
3	細胞とはどのようなものか。	1,2	教科書の19～27ページを読んで内容を理解する。	1.5h	細胞について理解する。	1.5h
4	体をつくる分子にはどのようなものがあるか。	1,2	教科書の29～36ページを読んで内容を理解する。	1.5h	生体構成分子について理解する。	1.5h
5	体の中で物質はどのように変化するか。	1,2	教科書の38～45ページを読んで内容を理解する。	1.5h	代謝について理解する。	1.5h
6	遺伝子と遺伝はどのように関係しているのか。	1,2	教科書の47～58ページを読んで内容を理解する。	1.5h	遺伝現象について理解する。	1.5h
7	ヒトの体はどのようにできているか。	1,2	教科書の59～66ページを読んで内容を理解する。	1.5h	ヒトの体の仕組みを理解する。	1.5h
8	エネルギーはどのように獲得されるか。	1,2,3	教科書の68～76ページを読んで内容を理解する。	1.5h	呼吸と消化吸収について理解する。	1.5h
9	ヒトはどのように運動するか。	1,2,3	教科書の77～85ページを読んで内容を理解する。	1.5h	ヒトの運動の仕組みを理解する。	1.5h
10	体の恒常性はどのように維持されるか。	1,2,3,5	教科書の87～96ページを読んで内容を理解する。	1.5h	恒常性維持について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	体の恒常性はどのように維持されるか。	1,2,3,5	教科書の87～96ページを読んで内容を理解する。	1.5h	恒常性維持について理解する。	1.5h
12	ヒトは病原体とどのようにたたかうか。	4	教科書の98～106ページを読んで内容を理解する。	1.5h	免疫系について理解する。	1.5h
13	ヒトはどのように進化してきたか。	4	教科書の117～125ページを読んで内容を理解する。	1.5h	ヒトの進化について理解する。	1.5h
14	ヒトをとりまく環境はどのようなになっているか。	2	教科書の127～135ページを読んで内容を理解する。	1.5h	環境について理解する。	1.5h
15	ヒトはどのような生き物か。	1,2,3,4,5	教科書の137～145ページを読んで内容を理解する。	1.5h	ヒトについて理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

予習・復習については、試験前の学習で補完すること、メールによる質問は随時随時受け付ける。
必要に応じてオンラインで実施する。オンラインで実施の場合は、毎回確認テスト、レポートなどの課題を実施する。

^

印刷



HOME > 生活科学概論

生活科学概論

英文名 : Introduction of Life Science
科目区分 : 専門教養科目
科目ナンバリング : LSC007
学年 : 1年
開講期 : 前期
選択・必修 : 選択
単位数 : 1単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
3 豊かな人間性と倫理観
2 専門知識・技術の活用力
4 論理的思考力
0 チームへの貢献力
1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大塚恵美子

科目に関連した実務経験

非常勤管理栄養士として小児科医院に勤務。保健所保健衛生事業（赤ちゃん学級、乳幼児健診）における栄養、食生活相談等担当(経験)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①私たちの生活は、急激に変化しつつある。生活していく上でのさまざまな課題に対し、生活者の立場から総合的に捉えることを目指す。
衣食住や環境などのきわめて日常的な生活行為に関する問題を理解し、医療従事者としての自身の生活向上に必要な知識を習得する。
②講義は、配布資料をもとに講義形式の他、グループワーク等の方法を用いて進める。

到達目標

- 1. 生活基盤としての生活科学について学習内容を理解できる。
- 2. 生活していく上で必要な衣食住の知識を習得できる。■
- 3. 授業で学んだ生活科学について理解を深め実生活に活かすことができる。

使用教材 ^

適宜プリントを配布する

参考文献 ^

参考図書「生活科学のすすめ」佐藤方彦著（井上書院） ISBN4-7530-2317-6

評価方法 ^

授業態度と参加意欲（20％）、授業内で取り組む課題（小テストを含む）（30％）、期末レポート（50％）で総合的に評価する。総合評価60％以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

提出された課題やレポートは評価・コメントを記載しフィードバックする

オフィスアワー ^

水曜日3、4時限。メール対応可能。（研究室：8号館 4階407）

メールアドレス（#→@） ^

otsuka-e#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 生活科学とは	1	シラバスの内容を読んで講義の目的などを理解する	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	1.5h
2	衣の生活科学（衣服と人間）	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	衣服の機能と役割について理解する	1.5h
3	衣の生活科学（快適な衣服環境）	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	快適な衣服環境について理解する	1.5h
4	食の生活科学（食生活と栄養管理）■	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	食事と健康と関係について理解する	1.5h
5	食の生活科学（食生活と生活習慣病）■	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	食生活と健康について理解する	1.5h
6	住の生活科学（快適な住環境整備）	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	快適な住環境整備について理解する	1.5h
7	住の生活科学（住環境と生活）	1,2	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	住環境と生活について理解する	1.5h
8	まとめ及び学習到達度の確認	1,2,3	配布したプリントに目を通す	1.5h	衣食住や環境などの課題について生活者の立場から総合的に理解する	1.5h

合計時間（予習・復習） ^

24h

備考 ^

■：実務経験に基づく内容を示す。

※受講生の人数によって、講義内容が変更になる場合がある。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

[HOME](#) > 教育基礎論（教職科目）

教育基礎論（教職科目）

英文名：Principles of Education

科目区分：専門教養科目

科目ナンバリング：LSC009

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と倫理観

1 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

0 チームへの貢献力

5 生涯学習力

すべて開く 

すべて閉じる 

担当教員



深見 匡

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①教育の基本的概念、教育の理念、教育に関する歴史及び思想に関わる基礎的知識について理解と説明ができ、また、教員に求められる基礎的な資質・能力について理解と説明ができる。
②授業の進め方はテキストを中心に講義形式で行い、必要に応じて映像資料やグループワークを用いる予定。授業の詳細は学生の状況や意見に応じて適宜必要な修正を行う。

到達目標



- 1.教育の基本的概念について理解し、説明できる。
 - 2.教育に関する歴史の基礎的知識について理解し、説明できる。
 - 3.教育に関する思想の基礎的知識について理解し、説明できる。
 - 4.現代的な教育課題について理解し、考察できる。
- 総じて豊かな人間性、教職者に求められる資質・能力、適性の基礎を身に付けている。

使用教材

↑

毎回講義用のテキスト・資料を配布する。

参考文献

↑

必要なものは授業時に適宜指示する。

評価方法

↑

定期試験70%、平常点30%（レポート提出、授業態度など）で評価する。総合評価60%以上を合格とする。詳細は初回授業や授業時の試験解説で指示する。

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

レポートは必要に応じてコメントを付して返却する。定期試験については試験後、関連講義において解説する。その他質疑には適宜対応する。

オフィスアワー

↑

月曜4限、水曜5限 1号館307

メールアドレス（#→@）

↑

fukami#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2,3,4	シラバスを読み、講義目標・講義内容・評価方法などを理解する。	1.5h	講義内容について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
2	教育の基礎的概念を学ぶ（社会と教育）	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
3	教育の基礎的概念を学ぶ（発達と教育）	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
4	教育の基礎的概念を学ぶ（学校教育と教員）	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
5	教育の基礎的概念を学ぶ（教育基本法等の現代の教育理念の1）	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
6	教育の基礎的概念を学ぶ（教育基本法等の現代の教育理念の2）	1	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の基礎的概念について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
7	教育の歴史について（近代～戦後日本）	1,2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の歴史の基本的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
8	教育の歴史について（戦後日本～現代）	1,2	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	教育の歴史の基本的知識について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
9	教育の思想について（コメニウス、ロック、ルソー等）	1,2,3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
10	教育の思想について（ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト等）	1,2,3	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	教育の思想について（デューイ、デュルケーム等）	1,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	古典的な教育思想について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
12	現代的な教育課題について① 学力や生徒指導について考える(1)	1,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	近年の学力論の概要や子どもの「問題行動」とされる問題について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
13	現代的な教育課題について② 学力や生徒指導について考える(2)	1,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	近年の学力論の概要や子どもの「問題行動」とされる問題について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
14	現代的な教育課題について③ 日本の教育政策動向	1,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	近年の日本の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h
15	現代的な教育課題について④ 諸外国の教育政策動向	1,4	テキスト・資料を読み、概要を理解する。	1.5h	近年の諸外国の教育政策動向について整理し、指示された課題に取り組む。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・状況によりオンラインで実施する場合はC-Learningで行う。
- ・教員免許状取得のための必修科目。

印刷





[HOME](#) > 教育心理学（教職科目）

教育心理学（教職科目）

英文名：Educational Psychology

科目区分：専門教養科目

科目ナンバリング：LSC010

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

2 豊かな人間性と倫理観

1 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

0 チームへの貢献力

5 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



宮内洋

科目に関連した実務経験



臨床発達心理士および公認心理師として教育現場への助言・支援活動（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

教育心理学に関する知識を生涯発達の各発達段階毎に理解し、人間の生涯発達を通じた視野を持ちながら理解できるようになる。

上記2つを講義目標とし、本科目は、初等中等教育段階の学校の教員を目指す上で理解しておくべき教育心理学に関する基本的な知識の理解・修得をめざす。

具体的には、教育心理学に関する知識を生涯発達の各発達段階毎に理解し、人間の生涯発達を通じた視野を持ちながら理解できるようにしていく。臨床発達心理士である講師としては、机上の空論や理想論ではなく、より現実的な内容に徹したい。

＊基本的には講師が直接講義をする形式です。講義内容を深めるため、実験等を映像やドキュメンタリーを講義内で見ることがあります。講師とのやりとりは、感想シートによっておこなわれます。

到達目標 ^

幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。
幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。■

使用教材 ^

教科書は指定しない。必要に応じて、資料を配付する。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介する。

参考文献 ^

- ・J.A.L.シング『野生児の記録1 狼に育てられた子』福村出版
- ・A.ゲゼル『狼にそだてられた子』家政教育社
- ・A.M.スレーター & P.C.クイン編『発達心理学・再入門』新曜社

評価方法 ^

全講義終了後に実施される定期試験（90％）と、講義期間中に課せられる課題と講義に臨む態度・参加する姿勢（10％）によって、総合的に判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

講義終了時に可能な限り感想シートを配付し、そこで書かれた質問等には次回に回答するように努める。

オフィスアワー ^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ^

必要に応じて提示する

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス：発達とは何か■	1,2	なし	0h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h
2	生涯発達と「優生思想」■	1,2	人間の生涯発達について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
3	新生児期・乳児期における学び（1）：「無能な赤ちゃん」というイメージ	1,2	自らの乳児期の体験を可能な限り聞き、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
4	新生児期・乳児期における学び（2）：「有能な赤ちゃん」と脳科学	1,2	脳科学について客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
5	幼児期における学び（1）：学びの基礎■	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
6	幼児期における学び（2）：認知発達を中心に	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	幼児期における学び（3）：nature vs. nurture ■	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
8	児童期における学び（1）：記憶研究を中心に	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
9	児童期における学び（2）：学習	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
10	児童期における学び（3）：動機付け	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
11	思春期・青年期における学び	1,2	自らのこれまでの体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
12	成人期以降の学び（1）：学びの効果的支援	1,2	自らのこれまでの学びに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
13	成人期以降の学び（2）：学んだ成果の評価	1,2	自らのこれまでの学びに関する体験を想起し、それらを客観的に考察できるように準備しておくこと。	1.5h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	1.5h
14	老年期における学び	1,2	なし	0h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h
15	まとめ	1,2	これまでの講義内容の理解を深めておく。	4h	各自で復習をし、授業内容の正しい理解に努めること。	2h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



講義を妨害する者の受講を基本的に認めません。
教職科目であるので安易な態度で受講しないように注意してください。
＊社会状況によって、対面授業が不可能となった場合には講義内容が若干変わる可能性がある。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷





[HOME](#) > 解剖学 I

解剖学 I

英文名 : Anatomy I
科目区分 : 専門基礎科目
科目ナンバリング : PAC100
学年 : 1年
開講期 : 前期
選択・必修 : 必修
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
0 豊かな人間性と倫理観
4 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
2 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

三井 真一

科目に関連した実務経験

医学科での解剖学教育（死体解剖資格（系統解剖））

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○									

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に定めた出題範囲に即した小テストの実施

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①理学療法士となるためにひつような人体の解剖学的知識を身につける
- ①人体の構造と機能との関連について理解し説明できる
- ②人体の構造と機能との関連について授業プリントを配布の上、パワーポイントを用いて説明・教授する。重要ポイントを配布プリント中に記入することで確認する。さらに毎週の小テストによって知識の定着を図る。

到達目標

- 1.解剖学用語を正しく使用することができる■
- 2.循環器系の構造と機能について説明することができる■
- 3.呼吸器系の構造と機能について説明することができる■
- 4.消化器系の構造と機能について説明することができる■
- 5.内分泌系の構造と機能について説明することができる■
- 6.感覚器系の構造と機能について説明することができる■
- 7.泌尿器系の構造と機能について説明することができる■
- 8.生殖器系の構造と機能について説明することができる■
- 9.運動器の構造と機能について説明することができる■
- 10.神経組織の構造と機能について説明することができる■
- 11.末梢神経系について分布と支配領域を説明することができる■
- 12.中枢神経系の構造と機能について説明することができる■
- 13.伝導路について説明することができる■
- 14.脳画像に示される部位の名称と機能について説明することができる■

使用教材

^

教科書；カラー人体解剖学：構造と機能:ミクロからマクロまで（ISBN 52426969X） 西村書店
授業時に配布するプリントとパワーポイントによる資料提示によって授業を進める

参考文献

^

ニューマン・アナトミー・アトラスVisible Body
ネッター解剖学アトラス（ISBN 452426969X）エルゼビア・ジャパン
プロメテウス解剖学コアアトラス（ISBN 4260007467） 医学書院

評価方法

^

中間テスト（30%×2）、期末テスト(30%)、小テスト・受講態度等（10%）を総合して評価を行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

重要な項目について翌週の授業開始時に小テストを行うので、自らの不足している部分を確認し補足すること
中間テスト、期末テストの前に学習すべきポイントをあらかじめ配布するので、学習時に不明な点については授業時やメール等で問い合わせること

オフィスアワー

^

非常勤のため設けない

メールアドレス（#→@）

^

smitsui#gunma-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	解剖学序論、細胞・組織・器官について■	1	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に解剖学用語、細胞・組織・器官を理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
2	循環器系；心臓■	2	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に心臓の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
3	循環器系；リンパ系、血管系■	2	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に心臓の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	循環器系；血液 ■	2	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に血液の成分と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
5	呼吸器系；鼻腔～気管支 ■	3	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に鼻腔～気管支の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
6	呼吸器系；肺 ■	3	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に肺の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
7	消化器系；口腔～胃 ■	4	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に口腔から胃について、構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
8	消化器系；小腸～肛門 ■	4	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に小腸から肛門について、構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
9	消化器系；肝臓、胆嚢、膵臓 ■	4	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
10	中間試験 1	1-4	3週間前に配布する試験範囲について、プリント、教科書を参考に模範解答を作成し、暗記しておく。	15 h	試験でできなかった部分について、作成した模範解答を見直し暗記する。	2 h
11	内分泌系；序論、視床下部、下垂体 ■	5	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に内分泌系の概要を理解し、視床下部、下垂体の構造と機能と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
12	内分泌系；甲状腺、副腎、膵臓、腎臓 ■	5	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に甲状腺、副腎、膵臓、腎臓の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
13	感覚器系；体性感覚、視覚 ■	6	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に体性感覚、視覚の受容器の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
14	感覚器系；聴覚、平衡覚、嗅覚 ■	6	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚の受容器の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
15	泌尿器系；腎、尿路系 ■	7	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に腎、尿路系の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1 6	生殖器系；男性生殖器 ■	8	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に男性生殖器の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
1 7	生殖器系；女性生殖器 ■	8	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に女性生殖器の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
1 8	運動器系；骨・筋の組織学 ■	9	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に骨・筋の組織構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
1 9	上肢・下肢の主な筋 ■	9	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に上肢・下肢の主な筋の名称と作用を理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
2 0	神経系；総論、神経組織 ■	10	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に神経系の概要と神経組織と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
2 1	中間テスト2	5-1 0	3週間前に配布する試験範囲について、プリント、教科書を参考に模範解答を作成し、暗記しておく。	15 h	試験でできなかった部分について、作成した模範解答を見直し暗記しておく	2 h
2 2	神経系；末梢神経系（頭頸部、上肢） ■	11	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に末梢神経系（頭頸部、上肢）の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
2 3	神経系；末梢神経系（下肢、脊髄反射） ■	11	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に末梢神経系（下肢、脊髄反射）の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
2 4	神経系；末梢神経系（自律神経系） ■	11	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に末梢神経系（自律神経系）の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
2 5	神経系；中枢神経系（区分、大脳皮質） ■	12	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系（区分、大脳皮質）の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
2 6	神経系；中枢神経系（大脳） ■	12	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系（大脳）の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
2 7	神経系；中枢神経系（間脳） ■	12	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系（間脳）の構造と機能について理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	1.5 h
2 8	神経系；中枢神経系（中	12	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に中枢神経系（中脳、橋、延髄、小脳）の構造と機能につ	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	脳、橋、延髄、小脳) ■		を読んでおく。		いて理解し、説明できるようにする。次週の小テストの範囲について暗記する。	
29	神経系；伝導路（下行路・上行路） ■	13	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に伝導路（下行路・上行路）の構造と機能について理解し、説明できるようにする。	1.5 h
30	神経系；脳画像 ■	12-14	配布プリントに記載されている教科書のページの部分を読んでおく。	0.5 h	プリントで記入した部分を中心に脳画像に示された構造と機能について理解し、説明できるようにする。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

90 h

^

備考

^

解剖学は暗記する項目が多いため、予習よりも復習に時間をかける必要がある。また、中間試験についての学習時間を多く確保する必要があるため、各回の予習復習時間については短めに設定してある。メリハリの付いた学習習慣を身につけて貰いたい。

印刷





[HOME](#) > 解剖学 II

解剖学 II

英文名：Anatomy II
 科目区分：専門基礎科目
 科目ナンバリング：PAC110
 学年：1年
 開講期：後期
 選択・必修：必修
 単位数：1単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 0 豊かな人間性と倫理観
 4 専門知識・技術の活用力
 2 論理的思考力
 2 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大野洋一、高橋裕子

科目に関連した実務経験

理学療法士として大学病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①解剖学 I で学習した身体の構造と機能を基軸にして、理学療法士にとって特に重要な神経筋骨格系に焦点をあてて学習する。
- 感覚と神経・筋の触診と起始停止・主要関節の構造と機能を中心に身体機能を系統別に学習する。
- ②授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。
- 質問は講義後、およびメールにて随時受け付ける。
- 出席は講義開始時に口頭にて確認する。

到達目標 ^

- 1. 身体の構造と機能を理解する
- 2. 身体の機能解剖（機能と運動）について理解する ■
- 3. バイオメカニクスに基づく身体機能を理解する

使用教材 ^

カラー人体解剖学：構造と機能:ミクロからマクロまで（ISBN 52426969X） 西村書店
講義資料を適宜プリントにて配布する。

参考文献 ^

特になし

評価方法 ^

小テスト2割、筆記試験8割（対面・オンライン共通）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

講義内にてフィードバックを実施する（対面・オンライン共通）

オフィスアワー ^

大野：月曜日 16：30－18：00
高橋：水曜日 16：30－18：00

メールアドレス（#→@） ^

大野：ohno#takasaki-u.ac.jp
高橋：takahashi-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（系統解剖学概論）	1,2,3	解剖学Ⅰの配布資料と教科書の確認	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
2	感覚器系（特殊感覚と体性感覚）	1,2	解剖学Ⅰの感覚器系資料と教科書の確認	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
3	神経系Ⅰ（神経解剖と中枢神経）	1,2	解剖学Ⅰの神経系（神経解剖と中枢神経）資料と教科書の確認	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
4	神経系Ⅱ（末梢神経と伝導路）	1,2	解剖学Ⅰの神経系（末梢神経と伝導路）資料と教科書の確認	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
5	運動器系Ⅰ（上肢の神経筋の機能解剖・バイオメカニクス）	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
6	運動器系Ⅱ（下肢の神経筋の機能解剖・バイオメカニクス）	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
7	運動器系Ⅲ（体幹の神経筋の機能解剖・バイオメカニクス）	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	運動器系Ⅳ（上肢の骨関節の機能解剖・バイオメカニクス）	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
9	運動器系Ⅴ（下肢の骨関節の機能解剖・バイオメカニクス）	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
10	運動器系Ⅵ（体幹の骨関節の機能解剖・バイオメカニクス）	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
11	運動器系Ⅶ（四肢の関節と靱帯の機能解剖・バイオメカニクス）	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
12	運動器系Ⅷ（体幹の関節と靱帯の機能解剖・バイオメカニクス）	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
13	体表解剖学Ⅰ（肩甲帯から上肢）■	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
14	体表解剖学Ⅱ（骨盤帯から下肢）■	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h
15	体表解剖学Ⅱ（骨盤帯から下肢）■	1,2,3	事前に配布した問題と教科書をみながら解き授業内容を把握しておくこと	0.5h	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

オンラインで実施する場合、出席はC-learning出席管理システムにて確認する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷





[HOME](#) > 解剖学実習

解剖学実習

英文名 : Practice of Anatomy

科目区分 : 専門基礎科目

科目ナンバリング : PAC111

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大野洋一、高橋裕子

科目に関連した実務経験

理学療法士として大学病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人体解剖モデルや解剖体観察によって構造と機能を理解する。特に、分解骨標本を用いて関節の構造と筋の付着を確認する。また、模型を用いて脳の局所機能と神経伝達経路を学習する。さらに、ビデオ教材など視聴覚教材を多用し身体の内部構造をイメージできるようにする。

②授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。また、自身の体や人体模型などを使用して実習を行う。質問は随時受け付ける。

出席は講義開始時に口頭にて確認する。

到達目標

- 1身体の構造と機能を理解する
- 2身体機能解剖（機能と運動）について理解する■
- 3バイオメカニクスに基づく身体機能を理解する

使用教材 ^

カラー人体解剖学：構造と機能:ミクロからマクロまで（ISBN 52426969X） 西村書店）
講義資料を適宜プリントにて配布する。

参考文献 ^

特になし

評価方法 ^

小テスト4割、実技口頭試験4割、出席・授業態度2割（対面・オンライン共通）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

講義内にてフィードバックを実施する（対面・オンライン共通）

オフィスアワー ^

大野：月曜日 16：30－18：00
高橋：水曜日 16：30－18：00

メールアドレス（#→@） ^

大野：ohno#takasaki-u.ac.jp
高橋：takahashi-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	運動における人体の構造と機能1	1,2,3	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学の運動における人体構造の関する資料や教科書の確認	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
2	運動における人体の構造と機能2	1,2,3	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学の運動における人体構造の関する資料や教科書の確認	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
3	上肢の神経筋1	1,2	解剖学Ⅰ・Ⅱの上肢の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
4	上肢の神経筋2	1,2	解剖学Ⅰ・Ⅱの上肢の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
5	下肢の神経筋1	1,2	解剖学Ⅰ・Ⅱの下肢の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
6	下肢の神経筋2	1,2	解剖学Ⅰ・Ⅱの下肢の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
7	体幹の神経筋1	1,2	解剖学Ⅰ・Ⅱの体幹の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
8	体幹の神経筋2	1,2	解剖学Ⅰ・Ⅱの体幹の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	頭蓋の神経筋1	1,2	解剖学Ⅰ・Ⅱの頭蓋の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
10	頭蓋の神経筋2	1,2	解剖学Ⅰ・Ⅱの頭蓋の神経筋の資料や教科書の確認	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
11	上肢の骨関節1	1	上肢骨の名称を教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
12	上肢の骨関節2	1,2	上肢骨の各部位の名称および関節の形を教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
13	下肢の骨関節1	1	下肢骨の名称を教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
14	下肢の骨関節2	1,2	下肢骨の各部位の名称および関節の形を教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
15	体幹の骨関節1	1	体幹にある骨の名称を教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
16	体幹の骨関節2	1,2	体幹にある骨の各部位の名称および関節の形を教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
17	頭蓋の骨関節1	1	頭蓋骨の名称を教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
18	頭蓋の骨関節2	1,2	頭蓋骨の各部位の名称および縫合を教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
19	体表解剖1（肩甲帯）■	1,2,3	肩甲帯を構成する骨およびその機能について教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
20	体表解剖2（上肢）■	1,2,3	上肢の機能解剖および運動機能について教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
21	体表解剖3（骨盤帯）■	1,2,3	骨盤帯を構成する骨およびその機能解剖について教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
22	体表解剖4（下肢）■	1,2,3	下肢の機能解剖および運動機能について教科書で確認すること	適宜	配布資料および教科書を読み返ししっかり復習すること	適宜
23	まとめ1（解剖体観察）	1,2	解剖学Ⅰ・Ⅱの人体構成の資料や教科書を確認	適宜	解剖体と資料からの知識の照らし合わせ	適宜
24	まとめ2（解剖体観察）	1,2	解剖学Ⅰ・Ⅱの人体構成の資料や教科書を確認	適宜	解剖体と資料からの知識の照らし合わせ	適宜

合計時間（予習・復習）

適宜



備考

オンラインで実施する場合、出席はC-learning出席管理システムにて確認する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



[HOME](#) > 生理学

生理学

英文名 : Physiology
科目区分 : 専門基礎科目
科目ナンバリング : PAC101
学年 : 1年
開講期 : 前期
選択・必修 : 必修
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
0 豊かな人間性と倫理観
4 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
2 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大野洋一、富田洋介

科目に関連した実務経験

理学療法士として大学病院に勤務（経験）
日本生理学会が認定する生理学エドゥケーター認定資格有り

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①医科生理学の基礎的事項について専門教育を受ける前に必要な知識を解説する。生命現象の基盤である「体液・血液」「循環・呼吸」「内分泌」「消化・吸収・排泄」「神経」「感覚」等の理解を深めることを目標とする。
- ②授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。
質問は講義後、およびメールにて随時受け付ける。
出席は講義開始時に口頭にて確認する。

到達目標 ^

- 1. 人体の多様な生理機能の詳細を理解し説明できる。■
- 2. 資料を基に各々の生命現象の物質的・機能的側面を統合し他人に説明することができる。

使用教材 ^

テキスト：「標準理学療法学・作業療法学 生理学」、医学書院
講義資料を適宜プリントにて配布する。

参考文献 ^

特になし

評価方法 ^

筆記試験100%（対面・オンライン共通）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

講義内にてフィードバックを実施する（対面・オンライン共通）

オフィスアワー ^

大野：月曜日 16：30－18：00
富田：木曜日 13：30－14：30

メールアドレス（#→@） ^

大野：ohno#takasaki-u.ac.jp
富田：tomita-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	PTにとっての生理学、生命現象と人体、細胞構造と機能、酸塩基平衡■	1,2	テキスト 序説、1、2、1 1 生理学的機能の原則を理解する。	1. 5h	生理学の基礎（PTにとっての生理学、生命現象と人体、細胞構造、体液・電解質調節、酸-塩基平衡）を理解する。	1. 5h
2	血液と免疫系：血液の構成、血液凝固と線溶、血液型、免疫のメカニズム	1,2	テキスト7 血液を理解する。	1. 5h	血液と免疫系（血液の構成、血液凝固と線溶、血液型、免疫のメカニズム）を理解する。	1. 5h
3	循環器系（1）：循環器系の構成、心臓の自動性、心臓の収縮力、血管の機能的分類	1,2	テキスト8 心臓と循環を理解する。	1. 5h	循環器系（循環器系の構成、心臓の自動性、心臓の収縮力、血管の機能的分類）を理解する。	1. 5h
4	循環器系（2）：循環の調節機構、特殊循環（脳循環、冠循環、肺循環、筋肉循環、リンパ循環）	1,2	テキスト8 心臓と循環を理解する。 循環器系 {循環の調節機構、特殊循環（脳循環、冠循環、肺循環、筋肉循環、リンパ循環）} を理解する。	1. 5h	循環器系 {循環の調節機構、特殊循環（脳循環、冠循環、肺循環、筋肉循環、リンパ循環）} を理解する。	1. 5h
5	呼吸と生理学：呼吸器系の構造と機能、ガス交換と運搬、酸素解離曲線、呼吸運動の調節、呼吸	1,2	テキスト9 呼吸とガスの運搬を理解する。	1. 5h	呼吸と生理学（呼吸器系の構造と機能、ガス交換と運搬、酸素解離曲線、呼吸運動の調節、呼吸）を理解する。	1. 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	内分泌系：内分泌器官の構成、各腺から分泌されるホルモンの作用	1,2	テキスト13 内分泌を理解する。	1. 5h	内分泌系（内分泌器官の構成各腺から分泌されるホルモンの作用）を理解する。	1. 5h
7	生殖・成長と老化の生理学：配偶子形成、男性化の機序、生殖機能の多様性（勃起、射精、性周期、妊娠、分娩等）、成長と老化	1,2	テキスト15 生殖と発生・成長と老化を理解する。	1. 5h	生殖と発生の生理学（配偶子形成、男性化の機序、生殖機能の多様性（勃起、射精、性周期、妊娠、分娩等））、成長と老化を理解する。	1. 5h
8	消化・吸収の生理学：消化器系の構成と機能、消化器系の調節機構、各栄養素の消化、吸収、代謝	1,2	テキスト12、14 消化と吸収、代謝と体温を理解する。	1. 5h	消化・吸収の生理学（消化器系の構成と機能、消化器系の調節機構、各栄養素の消化、吸収、代謝）を理解する。	1. 5h
9	泌尿器系の生理学：泌尿器系の構成、ネフロン、尿細管での尿生成機構、クリアランスと腎機能、蓄尿	1,2	テキスト10 尿と生成と排泄を理解する。	1. 5h	泌尿器系の生理学（泌尿器系の構成、ネフロン、尿細管での尿生成機構、クリアランスと腎機能、蓄尿）を理解する。	1. 5h
10	神経系（1）：神経細胞とグリア細胞、活動電位、興奮の伝導と伝達機構、神経伝達物質、末梢神経■	1,2	テキスト3 神経の興奮伝導と末梢神経を理解する。	1. 5h	神経系（神経細胞とグリア細胞、活動電位、興奮の伝導と伝達機構、神経伝達物質、末梢神経）を理解する。	1. 5h
11	神経系（2）：中枢神経系、神経路、脳幹、小脳とその障害■	1,2	テキスト4 中枢神経系を理解する。	1. 5h	神経系（中枢神経系の構成、神経路、脳幹、小脳とその障害）を理解する。	1. 5h
12	神経系（3）：大脳皮質、高次機能、大脳基底核、脳梁、辺縁系、脳脊髄液の機能とその障害■	1,2	テキスト4 中枢神経系を理解する。	1. 5h	神経系（大脳皮質、高次機能、大脳基底核、脳梁、辺縁系、脳脊髄液の機能）を理解する。	1. 5h
13	感覚の生理学：感覚の分類と受容器、視覚、平衡覚と聴覚、味覚、嗅覚■	1,2	テキスト6 感覚を理解する。	1. 5h	感覚の生理学（感覚の分類と受容器、視覚、平衡覚と聴覚、味覚、嗅覚）を理解する。	1. 5h
14	骨と筋肉の生理学：骨形成と骨代謝、カルシウム調節、骨格筋・心筋・平滑筋、筋収縮の仕組み■	1,2	テキスト5 筋と骨を理解する。	1. 5h	骨と筋肉の生理学（骨形成と骨代謝、カルシウム調節、骨格筋・心筋・平滑筋、筋収縮の仕組み）を理解する。	1. 5h
15	運動の生理学：筋力と持久力、筋収縮、運動効果、加齢変化■	1,2	テキスト16 運動生理を理解する。	1. 5h	運動の生理学（筋力と持久力、筋収縮、運動効果、加齢変化）を理解する。	1. 5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合、出席はC-learning出席管理システムにて確認する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

[HOME](#) > 生理学実習

生理学実習

英文名 : Practice of Physiology

科目区分 : 専門基礎科目

科目ナンバリング : PAC112

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く 

すべて閉じる 

担当教員



大野洋一、富田洋介

科目に関連した実務経験



理学療法士として大学病院に勤務（経験）

日本生理学会が認定する生理学エドゥケーター認定資格有り。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①生理学の講義で学習した臓器構成や血液、呼吸器、消化器の基礎的事項について実際に実験で確認し理解を確立することを目標とする。

②授業は教科書と配布資料を使用して、パワーポイントで提示しながら進める。

また、各種測定機器を使用した実習を行う。

質問は講義後、およびメールにて随時受け付ける。

出席は講義開始時に口頭にて確認する。

到達目標



- 1. 実験方法の理解と結果の解釈から医学・生物学的なものの見方や論理的な考え方が習得できる。■
- 2. 動物を用いた実験の倫理基準と基本的手法について習得することができる。

使用教材 ^

実習毎にプロトコルを配布する。

参考文献 ^

「生理学実習書」、監修-日本生理学会教育委員会、南江堂

評価方法 ^

レポート90%、学習態度10%（対面・オンライン共通）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

講義内にてフィードバックを実施する（対面・オンライン共通）。

オフィスアワー ^

大野：月曜日 16：30－18：00
富田：月曜日 16：30－18：00

メールアドレス（#→@） ^

大野：ohno#takasaki-u.ac.jp
富田：tomita-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	臓器構造と器官系：ラットの解剖による主要臓器の構造と各器官系の確認①■	1,2	人体の臓器構造と器官系に関して理解する。	適宜	人体とラットの臓器構造の違いを理解する	適宜
2	臓器構造と器官系：ラットの解剖による主要臓器の構造と各器官系の確認②■	1,2	人体の臓器構造と器官系に関して理解する。	適宜	人体とラットの臓器構造の違いを理解する	適宜
3	演習：結果の解析とレポートの作成：ヒトとラット（ラット）の臓器における位置関係の比較①	1,2	人体の臓器構造と臓器機能に関して理解する。	適宜	ヒトとラットの臓器における位置関係を理解する。	適宜
4	演習：結果の解析とレポートの作成：ヒトとラット（ラット）の臓器における位置関係の比較②	1,2	人体の臓器構造と臓器機能に関して理解する。	適宜	ヒトとラットの臓器における位置関係を理解する。	適宜
5	循環器系：血圧の測定①■	1	血圧測定の手順を理解する。	適宜	血圧調整に関わる生理機能を理解する。	適宜
6	循環器系：血圧の測定②■	1	血圧測定の手順を理解する。	適宜	血圧調整に関わる生理機能を理解する。	適宜
7	演習：結果の解析とレポートの作成：血圧測定の定義とその調整機構の理解①	1	血圧調整機能と他臓器機能の関係を理解する。	適宜	血圧測定の定義とその調整機構を理解する。	適宜
8	演習：結果の解析とレポートの作成：血圧測定の定義とその調整機構の理解②	1	血圧調整機能と他臓器機能の関係を理解する。	適宜	血圧測定の定義とその調整機構を理解する。	適宜
9	循環器系：心電図の測定による心機能の判定①■	1	心電図測定の手順を理解する。	適宜	心機能に関わる生理機能を理解する。	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	循環器系：心電図の測定による心機能の判定② ■	1	心電図測定の手順を理解する。	適宜	心機能に関わる生理機能を理解する。	適宜
11	演習：結果の解析とレポートの作成：心電図における各成分の意味と読み方の習得①	1	心機能と心電図の関係を理解する。	適宜	心電図における各成分の意味と読み方を理解する。	適宜
12	演習：結果の解析とレポートの作成：心電図における各成分の意味と読み方の習得②	1	心機能と心電図の関係を理解する。	適宜	心電図における各成分の意味と読み方を理解する。	適宜
13	呼吸器系：呼気ガス分析とスパイロメーターによる呼吸・肺機能の測定① ■	1	呼吸・肺機能測定の手順を理解する。	適宜	呼吸器系に関わる生理機能を理解する。	適宜
14	呼吸器系：呼気ガス分析とスパイロメーターによる呼吸・肺機能の測定② ■	1	呼吸・肺機能測定の手順を理解する。	適宜	呼吸器系に関わる生理機能を理解する。	適宜
15	演習：結果の解析とレポートの作成：心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法の理解①	1	呼吸・肺機能と心肺運動負荷試験やスパイロメーターによる結果の関係を理解する。	適宜	心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法を理解する。	適宜
16	演習：結果の解析とレポートの作成：心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法の理解②	1	呼吸・肺機能と心肺運動負荷試験やスパイロメーターによる結果の関係を理解する。	適宜	心肺運動負荷試験の結果の解釈や呼吸曲線による肺気量分画の計算と肺機能障害の分類法を理解する。	適宜
17	感覚器系：バランス能力と皮膚感覚（2点弁別閾）① ■	1	バランス能力と皮膚感覚（2点弁別閾）の測定手順を理解する。	適宜	感覚器系に関わる生理機能を理解する。	適宜
18	感覚器系：バランス能力と皮膚感覚（2点弁別閾）② ■	1	バランス能力と皮膚感覚（2点弁別閾）の測定手順を理解する。	適宜	感覚器系に関わる生理機能を理解する。	適宜
19	演習：結果の解析とレポートの作成：バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いの理解①	1	バランス能力と感覚器機能：2点識別閾検査による結果の関係を理解する。	適宜	バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いを理解する。	適宜
20	演習：結果の解析とレポートの作成：バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いの理解②	1	バランス能力と感覚器機能：2点識別閾検査による結果の関係を理解する。	適宜	バランス能力と身体部位各所における2点弁別閾の違いを理解する。	適宜
21	神経筋系：筋収縮（筋電図）の演習① ■	1	筋収縮（筋電図）の測定手順を理解する。	適宜	神経筋系に関わる生理機能を理解する。	適宜
22	神経筋系：筋収縮（筋電図）の演習② ■	1	筋収縮（筋電図）の測定手順を理解する。	適宜	神経筋系に関わる生理機能を理解する。	適宜
23	演習：結果の解析とレポートの作成：筋収縮のメカニズムの理解①	1	筋収縮（筋電図）の測定結果を理解する。	適宜	筋収縮のメカニズムを理解する。	適宜
24	演習：結果の解析とレポートの作成：筋収縮のメカニズムの理解②	1	筋収縮（筋電図）の測定結果を理解する。	適宜	筋収縮のメカニズムを理解する。	適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考

オンラインで実施する場合、出席はC-learning出席管理システムにて確認する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

HOME > 運動学

運動学

英文名 : Kinesiology
科目区分 : 専門基礎科目
科目ナンバリング : PAC200
学年 : 2年
開講期 : 前期
選択・必修 : 必修
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
0 豊かな人間性と倫理観
4 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
2 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

樋口 大輔（科目責任者）、正木光裕

科目に関連した実務経験

理学療法士として病院非常勤勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①姿勢および運動・動作を運動学的視点からとらえるために必要な基本的知識を修得する。
②講義を受けるとともに、講義内容に即した課題にグループで取り組むことを基本に授業を進める。

到達目標

- 1.【認知領域】関節運動などの人体の構造・機能について説明することができる。
2.【認知領域】姿勢や運動・動作を運動学的見地または運動力学的見地から説明することができる。
3.【認知領域】運動療法を安全かつ効果的に行うために必要な理論的背景について説明することができる。■
4.【認知領域】運動の発達や運動学習理論について説明することができる。
5.【情意領域】グループ学習を通じ、仲間と連携してひとつの課題に取り組むことができる。

6.【情意領域】この科目の受講を通じて知的好奇心が刺激され、運動学についてより深く学びたい気持ちを持つようになる。

使用教材 ^

基礎運動学 第6版補訂（医歯薬出版）
配布資料

参考文献 ^

筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版（医歯薬出版）
エッセンシャル・キネシオロジー（南江堂）

評価方法 ^

以下の4項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。ただし、予習課題への取り組み状況に応じて最大5点の範囲で減点することがある。

- ・予習課題（10点）
- ・グループワーク（10点）
- ・復習：授業内テスト（第5～27回の奇数回（第15回除く）冒頭実施：40点）
- ・筆記試験（中間20点、期末20点）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

グループワークについては実施後にフィードバックする。
授業内テストについてはテスト後に解答を示す。
筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。

オフィスアワー ^

月曜日1・2時限（4号館4階414研究室）

メールアドレス（#→@） ^

higuchi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1～4	特に必要としない。	0h	特に必要としない。	0h
2	運動学とは	1～4	教科書（p1～18）を用いて、下調べする。	0.375h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375h
3	生体力学の基礎1（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	1,5,6	教科書（p19～35：第1項 身体運動と力学～第7項 モーメント）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・基本肢位、運動の面と軸（図2-1～3） ・筋の張力と重力（図2-10） ・重力と分力（図2-12）	0.375h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375h
4	生体力学の基礎2（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	1,5,6	教科書（p35～46：第8項 運動法則～第11項 骨と関節の運動）を用いて下調べする。 [予習課題] ・ヒトにある3つのてこ（図2-18～	0.375h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			21) ・筋収縮と運動方向 (図2-22)			
5	生体の構造と機能1 (講義内容に関連するグループワーク: アクティブラーニング)	1,5,6	教科書 (p47～88: 第1項 解剖学と生理学～第4項 運動器の構造と機能) を用いて、下調べする。 [予習課題] ・有酸素性エネルギー代謝と無酸素性エネルギー代謝 (図3-2) ・筋の形状 (図3-26) ・骨格筋の構造と筋フィラメント滑走 (図3-27) ・筋の長さ-張力曲線 (図3-40) ・筋力増強運動の効果と筋肥大 (図3-45)	0.375h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375h
6	生体の構造と機能2 (講義内容に関連するグループワーク: アクティブラーニング)	1,5,6	教科書 (p88～116: 第5項 神経系) を用いて下調べする。 [予習課題] ・脊髄と脊髄神経の外観 (図3-50) ・脊髄伝導路 (図3-61) ・内包の部位と遠心性 (下行性) 神経線維の走行 (図3-77) ・一次運動野および一次感覚野の機能局在 (図3-84)	0.375h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375h
7	生体の構造と機能3 (講義内容に関連するグループワーク: アクティブラーニング)	1,5,6	教科書 (p117～154: 第6項 運動の中枢神経機構) を用いて、下調べする。 [予習課題] ・伸張反射 (腱反射) のメカニズム (図3-88) ・姿勢制御機能の階層性 (図3-96) ・立ち直り反応 (反射) (図3-100) ・共同筋活動、予測的姿勢制御 (図3-106)	0.375h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375h
8	生体の構造と機能4 (講義内容に関連するグループワーク: アクティブラーニング)	1,5,6	教科書 (p154～p212: 第7項 感覚器の構造と機能～第12項 栄養とエネルギー代謝) を用いて、下調べする。 [予習課題] ・感覚と知覚・認知 (図3-121) ・求心性 (上行性) 神経線維の走行 (図3-127・128) ・肺気量分画 (図3-142) ・体循環と肺循環、動脈血と静脈血 (図3-148)	0.375h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375h
9	四肢と体幹 (顔面・頭部含む) の運動1 (講義内容に関連するグループワーク: アクティブラーニング)	1,5,6	教科書 (p213～225: 第1項 機能解剖学～第2項 上肢帯と上肢の運動 肩関節) を用いて、下調べする。 [予習課題] ・肩甲骨の運動と各運動に関係する筋 (図4-12～16、表4-2)	0.375h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.375h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			・肩関節の運動と各運動に関係する筋（図4-19～22、表4-4）			
10	四肢と体幹（顔面・頭部含む）の運動2（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	1,5,6	教科書（p224～245：第2項 上肢帯と上肢の運動 肘・手関節）を用いて、下調べする。 〔予習課題〕 ・肘関節の運動と各運動に関係する筋（図4-25・26、表4-6） ・手関節の運動と各運動に関係する筋（図4-36～38、表4-9（手関節））	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
11	四肢と体幹（顔面・頭部含む）の運動3（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	1,5,6	教科書（p224～245：第2項 上肢帯と上肢の運動 手指）を用いて、下調べする。 〔予習課題〕 ・手指の運動と各運動に関係する筋（図4-39～42、表4-9（MP～CM関節）） ・握りとつまみ（図4-44） ・安静肢位と機能肢位（図4-45） ・手指の変形（図4-46・48）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
12	四肢と体幹（顔面・頭部含む）の運動4（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	1,5,6	教科書（p246～256：第3項 下肢帯と下肢の運動 股関節）を用いて、下調べする。 〔予習課題〕 ・股関節周囲の靱帯（図4-56、表4-10） ・頸体角と前捻角（図4-58） ・股関節の運動と各運動に関係する筋（図4-59～63、表4-12）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
13	四肢と体幹（顔面・頭部含む）の運動5（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	1,5,6	教科書（p256～271：第3項 下肢帯と下肢の運動 膝・足関節）を用いて、下調べする。 〔予習課題〕 ・膝半月板と靱帯（図4-66、表4-13） ・膝関節の運動と各運動に関係する筋（図4-67・68、表4-15） ・足関節の運動と各運動に関係する筋（図4-75～80、表4-18）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
14	四肢と体幹（顔面・頭部含む）の運動6（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	1,5,6	教科書（p271～296：第4項 体幹の運動）を用いて、下調べする。 〔予習課題〕 ・頸椎・胸椎・腰椎の運動（表4-19、図4-110） ・呼吸筋（表4-23、図4-108） ・腰椎椎間板内圧の姿勢による違い（図4-109） ・体幹の運動と各運動に関係する筋（図4-100・112・113、表4-25）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
15	まとめ1（生体力学の基礎）	1,6	教科書とこれまでの配布資料を用いて第3～8回の授業内容を総括する。	0.3 75 h	まとめを再確認する。	0.3 75 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	まとめ2（生体の構造と機能）	1,6	教科書とこれまでの配布資料を用いて第9～14回の授業内容を総括する。	0.3 75 h	まとめを再確認する。	0.3 75 h
17	姿勢1（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	2,5,6	教科書（p347～364：第1項 姿勢とその制御をめぐる～第4項 姿勢の記載と類型）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・基本的立位姿勢と重心線（図7-5） ・姿勢安定性と重心の高さ、支持基底面の広さ（図7-6・7） ・構えと体位（図7-9） ・基本体位（臥位、座位、立位）（図7-11～14）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
18	姿勢2（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	2,5,6	教科書（p364～377：第5項 立位姿勢～第6項 立位姿勢の異常）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・抗重力筋（表7-3） ・外乱負荷に対する筋の応答（図7-25） ・姿勢制御に関連するシステム（図7-26） ・ファンクショナルリーチテスト（図7-29）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
19	運動と動作の分析1（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	2,5,6	教科書（p297～313：第1項 運動行動の諸側面～第3項 作業・動作の分析）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・運動分析用語の抽出（表5-1） ・腕立て伏せの相分類と筋活動（図5-2・3、表5-3） ・作業の区分（図5-4）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
20	運動と動作の分析2（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	2,5,6	教科書（p313～325：第4項 身体運動の検査）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・運動負荷試験のリスク管理（表5-4） ・徒手筋力検査法（MMT）の段階付け（表5-5） ・臥位から立位になるまでのバリエーション（図5-17）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
21	歩行と走行1（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	2,5,6	教科書（p379～389：第1項 歩行と運動学～第3項 運動学的分析）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・歩行周期（図8-3） ・歩行周期の伝統的分類とランチョロスアミーゴ分類（p381～382） ・歩行中の下肢関節の角度変化と重心移動（図8-4・5）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
22	歩行と走行2（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	2,5,6	教科書（p390～401：第4項 運動力学的分析～第5項 筋電図ポリグラフ）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・床反力（図8-11） ・歩行中の主要な筋の活動（図8-20）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
23	歩行と走行3（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	2,5,6	教科書（p401～410：第6項 歩行時のエネルギー代謝～第9項 歩行の神経機構）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・生理的コスト指数（p404） ・6分間歩行テスト（p404） ・漸増シャトルウォーキングテスト（資料なし） ・歩行のCPG説（図8-26）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
24	歩行と走行4（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	2,5,6	教科書（p410～415：第10項 異常歩行）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・中殿筋（トレンデレンブルグ）歩行（p413） ・下垂足（p413） ・痙性歩行（p413・414） ・小刻み歩行およびすくみ足（p414）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
25	歩行と走行5（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	2,5,6	教科書（p415～439：第11項 走行～付 車いすの推進）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・階段昇降時の筋活動（図8-32・34） ・車椅子駆動における手の軌跡（図8-38） ・車椅子駆動時の筋活動（図8-47）	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
26	運動処方（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング） ■	3,5,6	教科書（p327～345）を用いて、下調べする。 [予習課題] ・運動療法の諸原理（p343～344） ・自覚的運動強度とMETS（表3-47（p209）、表6-6） ・様々な活動のMETS（運動強度）（表3-48（p210））	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
27	運動発達（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	4,5,6	教科書（p441～466）を用いて、下調べする。	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h
28	運動学習（講義内容に関連するグループワーク：アクティブラーニング）	4,5,6	教科書（p467～500）を用いて、下調べする。	0.3 75 h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.3 75 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
29	まとめ3（姿勢、運動と動作の分析、歩行と走行）	2～4,6	教科書とこれまでの配布資料を用いて第17～20回の授業内容を総括する。	0.375h	まとめを再確認する。	0.75h
30	まとめ4（運動処方、運動発達、運動学習）	2～4,6	教科書とこれまでの配布資料を用いて第21～28回の授業内容を総括する。	0.375h	まとめを再確認する。	0.75h

合計時間（予習・復習）

22.5 h

^

備考

^

1日につき2回（2コマ）ずつ授業を行う。
■は実務経験に基づく内容を示す。
オンライン授業となる場合には、授業の進め方、評価方法、出席確認の方法について事前に説明する。

印刷





[HOME](#) > 運動学実習

運動学実習

英文名 : Practice of Kinesiology

科目区分 : 専門基礎科目

科目ナンバリング : PAC210

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

正木光裕、樋口大輔

科目に関連した実務経験

理学療法士として常勤で療育センター、一般病院、訪問看護ステーションに勤務（過去）

身体運動学に関する著書を分担で執筆（過去）

理学療法士として非常勤で小児、成人の理学療法に従事（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

実習を通じて「運動学」で修得された姿勢および運動・動作に関する基本的知識を活用する力をつける。

他者との共同作業で必要な協調的態度を涵養する。

到達目標

【精神運動領域】骨および筋の基本的触診を行ってみせることができる。■

【認知領域】観察された姿勢や動作の特徴について運動学的見地から説明することができる。

- 【認知領域】運動学に関わる諸理論を活用することができる。
- 【情意領域】グループワークにおいて協調的態度をとることができる。

使用教材 ^

配布資料
2年生前期「運動学」で使用した基礎運動学（医歯薬出版）
2年生前期「運動学」の配布資料

参考文献 ^

触診に関する資料
運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版（メジカルビュー）
動画でマスター 機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット（メジカルビュー）

評価方法 ^

以下の4項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得し、かつ、実技試験において15点（60％）以上を獲得した場合を合格とする。
基本的触診の実技試験（第7・8回実施：25点）
予習：授業内テスト（グループワーク前に実施：30点）
グループワークでの成果物（グループワーク終了時提出：40点）
グループワークでの同僚評価（グループワーク終了時提出：5点）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

実技試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。
授業内テストについてはテスト後に解答を示す。
成果物についてはルーブリックを用いて採点基準および得点を客観化し、返却する。

オフィスアワー ^

木曜1・2時限
（4号館4階415研究室）

メールアドレス（#→@） ^

masaki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 肩甲帯（肩甲骨）の触診のグループ練習（アクティブラーニング）	1		-		-
2	肩甲帯（その他）の触診のグループ練習（アクティブラーニング） ■	1		-		-
3	上腕～前腕の触診のグループ練習（アクティブラーニング） ■	1		-		-
4	骨盤～大腿の触診のグループ練習（アクティブラーニング） ■	1		-		-
5	下腿～足部の触診のグループ練習（アクティブラーニング） ■	1		-		-
6	体幹の触診のグループ練習（アクティブラーニング） ■	1		-		-
7	上肢の触診技術の確認	1		-		-
8	下肢・体幹の触診技術の確認	1		-		-
9	姿勢のとらえかた1：姿勢の安定性を力学的に考えよう（グループワーク①：アクティブラーニング） 課題1. 重心の推定 課題2. 重心線の推定 課題3. 姿勢の安定性の確認	2,3,4		-		-

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	姿勢のとらえかた1：姿勢の安定性を力学的に考えよう（発表・解説）	2,3,4		-		-
11	姿勢のとらえかた2：姿勢保持に関わるメカニズムを体験しよう（グループワーク②：アクティブラーニング） 課題4. 異なる感覚条件による立位安定性の比較 課題5. 外乱付加時の姿勢変化の観察 課題6. 傾斜反応の観察	2,3,4		-		-
12	姿勢のとらえかた2：姿勢保持に関わるメカニズムを体験しよう（発表・解説）	2,3,4		-		-
13	動作のとらえかた：身近な動作を観察・分析してみよう（グループワーク③：アクティブラーニング） 課題7. 肘関節伸展屈曲運動の運動分析 課題8. 膝関節伸展屈曲運動の運動分析 課題9. 前方へのリーチ動作の運動分析	2,3,4		-		-
14	動作のとらえかた：身近な動作を観察・分析してみよう（発表・解説）	2,3,4		-		-
15	動作分析の実際1：基本動作を力学的に分析してみよう（グループワーク④：アクティブラーニング） 課題10. 寝返り方法の力学的見地からの比較 課題11. 起き上がり方法の力学的見地からの比較 課題12. 立ち上がり方法の力学的見地からの比較	2,3,4		-		-
16	動作分析の実際1：基本動作を力学的に分析してみよう（発表・解説）	2,3,4		-		-
17	歩行に関する基礎知識の復習1（足関節・膝関節を中心に）	2		-		-
18	歩行に関する基礎知識の復習2（股関節を中心に）	2		-		-
19	動作分析の実際2：運動学的視点から歩行分析してみよう（グループワーク⑤：アクティブラーニング） 課題13. 10m歩行テストの実施 課題14. 矢状面からの歩行観察 課題15. 前額面からの歩行観察	2,3,4		-		-
20	動作分析の実際2：運動学的視点から歩行分析してみよう（発表・解説）	2,3,4		-		-
21	動作分析の実際3：運動力学的視点から歩行分析してみよう（グループワーク⑥：アクティブラーニング） 課題16. 立脚各相における床反力の測定 課題17. 立脚各相において作用している筋の推定	2,3,4		-		-
22	動作分析の実際3：運動力学的視点から歩行分析してみよう（発表・解説）	2,3,4		-		-
23	まとめ	2,3,4		-		-
24	まとめ	2,3,4		-		-

合計時間（予習・復習）

-

備考

グループで課題に取り組んでもらうことを基本に授業を進める。不足した情報などがあれば適宜補足する。
1日につき2回（2コマ）ずつ授業を行う。
予習・復習時間は各自で適宜補完すること。

45分を1時間とみなす。

■は実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

[HOME](#) > 生化学

生化学

英文名 : Biochemistry

科目区分 : 専門基礎科目

科目ナンバリング : PAC102

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

石川良樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○									

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人体を構成する成分を分子レベルで理解するとともに、生命活動の維持における生体分子の役割を学習する。②教員の作成したパワーポイントにより、教科書該当部分の抜粋・要約の提示、及びそれに関連する具体例の紹介を行う。同時に、重要部を空欄にしたプリントを配布し、書き込ませながら授業を進める。

到達目標

1. 生体を構成する生体成分の基本的な構造、役割を説明することができる。
2. 生命を特徴づける重要な要素の一つである代謝について説明できる。
3. 遺伝情報とその発現について説明できる。
4. ビタミン、ホルモン、無機物の役割と調節機構について説明できる。

使用教材

人体の構造と機能 2 生化学 （第14版、畠山鎮次著、医学書院） ISBN 978-4-260-03556-9

講義に合わせた空欄のあるプリントを配布する。教科書はプリントの空欄の確認、予習・復習に使用する。

評価方法

▲

試験により評価する。試験成績60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

▲

定期試験後には解答を公表し、自己学習を行えるようにする。

オフィスアワー

▲

授業開始前もしくは終了後に応じる

メールアドレス（#→@）

▲

連絡手段は授業時に説明する。

授業計画表

▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、第1章 生化学を学ぶための基礎知識	1	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
2	第3章 糖質の構造と機能 第4章 糖質代謝	1,2	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
3	第5章 脂質の構造と機能 第6章 脂質代謝	1,2	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
4	第6章 タンパク質の構造と機能 第7章 タンパク質代謝	1,2	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
5	第10章 遺伝子と核酸 第11章 複製 第12章 転写 第13章 翻訳	1,2,3	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
6	水と無機質（該当章なし） 血液と尿（該当章なし） 第9章 ポルフィリン代謝	1,4	生体を構成する無機質の種類と機能を調査しておくこと。該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
7	ホルモンと生理活性物質（該当章なし）	1,4	代表的なホルモンの名称と機能を事前に調査しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h
8	第2章 代謝の基礎と酵素・補酵素	1,4	教科書該当章を熟読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。	1.5 h	配布したプリントや講義メモをもとに、自己の学習ノートを作成すること。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

質問はC-learning上の協働板に設置する「質問コーナー」で受け付ける。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

栄養学 I

英文名：Nutrition I
科目区分：専門基礎科目
科目ナンバリング：PAC113
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と倫理観
4 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
2 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員▲

河原田律子、中村彰男、町田大輔

履修を必須とする資格▲

健康運動実践指導者

SDGsとの関連▲



アクティブラーニング実施方法▲

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッシ ョン、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法▲

毎回実施する小テストに対して、授業中に振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法▲

身体は発育し、成長し生命を維持している。健全な生命活動を営むために食べ物を摂取し、栄養素を補っている。摂取した栄養素が体内でどのように代謝され、生命を維持しているのかを知る。また日本の食文化、食品の分類方法、主観的包括的栄養評価方法、経口摂取できない場合の栄養補給方法などについて知る。

授業の進め方は、教科書の該当範囲と講義に関する最新のトピックスをまとめたスライドで進める。毎回講義の最後に、確認小テストを課し知識の定着を図る。成績は課題と定期試験で付ける。

到達目標



- 1. 栄養学を学ぶ意味、チーム医療について理解できる。
- 2. 生命を維持するための栄養素の働きが理解でき、各食品の栄養学的特徴が理解できる。
- 3. 世界の食文化の多様性と日本食の歴史的特徴、日本人の食事摂取基準（2020）の策定ポイントが理解できる。
- 4. 臨床での栄養評価方法、経口摂取できない場合の栄養補給方法について理解できる。

使用教材



疾病の成り立ち④臨床栄養学ナースンググラフィカ・關戸恵子・株式会社メディカ出版・2022年教科書に沿って講義を行う。配布資料を毎回使用する。

評価方法



期末試験80%、平常点20%（授業参加度・課題・小テストへの取り組みを含む）

課題・評価に対するフィードバック方法



確認小テストや課題を課し、次週に振り返りを行なう。

オフィスアワー



木曜日 1-4時限
1号館406研究室/臨床栄養学研究室
質問はメールでも受付ける。

メールアドレス（#→@）



nasu#takasaki-u.ac.jp（河原田）

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	栄養学を学ぶ目的を理解し、食生活を見直す。	1	医療職が栄養学を学ぶ意義を確認しておくこと。 教科書P12～13を読んでおくこと。	1.5h	食事を見直し、現代の栄養における問題点を理解する。	1.5h
2	栄養素の基礎知識を理解する。① 栄養素の種類と働き／たんぱく質・脂質の栄養学的な特徴、生理作用を理解する。	2	教科書のP14～24を読んでおくこと。	1.5h	たんぱく質、脂質の体内での消化・吸収を理解する。	1.5h
3	栄養素の基礎概念を理解する。② 炭水化物、食物繊維、ビタミンの栄養学特徴、生理作用、欠乏症、過剰症について理解する。	2	教科書のP25～37を読んでおくこと。	1.5h	炭水化物、ビタミンの体内での消化・吸収を理解する。	1.5h
4	栄養素の基礎概念を理解する。③ ミネラルの栄養学的な特徴、生理作用、欠乏症、過剰症について理解する。	2	教科書のP37～46を読んでおくこと。	1.5h	ミネラルの体内での消化・吸収を理解する。	1.5h
5	食品成分とエネルギー、エネルギーの測定方法について理解する。	2	教科書のP58～70を読んでおくこと。	1.5h	食品分類方法、エネルギー代謝について理解する。	1.5h
6	日本人の食事摂取基準（2020年版）策定ポイントを理解する。	2,3	日本人の食事摂取基準とは何か調べておく。 教科書のP71～94を読んでおくこと。	1.5h	食事摂取基準と生活習慣病との関連を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	食文化の多様性と日本の食文化の特徴について理解する。	4	教科書のP96～99を読んでおくこと。	1.5h	世界の食文化と日本の食生活について理解する。	1.5h
8	経口摂取ができない場合の栄養補給方法を理解する。 栄養学 I のまとめ	3	教科書のP153～164を読んでおくこと。	1.5h	嚥下調整食、経管栄養、中心静脈栄養について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

^

備考

講義内容の理解を深めるために、毎回確認小テストで振り返りを行う。
学期末試験は確認小テスト内容と他問題にて実施。
予習・復習時間については、試験前の勉強にて補充すること。
オンラインで実施する場合：状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。

^

印刷





[HOME](#) > 栄養学Ⅱ

栄養学Ⅱ

英文名：NutritionⅡ
 科目区分：専門基礎科目
 科目ナンバリング：PAS110
 学年：1年
 開講期：後期
 選択・必修：選択
 単位数：1単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 0 豊かな人間性と倫理観
 4 専門知識・技術の活用力
 2 論理的思考力
 2 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

河原田律子、宮崎純一*

科目に関連した実務経験

*管理栄養士として医療施設に勤務。臨床栄養管理、給食管理、NST活動などを実践（現在）

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回実施する小テストに対して、授業中に振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

生涯にわたり健康を維持するためには、ライフステージごとの身体の変化とその特徴、食事摂取基準の特徴、望ましい食生活のあり方が重要であることを知る。
医療施設における病態別の栄養管理について知る。

授業の進め方は、教科書の該当範囲と講義に関する最新のトピックスをまとめたスライドで進める。毎回講義の最後に、確認小テストを課し知識の定着を図る。成績は課題と定期試験で付ける。

到達目標

^

- 1.人生各期の健康生活と栄養の特徴について理解できる。
- 2.主な病態別の栄養管理の特徴と食事療法について理解できる。
- 3.病態別の栄養指導について、症例を踏まえて適切な指導法を理解できる。■

使用教材

^

疾病の成り立ち④臨床栄養学ナースングク・グラフィカ,關戸恵子,株式会社メディカ出版,2022年教科書に沿って講義を行う。配布資料を毎回使用する。

評価方法

^

期末試験80%、平常点20%（授業参加度・課題・小テストへの取り組みを含む）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

小テストや課題を課し、次週に振り返りを行なう。

オフィスアワー

^

木曜日 1-4時限
1号館406研究室/臨床栄養学研究室
質問はメールでも受付ける。

メールアドレス（#→@）

^

nasu#takasaki-u.ac.jp（河原田）

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人生各期の健康生活と栄養① 乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期	1	教科書P110～120を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
2	人生各期の健康生活と栄養② 妊娠期・授乳期・高齢期	1	教科書P121～135を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
3	病態別栄養管理①■ 検査のための食事 治療による回復を促す食事	2	教科書P140～152を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
4	病態別栄養管理②■ 消化器疾患（胃・十二指腸・大腸） 栄養成分別コントロール食による栄養管理	2	教科書P168-175を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
5	病態別栄養管理③■ 消化器疾患（膵臓・肝臓・胆嚢）	2	教科書P176～185を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
6	病態別栄養管理④■ 内分泌代謝疾患(肥満・糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症)	2	教科書P186～193を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h
7	病態別栄養管理⑤■ 循環器疾患（高血圧症・動脈硬化症・うっ血性心不全）・腎疾患	2	教科書P194～201を読んでおくこと。	1.5h	次回確認テストのため教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	健康増進のための食事指導 医療現場で行われている疾病別栄養指導の実際。	3	教科書P204～212を読んでおくこと。	1.5h	教科書・配付資料の内容を確認しておくこと。	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

講義内容の理解を深めるために、毎回確認小テストで振り返りを行う。
学期末試験は確認小テスト内容と他問題にて実施。
予習・復習時間については、試験前の勉強にて補充すること。
オンラインで実施する場合：状況に応じ、講義内容、評価方法、試験を変更することがある。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷





[HOME](#) > 病理学

病理学

英文名 : Pathological basis of human diseases

科目区分 : 専門基礎科目

科目ナンバリング : PAC114

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

半田正

科目に関連した実務経験

教育現場（大学 医学部 医学科 / 大学院 医学系研究科、医療技術学部 医療技術学科）と臨床現場（県内の病院）で臨床検査技師・細胞検査士として、病理学教育、病理組織検査、細胞検査に従事。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○									

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①病理学は、解剖学とともに、近現代医学の根幹である。病理学によって確立された医学上の諸概念を知悉しておくことは、初学者から専門職医療人に至るまで、医療に携わるものにとっては避けては通れないものである。この講義では、これまで学んだ、解剖学、組織学、生化学、生理学の知識を確認しながら、「からだのかたちの変化としての病気」をみてゆく、そして、疾病の病因論、病理形態学の基礎知識を学習し、今後の勉学の礎を形成することが目標である。

②講義内容はできるだけ教科書に沿う形で、自作の配布プリント及びパワーポイントを活用し、図や表を元に口頭での説明を交え詳しく説明していく。また、毎回講義の最後に練習問題を解いてもらうので、その日の講義で学んだ内容を振り返ってもらいたい。これはその日の簡単な復習も兼ねており、普段の自主学習や国試の勉強にも役立つものである。

到達目標

^

- 1.病理学の基礎的な概念、用語を理解し、人に説明できる。■
- 2.各臓器で、経験する頻度が高く、重要な疾患の概要を説明できる。■

使用教材

^

系統看護講座専門基礎病理学、大橋健一ら著、医学書院、2025年版

参考文献

^

初回授業時に提示する。

評価方法

^

レポート試験（総論）40%＋期末試験（各論）60%の成績と講義参加状況等総合評価し、60点以上を可とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポート試験、期末試験後に、問題出題意図についてパワーポイントを活用し、口頭で解説する（試験問題、解答用紙は返却しない）。

オフィスアワー

^

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

^

連絡手段は初回授業時に提示する。

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	病理学概論～総論 1 染色体・遺伝子・発生の異常■	1,2	教科書の前書き、シラバス内容を読んで講義目標など理解する。また、教科書の「病理学で学ぶこと、先天異常と遺伝性疾患、生活習慣と環境因子による生体の障害」の部分に目を通す。	1.5h	病理学、病理診断学の医学、医療における意義、病気の原因（内因と外因）、染色体・遺伝子・発生の異常を理解する。	1.5h
2	病理学総論 2 退行性病変、進行性病変■	1,2	教科書の「細胞・組織の損傷と修復、炎症、代謝障害」の部分に目を通す。	1.5h	ヒトの細胞・組織の損傷と修復、代謝障害の種類、原因、病理学的特徴を理解する。	1.5h
3	病理学総論 3 循環障害■	1,2	教科書の「循環障害」の部分に目を通す。	1.5h	循環障害の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5h
4	病理学総論 4 炎症と免疫■	1,2	教科書の「細胞・組織の損傷と修復、炎症、免疫、移植と再生医療、感染症」の部分に目を通す。	1.5h	細胞・組織の炎症と免疫、感染症の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。また、再生医療の現状と展望についても理解する。	1.5h
5	病理学総論 5 腫瘍■	1,2	教科書の「腫瘍」の部分に目を通す。	1.5h	腫瘍の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5h
6	病理学各論 1 循環器系、血液・造血器系の疾患■	1,2	心・血管・骨髄の構造、機能を確認する。	1.5h	心・血管・骨髄の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5h
7	病理学各論 2 呼吸器系の疾患	1,2	上部気道・肺の構造、機能を確認する。	1.5h	上部気道・肺の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	■				理解する。	
8	病理学各論3 消化器系の疾患 1（消化管）■	1,2	消化管の構造、機能を確認する。	1.5 h	消化管の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
9	病理学各論4 消化器系の疾患 2（肝・胆・膵）■	1,2	肝臓・胆嚢・膵臓の構造、機能を確認する。	1.5 h	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
10	病理学各論5 腎・泌尿器・男性生殖器の疾患 ■	1,2	腎・泌尿器・男性生殖器の構造、機能を確認する。	1.5 h	腎・泌尿器・男性生殖器の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
11	病理学各論6 女性生殖器・乳腺の疾患■	1,2	子宮・卵巣・乳腺の構造、機能を確認する。	1.5 h	婦人科・乳腺の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
12	病理学各論7 内分泌系の疾患 ■	1,2	内分泌臓器の構造、機能を確認する。	1.5 h	内分泌系の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
13	病理学各論8 脳・神経・筋肉系の疾患■	1,2	脳・神経・筋肉の構造、機能を確認する。	1.5 h	脳・神経・筋肉系の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
14	病理学各論9 骨・関節疾患、眼・耳・皮膚の疾患■	1,2	骨・関節・眼・耳・皮膚構造、機能を確認する。	1.5 h	骨・関節・眼・耳・皮膚の疾患の種類、原因、結果、病理学的特徴を理解する。	1.5 h
15	病理学各論10 病理組織検査・細胞検査■	1,2	腫瘍の病理学的特徴、正常細胞と癌細胞の違いを確認する。	1.5 h	病理組織検査の意義、細胞検査の癌の早期発見における意義を理解する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



病理学は基礎医学と臨床医学を連携する領域であり、診療に深く関わる診断の重要な領域でもあるので、しっかり履修する必要があります。授業前には関連する解剖・生理学の復習をし、授業後には病理学、臨床医学の関連する領域を復習する。復習には臨床分野の教科書を参考にして、インターネット等も活用して関連する情報の取得して、知識を確認、更新につとめる。

- ・予習・復習については、試験前後の学習で補完すること。
- ・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。（■：実務経験に基づく内容を示す。）

印刷





HOME > 薬理学

薬理学

英文名：Pharmacology
 科目区分：専門基礎科目
 科目ナンバリング：PAC201
 学年：2年
 開講期：前期
 選択・必修：必修
 単位数：1単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 0 豊かな人間性と倫理観
 4 専門知識・技術の活用力
 2 論理的思考力
 2 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

吉田一貴

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、及び体内での運命に関する基本的知識を修得する。

講義形式で行う

到達目標

基本的な疾患についての代表的な治療薬を挙げ、その作用機序ならびに副作用を説明できる。

1. 薬はどのように作用するのか説明できる。
2. 薬はどのように体内をめぐるのか説明できる。
3. 薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題について説明できる。
4. 抗感染症薬について説明できる。
5. 抗がん薬・免疫治療薬について説明できる。
6. 抗アレルギー薬・抗炎症薬について説明できる。
7. 末梢神経系に作用する薬について説明できる。

8. 中枢神経系に作用する薬 について説明できる。
9. 心臓・血管系に作用する薬 について説明できる。
10. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬について説明できる。
11. 物質代謝に作用する薬について説明できる。

使用教材

^

系統看護学講座専門基礎分野「薬理学」第15版
吉岡充弘他編 医学書院 2022年
講義のスライドを随時プリントして配布する。

評価方法

^

受講態度（10 %）および期末試験（90 %）から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

講義の単元ごとに確認問題を提示し、その解説を行う。

オフィスアワー

^

木曜5限。金曜5限。その他適宜対応可能（7号館 実験室 I または320室）。

メールアドレス（#→@）

^

yoshida-k#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	薬理学の概念	1	教科書の総論第1章と第2章のFに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
2	薬はどのように作用するのか	1	教科書 第2章のAに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
3	薬はどのように体内をめぐるのか	2	教科書 第2章のB に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
4	薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題	3	教科書第2章のC、D、E に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
5	抗感染症薬	4	教科書 第3章に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
6	抗がん薬・免疫治療薬	5	教科書 第4章と第5章に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬	6	教科書 第6章に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
8	末梢神経系に作用する薬（1）	7	教科書 第7章のA、B、Cに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
9	末梢神経系に作用する薬（2）	7	教科書 第7章のD、Eに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	中枢神経系に作用する薬 (1)	8	教科書 第8章のA、B、C、Dに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
11	中枢神経系に作用する薬 (2)	8	教科書 第8章のE、F、G、Hに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
12	心臓・血管系に作用する薬 (1)	9	教科書 第9章のA、B、C、Dに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
13	心臓・血管系に作用する薬 (2)	9	教科書 第9章のE、F、G、Hに目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
14	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬	10	教科書 第10章に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h
15	物質代謝に作用する薬	11	教科書 第11章に目を通しておくこと。	1h	確認問題を活用し、講義内容の要点を理解してまとめること。	1h

合計時間 (予習・復習)

30h

^

備考

^

各分野ごとに疾患治療に用いられる代表的な薬物を取り上げ、その作用機序を説明する。
予習復習の不足分は、試験前の学習で補完すること。
オンラインで講義を行う場合は講義スライド及び、講義スライドに音声を入れた動画をC-learningにアップロードします。

印刷



HOME > 公衆衛生学

公衆衛生学

英文名：Public Health
科目区分：専門基礎科目
科目ナンバリング：PAC115
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と倫理観
4 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
2 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小出 省司

科目に関連した実務経験

群馬県庁での保健医療福祉行政（約30年間）
群馬医療福祉大学教授（保健医療福祉関連科目を2年間担当）
NPO群馬がんアカデミー理事長（群馬大学医学部総合外科内・約10年間医療現場の皆様との交流）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○		○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

県内の病院や関係施設等の自主見学等を促す。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①公衆衛生学は健康な集団に対して予防医学的なアプローチを行うところに特徴がある。公衆衛生学の歴史を学びながら、保健・医療・福祉・介護又は環境等との関連を理解し、現在の公衆衛生的なものの見方、考え方を習得し、将来の看護師、保健師、助産師、養護教諭、理学・作業療法士等の業務を遂行していく際の参考となるような知識を習得する。

②教科書、参考書・関連資料等の具体的説明とともに、新聞資料、関連パンフレット特に厚生労働省等をはじめとする行政の情報を的確に提供していく授業を進めたい。

到達目標 ▲

- 1 公衆衛生学に関する基本的な概念を理解し説明できる。
- 2 関連する法律・法制度、基本的な用語、社会・環境と健康の関連を説明できる。
- 3 現在のわが国の公衆衛生活動を理解し説明できる。

使用教材 ▲

well-beingを目指す公衆衛生学（東京教学社）

参考文献 ▲

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

評価方法 ▲

期末のレポート（90%）及び毎回の授業時に質問・感想・意見等を求めその対応等（10%）により総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

授業中、可能な限り質問を受けたり、各課題に対する学生の意見を聞いたりまたEラーニングでの質問も受けていく。

オフィスアワー ▲

必要に応じて対応する。

メールアドレス（#→@） ▲

koide_seiji1948#jcom.zaq.ne.jp

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1,2,3	この科目を受ける意味を考えて、問題意識を深める。■	1h	今まで学んだ看護等各科目の知識との関連を考察する。	1h
2	社会保障と税の一体改革	2,3	少子高齢化の更なる進展で社会保障全体の改革が求められている。その実際を確認する。持続可能な社会保障制度をどう構築していくか？■	1h	公衆衛生の実現はこれら社会保障制度が有効に運用されて初めて実現することにある。	1h
3	第1章 健康の概念と公衆衛生	2,3	健康増進をキーに公衆衛生の役割とその活動のプロセスを理解する。	1h	公衆衛生学の重要性を理解する。	1h
4	第2章 保健統計と指標	2,3	その統計がどのように作成され、また活用されているか概観する■	1h	それぞれの統計から日本の人口、疾病構造、健康志向等を確認する。	1h
5	第3章 健康状態・疾病の測定と評価（疫学）	1,2,3	疫学とは何かを概観する。そのエビデンスの質のレベルについても考察する。	1h	健康を支える疫学について総合的に学習する。	1h
6	第4章 環境と健康	2,3	今日の最大課題である地球温暖化をはじめ環境の様々な現象が人々の健康にどのような影響を与えているか検討する。■	1h	健康管理の観点から環境を変えることができるか、環境の影響を避けることができるか等を考察する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	第5章 衛生行政と地域保健	1,2,3	社会の基本ルールは法に根拠がある。憲法25条に代表される保健・医療・福祉の公的性を具体的に検討する。また地域保健の基本を理解する。■	1h	実際の行政の現場、法律等がどのように運用されているか、具体的事例をみながら検討する。	1h
8	第6章 健康危機管理と感染症対策	2,3	大きな災害、また新型コロナ等に代表される感染症を改めて概観し、日頃からの準備や緊急事態に如何に対応するか検討する。■	1h	健康危機の未然防止、そのための確かな対応、また被害の回復が万全となるように社会システムを含めて構築していく。	1h
9	第7章 生活習慣および社会環境改善と健康	2,3	生活習慣病予防のための健康対策を概略を理解する。■	1h	良い生活習慣を維持していくための個人、組織・集団、国レベルの対策等を具体的に理解していく。	1h
10	第8章 主要疾患の疫学と予防対策	2,3	それぞれの病気の発生、治療、予防等について事例検証する。	1h	疾病の動きを的確にキャッチし、如何に早期発見・早期治療を実現できるか検討する。	1h
11	第9章 社会保障制度と人権の擁護（保健・医療）	1,2,3	日本の社会保障制度が保健・医療の向上にどのような役割を果たしているか検証する。■	1h	とかく国の制度等は細かな内容で理解不能なところもあるが、国民が理解できる情報提供をどのようにすべきか検討する。	1h
12	第9章 社会保障制度と人権の擁護（福祉・介護）	1,2,3	救済対策から人々の生活向上を実現できる今日の福祉・介護について理解する。■	1h	少子高齢化がさらに進行していく中で人々の福祉や介護が持続可能な制度として維持できるか等を考察する。	1h
13	第10章 ステージに応じた保健活動	2,3	日本の保健制度の原点である母子保健の実際や子供から大人までの健康予防の実際がどうであるかを考察する。	1h	実際の病気の治療と違って、予防活動は国民（対象者）の理解が欠かせないが、どのようなアプローチが有効かを具体例をみながら検証する。	1h
14	第11章 生活の場に応じた保健活動（産業保健、学校保健） 第12章 国際保健	2,3	多くの人が生活している職場や学校での保健活動がどう維持されているかを概観すると共にグローバル化の時代に各国との協力による保健活動を考察する。■	1h	新型コロナに代表される感染症も世界的なパンデミックが課題になったが、そのような観点からの課題解決を検討する。	1h
15	まとめ	1,2,3	授業の全体を振り返って、保健等の専門職を目指す学生にとって「公衆衛生学」の必要性を考察する。	1h	もう一度、教科書等のポイントを押さえていく。	1h

合計時間（予習・復習）

30 h

備考

- ① 毎回講義終了時に学生からの質問等受け付ける。
- ② 公衆衛生学はそれぞれの現場があり、授業中にもそれらの実際等を紹介していく。■
- ③ 日々のニュース（大災害、各自治体での取り組み、新型コロナのようなパンデミック等）を注視し、学習している内容との関連性も検証する。■
- ④ 予習・復習を疎かにしないようお願いする。記載した予習・復習時間に加え必要な学習時間を各自補完すること。
- ⑤ 公衆衛生学は看護学概論等の科目との関連性が大きいのでそれぞれ学んでいる内容との比較検討もお願いする。
- ⑥ リモートワークでの授業の場合はそのシステムをフルに活用して、受講する学生が情報収集できるよう最大限の対応を

すると共にアンケートや資料提供しながら学習を支援していく。

以上、講師が実際の仕事で体験したことや現在の群馬県内での取り組み等を可能な限り情報提供していく。■

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



[HOME](#) > 臨床医学 I（内科学・外科学）

臨床医学 I（内科学・外科学）

英文名：Clinical medicine I (Internal medicine・Surgery)

科目区分：専門基礎科目

科目ナンバリング：PAC116

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



田中聡一

科目に関連した実務経験



非常勤医師として病院に勤務（現在）

履修を必須とする資格



健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標；人の病気に関する臨床医学の基礎を学習する。本科目では呼吸器疾患、循環器疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎泌尿器疾患について学ぶ。

②講義の実施方法；講義、授業内での質疑応答。

到達目標



1. 人の解剖、生理を説明できる ■
2. 疾患の概要（原因、疫学、症状、検査、治療）を説明できる ■

使用教材

^

「なるほどなっとく！内科学」（南山堂） ISBN 978-4-525-20723-6

参考文献

^

「人体のしくみとはたらき」（朝倉書店） ISBN 978-4-254-33008-3

評価方法

^

定期試験100%で評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業中に問題を出題し解答を教授する。オンラインで問題を出題し解答を教授する。

オフィスアワー

^

月曜3-4限（5号館3階302研究室）

メールアドレス（#→@）

^

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	呼吸器疾患；呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
2	呼吸器疾患；慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
3	呼吸器疾患；気道系疾患、肺腫瘍 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
4	呼吸器疾患；肺循環疾患、換気異常 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
5	呼吸器疾患；呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
6	循環器疾患；心不全、不整脈 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
7	循環器疾患；虚血性心疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
8	循環器疾患；心筋疾患、心臓弁膜症 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
9	循環器疾患；先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	循環器疾患；動脈疾患、静脈疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
11	消化管疾患；食道の疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
12	消化管疾患；胃の疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
13	消化管疾患；十二指腸、小腸の疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
14	消化管疾患；大腸の疾患、肛門の疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
15	肝胆膵疾患；急性ウイルス性肝炎、慢性ウイルス性肝炎、肝硬変、肝細胞癌 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
16	肝胆膵疾患；アルコール性肝障害、非アルコール性脂肪肝炎、薬剤性肝障害、門脈圧亢進症 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
17	肝胆膵疾患；胆道疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
18	肝胆膵疾患；膵疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
19	代謝性疾患；糖尿病、低血糖症 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
20	代謝性疾患；肥満症、メタボリックシンドローム ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
21	代謝性疾患；脂質異常症、痛風／高尿酸血症 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
22	代謝性疾患；ビタミン欠乏症・過剰症、骨粗鬆症 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
23	内分泌疾患；視床下部・下垂体疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
24	内分泌疾患；甲状腺疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
25	内分泌疾患；副甲状腺疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
26	内分泌疾患；副腎疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					入。	
27	腎泌尿器疾患；慢性腎臓病 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
28	腎泌尿器疾患；腎・糸球体腎炎、続発性腎疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
29	腎泌尿器疾患；腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
30	腎泌尿器疾患；腎不全 ■	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

合計時間（予習・復習）

22.5h

^

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷





[HOME](#) > 臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）

臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）

英文名：Clinical medicine Ⅱ (Internal medicine・Surgery)

科目区分：専門基礎科目

科目ナンバリング：PAC202

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



田中聡一

科目に関連した実務経験



非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標；人の病気に関する臨床医学の基礎を学習する。本科目では脳神経疾患、血液疾患、膠原病アレルギー疾患、感染症について学ぶ。

②講義の実施方法；講義、授業内での質疑応答。

到達目標



1. 人の解剖、生理を説明できる ■
2. 疾患の概要（原因、疫学、症状、検査、治療）を説明できる ■

使用教材



参考文献 ^

「人体のしくみとはたらき」（朝倉書店） ISBN 978-4-254-33008-3

評価方法 ^

定期試験100%で評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

授業中に問題を出題し解答し正解を教授する。オンラインで問題を出題し解答し正解を教授する。

オフィスアワー ^

月曜3-4限（5号館3階302研究室）

メールアドレス（#→@） ^

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	脳・神経疾患；脳血管障害	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
2	脳・神経疾患；神経変性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
3	脳・神経疾患；中枢神経の脱髄性疾患、末梢神経疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
4	脳・神経疾患；神経・筋接合部疾患、筋疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
5	脳・神経疾患；神経系の感染症、機能性疾患、神経系の腫瘍	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
6	血液疾患；赤血球の疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
7	血液疾患；白血球の疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
8	血液疾患；出血性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
9	膠原病・アレルギー疾患；膠原病	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
10	膠原病・アレルギー疾患；膠原病と同様の全身性炎症性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
11	膠原病・アレルギー疾患；膠原病に関連した疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
12	膠原病・アレルギー疾患；アレルギー性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
13	感染症；細菌性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
14	感染症；真菌性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	感染症；ウイルス性疾患	1,2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

^

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷





[HOME](#) > 臨床医学Ⅲ（老年医学）

臨床医学Ⅲ（老年医学）

英文名：Clinical medicine Ⅲ(Geriatric medicine)

科目区分：専門基礎科目

科目ナンバリング：PAC203

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



田中聡一

科目に関連した実務経験



非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①講義の目標；高齢者の解剖生理学的特徴、高齢者特有の疾患を学習する。

②講義の実施方法；講義、授業内での質疑応答。

到達目標



1. 高齢者の生体・生理を説明できる ■
2. 高齢者特有の疾患を説明できる ■

使用教材



参考文献

「人体のしくみとはたらき」（朝倉書店） ISBN 978-4254330083

評価方法

定期試験100%で評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中に問題を出題し解答を教授する。オンラインで問題を出題し解答を教授する。

オフィスアワー

月曜3-4限（5号館3階302研究室）

メールアドレス（#→@）

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	高齢者の定義、高齢者医療の課題と重要性 ■	1	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
2	老化の生理学的特徴 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
3	老年症候群 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
4	フレイル ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
5	認知症；アルツハイマー型認知症 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
6	認知症；脳血管性認知症 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
7	認知症；レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
8	精神・神経疾患 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
9	運動器の疾患 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
10	皮膚の疾患 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
11	感覚器の疾患 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
12	歯・口腔の疾患 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
13	高齢者と薬 ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
14	高齢者のリハビリテーション ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア ■	1, 2	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

^

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷





[HOME](#) > 臨床医学Ⅳ（小児医学）

臨床医学Ⅳ（小児医学）

英文名：Clinical Medicine Ⅳ(Pediatrics)
 科目区分：専門基礎科目
 科目ナンバリング：PAS300
 学年：3年
 開講期：前期
 選択・必修：選択
 単位数：1単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 0 豊かな人間性と倫理観
 4 専門知識・技術の活用力
 2 論理的思考力
 2 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

鈴木隆

科目に関連した実務経験

1981年より小児科常勤医として病院に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

子どもの疾病についての医学的知識の習得を目的とし、病因・病態・診断・検査・治療等について理解する。
 資料を配布し、パワーポイントによる解説を行う。

到達目標

- 小児に特有な疾患と病態を理解する。
- 診断に必要な所見・検査を理解する。
- 主な治療法について理解する。
- 健康障害をもつ子どもとその家族の生活・療養援助について学ぶ。

使用教材

↑

小児臨床看護各論 医学書院 写真・図・表を中心に資料として講義中に使用する

評価方法

↑

レポート30% 期末試験70%

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

レポートにコメントをつけて返却する

オフィスアワー

↑

質問、学習相談は講義終了後に応じる

メールアドレス（#→@）

↑

suzuki383#harunacoop.or.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人はなぜ病気になるのか、子どもの体と病気の全体像、染色体異常：ダウン症候群■	1,2,4	進化医学、子どもとメディアについて調べておく。教科書第1章を読んでおく	2h	講義資料の重要項目をまとめておく	1h
2	先天性代謝異常・内分泌疾患：糖尿病■、下垂体疾患■、甲状腺疾患■	1,2,3,4	教科書第3章、第4章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
3	アレルギー疾患・免疫疾患・リウマチ性疾患■：食物アレルギー■、喘息■、免疫不全■、若年性特発性関節炎■	1,2,3,4	教科書第5章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
4	感染症 1 ウイルス感染症：インフルエンザ■、ムンプス■、水痘■、風疹■、麻疹■、ヘルペス属ウイルス■	1,2,3,4	教科書第6章のB②まで読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
5	感染症 2 細菌感染症：肺炎球菌■、ヒブ■、溶連菌■、ブドウ球菌■	1,2,3,4	教科書第6章のB③以降を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
6	呼吸器疾患：喉頭炎■、気管支炎■、肺炎■	1,2,3,4	教科書第7章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
7	循環器疾患：先天性心疾患■、不整脈■、心筋疾患■、学校心臓健診■、	1,2,3,4	教科書第8章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
8	消化器疾患：先天異常、胃腸炎■、肝炎■、腸重積■、虫垂炎■、炎症性腸疾患■	1,2,3,4	教科書第9章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
9	川崎病の歴史、疫学、症状、合併症、検査、治療についてのレポート発表会■	1,2,3,4	教科書第8章B③を読んでおく	1h	配布された発表レポートを読んでまとめておく	2h
10	血液疾患・悪性新生物：貧血■、出血性疾患■、白血病■、脳腫瘍■、胎児性腫瘍	1,2,3,4	教科書第10章、11章を読んでおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	腎泌尿器疾患・皮膚疾患：尿路奇形、腎炎■、ネフローゼ■、母斑■、湿疹■	1,2,3,4	教科書第12章、15章を読んでもおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
12	新生児期の疾患・神経疾患：低出生体重児■、新生児黄疸■、てんかん■、脳性マヒ■、脳炎	1,2,3,4	教科書第2章、第13章を読んでもおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
13	耳鼻咽喉疾患・眼疾患・精神疾患：中耳炎■、副鼻腔炎■、斜視■、結膜炎■、発達障害■、PTSD	1,2,3,4	教科書第16章、17章、18章を読んでもおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
14	運動器疾患・事故：先天性股関節脱臼、窒息、交通事故、頭部外傷■、誤飲■、熱中症■	1,2,3,4	教科書第14章、19章を読んでもおく	1.5h	講義資料の重要項目をまとめておく	1.5h
15	総まとめ	1,2,3,4	1～14回の講義の重要項目をまとめておく	3h		0h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

授業はパワーポイントで説明しながら適時学生に質問する。重要項目、内容を補完する図表などは教員の作製する資料を配布する。教科書は診断基準・管理基準の参考及び、図や写真で疾患の理解を深めるために使用する。

予習・復習については試験前後の勉強にて補完すること

毎回の講義では講師の臨床経験を踏まえて実際の症例をなるべく紹介する ■

オンライン授業の場合は毎回講義の後に小テストを行い提出をもって出席の確認を行う。評価は期末試験に替えて2回目のレポートを追加して行う。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷





[HOME](#) > 臨床医学Ⅴ（女性医学）

臨床医学Ⅴ（女性医学）

英文名：Clinical Medicine Ⅴ (Women's Medicine)
 科目区分：専門基礎科目
 科目ナンバリング：PAS301
 学年：3年
 開講期：前期
 選択・必修：選択
 単位数：1単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 0 豊かな人間性と倫理観
 4 専門知識・技術の活用力
 2 論理的思考力
 2 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

竹中恒久

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
 周産期にある経過を理解し、異常な状態や疾患について知識を習得する。■
 また女性性器に起こる疾患についても理解する。■
 ②講義の実施方法
 パワーポイントを使い、教科書に沿って授業を進める。

到達目標

- 1.妊娠、分娩、産褥の生理を理解する。■
- 2.妊娠、分娩、産褥の病理を理解する。■

- 3.出生前診断、不妊症を理解する。■
- 4.女性生殖器の解剖・生理・病態生理を理解する。■
- 5.女性生殖器の診察・検査と治療・処置を理解する。■
- 6.女性生殖器の疾患を理解する。■

使用教材 ▲

母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院
成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院

評価方法 ▲

筆記試験100%

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

試験の問題文の最後に、その問題に該当するプリントあるいは教科書のページを記載し、試験後の学習をやりやすくする。

オフィスアワー ▲

必要に応じて対応する

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	妊娠の生理① 妊娠の成立、胎児の発育と生理 ■	1	教科書2冊のはしがきを読んでおいてください。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
2	妊娠の生理② 妊婦と胎児のアセスメント ■	1	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
3	分娩の生理① 分娩の要素 ■	1	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
4	分娩の生理②産褥の生理 分娩の経過、産褥期の身体的変化 ■	1	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
5	妊娠の異常① ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
6	妊娠の異常② 妊娠疾患、多胎妊娠、流産、早産、異所性妊娠 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
7	分娩の異常① 産道の異常、娩出力の異常、胎位の異常 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
8	分娩の異常② 前置胎盤、常位胎盤早期剥離 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
9	分娩の異常③ 分娩時損傷、産科処置と産科手術 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
10	産褥の異常、新生児の異常 子宮復古不全、新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児 ■	2	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	出生前診断と不妊治療 出生前診断、不妊症の診断治療 ■	3	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
12	女性生殖器の構造と疾患① 女性生殖器の構造と機能、症状と病態生理 ■	4	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
13	女性生殖器の構造と疾患② 診察・検査と治療・処置 ■	5	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
14	女性生殖器の構造と疾患③ 疾患の理解① ■	6	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h
15	女性生殖器の構造と疾患④ 疾患の理解② ■	6	配布プリントの講義該当部分を通読する。	0.5h	教科書の講義内容相当部分を熟読する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

教科書、配布プリント、パワーポイントを用いて、聴覚と視覚から理解してもらうよう授業を進める。

- ・予習・復習の不足時間分については、試験前後の学習で補完すること。
- ・質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後に教室で応じる。また、出席票による質問も受け付ける。

オンライン講義となった場合の対応

- ・講義方法：講義内容の動画視聴による
- ・評価方法：期末に実施するc-learning上のオンライン試験による
- ・出席確認：c-learningのアンケート機能を用いた出欠確認フォームへの記入の有無による
- ・フィードバック：出欠確認フォームに記述のあった質問に、後日回答をc-learning上で行う

■実務経験に基づく内容を示す。

印刷



[HOME](#) > 臨床医学VI（精神医学）

臨床医学VI（精神医学）

英文名：Clinical Medicine VI (Psychiatry)

科目区分：専門基礎科目

科目ナンバリング：PAC204

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



上原 徹

科目に関連した実務経験



精神科医として大学病院等で勤務経験35年以上、現在も非常勤医師として実務を行っている

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



各回で国家試験形式の小テストを開示し、正解を教示する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①学生が、医療専門職である看護師・保健師・理学療法士として必要となる、精神医学や精神医療に関する基本的な知識（成因、症状、診断、治療、経過、支援、動向）を身につけることができる。精神医療機関と治療構造について習得し、チーム医療の視点を生かした援助方法を理解できる。精神保健・医療福祉における関連機関の連繋と、看護師・保健師・理学療法士の役割を身につける。

②授業は、専門業者によるDVD視聴とポイント解説、パワーポイントファイル上映による解説、のハイブリッドで進める。

授業の最後に理解度確認のためのC-Learningによる小テストを行う。休講や実習スケジュールにあわせた開講期間の調整等による補講実施に関しては、オンデマンド動画ファイルで代替える。

到達目標 ^

- 1.精神機能や心理社会的問題の概要を説明できる
- 2.代表的な疾患や障害の基本的概要を理解し解説できる
- 3.精神科医療機関における治療構造や治療の内容特性を解説できる
- 4.精神医療における治療や支援の知識を解説できる
- 5.チーム医療の担う専門職の役割と多職種連携を理解できる ■

使用教材 ^

教科書は特に指定しない。DVD教材を視聴する。

参考文献 ^

参考書としては、専門医がやさしく語る はじめての精神医学、中山書店、渡辺著、改訂第2版 / PT/OT基礎から学ぶ精神医学ノート第2版、医歯薬出版、中島ら著 などがある。

評価方法 ^

期末筆記試験90%、C-Learningによる小テスト提出10%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

専門職としての必要な課題をフィードバックする。必要に応じて、国家試験問題等の解説を行う。

オフィスアワー ^

月3 金3 研究室:1号館5階501

メールアドレス（#→@） ^

授業で提示する

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	精神医学や精神医療のイントロダクション（総論、歴史、診断分類、検査、動向）	1,2	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	0.5h	資料を用いて自習する。	2.5h
2	統合失調症	2,3	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
3	双極症（躁うつ病）	2,3	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
4	うつ病	2,3	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
5	不安症・強迫症など	2,3	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
6	摂食症特論	2,3	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
7	PTSDやストレスに関連する疾病	2,3	特に興味あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	アルコールや物質依存症	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
9	睡眠障害	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
10	認知症	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
11	小児期の精神疾患	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
12	外因性・器質性・症状性疾患など	2,3	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
13	精神科の治療法や支援①	3,4	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
14	精神科の治療法や支援②■	3,4,5	特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。	1h	資料を用いて自習する。	2h
15	リハビリテーションと家族心理教育■	1,2,3,4,5	資料を用いて自習する。	2h	試験問題を復習する。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習に活用できる映像教材やPDFなどを随時公開する。予習復習に関しては、試験前後の学習などで補完すること。不必要な私語や不適切な授業態度は、厳格に対処し、個別に減点する

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



[HOME](#) > 言語障害治療学

言語障害治療学

英文名：Speech Therapy

科目区分：専門基礎科目

科目ナンバリング：PAS400

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

3 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員



中山 翼

科目に関連した実務経験



言語聴覚士として一般病院に20年以上勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



コミュニケーション技術を学ぶための、ロールプレイを実施

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



理学療法提供者としてのコミュニケーションの基本、聴覚言語障害を引き起こす病態や実際の関わり方について学ぶ。講義はオムニバス形式で行い、スライドの資料を配布、実際の治療場面をビデオや写真で示しながら進める。

到達目標



- コミュニケーションの基本、聴覚言語障害の病態について説明することができる。
- 聴覚言語障害のある方との関わり方、代替コミュニケーション手段を述べるができる。■

3. リハビリテーションチームの一員として、臨床で用いられることの多い言語聴覚療法の基本的な評価・治療方法を理解し述べるができる。 ■

使用教材 ^

配布資料

参考文献 ^

必要に応じて授業内で紹介

評価方法 ^

以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。
期末試験（80点）
講義への参加態度（20点）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

各回に質疑応答の時間を設ける。

オフィスアワー ^

質問及び学習相談には、授業前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@） ^

連絡手段は授業時に説明する。

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コミュニケーション概論 ■	1	これまでの臨床実習で感じた自分にとってのコミュニケーションの問題を振り返る。	1h	配布資料を用いて、授業内容を再確認する。	1h
2	よりよいコミュニケーションのために大切なこと（ワークで学ぶ） ■	1,2	講義1（コミュニケーション概論）の配布資料を再確認する。	0.5h	配布資料を用いて、授業内容を再確認する。	1h
3	失語症の方との関わり方 ■	1,2	失語症の病態について下調べをする。	1h	配布資料を用いて、授業内容を再確認する。	1h
4	注意障害とコミュニケーション ■	1,2	注意障害の病態について下調べをする。	0.5h	配布資料を用いて、授業内容を再確認する。	1h
5	構音障害の方との関わり方 ■	1,2	構音障害の病態について下調べする。	1h	配布資料を用いて、授業内容を再確認する。	1h
6	コミュニケーション評価、代替コミュニケーション手段 ■	2,3	講義1～5までの内容について再確認する。	1h	配布資料を用いて、授業内容を再確認する。	1h
7	認知症の方との関わり方 ■	1,2,3	認知症の病態について下調べをする。	1h	配布資料を用いて、授業内容を再確認する。	1h
8	まとめ ■	1,2,3	講義1～7の配布資料を用いて授業内容を再確認し、疑問点や自分なりの意見をまとめる。	1h	まとめ内容を振り返り、学びを整理する。	1h

合計時間（予習・復習）

14h

備考

45分を1時間とみなす。

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

オンライン授業の場合の評価方法・出席方法・フィードバック項目について：講義に準じて実施する。

■は実務経験に基づく内容を示す。

印刷



Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



[HOME](#) > 救急処置

救急処置

英文名：Methods of First Aid
 科目区分：専門基礎科目
 科目ナンバリング：PAC117
 学年：1年
 開講期：後期
 選択・必修：必修
 単位数：1単位
 講義形態：実習
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 0 豊かな人間性と倫理観
 4 専門知識・技術の活用力
 2 論理的思考力
 2 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田中聡一、中川和昌

科目に関連した実務経験

田中聡一；非常勤医師病院に勤務（現在）
 中川和昌；非常勤理学療法士としてクリニックに勤務、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場で活動（現在）

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この授業では一般市民でも行うことができる一次救命処置を中心に、救急処置を学問的・実践的に学習、演習する。また、救急処置が必要な疾患についても学習する。
 ②本科目では講義、ディスカッション、実技で学習する。

到達目標

^

1. 救急処置の必要性の判断方法を説明できる ■
2. 救急処置が必要な疾患を挙げられる ■
3. 救急処置の方法が説明できる ■
4. 救急処置ができる ■

使用教材

^

「写真と動画でわかる一次救命処置」(学研) ISBN 978-4780910469

「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」(南江堂) ISBN 978-4524240340

評価方法

^

定期試験100%で評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業中に問題を出題し解答を教授する。オンラインで問題を出題し解答を教授する。

オフィスアワー

^

月曜3-4限(5号館3階302研究室)

メールアドレス(#→@)

^

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	JCR救急蘇生法2020(田中聡一) ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
2	BLS開始の判断(田中聡一) ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
3	心肺蘇生法(田中聡一) ■	1,2,3,4	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
4	人工呼吸(田中聡一) ■	1,2,3,4	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
5	AED(田中聡一) ■	1,2,3,4	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
6	小児のBLS(田中聡一) ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
7	RICE処置(田中聡一) ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
8	熱中症(田中聡一) ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
9	アナフィラキシーショック(田中聡一) ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h
10	複数疾患の救急処置(田中聡一) ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	0.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	BLSの実際 実技 (中川和昌) ■	1,3,4	これまでの授業で学習したBLSの基礎・方法を復習しておく。	0.5h	授業で実践した実技を復習しておく。	0.25h
12	救急搬送 実技 (中川和昌) ■	1,3,4	搬送方法に関する原則, 方法論を調べておく。	0.5h	授業で実践した実技を復習しておく。	0.25h
13	捻挫、骨折の救急対応 (中川和昌) ■	1,2,3	捻挫、骨折の基礎知識に関して事前に予習する。	0.5h	授業で扱った、捻挫・骨折に対する救急処置について実際に演習して知識を確認する。	0.25h
14	テーピングの準備・意味 (中川和昌) ■	1,2,3,4	教科書にあるテーピングセッションの部分をよみ、あらかじめ、上肢のテーピングに関する意義、重要な点を事前に予習する。	0.5h	授業で扱った、テーピングの導入について実際に演習して知識を確認する。	0.25h
15	テーピングの実際(上肢・下肢) (中川和昌) ■	1,2,3,4	教科書にあるテーピングセッションの部分をよみ、あらかじめ、下肢のテーピングに関する意義、重要な点を事前に予習する。	0.5h	授業で扱った、テーピングの導入について実際に演習して知識を確認する。	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

^

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



[HOME](#) > 整形外科学

整形外科学

英文名：Orthopaedics
科目区分：専門基礎科目
科目ナンバリング：PAC205
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と倫理観
4 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
2 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

飯塚陽一、中川和昌

科目に関連した実務経験

非常勤医師（整形外科医）として病院・診療所に勤務

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

整形外科学の基礎事項の知識を習得できる。また、整形外科学の疾患全般について理解し、理学療法につなげることができる。
教科書を基に整形外科学の基本事項および代表的疾患について学ぶ。その際、実際の症例や資料のスライドを用いて提示する。

到達目標

- 1. 運動器の基本事項を理解する。■
- 2. 整形外科における代表的外傷について理解する。■
- 3. 整形外科における代表的疾患について理解する。■
- 4. 提示した症例に対して、理学療法を中心とした治療方針を決定する能力を身につける。

使用教材 ^

教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版
(ISBN：978-4-260-03203-2)

参考文献 ^

講義のなかで資料として参考文献を提示することがある。

評価方法 ^

対面形式で行う場合：筆記試験により評価する。60%以上の評価で合格と判断する。
オンライン形式で行う場合：オンライン（Zoomを用いる予定）で試験を実施する。60%以上の評価で合格と判断する。
出席管理は、C-learningを用いる。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

特に課題は設けない。
各講義について、定期試験で問う可能性の高い重要な点について情報提供する。

オフィスアワー ^

月曜3-4限、理学療法学科棟3階 311研究室 (不在時はメールで問い合わせること)

メールアドレス（#→@） ^

iizuka-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	整形外科概論P23-P42, P44-P56 ■ 1 整形外科基礎知識 2 運動器の評価および検査法 3 整形外科的治療法	1	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	整形外科基礎知識、運動器の評価および検査法、整形外科的治療法について理解する。	1.5 h
2	【2】骨の構造と骨疾患P2-P5, P77-P78, P75, P62-P63 ■ 1骨の発生と成長（骨の発生、成長、骨の改変と代謝、骨の修復・再生、骨の基本構造、骨の加齢変化） 2退行性骨疾患、代謝・内分泌性骨疾患、感染性骨疾患（骨粗鬆症、骨軟化症、化膿性骨髄炎）	1	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	骨の基本構造と骨疾患について理解する。	1.5 h
3	骨折と骨・軟部腫瘍P127-P133, P91, P97-P103 ■ 1骨折（骨折の分類・症状・診断・合併症、骨折治療の基本原則、骨折の治癒、骨折治癒後の合併症） 1骨腫瘍（原発性良性骨腫瘍、原発性悪性骨腫瘍、癌の骨転移） 2軟部腫瘍（良性軟部腫瘍、悪性軟部腫瘍）	1	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	骨折と骨・軟部腫瘍について理解する。	1.5 h
4	【4】関節の構造と炎症性関節疾患P5-P8, P67, P69, P63-P66 ■ 1関節の基本構造（関節の分類、関節の形態、	2,3	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	関節の基本構造と炎症性（感染性・非感染性）関節疾患について理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	関節軟骨の構造、関節包、滑膜、滑液の構造、関節軟骨の加齢変化、関節軟骨の修復) 2 炎症性関節疾患（化膿性関節炎、関節リウマチ）					
5	【5】代謝・内分泌性関節疾患、退行性関節疾患P76-P77、P78-P81■ 1代謝・内分泌性関節疾患（痛風、偽痛風） 2退行性関節疾患（変形性関節症、神経病性関節症、血友病性関節症）	2,3	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	代表的な代謝・内分泌性疾患、退行性疾患について理解する。	1.5 h
6	【6】末梢神経における外傷性疾患P12-P13, P162-P164, P40-P42, P164-P170■ 1神経損傷とは（神経損傷の原因と分類、臨床症状と検査法、神経損傷の治療） 2末梢神経の外傷性疾患各論（腕神経叢麻痺、橈骨神経麻痺、尺骨神経麻痺、正中神経麻痺、腓骨神経麻痺） 3絞扼性神経障害（胸郭出口症候群、肘部管症候群、前骨間神経麻痺・後骨間神経麻痺、手根管症候群）	2,3	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	末梢神経損傷の基本事項と外傷性疾患・絞扼性疾患について理解する。	1.5 h
7	【7】脊椎の構造と脊柱の変形P111-P122■ 1脊椎の基本構造と機能 2脊柱の変形（脊柱の前弯・後弯、脊柱の側弯） 3脊椎の奇形（脊椎破裂、脊髄髄膜瘤） 4 脊椎・脊髄腫瘍	2,3	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	脊椎の基本構造と機能および代表的疾患について理解する。	1.5 h
8	【8】椎間板ヘルニアと変形性脊椎症P116-P122, P68■ 1 椎間板ヘルニア 2 変形性脊椎症と腰部脊柱管狭窄症 3 後縦靱帯骨化症 4 脊椎の感染性疾患（化膿性脊椎炎、結核性脊椎炎）	2,3	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	脊椎の代表的疾患について理解する。	1.5 h
9	【9】脊椎損傷と脊髄損傷 P133-P135, P149-P154■ 1 脊椎骨折 2 脊髄損傷（受傷機転、病態、脊髄症状） 3 脊髄損傷の治療	2,3, 4	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	脊椎・脊髄損傷の基本事項と治療について理解する。	1.5 h
10	【10】股関節の構造と股関節疾患 P85-P86, P93, P77, P69, P78-P79, P135, P140-P142■ 1 股関節の基本構造 2 小児の股関節疾患（発育性股関節形成不全、Perthes病、大腿骨頭すべり症、化膿性股関節炎） 3 成人の股関節疾患（変形性股関節症、特発性大腿骨頭壊死症） 4 骨盤骨折 5 大腿骨近位部骨折 6 大腿骨骨幹部骨折	1,2, 3,4	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	股関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5 h
11	【10】膝関節の構造と膝関節疾患 P92, P79, P142-P143、P175-P176、P159■ 1 膝関節の基本構造 2 Osgood-Schlatter病	1,2, 4	教科書の該当ページに通す。	1.5 h	膝関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	3 変形性膝関節症 4 膝関節周囲の骨折（大腿骨顆上・顆部骨折、膝蓋骨骨折、脛骨近位端骨折） 5 膝靱帯損傷 6 膝半月板損傷					
12	【11】足・足関節の構造と足・足関節疾患 P 143-P145, P92, P176-P177, P16-P18 ■ 1 足・足関節の基本構造 2 足・足関節周囲の骨折（下腿骨果部骨折、距骨骨折、踵骨骨折、中足骨骨折） 3 骨端症 4 アキレス腱断裂 5 足靱帯損傷 6 足部の変形（内反足、扁平足、外反母趾）	2,3,4	教科書の該当ページに通す。	1.5h	足・足関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5h
13	【12】肩関節の構造と肩関節疾患 P135-P136, P157-P158, P173-P174, P158, P69 ■ 1 肩関節の基本構造 2 肩関節周囲の骨折・脱臼（鎖骨骨折、上腕骨近位端骨折、上腕骨骨幹部骨折、肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼） 3 肩腱板断裂、肩峰下インピンジメント症候群 4 肩関節周囲炎、上腕二頭筋腱炎	1,2,3,4	教科書の該当ページに通す。	1.5h	肩関節の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5h
14	【14】肘関節・前腕の構造と肘関節・前腕の疾患P136-P139, P158, P183-P184 ■ 1 肘関節・前腕の基本構造 2 肘関節周囲・前腕の骨折・脱臼（上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、肘頭骨折、橈骨・尺骨骨幹部骨折、橈骨遠位端骨折、肘関節脱臼、肘内障） 3 上腕骨外側上顆炎、上腕骨離断性骨軟骨炎	2,3,4	教科書の該当ページに通す。	1.5h	肘関節・前腕の基本構造と代表的疾患について理解する。	1.5h
15	【15】手関節・手の構造と手関節・手の疾患、熱傷P139-P140, P174-P175, P64, P70, P188-P190 ■ 1 手関節・手の基本構造 2 手の骨折（舟状骨骨折、中手骨骨折） 3 手の腱損傷と手指の変形 5 ばね指、de Quervain病、Dupytren拘縮 4 熱傷	1,2,3,4	教科書の該当ページに通す。	1.5h	手関節・手の基本構造と手関節・手の疾患、熱傷について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習） ↑

45h

備考 ↑

原則講義形式で実施しますが、理解を深めるためにグループワーク等も実施します。
質問は随時受け付けます。
■：実務内容に基づく内容を示す。

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.



[HOME](#) > 神経内科学

神経内科学

英文名：Neurology
科目区分：専門基礎科目
科目ナンバリング：PAC206
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と倫理観
4 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
2 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田中聡一

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①中枢神経系疾患、末梢神経系疾患、神経筋接合部疾患、筋疾患について、疾患の疫学、原因、症状、診察・検査、治療、リハビリテーションにいたるまで、広い視点で神経学の解剖生理、疾患に関する知識を習得する。
②本科目では、講義、ディスカッションで学習する。

到達目標

1. 神経疾患を起こす原因、病態が説明できる ■
2. 神経疾患の症状が説明できる。■
3. 神経疾患の治療法が説明できる。■

使用教材

^

メディカルスタッフのための専門基礎科目シリーズ 脳神経内科学 ISBN974-4-8446-0882-0
使用教科書と同じものに、ラインやポイントをすでに書き込んだpdfファイルを配付

参考文献

^

「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂) ISBN 978-4525247980
「臨床病態学」1巻(ヌーヴェルヒロカワ) ISBN 978-4861740497

評価方法

^

定期試験100%で評価する。60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題および自己学習による授業中に問題を出題し解答を教授する。オンラインで問題を出題し解答を教授する。

オフィスアワー

^

月曜3-4限(5号館6階602研究室)

メールアドレス(#→@)

^

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	脳神経内科とは ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
2	神経症候 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
3	神経系診察法 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
4	脳血管障害の種類と病態 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
5	脳血管障害の運動症状と非運動症状 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
6	運動ニューロン疾患 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
7	パーキンソン症候群 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
8	脊髄小脳変性症 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
9	神経感染症 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
10	脱髄性疾患 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
11	頭痛、てんかん ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
12	脊椎・脊髄疾患 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
13	末梢神経障害 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	筋疾患 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h
15	神経筋接合部疾患 ■	1,2,3	配付済資料の内容を教科書に記入。	1.5h	授業で学んだことを教科書に追加記入。	1.5h

合計時間（予習・復習）

↑

45h

備考

↑

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷





[HOME](#) > リハビリテーション概論

リハビリテーション概論

英文名 : Introduction of Rehabilitation

科目区分 : 専門基礎科目

科目ナンバリング : PAC103

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と倫理観

2 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

吉田剛、竹内伸行

科目に関連した実務経験

理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験）
非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

レポートに対してコメントを付けて返却

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

リハビリテーション専門職種としてリハビリテーションについて知っておくべき基礎知識を学修する。
I C F の分類および症例検討においてグループディスカッションおよび発表を通して主体的に学修する。
疾患別リハビリテーションでは、実際のケースの写真や動画をみながら学ぶ。
講義は、最初の3回とその後の12回で担当教員が変わり、期末試験も両教員から別の用紙で問題が出され同時間内に回答する。

到達目標 ▲

- 1.生活感をもって障がい捉えることができるようになる。
- 2.ICFの理念を理解して、広い視野で問題を捉え、前向きな解決法を考えることができる。
- 3.問題分析の思考過程を理解して、障害構造についての関連図を作成することができる。
- 4.今後のリハビリテーション従事者になる上での学習資料つくりの方法を習得し、実践できる。
- 5.地域の課題を理解し、これからのリハビリテーションを考える基礎ができる。

使用教材 ▲

テキストは使用せずに、講義時に配布資料を配り使用する。

参考文献 ▲

セラピストのための概説リハビリテーション 嶋田智明 文光堂 4000円+税
参考文献 医学生・コメディカルのための手引書 「リハビリテーション概論」上好ら 永井書店

評価方法 ▲

講義で提出されるレポート30%、グループワークにおける役割と講義参加状況20%、期末試験50%で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ▲

課題については10点満点で総合評価をつけて標記し、全体総評の中でレポートの書き方、課題のポイントの整理などをフィードバックする。

オフィスアワー ▲

金曜日午後

メールアドレス（#→@） ▲

tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp
ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	リハビリテーションの概念と専門職種の役割について	1,4	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1h	リハビリテーションの概念について理解する。	1h
2	障がい者の生活とリハビリテーション■	1	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5h	生活とリハビリテーションの関係について理解する。	1.5h
3	障がい時期とリハビリテーション■	1,3	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5h	障がい時期ごとのリハビリテーションについて理解する。	1.5h
4	訪問リハと住宅改修■	1	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5h	訪問リハと住宅改修について理解する。	1.5h
5	廃用症候群とリスク管理■	1,3	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5h	廃用症候群とリスク管理について理解する。	1.5h
6	ICFの分類と臨床における評価■	1,2,3	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5h	課題についてグループワークを行い、レポートを作成する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	ICFの理念を生かした評価の実際(グループ学習および発表)■	1,2,3	グループワークを元に発表準備を行う。	3h	グループワークでの学習で不足していた点を見直し、理解を深める。	1h
8	運動器系リハビリテーションの実際(脊髄損傷)■	1,2,3	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5h	運動器系リハビリテーションの実際について理解する。	1.5h
9	神経系リハビリテーションの実際(脳卒中)■	1,2,3	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5h	神経系リハビリテーションの実際について理解する。。	1.5h
10	内部障害系リハビリテーションの実際(糖尿病)■	1,2,3	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5h	内部障害系リハビリテーションの実際について理解する。	1.5h
11	認知症に対するリハビリテーション■	1,2,3	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5h	認知症に対するリハビリテーションの実際について理解する。	1.5h
12	症例検討(VTR)■	1,2,3,4	配布資料やキーワードを参考にして、症例検討について自己学習を行う。	1h	症例検討を通してリハの流れを考え理解する。VTRの内容を整理する。	3h
13	問題解決のための臨床思考過程■	1,2,3,4	第12回の症例についてレポートをまとめ、ポイントを整理する。	2h	問題解決のための臨床思考過程について理解する。	1h
14	これからの超高齢社会における地域リハビリテーション■	1, 5	配布資料やキーワードを参考にして、講義内容について自己学習を行う。	1.5h	社会状況を把握し地域リハビリテーションの必要性やその中での理学療法士の役割について理解する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	これまでの本講義の配布資料を参考にまとめの自己学習を行う。	1h	授業内容について整理し、総合的に理解する。	1h

合計時間 (予習・復習)

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。
本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。
副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。
成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

印刷





[HOME](#) > リハビリテーション統計学

リハビリテーション統計学

英文名：Statistics for Rehabilitation
科目区分：専門基礎科目
科目ナンバリング：PAC300
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
 比重 DP
 0 豊かな人間性と倫理観
 3 専門知識・技術の活用力
 4 論理的思考力
 0 チームへの貢献力
 3 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田洋介、竹内伸行

科目に関連した実務経験

理学療法士として急性期・回復期リハビリテーションに従事(過去)
 スケート部医科学スタッフとして身体機能測定・動作解析に従事（現在）
 非常勤理学療法士として生活期リハに従事（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

基礎的な統計用語を理解し、リハビリテーション領域で用いられる主な統計解析手法を習得するとともに、統計ソフトの基本的操作を身につけられるように講義する。

到達目標

- 1. 基本的な統計学用語を理解できる。
- 2. 基本的な統計解析手法を理解し、リハビリテーション関連論文を読解できる。

3. 卒業研究において必要となる統計解析手法を選択し、統計ソフトを使用して実際に解析が行える。
4. リハビリテーション医療において統計学の必要を理解し、他者に説明できる。■

使用教材

^

教科書
リハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学、中山書店、2,592 円
ISBN 978-4-521-73667-9

参考文献

^

- ・ PT・OTのための臨床研究はじめの一步、山田 実、羊土社、2016、3520円
- ・ 4Stepsエクセル統計第3版、柳井久江、オーエムエス出版、2011、4,200円

評価方法

^

授業中に行う演習課題で評価する(100%)。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

演習課題の個人レポートについては、授業終了後に 個別に確認しフィードバックする。

オフィスアワー

^

この科目に関する問い合わせ先：富田洋介（保健医療学部理学療法学科；5号館4階410研究室）
科目責任者のオフィスアワー：月曜6限、金曜6限(不在時はメールで問い合わせること)

メールアドレス（#→@）

^

tomita-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、統計の必要性と概要■ ・なぜ理学療法および理学療法研究において統計処理が必要なのか?を学ぶ。 ・基本統計量および記述統計について学ぶ。	1,2,3,4	基本的な統計用語を理解する。	1.5h	統計解析の必要性、基本統計量トは何かを確認する。	1.5h
2	データの尺度、作表とグラフ化■ ・データの分類を理解する。データを表でまとめ、グラフを作成することによる視覚化を学ぶ。	1,2,3,4	パラメトリックデータとノンパラメトリックデータの違いを理解する。	1.5h	作表および作図の方法、作表および作図の目的、長所を確認する。	1.5h
3	ラメトリック検定とノンパラメトリック検定、差の検定■ ・基本的なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を理解し、2群の差の検定を学ぶ。	1,2,3,4	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定を理解する。	1.5h	基本的なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を確認する。	1.5h
4	相関係数、信頼性係数■ ・2つのデータの関連性を明らかにする手法を学ぶ。 ・信頼性係数を理解し、検者内と検者間の信頼性を学ぶ。	1,2,3,4	相関係数と信頼性係数、および両者の違いを理解する。	1.5h	信頼性係数、相関係数の目的、解析方法を確認する。	1.5h
5	分散分析と多重比較検定、基本的な分散分析とその後に行われる多重比較検定を理解する。■	1,2,3,4	分散分析と多重比較検定について理解する。	1.5h	分散分析と多重比較検定の目的、解析方法を確認する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	理統計解析ソフトによる演習 ① ■ ・ 模擬研究データを設定し、基本的な信頼性の検定および2群間の相関、差の検定を学ぶ。	1,2,3,4	基本的な信頼性の検定および2群間の相関、差の検定を理解する。	1.5h	基本的な信頼性の検定および2群間の相関、差の検定を確認する。	1.5h
7	統計解析ソフトによる演習 ② ■ ・ 模擬データを設定し、基本的な多群間の検定(分散分析、多重比較検定)を学ぶ。	1,2,3,4	基本的な多群間の検定(分散分析、多重比較検定)を理解する。	1.5h	基本的な多群間の検定(分散分析、多重比較検定)を確認する。	1.5h
8	統計解析ソフトによる演習 ③ ■ ・ 模擬データを活用しながら統計解析ソフトを操作し、これまでの学習内容を振り返る。 ・ リハビリテーションに必要な基本的統計手法を再確認する。	1,2,3,4	基本的なデータの作表、グラフ化を理解する。	1.5h	基本的なデータの作表、グラフ化)を確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

^

備考

各授業の前半はPCプレゼンテーションを用いた講義形式で統計解析手法の概要および詳細を説明し、後半は統計解析ソフトを用いて模擬データによる統計解析を演習形式で行う。
授業は教員が作成した資料および指定教科書を用いて、紙面とPCプレゼンテーションを活用しながら要点をまとめていく。
■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷





[HOME](#) > 臨床心理学

臨床心理学

英文名 : Medical treatment clinical psychology

科目区分 : 専門基礎科目

科目ナンバリング : PAS200

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

千葉千恵美

科目に関連した実務経験

心理相談員として大学附属センターの相談機関で勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

医療臨床による対人援助の基本を学び、より実践的な治療方法や支援方法について学修を目指す。患者さんや家族の立場で考えられるように、具体的な症状に添った援助技術の習得を目指す。授業の進め方：講義とグループの2部形成に分かれ、学生同士の考えを引き出す等発表形式を取る。箱庭療法の体験等学生自身の学びが出来る形式を取る。毎回授業の終わりに授業の内容の感想シートを記述させ、各自のまとめとして提出させる方法を取る。

到達目標

1. 医療臨床による臨床心理学を理解する事が出来る。
2. 医療臨床における臨床心理学の役割と関連性について、理解する事が出来る。

- 3. 具体的な事例検討や症例に添い、クライアントや家族の関わり等を応用する事が出来る。■
- 4. 体験的な治療方法や支援方法を学ぶ事で、より実践的な治療や支援を考える事が出来る。■

使用教材 ^

配布した症例に関するプリント又スライドによる内容を主な教材とする

参考文献 ^

授業内で配布する資料

評価方法 ^

授業後の感想シート 20% 定期試験 80% で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

感想シートに記載された質問は、授業を通じてフィードバックする。また試験課題についてもフィードバックする。

オフィスアワー ^

火曜日4, 5限目

メールアドレス（#→@） ^

chiba#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	シラバスを読み、事前に臨床心理学についての知識を予習する	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、臨床心理学について理解を深める	1.5h
2	医療と臨床心理学	1,2	事前に第1章p11-p23を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、医療における臨床心理学の理解を深める	1.5h
3	医療と臨床心理学のこれから	1,2	事前に第1章p24-p31を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義の配布資料を読み返し、医療と臨床心理学のこれからの理解を深める	1.5h
4	医療における臨床心理学的アプローチ	1,2,3,4	事前に第2章p35-p43を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し心理面接や不安コントロールの理解を深める	1.5h
5	カウンセリング・心理療法 ■	1,2,3,4	事前に第2章p44-p52まで読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、買うセリング・心理療法の理解を深める	1.5h
6	心療内科領域での対応	1,2,3,4	事前に第3章p57-p61を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し心身症と臨床心理学の歴史の理解を深める	1.5h
7	乳幼児期の心身症への臨床心理学アプローチ（ロールプレイ） ■	1,2,3,4	事前に第3章p63-p72を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、乳幼児期の臨床心理学の理解を深める	1.5h
8	学童期の心身症への臨床心理学的アプローチ（ロールプレイ） ■	1,2,3,4	事前に第3章p74-p86を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、学童期の臨床心理学の理解を深める	1.5h
9	思春期・青年期の心身症へのアプローチ（ロールプレイ） ■	1,2,3,4	事前に第3章p74-p86を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、思春期・青年期の心身症の理解を深める	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	成人・高齢期の心身症への印象心理学的アプローチ（ロールプレイ）	1,2,3,4	事前に第3章p90-p99を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、成人期・高齢期の心身症の理解を深める	1.5h
11	神経・精神科領域での対応（ロールプレイ）	1,2,3,4	事前に第4章p107-p149を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、神経・精神科領域の心身症の理解を深める	1.5h
12	リハビリテーション・高齢期医療での対応（ロールプレイ）	1,2,3,4	事前に第5章p157-p174を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義の配布資料を読み返し、リハビリテーション・高齢期医療の理解を深める	1.5h
13	医療の新しい領域でのアプローチ（ロールプレイ）	1,2,3,4	事前に第6章p183-p198を読み、講義内容にふれる	1.5h	講義で配布した資料を読み返し、新しいアプローチの理解を深める	1.5h
14	臨床心理学に必要なアプローチ（箱庭療法）■	1,3,4	事前に配布した資料に目を通し、講義内容にふれる	1.5h	講義修了后感想シートを記載し、箱庭療法についての理解を深める	1.5h
15	まとめ 臨床心理学の今後課題と展望	2,4	事前に今まで配布した資料に目を通し、講義内容を振り返る	1.5h	講義修了後配布した資料を読み返し、臨床心理学のまとめをする	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

Key Word :医療臨床 対人援助 クライアントと家族 臨床心理学

授業の進め方：講義と修了後グループに分かれグループワークを行い発表する2部形式で行う。又授業の感想シートを記述し、毎回授業のまとめを行う方法をとる。予習・復習は授業の補完とする。

オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。

（■：実務経験に基づく内容を示す。）

^

印刷 

[HOME](#) > 保健医療福祉行政論

保健医療福祉行政論

英文名 : Social Welfare and Policy in Health Care

科目区分 : 専門基礎科目

科目ナンバリング : PAS210

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小出 省司

科目に関連した実務経験

群馬県庁での保健医療福祉行政（約30年間）

群馬医療福祉大学教授（保健医療福祉関連科目を2年間担当）

NPO法人群馬がんアカデミー理事長（群馬大学医学部総合外科内・約10年間医療現場の皆様との交流）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○		○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

県内の病院や関連施設等の自主見学等を促す。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①保健・医療・福祉活動は、憲法第25条に基盤を置いて運営されているので、その法的基盤や財政の状況を知る。合わせて地域における保健・医療・福祉の現状と今後の課題を考える。
- ②教科書、参考書・関連資料等の具体的説明と共に、新聞資料、関連パンフレット、特に厚生労働省等をはじめとする行政庁の情報を的確に提供していく授業を進めたい。

到達目標 ↑

- 1 保健・医療・福祉に関する基本的な概念を理解し説明できる。
- 2 関連する法律、基本的な用語、現実の社会・環境と健康の関連を説明できる。
- 3 現在のわが国の保健・医療・福祉活動を理解し説明できる。

使用教材 ↑

- ①標準保健師講座「保健医療福祉行政論」（医学書院）
- ②「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）
- その他必要により関連する資料を配付する。

参考文献 ↑

必要に応じて

評価方法 ↑

期末レポート（90％）、及び毎回の授業終了時に質問・感想・意見等の聴取（10％）により総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

授業中、可能な限り質問を受けたり各課題に対する学生の意見等をフィードバックしていきたい。

オフィスアワー ↑

必要に応じて対応する。

メールアドレス（#→@） ↑

koide_seiji1948@jcom.zaq.ne.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1,2,3	この科目を受ける意味を考えて、問題意識を深める。■	2h	今まで学んだ看護学等各科目との関連性を考察する。	1h
2	社会保障と税の一体改革	1,2,3	少子高齢化の更なる進展で社会保障全体の改革が求められている。その実現を確認する。持続可能な社会保障制度をどう構築していくか考える。■	2h	社会保障制度が有効に運営されてこそ保健医療福祉の目的が達成されるのでそれを確認する。	1h
3	1章 保健医療福祉行政の基本 2章 保健医療福祉制度の変遷	1,2,3	住民の健康福祉の向上が目的であるが、現実がどうなっているか。特に憲法に規定された公的責任の意味を考察する。また、歴史的にどう発展してきたかを確認する。■	2h	社会保障の充実がどのように形成されてきたかを検証する。	1h
4	3章 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み	2,3	社会保障の具体的な実現には行政の充実と財源の確保が欠かせないことを理解する。■	2h	その実態がどうなっているかを具体駅事例等で確認していく。	1h
5	4章 地域保健行政と保健師活動	2,3	健康の基本は予防であるが、健康寿命の向けて向けて今どのように保健活動が展開されているかを理解する。その中心的任務の保健師の活動状況を確認。■「	2h	各種保健医療統計等で活動実績が公表されているが、それらを参考の今後の課題についても確認していく。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	5章 社会保障制度と政策	1,2,3	年金、医療、福祉等の諸制度を理解し、現実社会の中で如何に機能しているか検証する。■	2h	それぞれの目的が実現できているか、どこに課題があるかを具体的事例をみる中で確認していく。	1h
7	6章 保健医療福祉計画と評価	2,3	保健医療福祉の事業は多くの人材、莫大な費用が必要、それを年次的に効果的な運営が必要です。その辺を検証する。■	2h	実現可能な計画か、どのような過程で計画されたか、また、Plan.Do,Seeのサイクルが機能的か等を確認する。	1h
8	ここから「国民衛生の動向」 第1編 わが国の社会保障の動向と衛生行政の体系	1,2,3	日本の社会保障制度の鳥瞰図を確認し、今後の課題等を検討していく。■	1h	当面の課題は何か、国民は何で困っているか等を検討し今後のあるべき姿を求めていく。	1h
9	第2編 衛生の主要指標	2,3	各種の保健医療統計等を確認し、医療や保健の実態を把握する。■	2h	データから見えてくる保健医療福祉の実態を検証し、今後の課題を考察する。	1h
10	第3編 保健と医療の動向	2,3	生活習慣病、がん、感染症などの保健と医療の具体的な実態を理解する中でこれからの課題を検証する。■	2h	健康の維持の観点から様々な疾患の治療等がどうなっているか検証する。	1h
11	第4編 医療提供体制と医療保険 第5編 介護保険	2,3	病院、診療所等の実態はどうか、また多額な医療費を保険で全て賄えるか等を確認する。2000年に始まった介護保険制度の課題について検討する。■	2h	持続可能な医療保険制度のあり方を検証していく。	1h
12	第6編 薬事 第7編 生活環境	2,3	それぞれの制度の概要、問題点、今後の課題等について検証。	2h	国民の健康増進にどのように役立っているかを検討する。	1h
13	第8編 労働衛生 第9編 環境保健 第10編 学校保健	2,3	働き方改革等の議論、地球温暖化の今後、教育の中での健康管理など国民生活にとって大きな問題であるこれらについて検証する。■	1h	国民の健康福祉の増進にどう関連しているか具体的に検討していく。	1h
14	保健医療等に関連する「新書」からの情報収集（新書は未定）	1,2,3	今まで学んだ保健医療福祉の課題がどうなっているか、参考書から情報収集。■	2h	保健医療福祉の課題がどうなのか、本書より確認する。	1h
15	まとめ	1,2,3	授業の全体を振り返り、保健等の専門職を目指す学生にとって「保健医療福祉行政論」の必要性を考察する。■	2h	もう一度、教科書等のポイントを押さえていく。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ① 毎回講義時に学生からの質問等受け付ける。
- ② 保健医療福祉行政論が対象とする現場は数多くあり、授業中にもそれらの実際等を紹介していく。■
- ③ 日々のニュース（大災害、各自治体での様々な取り組み、新型コロナのようなパンデミック等）を注視し、学習してい

る内容と

の関連性も検証する。■

- ④ 予習・復習を疎かにしないようお願い記載した記載した予習・復習時間に加え必要な学習時間を各自補完すること。
- ⑤ 保健医療行政論は看護学概論等他の科目との関連性が高いのでそれぞれ学んでいる内容との比較検討もお願いする。
- ⑥ リモートワークでの授業の場合そのシステムをフルに活用して、受講する学生が情報収集できるよう最大限の対応をすると共に

アンケートや資料提供しながら学習の支援をしていく。

以上、講師が実際の仕事で体験したことや現在の群馬県内での取り組み等を可能な限り情報提供していく。■

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

HOME > 社会調査特論

社会調査特論

英文名：Social Research
科目区分：専門基礎科目
科目ナンバリング：PAS310
学年：3年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と倫理観
4 専門知識・技術の活用力
2 論理的思考力
2 チームへの貢献力
2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

安達正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○			○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 本講義の目的は、保健医療分野における実証的研究の手法として、社会調査の基本的な知識や技法を解説することによって、受講生が現代の理学療法士の業務における社会調査の意義を理解することである。
- ② 講義の実施方法としては、社会調査の実施過程にそって講義を進めていき、毎回の講義後に課題レポートを提示し、次の講義では各受講生が提出した課題レポートについて、担当者と全受講生で検討するといった双方向的な講義をおこなう。

到達目標



- (1) 理学療法学を専攻する大学生としての基礎的知識力として、社会調査の基本を身につけることができる。
- (2) 社会調査を学ぶことを通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。
- (3) 社会調査の技法を学ぶことで、専門知識・技術の活用力を身につけることができる。■
- (4) 社会調査を学ぶことで、論理的思考力を身につけることができる。
- (5) 社会調査の技法を会得することで、理学療法の現場のチームの一員としての協調・協働を身につけることができる。
- (6) 社会調査の基礎を身につけることで、専門家としての生涯学習力を身につけることができる。

使用教材



講義中に、毎回、配布する。

参考文献



講義中に、適宜指示する。

評価方法



第2回以降に提出する作業レポート（50%）、ならびに学期末レポート（50%）により、評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法



第2回以降に提出する作業レポートには講義中にコメントがつけられるので、これを参考にしながら、最終的な学期末レポートを作成する。

オフィスアワー



火曜日5限・6限

メールアドレス（#→@）



adachi-m#takasaki-u,ac,jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションとして、配布資料に基づいて社会調査の概要を解説する。	1,2,3,6	不要。	0h	社会調査の概要について理解しておくこと。	1.5h
2	配布資料に基づいて、社会調査のための情報資源にいかアクセスするか、それをどのように活かしていくのかを解説する。	1,2,3,4,6	第1回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5h	各受講生が自分の関心にしたがって、調査にむけての情報を収集して、次回に小レポートを作成すること。	1.5h
3	配布資料に基づいて、量的調査（質問紙調査）と質的調査（面接調査）について解説する。小レポートを回収する。実務経験で得た調査結果を事例として提示する。■	1,2,3,4,6	第2回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5h	とくに質問紙調査の手法について理解することによって、各自の関心に基づいたテーマと仮説を小レポートとして作成すること。	1.5h
4	各自のテーマと仮説を全体で検討した後で、配布資料に基づいて調査票の作成方法を解説する。前回の小レポートは、コメントをつけて返却する。	1,2,3,4,6	第3回で配布された資料をよく読んでおくこと。	1.5h	講義中のコメントを参考にして、各自のテーマと仮説を修正しておくこと。また、その仮説を検証するための調査票を小レポートとして作成すること。	1.5h
5	データの分析方法について、配布資料に基づいて解説する。	1,2,3,4	第4回で配布された資料を	1.5h	データ分析の方法について復習しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
		6	よく読んでおくこと。			
6	教室内で各自の修正した調査票を配布して、実査（調査者側と被調査者側）を体験する。小レポートにコメントをつけて返却する。	1,2,3,4,6	受講生数に応じて調査票を用意しておくこと。	1.5h	各自の記入済みの調査票を点検しておくこと。	1.5h
7	調査報告書のまとめ方について、配布資料で解説する。	1,2,3,4,6	各自のデータ分析の計画を作成しておくこと。	1.5h	データ分析の方法を復習して、データ分析をおこなうこと。	1.5h
8	全講義を振り返って、あらためて社会調査のやり方について解説する。	1,2,3,4,5,6	これまでの講義の配布資料を読み直しておくこと。	3h	これまでの講義の配布資料を参考にしながら、調査報告書を作成すること。	3h

合計時間（予習・復習）



25.5h

備考



1回でも欠席すると講義に参加できなくなりますので、8回すべてに出席することが不可欠です。
なお、以上のシラバスは対面授業を想定しており、遠隔授業になった場合には各受講生がおこなう作業は質問紙作成までになり、各受講生がおこなう予定のデータ収集・分析については解説のみになりますので、了承してください。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

チーム医療アプローチ演習

英文名：Interprofessional Medicine

科目区分：専門基礎科目

科目ナンバリング：PAC400

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

1 専門知識・技術の活用力

1 論理的思考力

6 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊秀臣（理学）、倉林しのぶ・梅原里美・小池洋子・茂木佐智子・内田真理子・中川裕・生方敬美（看護）、篠原智行・齊田高介（理学）、大林恭子・青森達・前田恵里・高橋恵美利・高橋雄太・信田智哉・長嶺歩（薬学）、木村憲洋・三澤安利沙（情報）、竹内真理・河原田律子・野口礼於奈（栄養）、原田欣宏・富田俊・加藤大輔（社会福祉）、内田祥子（子ども教育）

科目に関連した実務経験

*各学科のコア教員のみ

渡邊秀臣（理学）：非常勤医師（整形外科医）として病院に勤務

小池（看護）：看護師として一般病院に勤務（経験）

篠原（理学）：理学療法士として急性期、回復期病院に勤務（経験）。生活期病院に非常勤勤務。

高橋雄太（薬学）：薬剤師として大学病院に勤務（経験）、調剤薬局に非常勤勤務。

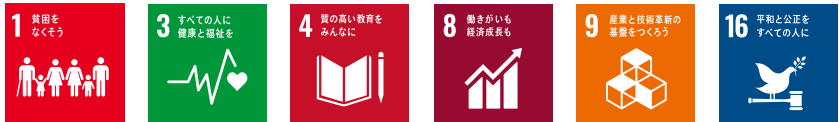
木村（情報）：病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務（経験）

竹内（栄養）：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）。健大附属クリニック管理栄養士兼務。

加藤（社会福祉）：MSWとしてケアミックス病院に勤務（経験）

内田（子ども教育）：保育者養成校での学外実習の指導（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①より安全で質の高い医療の提供にはチーム医療が欠かせない。その上で最善の医療や福祉を提供することができるよう、チームや多職種連携のあり方や課題、工夫について学び、自身の考えを述べられるようになる。

②グループワークのテーマは事前に座学形式で示す。グループワークのほとんどは複数学科の履修生で構成したグループで行う。最終的に模擬症例に対する最善の医療についてグループの成果物を作成し発表する。

到達目標

- 1. 多職種間での情報伝達・共有の必要性を理解し、効果的な情報伝達・共有方法について考えを述べられる。■
- 2. 各専門職の役割と活動について理解し、多職種が連携・協働することの意義を述べられる。■
- 3. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の連携・協働の必要性を説明できる。■
- 4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。■

使用教材

関連する資料を随時配布する。

参考文献

指定なし。

評価方法

1～4回の振り返りシートの記述内容、演習参加への積極性・授業態度40%、5・6回の模擬症例検討内容等20%、7・8回の演習参加への積極性・授業態度および発表内容・発表態度20%、授業後レポート20%

課題・評価に対するフィードバック方法

模擬症例検討ではグループごとに発表し、教室担当の教員がフィードバックする。

オフィスアワー

渡邊（理学）：金曜3限、5号館1階学部長室
小池（看護）：月曜4限、5号館207研究室
篠原（理学）：水曜3限、4号館416研究室
高橋雄太（薬学）：水曜2限、7号館323研究室
木村（情報）：月曜1限、7号館610研究室
竹内（栄養）：木曜2限、1号館308研究室
加藤（社会福祉）：木曜2限、1号館513研究室
内田（子ども教育）：月曜1限、8号館410研究室

メールアドレス（#→@）

渡邊（理学）：watanabe-h#takasaki-u.ac.jp
小池（看護）：koike-y#takasaki-u.ac.jp
篠原（理学）：shinohara-t#takasaki-u.ac.jp
高橋雄太（薬学）：takahashi-yu#takasaki-u.ac.jp
木村（情報）：norihito#takasaki-u.ac.jp
竹内（栄養）：mtakeuchi#takasaki-u.ac.jp
加藤（社会福祉）：kato-d#takasaki-u.ac.jp
内田（子ども教育）：uchida-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス/ノンテクニカルスキル【合同】■	1,2,3,4	チーム、チーム医療について調べておく。	1.5h	ノンテクニカルスキルとは何かを整理する。	1.5h
2	効果的なチーム、チーミング【合同】■	1,2,3,4	チーム、チーム医療について調べておく。	1.5h	チーム、チーミングとは何かを整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	効果的な情報伝達と共有；実践【合同】 ■	1	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 h	情報伝達と共有方法についての課題を整理する。	1.5 h
4	効果的な情報伝達と共有；グループワーク【合同】 ■	1,2,3,4	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5 h	情報伝達と共有方法についての課題と工夫を整理する。	1.5 h
5	チームカンファレンスの目的と方法【各学科】 ■	1,2,3,4	病院の内外で実施されるチームカンファレンスにはどのようなものがあるかを調べておく。	1.5 h	チームカンファレンスのあるべき姿や課題を整理する。	1.5 h
6	模擬症例検討① 模擬症例に対する自職種の役割、アプローチ【各学科】 ■	1,2,3,4	模擬症例の疾病や治療について調べ、自職種の関わり方を考えておく。	1.5 h	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5 h
7	模擬症例検討② 模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチ；グループワーク【合同】 ■	1,2,3,4	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する準備をしておく。	1.5 h	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 h
8	模擬症例検討③ 模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチ；発表【合同】 ■	1,2,3,4	発表の準備をしておく。	1.5 h	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。
【副専攻対象科目】（生物生産除く）本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。
副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する、また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



[HOME](#) > 社会福祉概論

社会福祉概論

英文名 : Study of Social Welfare

科目区分 : 専門基礎科目

科目ナンバリング : PAS201

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く 

すべて閉じる 

担当教員



石坂公俊

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



社会福祉は多くの人々の生活に密接に関わっている。「すべての人が幸せに生活するために」という福祉の目標は、全てに共通する価値(=あるべき姿)である。一方で解決すべき問題は、個人の問題として、家族の問題としてあるいは社会の問題として現れる。本講義では、社会福祉の枠組み及び基礎的知識、課題や問題の理解などを学習することを目的としている。基本的に講義形式で行うが、講義の中ではVTR等も援用する。

到達目標



- 社会福祉の課題及びニーズを理解できる。
- 社会福祉の法制度・仕組みを理解できる。
- 社会福祉の援助の方法・技術などを理解できる。

使用教材



講義レジュメを配付する。

参考文献

^

特記事項なし

評価方法

^

定期試験60％，レポート10％，学修意欲30％
総合評価60％以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

提出されたレポートにはコメントを付けて返却する。

オフィスアワー

^

水曜日5時限，質問はメールでも受け付ける。（1号館503研究室）

メールアドレス（#→@）

^

kimi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し，学習内容を再確認する。	1.5h
2	社会福祉を取り巻く諸状況	1,3	講義テーマについて確認し，関連資料を収集し，疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し，学習内容を再確認する。	1.5h
3	社会福祉の歴史と展開	1,3	講義テーマについて確認し，関連資料を収集し，疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し，学習内容を再確認する。	1.5h
4	社会福祉の機関と施設，専門職と連携	1,3	講義テーマについて確認し，関連資料を収集し，疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し，学習内容を再確認する。	1.5h
5	社会福祉の援助と方法	3	講義テーマについて確認し，関連資料を収集し，疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し，学習内容を再確認する。	1.5h
6	公的扶助・貧困問題①生活困窮（貧困）の理解	1,2,3	講義テーマについて確認し，関連資料を収集し，疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し，学習内容を再確認する。	1.5h
7	公的扶助・貧困問題②生活保護制度の理解	1,2,3	講義テーマについて確認し，関連資料を収集し，疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し，学習内容を再確認する。	1.5h
8	子ども家庭福祉① 子どもの貧困	1,2,3	講義テーマについて確認し，関連資料を収集し，疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し，学習内容を再確認する。	1.5h
9	子ども家庭福祉② 子育て支援	1,2,3	講義テーマについて確認し，関連資料を収集し，疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し，学習内容を再確認する。	1.5h
10	高齢者福祉① 生活の実態	1,2,3	講義テーマについて確認し，関連資料を収集し，疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し，学習内容を再確認する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	高齢者福祉② 保健福祉制度	1,2,3	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5h
12	障害者福祉① 障害論	1,2,3	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5h
13	障害者福祉② 権利保障	1,2,3	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5h
14	地域福祉	1,2,3	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5h
15	復習・まとめ	1,2,3	講義テーマについて確認し、関連資料を収集し、疑問点等について整理する。	1.5h	配付されたレジュメを読み返し、学習内容を再確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

↑

45h

備考

↑

基本的に講義形式で行いますが、講義の中ではVTR等も援用します。リアクションペーパーを課すことがありますが、提出されたものを受講者で情報共有するケースもあるのでそのつもりで提出してください。予習・復習については、試験前の学習で補完してください。

印刷





[HOME](#) > 理学療法概論

理学療法概論

英文名 : Introduction of Physical Therapy

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PBC100

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と倫理観

2 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

解良武士

科目に関連した実務経験

理学療法士として、大学病院および急性期総合病院（経験）、非常勤理学療法士として慢性期病院勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①これから理学療法を学ぶ学生の理学療法や職業としての理学療法士の基盤を形成する。

②これから一層進行していく高齢化において、医療・福祉分野で広く必要とされる理学療法について、その定義・位置づけ・関連法規・倫理・生涯学習などについて解説する。

到達目標

- 1.理学療法・理学療法士の概略と法的根拠について説明できる ■
- 2.理学療法士に関わる職業倫理について説明できる ■
- 3.理学療法が生涯教育として理解できる ■

使用教材 ^

石川 朗・浅香 満 15レクチャーシリーズ 理学療法概論、中山書店2017

参考文献 ^

適時配布する資料

評価方法 ^

筆記試験50% ポートフォリオ50%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

ポートフォリオを通してまたは講義中にコメントする

オフィスアワー ^

水曜日2限目
研究室：4号館4階418研究室

メールアドレス（#→@） ^

kera#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、理学療法の概要とリハビリテーションにおける理学療法士の役割	1	教科書レクチャー1を読んで理学療法とはなにかについて考えてくる	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
2	障害の概念、分類、保険制度	1	教科書レクチャー2を熟読する。	1.5h	グループワークの成果の確認	1.5h
3	理学療法の歴史、理学療法士・作業療法士法、理学療法士の役割理学療法士ガイドライン・業務指針、理学療法士の倫理規定・これからの理学療法	3	教科書レクチャー3を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
4	理学療法の構成	1	教科書レクチャー4を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
5	理学療法の構成・理学療法に必要な知識と実習 ■	1,3	教科書レクチャー5を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
6	理学療法の対象（中枢神経疾患） ■	1,2,3	教科書レクチャー6を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
7	理学療法の対象（運動器系） ■	1,2,3	教科書レクチャー7を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
8	理学療法の対象（内部障害） ■	1,2,3	教科書レクチャー8を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
9	理学療法の対象（がん・介護予防） ■	1,2,3	教科書レクチャー9を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
10	病期・職域別の理学療法（急性期） ■	1,2,3	教科書レクチャー10を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
11	病期・職域別の理学療法（回復期） ■	1,2,3	教科書レクチャー11,12を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	病期・職域別の理学療法（生活期・維持期）■	1,2,3	教科書レクチャー12を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
13	病期・職域別の理学療法（在宅における役割）■	1,2,3	教科書レクチャー13を熟読する。	1.5h	ポートフォリオ作成	1.5h
14	病期・職域別の理学療法（研究における役割）■	1,3	教科書レクチャー15を熟読する。	1.5h	発表・質疑応答をまとめる	1.5h
15	まとめ	1,2,3	14回までの講義内容の復習	1.5h	14回までの講義内容の復習	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

・本講義ではポートフォリオを活用します。毎学習の記録（まとめ）を作成してC-learningに提出してもらいます。

・作成したポートフォリオは提出していただき、その内容を評価の対象とします。

・本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目です。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、G P Aの算出や卒業必要単位の対象外となります。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があります。その場合には、対象者に別途案内いたします。また、履修登録時にC A Pのカウントには含めません。

■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



HOME > 理学療法キャリア論

理学療法キャリア論

英文名 : Career self reliance of Physical Therapy
科目区分 : 専門科目
科目ナンバリング : PBS110
学年 : 1年
開講期 : 後期
選択・必修 : 選択
単位数 : 1単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
1 豊かな人間性と倫理観
1 専門知識・技術の活用力
1 論理的思考力
1 チームへの貢献力
6 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

竹内伸行

科目に関連した実務経験

- ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験)
- ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

個々の学生が考えるキャリアについて、それを実現するための方法を検討し、課題の解決を通してキャリア形成に必要な知識やスキルを学ぶ。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①理学療法士のキャリア形成について、様々な領域、進路、方法などを具体的に学ぶ。大学院進学の意味や理学療法における研究の意味とキャリア形成の関連性を理解する。
- ②教員が提示した資料を用いた講義を通して学ぶ。また提示した課題等に基づいたディスカッションを行いながら、アクティブラーニングにより知識を深める。

到達目標 ^

- 1. 卒業後のキャリア形成をイメージし他者に説明できる。■
- 2. 様々な専門的理学療法について理解できる。■
- 3. 理学療法士の生涯学習、自己研鑽の必要性及びその意義を理解できる。■
- 4. 理学療法における研究および大学院進学の意味を理解できる。

使用教材 ^

教員が用意した資料を使用する。

参考文献 ^

必要に応じて担当教員が提示する。

評価方法 ^

各回の課題試験(レポート、小テストなど)で評価する(100%)。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

演習課題の個人レポートについては、授業終了後に個別に確認しフィードバックする。

オフィスアワー ^

この科目に関する問い合わせ先：竹内伸行
科目責任者のオフィスアワー：月曜6限、金曜6限(不在時はメールで問い合わせること)

メールアドレス（#→@） ^

ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	理学療法士におけるキャリア■ ・理学療法士におけるキャリア形成とは何か、生涯学習と自己研鑽を学ぶ。 ・他の医療職種におけるキャリア形成を学ぶ。	1,2,3,4	基本的な理学療法士のキャリアを理解する。	1.5h	理学療法士および他の医療職種におけるキャリアを再確認する。	1.5h
2	理学療法士のキャリア形成①■ ・神経系理学療法を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。	1,2,3,4	神経系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5h	神経系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5h
3	理学療法士のキャリア形成②■ ・運動器系理学療法を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。	1,2,3,4	運動器系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5h	運動器系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5h
4	理学療法士のキャリア形成③■ ・内部障害系理学療法を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。	1,2,3,4	内部障害系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5h	内部障害系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	理学療法士のキャリア形成④ ■ 地域理学療法、予防理学療法を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。	1,2,3,4	地域理学療法、予防理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5h	地域理学療法、予防理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5h
6	理学療法士のキャリア形成⑤ ■ 基礎理学療法、基礎医学分野を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。	1,2,3,4	基礎理学療法、基礎医学分野およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5h	基礎理学療法、基礎医学分野およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5h
7	理学療法士のキャリア形成⑥ ■ 生活環境支援系理学療法を専門とする理学療法士のキャリア形成を学ぶ。	1,2,3,4	生活環境支援系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を整理する。	1.5h	生活環境支援系理学療法およびそれを専門とする理学療法士のキャリア形成を確認する。	1.5h
8	大学院進学と理学療法研究の意義 ■ ・大学院進学および理学療法の臨床および基礎研究の意義を学ぶ。	1,2,3,4	大学院進学と理学療法研究の意義を理解する。	1.5h	大学院進学と理学療法研究の意義を確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

^

備考

^

各授業は主にPCプレゼンテーションを用いた講義形式でそれぞれの概要および詳細を説明する。

授業は教員が作成した資料を用いて、要点をまとめていく。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目です。副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、G P Aの算出や卒業必要単位の対象外となります。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内いたします。また、履修登録時にC A Pのカウントには含めません。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



HOME > 理学療法基礎学

理学療法基礎学

英文名 : Basis of Physical Therapy
科目区分 : 専門科目
科目ナンバリング : PBC200
学年 : 2年
開講期 : 前期
選択・必修 : 必修
単位数 : 2単位
講義形態 : 講義
学位授与方針との対応 :
比重 DP
1 豊かな人間性と倫理観
4 専門知識・技術の活用力
3 論理的思考力
1 チームへの貢献力
1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

吉田剛、斎田高介

科目に関連した実務経験

理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験）
非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
	○	○							○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

レポートに対してコメントを付けて返却

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

理学療法の専門的治療である運動療法の基礎的項目について、運動療法を行う際に必要な基礎知識を整理し、その後、基礎的運動療法についての知識を修得する。
基礎知識は事前にレポートを作成して学び、実例を通して視覚的理解を得ながら基礎的運動療法を学ぶ。
1.理学療法の基礎となる運動療法について、原則や生理学的背景など基礎的知識を身につける。
2.運動強度や負荷量などの運動処方を行うための基礎となる知識を総合的に学ぶ。

- 3.基本的運動療法として関節可動域練習、筋力強化練習などを中心に、その基礎を学ぶ。
- 4.解剖・生理学、運動学・理学療法評価学・物理療法学などと関連付けて学ぶ。
- 5.後期に開講する理学療法基礎学実習を学ぶための準備を行う。

到達目標

1.運動療法の総論について、一般の人に分かるように説明できる。
2.運動療法のための基礎知識を整理してまとめる。
3.理学療法評価法では、治療を通して評価することを学ぶが、その治療方法についてイメージできる。■

使用教材

標準理学療法学 専門分野シリーズ 運動療法学総論 第5版 医学書院 4800円+税

参考文献

運動療法学第2版：障害別アプローチの理論と実際 文光堂 7000円+税

評価方法

講義で出されるレポート40%、期末試験50%、講義参加状況・講義中の指名に対する対応10%で総合的に評価する。（その他の提出物による加点を行う場合がある）
成績不良の場合、講義ノートの提出・口頭試問・レポート提出などを課すことがある。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題については10点満点で総合評価をつけて標記し、全体総評の中でレポートの書き方、課題のポイントの整理などをフィードバックする。

オフィスアワー

金曜午後

メールアドレス（#→@）

tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp
saida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	運動療法とは？ 運動療法の歴史と定義・目的・運動および運動療法の種類	1	テキストのP2-20ページを読む。	1h	運動療法の歴史と定義・目的・運動および運動療法の種類について理解する。	1h
2	運動療法の基礎① 関節の構造と機能および筋の構造と機能（斎田）	1,2	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3h	関節の構造と機能および筋の構造と機能について理解する。	1h
3	運動療法の基礎② 関節拘縮および筋力低下と筋力増強メカニズム・痛みの機序（斎田）	1,2	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3h	関節拘縮および筋力低下と筋力増強メカニズム・痛みの機序について理解する。	1h
4	運動療法の基礎③ 運動と呼吸・循環・代謝系（斎田）	1,2	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3h	運動と呼吸・循環・代謝系について理解する。	1h
5	運動療法の基礎④ 運動制御と運動学習	1,2	該当項目についてのレポートを作成し理解を助ける準備を行う。	3h	運動制御と運動学習について理解する。	1h
6	運動療法の基礎⑤ 運動発達および老化による運動機能の	1,2	該当項目についてのレポートを作成し理解を助け	3h	運動発達および老化による運動機能の低下について理解	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	低下		る準備を行う。		する。	
7	運動処方基礎 運動の種類と運動方法、リスク管理■	1,2,3	テキストのP167-180ページを読む。	1h	運動の種類と運動方法、リスク管理について理解する。	1h
8	運動指導の実践：コミュニケーション、コーチング、指示方法、動機付け■	1,2,3	コーチングやコミュニケーション関係の書籍を探して該当ページを読む。	0.5h	運動指導の実践について理解する。	0.5h
9	基礎的運動療法①関節可動域運動■（斎田）	1,2,3	テキストのP182-194ページを読む。	1.5h	関節可動域運動について理解する。	1.5h
10	基礎的運動療法②伸張運動■（斎田）	1,2,3	参考書の該当ページを読む。	1.5h	伸張運動について理解する。	1.5h
11	基礎的運動療法③筋力増強運動・持久力増強運動■（斎田）	1,2,3	テキストのP195-230ページを読む。	1.5h	筋力増強運動・持久力増強運動について理解する。	1.5h
12	基礎的運動療法④バランス改善運動・姿勢改善運動・リラクゼーション運動■	1,2,3	参考書などの該当ページを読む。	1.5h	バランス改善運動・姿勢改善運動・リラクゼーション運動について理解する。	1.5h
13	基礎的運動療法⑤協調性運動■	1,2,3	テキストのP231-241ページを読む。	1.5h	協調性運動について理解する。	1.5h
14	基礎的運動療法⑥痛みに対する運動療法■	1,2,3	テキストのP256-268ページを読む。	1.5h	痛みに対する運動療法について理解する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3	これまで学習した内容をまとめて整理する。	1h	理学療法基礎学の総合的な内容を理解する。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。
予習・復習の不足時間は、各自で補完すること。

印刷





[HOME](#) > 理学療法基礎学実習

理学療法基礎学実習

英文名 : Practice of Basis of Physical Therapy
 科目区分 : 専門科目
 科目ナンバリング : PBC210
 学年 : 2年
 開講期 : 後期
 選択・必修 : 必修
 単位数 : 1単位
 講義形態 : 実習
 学位授与方針との対応 :
 比重 DP
 1 豊かな人間性と倫理観
 4 専門知識・技術の活用力
 3 論理的思考力
 1 チームへの貢献力
 1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

吉田剛、斎田高介

科目に関連した実務経験

理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験）
 非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○			○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義ノートに対してコメントを付けて返却

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

前期の基礎学で学んだ基礎的運動療法について、実際に学生同士で行うために必要なポイントを学び実践能力を修得し、2年次の臨床実習に備える。
 1. 理学療法基礎学で学んだ知識をもとに、基礎的な運動療法を行うための心構えを身につける。
 2. 用手接触・動作誘導・移乗介助法の基礎を実践できる。
 3. 基礎的運動療法の技術を身につける。

4.臨床実習に向けて、対象者への基本的対応能力を高める。

本講義は実習科目のため2コマ連続で講義が行われ、毎回最初に実技確認テストを行う。また、実技内容をわかりやすくノートにまとめて図解できる能力も養う。

到達目標

^

- 1.実習科目のメモの取り方、学び方について理解し、実践できる。
- 2.運動学などの基礎知識をもとに、相手の状態を評価し、適切な対応ができる。■
- 3.基礎的な運動療法を一般の人に危険のないレベルで実施できる。■

使用教材

^

理学療法基礎学と同じ

参考文献

^

理学療法基礎学と同じ

評価方法

^

実技確認テスト30%、講義ノート10%、実技試験50%、講義参加状況10%で総合的に評価する。
成績不良の場合、講義ノートの提出・口頭試問・レポート提出などを課すことがある。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

開始時の実技確認テストについては、その場で10点満点の評価を伝え、全員に対してできていないポイントをフィードバックする。また、講義ノートについても10点満点で評価し、書き方について全員に指導する。

オフィスアワー

^

金曜午後

メールアドレス（#→@）

^

tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp
saida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	シラバスをよく読み、講義の進め方などを学習する。	1h	講義内容をノートに整理する。	1h
2	姿勢と動作の観察および介入■	1,2	配布資料に目を通す。	1 h	姿勢と動作の観察および介入のポイントを整理し、修得する。	1 h
3	ヒューマンムーブメントとハンドリング（寝返り）■	1,2,3	ハンドリングについて調べてポイントを整理しておく。	1 h	ヒューマンムーブメントと寝返り時のハンドリングについて理解する。	1 h
4	ヒューマンムーブメントとハンドリング（起き上がり）■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 h	ヒューマンムーブメントと起き上がり時のハンドリングについて理解する。	1 h
5	ヒューマンムーブメントとハンドリング（いざり移動）■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 h	ヒューマンムーブメントといざり時のハンドリングについて理解する。	1 h
6	ヒューマンムーブメントとハンドリング（立ち上がり）■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 h	ヒューマンムーブメントといざり時のハンドリングについて理解する。	1 h
7	ヒューマンムーブメントとハンドリング（歩	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 h	ヒューマンムーブメントと歩行時のハンドリングにつ	1 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	行①) ■				いて理解する。	
8	ヒューマンムーブメントとハンドリング（歩行②） ■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 h	ヒューマンムーブメントと歩行時のハンドリングについて理解する。	1 h
9	治療的トランスファーのポイント ■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 h	治療的トランスファーのポイントについて整理し、理解する。	1 h
10	治療的トランスファーの実際 ■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 h	治療的トランスファーのポイントについて整理し、理解する。	1 h
11	関節可動域運動（基本的ポイントおよび肩甲帯） ■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 h	講義ノートを整理して↑肢の関節可動域運動について理解する。	1 h
12	関節可動域運動（肩関節） ■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 h	講義ノートを整理して↑肢の関節可動域運動について理解する。	1 h
13	関節可動域運動（股関節①） ■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 h	講義ノートを整理して下肢の関節可動域運動について理解する。	1 h
14	関節可動域運動（股関節②） ■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 h	講義ノートを整理して下肢の関節可動域運動について理解する。	1 h
15	関節可動域運動（膝関節） ■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1.5 h	講義ノートを整理して下肢の関節可動域運動について理解する。	1 h
16	関節可動域運動（足関節） ■	1,2,3	前回分の実技内容について確認テストのための練習を行う。	1 h	講義ノートを整理して下肢の関節可動域運動について理解する。	1 h
17	筋力強化運動のポイントおよびブリッジ運動 ■（斎田）	1,2,3	基礎学で学んだ筋力強化法の知識を確認しておく。	1 h	講義ノートを整理して筋力増強運動の実際について理解する。	1 h
18	筋力強化運動（スクワット、その他） ■（斎田）	1,2,3	基礎学で学んだ筋力強化法の知識と運動学における筋の作用に関する知識を確認しておく。	1 h	講義ノートを整理して筋力増強運動の実際について理解する。	1 h
19	筋力強化運動（主な下肢筋①） ■（斎田）	1,2,3	基礎学で学んだ筋力強化法の知識と運動学における筋の作用に関する知識を確認しておく。	1 h	講義ノートを整理して筋力増強運動の実際について理解する。	1 h
20	筋力強化運動（主な下肢筋②） ■（斎田）	1,2,3	基礎学で学んだ筋力強化法の知識と運動学における筋の作用に関する知識を確認しておく。	1 h	講義ノートを整理して筋力増強運動の実際について理解する。	1 h
21	筋力強化運動（コア筋、骨盤底筋群） ■（斎田）	1,2,3	基礎学で学んだ筋力強化法の知識と運動学における筋の作用に関する知識を確認しておく。	1 h	講義ノートを整理して筋力増強運動の実際について理解する。	1 h
22	筋力強化運動（インナーマッスル） ■（斎田）	1,2,3	基礎学で学んだ筋力強化法の知識と運動学における筋の作用に関する知識を確認しておく。	1 h	講義ノートを整理して筋力増強運動の実際について理解する。	1 h
23	協調運動練習、バランス練習 ■	1,2,3	基礎学で学んだバランス練習および協調運動の知識を確認しておく。	1 h	講義ノートを整理して協調運動やバランス練習の実際について理解する。	1 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
24	各種運動療法、まとめ ■	1,2,3	基礎学で学んだ運動療法の知識を確認しておく。	1 h	講義ノートを整理して各種運動療法の実際について理解する。	2 h

合計時間（予習・復習）

^

52 h

備考

^

実技のポイントを図や詳細な解説を加えながら整理することで、今後の専門的理学療法技術を学ぶためのスキルを身につける。
予習・復習については、試験前の学習で適宜補完する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷





[HOME](#) > 理学療法セミナー 1

理学療法セミナー 1

英文名 : Physiotherapy Seminar 1

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PBC210

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田中繁弥、富田洋介、理学療法学科教員

科目に関連した実務経験

理学療法士として病院・介護保険施設での勤務経験あり（田中）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

理学療法学生として、基本的な接遇、専門職としての態度、理学療法の概要について学ぶ。
1年後期に行われる早期体験実習の振り返りを通し、対象者との人間関係、社会人としての基本的態度、臨床実習における対人関係、記録のとり方、資料の整理、提出物の記載方法、課題を見つけ解決する方法（文献検索および質問）などを学ぶ。またグループワークを用いて、自分の考えの表出、プレゼン能力の向上などを図る。

到達目標

- 1.理学療法士としての基本態度を身につけ、他者と円滑なコミュニケーションが取れるようになる。■
- 2.必要な課題に自分で気づき、自己学習できるようになる。■

- 3.理学療法の概要を理解し、理学療法士としての使命と倫理について説明できる。■
- 4.大学で理学療法を学ぶ意味を理解し、主体的学習態度で授業に参加出来るようになる。

使用教材 ^

適宜資料を配布

評価方法 ^

発表担当学生の①発表内容と質疑応答の態度（40％）、②レジュメの内容（40％）、③質問・出席・受講態度（20％）で評価する。早期体験実習のグループでレジメ等作成するが、各自必ず1回は発表すること。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

実習や発表の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。

オフィスアワー ^

火曜13：00～14：30
（4号館4階409研究室）

メールアドレス（#→@） ^

tanaka-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（発表方法や実習注意、実習目標の設定等） + レジュメ・レポート作成のポイント	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習を してのぞむこと。	0.5 h	発表後参加者から出た 質問・意見を参考にま とめ直すこと。	0.5 h
2	早期体験実習の体験をグループごとに 発表とフィードバック1 + 実習の感想発表 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習を してのぞむこと。	0.5 h	発表後参加者から出た 質問・意見を参考にま とめ直すこと。	0.5 h
3	早期体験実習の体験をグループごとに 発表とフィードバック2 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習を してのぞむこと。	0.5 h	発表後参加者から出た 質問・意見を参考にま とめ直すこと。	0.5 h
4	早期体験実習の体験をグループごとに 発表とフィードバック3 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習を してのぞむこと。	0.5 h	発表後参加者から出た 質問・意見を参考にま とめ直すこと。	0.5 h
5	早期体験実習の体験をグループごとに 発表とフィードバック4 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習を してのぞむこと。	0.5 h	発表後参加者から出た 質問・意見を参考にま とめ直すこと。	0.5 h
6	早期体験実習の体験をグループごとに 発表とフィードバック5 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習を してのぞむこと。	0.5 h	発表後参加者から出た 質問・意見を参考にま とめ直すこと。	0.5 h
7	早期体験実習の体験をグループごとに 発表とフィードバック6 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習を してのぞむこと。	0.5 h	発表後参加者から出た 質問・意見を参考にま とめ直すこと。	0.5 h
8	早期体験実習の体験をグループごとに 発表とフィードバック7 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習を してのぞむこと。	0.5 h	発表後参加者から出た 質問・意見を参考にま とめ直すこと。	0.5 h
9	早期体験実習の体験をグループごとに 発表とフィードバック8 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習を してのぞむこと。	0.5 h	発表後参加者から出た 質問・意見を参考にま とめ直すこと。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック9 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5h	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5h
11	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック10 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5h	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5h
12	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック11 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5h	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5h
13	早期体験実習の体験をグループごとに発表とフィードバック12 ■	1,2,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5h	発表後参加者から出た質問・意見を参考にまとめ直すこと。	0.5h
14	早期体験実習の体験と自己学習内容を発表 ■	2,3,4	発表時間内に発表が収まるよう発表の練習をしておくこと。	0.5h	各教員の専門分野について調べ、まとめ直すこと。	0.5h
15	現状の問題点の整理と今後の目標設定まとめ；各実習地の指導者の先生をお招きし、講義・ディスカッション ■	1,2,3,4	各実習地の特性について再確認する。	0.5h	各実習地指導者の意見を踏まえ今後の目標についてまとめる	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

本講義は早期体験実習と平行して実施される科目であり、早期体験実習のグループごとの発表に対するフィードバックを基本とする。また授業の前半では文献検索方法やレポートのまとめ方、有効なプレゼンテーションの方法等の講義を行う。予習・復習の不足時間については、自己学習で補完すること。
オンラインでの講義となる場合には、授業支援システムC-learningの機能を用いた出欠確認、課題提出に対するフィードバックを行う。評価はC-learningより提出された課題等を上述評価方法に準じて行う。
（■：実務経験に基づく内容を示す。）

印刷 

理学療法セミナー 2

英文名 : Physiotherapy Seminar 2
科目区分 : 専門科目
科目ナンバリング : PBC211
学年 : 2年
開講期 : 後期
選択・必修 : 必修
単位数 : 1単位
講義形態 : 実習
学位授与方針との対応 :
比重 DP
1 豊かな人間性と倫理観
3 専門知識・技術の活用力
4 論理的思考力
1 チームへの貢献力
1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

樋口 大輔 (科目責任者)、田中 繁弥

科目に関連した実務経験

理学療法士として病院非常勤勤務 (現在)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL (課題 解決型学 習)	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①理学療法評価を行うのに不可欠な対人能力を高めるとともに、実践的な検査・測定技術を修得する。
②3人組を作り、理学療法士役、患者役、観察役となって検査・測定の練習を行うことを基本に授業を進める。各検査・測定における留意事項を適宜教示する。

到達目標

- 1.【情意領域】模擬症例に対して明るく、丁寧に接し、信頼関係を形成してみせることができる。
- 2.【精神運動領域】模擬症例の情報を整理し、リスク管理を適切に行ってみせることができる。■
- 3.【精神運動領域】模擬症例の情報を整理し、効率的かつ的確な検査・測定の計画を立ててみせることができる。■

4.【精神運動領域】模擬症例に対して基本的検査・測定を実行してみせることができる。■
する。

使用教材 ^

ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学

参考文献 ^

これまでの授業の教科書および配布資料

評価方法 ^

以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得し、かつ、実技試験（Basic-OSCE）において36点（60%）以上を獲得した場合を合格とする。

- ・症例①～④に関するレポート（40点）【任意に2症例を提出】
- ・Basic-OSCE（60点）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポートについてはルーブリックを用いて採点基準を客観化した上で採点し、返却する。
実技試験後に問題の解説を行うとともに、採点結果を個別にフィードバックする。

オフィスアワー ^

月曜日1・2時限（4号館4階414研究室）

メールアドレス（#→@） ^

higuchi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションおよび医療面接のグループ練習（アクティブラーニング） 授業冒頭、症例①提示	1～4	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学（p20～29）を用いて医療面接について復習する。	0.4h	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.4h
2	整形外科疾患患者における起居・移乗動作介助のグループ練習（アクティブラーニング）	1～4	これまでの授業の教科書や配布資料を用いて移乗方法について復習する。	0.4h	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.4h
3	10/11 ROM-Tのグループ練習（アクティブラーニング） 症例①レポート提出	1～4	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学（p62～91）を用いて上肢のROM-Tについて復習する。	0.4h	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.4h
4	MMTのグループ練習（アクティブラーニング） 授業後、症例②提示	1～4	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学（p94～107）を用いて上肢・体幹のMMTについて復習する。	0.4h	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.4h
5	症例①・②検討（グループ練習：アクティブラーニング） 症例②レポート提出	1～4	症例①・②に対する検査・測定の計画を立てる。	1h	症例①・②に対する検査・測定の計画を修正する。	0.5h
6	中枢神経疾患患者における起居・移乗動作介助のグループ練習（アクティブラーニング）	1～4	これまでの授業の教科書や配布資料を用いて移乗方法について復習する。	0.4h	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.4h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	片麻痺運動機能検査（ブルンストロームステージ）のグループ練習（アクティブラーニング） 授業後、症例③提示	1～4	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学（p110～123）を用いて反射および感覚検査について復習する。	0.4h	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.4h
8	反射検査のグループ練習（アクティブラーニング） 症例③レポート提出	1～4	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学（p154～165）を用いて片麻痺運動機能検査（ブルンストロームステージ）について復習する。	0.4h	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.4h
9	感覚検査のグループ練習（アクティブラーニング） 授業後、症例④提示	1～4	ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学（p126～137）を用いて反射および感覚検査について復習する。	0.4h	授業で紹介された実技を同級生と練習する。	0.4h
10	症例③・④検討（グループ練習：アクティブラーニング） 症例④レポート提出	1～4	症例③・④に対する検査・測定の計画を立てる。	1h	症例③・④に対する検査・測定の計画を修正する。	0.5h
11	症例①・②再検討（グループ練習：アクティブラーニング）	1～4	特に必要としない。	0h	症例①・②に対する検査・測定の計画を再修正する。	0.5h
12	症例③・④再検討（グループ練習：アクティブラーニング）	1～4	特に必要としない。	0h	症例③・④に対する検査・測定の計画を再修正する。	0.5h
13	症例①・②まとめ■	1～4	症例①・②に対する検査・測定の計画を完成させる。	0.4h	特に必要としない。	0h
14	症例③・④まとめ■	1～4	症例③・④に対する検査・測定の計画を完成させる。	0.4h	特に必要としない。	0h
15	症例①～④フィードバック	1～4	特に必要としない。	0h	特に必要としない。	0h

合計時間（予習・復習）

11.2h

備考

臨床実習を想定して服装はケーシーに白の靴とする。
レポートはC-learningにてWordファイルで提出する。ファイル名は「学籍番号＋症例番号」とする（例：2*320**症例①）。
■は実務経験に基づく内容を示す。
オンライン授業となる場合には、授業の進め方、評価方法、出席確認の方法について事前に説明する。

印刷 

理学療法セミナー 3

英文名 : Physiotherapy Seminar 3
科目区分 : 専門科目
科目ナンバリング : PBC310
学年 : 3年
開講期 : 後期
選択・必修 : 必修
単位数 : 1単位
講義形態 : 実習
学位授与方針との対応 :
比重 DP
1 豊かな人間性と倫理観
3 専門知識・技術の活用力
4 論理的思考力
1 チームへの貢献力
1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大野洋一、樋口大輔

科目に関連した実務経験

理学療法士として大学病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①検査・測定だけでなく、臨床現場でより治療志向的な理学療法評価が行えるように、評価・観察方法や臨床思考過程を学ぶ。また、レポートの作成やカルテの記載方法など情報の伝達、記録、保存に関して学ぶ。
客観的臨床能力試験（OSCE）を通して、3年次の機能能力診断学実習に出る前の準備を行う。
②授業は配布資料を使用して実習を行いながら進める。質問は随時受け付ける。
出席は講義開始時に口頭にて確認する。

到達目標

- 1. 基本的な評価を行うための準備、説明、手順の実施、結果の考察を学生の標準レベルで行うことができる。
- 2. 情報の伝達、記録、保存に関して理解する。

3. 治療志向的な思考過程を踏みながら、評価・観察を行うことができる。■

使用教材 ^

配布資料を中心に行う。

参考文献 ^

特になし

評価方法 ^

OSCEの結果80%、OSCEへの取り組み・授業態度20%の総合評価（対面・オンライン共通）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

講義内にてフィードバックを実施する（対面・オンライン共通）。

オフィスアワー ^

大野：月曜日 16：30－18：00

樋口：木曜日 9：00－12：15

メールアドレス（#→@） ^

大野：ohno#takasaki-u.ac.jp

樋口：higuchi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	2年次 機能・能力診断学 臨床実習の振り返り	0.5 h	評価に関する知識の再 学修	0.2 5h
2	模擬症例1の紹介、説明、練習 （起居移動、身体計測、運動能力 等に対する評価）■	1,2,3	模擬症例 1 に関する基礎 知識の学修	0.5 h	模擬症例 1 の練習	0.2 5h
3	模擬症例1の練習、フィードバッ ク、まとめ	1,2,3	模擬症例 1 に関する不足 知識の学修	0.5 h	模擬症例 1 のまとめ	0.2 5h
4	模擬症例2の紹介、説明、練習 （疼痛、セルフケア、住環境 等 に対する評価）■	1,2,3	模擬症例 1 に関する基礎 知識の学修	0.5 h	模擬症例2の練習	0.2 5h
5	模擬症例2の練習、フィードバッ ク、まとめ	1,2,3	模擬症例2に関する不足 知識の学修	0.5 h	模擬症例2のまとめ	0.2 5h
6	模擬症例3の紹介、説明、練習 （神経機能、姿勢異常、バランス 等に対する評価）■	1,2,3	模擬症例3に関する基礎 知識の学修	0.5 h	模擬症例3の練習	0.2 5h
7	模擬症例3の練習、フィードバッ ク、まとめ	1,2,3	模擬症例3に関する不足 知識の学修	0.5 h	模擬症例3のまとめ	0.2 5h
8	OSCE 課題提示、練習	1,2,3	模擬症例1、2、3のまと め	0.5 h	OSCE 課題の練習	0.2 5h
9	OSCE 練習 OSCEでの各自の課 題練習	1,2,3	OSCE 課題に関する不足 知識の学修	0.5 h	OSCE 課題の練習	0.2 5h
10	OSCE 実施	1,2,3	OSCE 課題のまとめ	0.5 h	OSCE 実施における不 足部分の練習	0.2 5h
11	OSCE フィードバック	1,2,3	OSCE 実施内容に対する 自己分析	0.5 h	フィードバックに対す る自己分析	0.2 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	OSCE のまとめ・練習 ■	1,2,3	フィードバックを踏まえての不足部分の練習	0.5h	OSCE のまとめ	0.25h
13	レポート・レジюме・カルテの記載と管理方法	1,2,3	レポート・レジюме・カルテの記載と管理に関する事前学修	0.5h	レポート・レジюме・カルテの記載と管理に関する理解	0.25h
14	症例報告・プレゼンテーションの方法1	1,2	症例報告・プレゼンテーションの方法の事前学修	0.5h	症例報告・プレゼンテーションの方法の理解	0.25h
15	まとめ	1,2,3	これまでの学修のまとめ	0.5h	セミナー3目標の理解	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

^

備考

オンラインで実施する場合、出席はC-learning出席管理システムにて確認する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



[HOME](#) > 理学療法セミナー 4

理学療法セミナー 4

英文名 : Physiotherapy Seminar 4

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PTS400

学年 : 4年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 3 専門知識・技術の活用力
- 4 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く 

すべて閉じる 

担当教員



千木良佑介、大野洋一、富田洋介、高橋裕子

科目に関連した実務経験



大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）
非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形外科クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○		○	○	○				

「その他」のアクティブラーニング実施方法



特になし

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



- ①3年次までの実習で指摘された点を個々に見直し、不足している点、修正すべき点を明確にする。特に、治療志向的評価および一般的な理学療法プログラムについて、臨床思考過程および基本的技術の適用方法を学ぶ。
- ②具体的に例題を用い、グループワークなども取り入れながら実施する。それらの過程を通して、客観的臨床技能テスト（応用編）をクリアして総合臨床実習に向かうための準備ができる。

到達目標

^

- 1.治療志向的評価に基づいた治療計画の策定および一部治療実施を総合臨床実習で行えるようになる。 ■
- 2.患者・対象者教育の必要性についてプロセスを説明し、疾患および機能不全に応じたリスクや注意事項などを説明できる。
- 3.臨床版客観的臨床能力試験（Advanced OSCE）および症例発表を通して、総合臨床実習に必要な対象者に対する基本的理学療法を行う準備ができる。

使用教材

^

特になし

参考文献

^

特になし

評価方法

^

Advanced OSCEの結果70%、授業への取り組み状況30%。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

各模擬症例について作成する症例レポートについて10点満点で採点してポイントを全体にフィードバックする。
また、模擬症例に対する実技練習中に個別に対応しながら方法及び技術について適切性をフィードバックし、全体にも教授する。

オフィスアワー

^

金曜13：00～16：30

メールアドレス（#→@）

^

chigira#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：これまでの実習の振り返り	1,2	実習の資料やレポート、レジュメなどを見直す。	0.5h	実習の振り返りを行い、今後の実習を理解する。	0.5h
2	担当症例① 評価計画確認、評価実施	1,2	評価の実施方法について学習する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、評価の実施方法について理解する。	0.5h
3	担当症例① 治療計画確認、治療実施	1,2	治療の実施方法について学習する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	0.5h
4	担当症例② 評価計画確認、評価実施	1,2	評価の実施方法について学習する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、評価の実施方法について理解する。	0.5h
5	担当症例② 治療計画確認、治療実施	1,2	治療の実施方法について学習する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	0.5h
6	担当症例③ 評価計画確認、評価実施	1,2	評価の実施方法について学習する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、評価の実施方法について理解する。	0.5h
7	担当症例③ 治療計画確認、治療実施	1,2	治療の実施方法について学習する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	担当症例④ 評価計画確認、評価実施	1,2	評価の実施方法について学習する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、評価の実施方法について理解する。	0.5h
9	担当症例④ 治療計画確認、治療実施	1,2	治療の実施方法について学習する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	0.5h
10	担当症例①－④ 評価計画確認、評価実施	1,2	評価の実施方法について学習する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、評価の実施方法について理解する。	0.5h
11	担当症例①－④ 治療計画確認、治療実施	1,2	治療の実施方法について学習する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、治療の実施方法について理解する。	0.5h
12	Advanced OSCE実施 ■	1,2,3	課題について理解し、実施する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、フィードバックの内容について理解する。	0.5h
13	Advanced OSCE実施	1,2,3	課題について理解し、実施する。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、フィードバックの内容について理解する。	0.5h
14	Advanced OSCEフィードバック ■	1,2,3	Advanced OSCEを振り返り、各自の反省点をまとめる。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、フィードバックの内容について理解する。	0.5h
15	Advanced OSCEフィードバック ■	1,2,3	Advanced OSCEを振り返り、各自の反省点をまとめる。	0.5h	講義中のフィードバック事項を整理し、フィードバックの内容について理解する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

臨床版客観的臨床能力試験（Advanced OSCE）に対する学習を通して、評価の実技、治療の実技を行い、総合臨床実習に必要な対象者に対する基本的理学療法を行う準備をする。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 



[HOME](#) > 理学療法研究法

理学療法研究法

英文名：Physical Therapy Research Methods
 科目区分：専門科目
 科目ナンバリング：PBC300
 学年：3年
 開講期：前期
 選択・必修：必修
 単位数：2単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 1 豊かな人間性と倫理観
 2 専門知識・技術の活用力
 4 論理的思考力
 1 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

正木光裕、竹内伸行、田中繁弥、齊田高介

科目に関連した実務経験

常勤の研究者として大学に勤務（現在）
 理学療法士として常勤で療育センター、一般病院、訪問看護ステーションに勤務（過去）
 理学療法士として非常勤で小児、成人の理学療法に従事（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

理学療法における研究の必要性を学問的観点と臨床的観点から学び、また、研究のプロセスとして、研究テーマの選択、研究対象の選択、測定方法の考案、研究デザインの決定、倫理的配慮、データ処理と解析法、研究結果の分析と報告について実例を提示しながら講義する。

到達目標

- 1. 理学療法における研究の必要性を理解し、説明できる。■
- 2. 基本的な研究プロセスを理解し、各項目を説明できる。■

- 3. 基礎的な研究論文を検索し、入手できる。またその論文を読解できる。■
- 4. 学んだ知識・体験をもとに模擬研究が実施できる。■

使用教材 ^

配布資料

参考文献 ^

PT・OTのための臨床研究はじめての一步、山田 実、羊土社、2016、3520円

評価方法 ^

模擬研究の取り組みおよび成果(内容、解析、発表)の状況で評価する(100%)。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

課題レポートは、確認し個別またはグループごとにフィードバックを行う。

オフィスアワー ^

金曜3・4時限
(4号館4階415研究室)

メールアドレス (#→@) ^

masaki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	・オリエンテーション ・理学療法における研究の必要性、倫理的配慮を学ぶ。■	1,2,3	自然科学系の研究とは何かを確認する。	1.5 h	理学療法における研究の必要性と重要性を確認する。	1.5 h
2	理学療法学研究の概要 ■ ・研究の流れと論文の構成を学ぶ。 ・研究デザインを学ぶ。	1,2,3	学術論文の構成を理解する。	1.5 h	理学療法研究の基本的な研究デザインを確認する。	1.5 h
3	研究テーマの設定 ■ ・研究テーマ設定のポイント（先行研究のレビュー、実現可能性）を学ぶ。	1,2,3	文献レビューの方法を理解する。	1.5 h	文献レビューの必要性、重要性、方法を確認する。	1.5 h
4	・評価尺度および測定の信頼性と妥当性を学ぶ ■	1,2,3	評価尺度の種類、信頼性と妥当性の違いを理解する。	1.5 h	評価尺度の種類、信頼性と妥当性の違いを確認する。	1.5 h
5	模擬研究のオリエンテーションと準備 ■ ・グループのリーダー選出、今後の研究計画、他の検討。 ・グループごとに先行研究のレビューを行い、情報収集と研究テーマの検討を行う。	1,2,3,4	グループにて文献レビューを実施し、必要な情報を収集する。	1.5 h	グループにて、今後実施する模擬研究に必要な情報を整理する。	1.5 h
6	模擬研究実施 ■ ・研究計画の立案、研究計画書作成を行う。	1,2,3,4	グループにて研究計画の立案を検討する。	1.5 h	グループにて研究計画書を作成し、研究内容を確認する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	模擬研究実施 ■ ・予備研究の実施と計画書の修正を行う。	1,2,3,4	予備研究の必要性を理解する。	1.5h	予備研究で得た情報を基に研究計画を修正する。	1.5h
8	模擬研究計画発表会 ■ ・グループ毎に研究計画を発表し、ディスカッションを行う。	1,2,3,4	研究計画を他者に伝える準備を行う。	1.5h	他者からの指摘や助言を基に研究計画を修正する。	1.5h
9	模擬研究実施 ■ ・データ測定①	1,2,3,4	データの測定方法を確認し理解する。必要な器材を確認する。	1.5h	測定したデータの誤差などを確認する。	1.5h
10	模擬研究実施 ■ ・データ測定②、統計解析①	1,2,3,4	統計解析手法を確認し理解する。	1.5h	統計解析結果を確認する。	1.5h
11	模擬研究実施 ■ ・データ測定③、統計解析②	1,2,3,4	統計解析手法を確認し理解する。	1.5h	統計解析結果を確認し、研究発表に向けた考察を行う。	1.5h
12	模擬研究実施 ■ ・模擬研究成果の検討・考察 ・模擬研究発表会資料作成①	1,2,3,4	考察の確認を行い、発表資料作成の準備をする。	1.5h	発表資料を確認する。	1.5h
13	模擬研究実施 ■ ・模擬研究発表会資料作成②	1,2,3,4	考察の確認を行い、発表資料作成の準備をする。	1.5h	発表資料を確認し、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h
14	模擬研究成果の発表 ■ ・グループ毎に模擬研究の成果を発表しディスカッションを行う。	1,2,3,4	研究発表の準備を行う。	1.5h	発表会での指摘や助言を基に研究を振り返り、結果や考察を再考する。	1.5h
15	・まとめ(理学療法に必要な研究に関する知識を整理しながら、最新の理学療法研究成果に触れる) ■	1,2,3,4	これまでに学んだ知識を整理する	1.5h	最新の理学療法研究の動向や成果を確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業の前半は講義形式で各テーマの概要および詳細を説明する。後半はグループ毎に研究課題を設定し、質疑応答を行いながら研究を進める。
質問は随時受け付ける。
※ 45分を1時間とみなす。
※ ■は実務経験に基づく内容を示す。

印刷 



[HOME](#) > 理学療法管理学

理学療法管理学

英文名：Management for Physical Therapy
科目区分：専門科目
科目ナンバリング：PMC400
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
 比重 DP
 2 豊かな人間性と倫理観
 2 専門知識・技術の活用力
 2 論理的思考力
 2 チームへの貢献力
 2 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

竹内伸行

科目に関連した実務経験

- ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験)
- ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①理学療法士として医療施設や福祉施設で勤務するには医学、医療、福祉などの知識、さらには理学療法学の専門知識に加えて、業務を運営するために様々な知識や技術が必要となる。理学療法業務の業務範囲、診療報酬、他職種との連携、理学療法機器の保守管理、医療安全、キャリア形成、自身あるいは職場の健康管理について理解する。
 ②教員が提示した資料を用いた講義を実施しながら、提示した課題等に基づいたディスカッションを行い、アクティブラーニングにより知識を深める。

到達目標

- 1. 理学療法の業務範囲や診療報酬について理解する。■
- 2. 理学療法業務の適正な遂行について理解する。■
- 3. 理学療法の卒前教育・卒後教育の仕組みについて理解する。■
- 4. 理学療法機器および理学療法部門の安全管理に必要な保守点検・リスク管理について理解する。■
- 5. 理学療法士としてのキャリア形成、職場での健康管理について理解する。■

使用教材 ^

教員が準備した資料を用いる。

参考文献 ^

理学療法管理学（15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト） 中山書店

評価方法 ^

期末試験で評価する（100％）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

講義内での解説および個別に解説する。

オフィスアワー ^

科目責任者のオフィスアワー：月曜6限、金曜6限(不在時はメールで問い合わせること)

メールアドレス（#→@） ^

ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	理学療法士の業務範囲と法的根拠■	1	理学療法士作業療法士法について整理しておく。	1.5h	理学療法士の業務範囲について確認する。	1.5h
2	診療報酬・介護報酬の仕組み■	1,2	診療報酬・介護報酬について整理しておく。	1.5h	理学療法士が得られる報酬について確認する。	1.5h
3	理学療法業務の適正遂行■	1,2	診療報酬や介護報酬の支払い条件について整理しておく。	1.5h	診療報酬・介護報酬における遵守事項について確認する。	1.5h
4	理学療法業務管理（理学療法士の業務の流れ、診療や関連業務）■	1,2,4	理学療法士が行うべき業務について整理しておく。	1.5h	理学療法の業務（日・月・年単位）について確認する。	1.5h
5	理学療法における卒前教育・卒後教育■	3	OJT（On-the-Job Training）について調べておく。	1.5h	入職前・入職後に求められる教育について確認する。	1.5h
6	理学療法機器の保守点検・安全管理、理学療法業務のリスク管理■	4	理学療法で用いられる機器や電磁波防護（EMC規格）について整理しておく。	1.5h	始業前点検項目、保守点検項目について確認する。	1.5h
7	人事労務管理・健康管理■	2,5	医療分野での人事計画、人事考査、キャリア形成について整理しておく。また仕事によって起こりうる健康問題について整理しておく。	1.5h	人事考査とはなにかについて確認する。健康に長く働くために必要な事項について確認する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	理学療法業務管理に関するのまとめ■	1,2,3,4,5	理学療法業務管理に関してまとめておく。	1.5h	理学療法業務管理に関して確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

^

備考

基本は講義形式で各テーマの概要および詳細を説明する。各回の授業終了時に質疑応答形式で、理解が曖昧な部分を明確にしていく。
授業は教員が作成した資料および教科書を用いながら、またPCプレゼンテーションを使用して要点をまとめていく。
■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



[HOME](#) > リスクマネジメント

リスクマネジメント

英文名 : Risk Management

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PMC310

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

2 豊かな人間性と倫理観

2 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

2 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く ▼

すべて閉じる ▲

担当教員



竹内伸行

科目に関連した実務経験



- ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験)
- ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法



PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法



グループワークを通して、医療事故の要因分析やコミュニケーションに関するスキルを習得する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①理学療法士にとって重要な基本的リスク(転倒、感染等)を理解し、その予防と再発防止のための知識、手法を学ぶ。理学療法領域に加えて、医療界全体のインシデント・アクシデントに関する概要を理解し、要因分析手法の基礎を習得する。

②教員が提示した資料による講義やグループワークを通して学ぶ。また提示した課題等に基づいたディスカッションを行いながら、アクティブラーニングにより学習する。事故要因分析などにおいてはグループワークを実施し、より実践的に分析手法を理解する。

到達目標

^

1. 理学療法および医療におけるリスク管理に関する用語を理解できる。■
2. 理学療法における基礎的なリスク管理が実践できる。■
3. 指導を受けながら、インシデント事例の要因分析を実施できる。■
4. 指導を受けながら、インシデントの再発予防策を立案し実施できる。■
5. 医療および理学療法におけるリスク管理の必要性を理解し、他者に説明できる。■

使用教材

^

担当教員が作成した講義資料を配付し使用する。

参考文献

^

必要に応じて担当教員が提示する。

評価方法

^

期末試験で評価する（100％）。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

演習課題の個人レポートについては、授業終了後に 個別に確認しフィードバックする。

オフィスアワー

^

この科目に関する問い合わせ先：竹内伸行

科目責任者のオフィスアワー：月曜6限、金曜6限(不在時はメールで問い合わせること)

メールアドレス（#→@）

^

ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	リスクマネジメントの概要■ ・リスクおよびリスクマネジメントは何か、理学療法および医療におけるリスクとは何かを学ぶ。リスクマネジメントの必要性を理解する。	1,2,5	インシデントの予防的取り組みの概要を理解する。	1.5h	基本的な危険予知トレーニングと事故要因分析手法に関する知識を整理する。	1.5h
2	リスクマネジメントの重要性■ ・なぜインシデントが生じるのか、インシデントやアクシデントの発生要因を理解する。インシデント、アクシデントレポートの意義と作成、その活用について学ぶ。リスクマネジメントにおける情報の重要性を学ぶ。	1,2,5	理学療法士が関与するインシデントの発生要因の概要を理解する。	1.5h	理学療法士が関与するインシデントの発生要因を整理する。	1.5h
3	危険予知トレーニングと事故要因分析■ ・危険予知トレーニングの目的と方法を理解する。基本的な事故要因分析手法を理解する。	1,2,3,4,5	インシデントの予防的取り組みの概要を理解する。	1.5h	基本的な危険予知トレーニングと事故要因分析手法に関する知識を整理する。	1.5h
4	事故要因分析の実際■ ・グループに分かれて過去に実際に起こった事例あるいは模擬事例の事故要因分析を実施する。	1,2,3,4,5	実際の事故要因分析の流れを理解する。	1.5h	事故要因分析について、その目的、方法、結果の活用方法を整理する。	1.5h
5	災害時の理学療法とリスクマネジメント■ ・災害医療とは何かを学ぶ。 ・災害時の理学療法の必要性を理解する。	1,2,5	災害時に理学療法士が担う役割について理解する。	1.5h	災害現場での活動の注意点、他職種との連携、役割等の知識を整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	・災害時に活動する理学療法士に必要なリスクマネジメントを理解する。					
6	理学療法対象者における転倒、転落、廃用症候群および薬の副作用の概略■ ・転倒、転落の要因とその予防を学ぶ。 ・廃用症候群の要因とその予防、薬の副作用の概要を学ぶ。	1,2, 3,4, 5	転倒、転落、廃用症候群に関する基礎的知識を確認する。	1.5 h	理学療法士に必要な転倒、転落、廃用症候群、薬に関する基礎的知識を整理する。	1.5 h
7	感染管理■ ・理学療法士に必要な感染管理および感染とその予防を学ぶ。 ・手洗いの方法と重要性を学ぶ。	1,2, 3,4, 5	理学療法士に求められる感染管理に関する基礎的知識を確認する。	1.5 h	理学療法士に必要な感染管理の知識、技術を確認する。	1.5 h
8	理学療法士に必要なリスクマネジメントに関する知識と技術(まとめ)■ ・これまでの講義を振り返り、リスクマネジメントの知識、技術を確認する。	1,2, 3,4, 5	理学療法士に必要なリスクマネジメントに関する知識と技術を確認する。	1.5 h	理学療法士に必要なリスクマネジメントに関する知識と技術を整理する。	1.5 h

合計時間 (予習・復習)



24h

備考



- ・基本は講義形式で各テーマの概要および詳細を学ぶが、各講義の後半にグループワークによる演習を行い、質疑応答形式で知識を深めるていく。
- ・授業は教員が作成した資料を用いて、紙面上およびPCプレゼンテーションを用いながら要点をまとめる。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷





[HOME](#) > 理学療法評価学 I

理学療法評価学 I

英文名：Physiotherapy Evaluation Method I
 科目区分：専門科目
 科目ナンバリング：PEC200
 学年：2年
 開講期：前期
 選択・必修：必修
 単位数：2単位
 講義形態：講義
 学位授与方針との対応：
 比重 DP
 1 豊かな人間性と倫理観
 4 専門知識・技術の活用力
 3 論理的思考力
 1 チームへの貢献力
 1 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

樋口大輔、高橋裕子

科目に関連した実務経験

理学療法士として病院非常勤勤務（現在）

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①理学療法評価の一連の流れ（リスク管理を含む）を理解する。加えて、理学療法で頻用されている検査・測定に関する基本的知識（意義や方法、結果の解釈など）を習得する。
- ②スライドを使用した講義を基本に授業を行うが、学生が意見を述べたりする場面をできるだけ多く設ける。

到達目標

1. 【認知領域】理学療法評価の一連の流れを整理し、説明することができる。
2. 【認知領域】基本的な理学療法検査・測定の方法や注意点を述べることができる。
3. 【認知領域】理学療法評価を行うにあたって必要なリスク管理について説明することができる。
4. 【認知領域】得られた検査・測定の結果を統合・解釈することができる。■

使用教材

^

ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学（医歯薬出版株式会社）
新・徒手筋力検査法 第10版（協同医書出版社）
配布資料

参考文献

^

必要に応じて授業で紹介

評価方法

^

以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。
・復習：授業内テスト（第3～6、9～14回冒頭実施：40点）
・期末筆記試験（60点）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

授業内テストについてはテスト後に解答を示す。
筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。

オフィスアワー

^

月曜日1・2時限（4号館4階414研究室）

メールアドレス（#→@）

^

higuchi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	特に必要としない。	0h	特に必要としない。	0h
2	理学療法評価の流れ■	1	教科書（p2～10）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
3	視診・触診、バイタルサイン	2,3	教科書（p32～43）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
4	形態計測	2,3	教科書（p46～59）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
5	関節可動域測定	2,3	教科書（p62～91）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
6	医療面接・疼痛評価	2,3	教科書（p14～29）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
7	まとめ（第2～6回）	1,2,3	教科書とこれまでの配布資料を用いて第2～6回の授業内容を総括する。	7.5 h	これまでの配布資料を整理し、授業内容をまとめる。	1.5 h
8	筋力評価（ダニエルスらの徒手筋力検査法：上肢・体	2,3	教科書（p94～107）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	幹を中心に)				確認する。	
9	筋力評価 (ダニエルスらの徒手筋力検査法: 下肢を中心に)	2,3	教科書 (p94~107) を用いて下調べする。	0.75h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
10	感覚検査	2,3	教科書 (p110~123) を用いて下調べする。	0.75h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
11	腱反射、筋トーヌス検査	2,3	教科書 (p126~137) を用いて下調べする。	0.75h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
12	協調運動機能検査	2,3	教科書 (p154~165) を用いて下調べする。	0.75h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
13	体力・運動耐容能評価 (有酸素性体力と無酸素性体力)	2,3	教科書 (p238~247) を用いて下調べする。	0.75h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
14	理学療法評価の実際■	1,2,3,4	教科書 (p2~10) を改めて復習しておく。	0.75h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
15	まとめ (第8~14回)	1,2,3,4	教科書とこれまでの配布資料を用いて第8~14回の授業内容を総括する。	7.5h	これまでの配布資料を整理し、授業内容をまとめる。	1.5h

合計時間 (予習・復習)

45h

^

備考

■は実務経験に基づく内容を示す。
オンライン授業となる場合には、授業の進め方、評価方法、出席確認の方法について事前に説明する。

^

印刷 

理学療法評価学Ⅱ

英文名：Physiotherapy Evaluation Method Ⅱ

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PEC210

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

中川和昌 ■

篠原智行

高橋裕子

科目に関連した実務経験

病院に理学療法士として勤務（過去）

非常勤理学療法士として理学療法現場（スポーツクリニック等）、スポーツ現場で勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
○			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 「理学療法評価学Ⅰ」で学んだ内容を基に、様々な理学療法の対象となる代表的な疾患別の評価方法、各疾患の特徴や評価結果を踏まえた理学療法評価の流れについて学ぶ。

また特別な機器を用いた評価方法について学ぶ。

② 原則対面講義。一部グループワーク・発表形式で展開する。

到達目標

- 1. 代表的な疾患の理学療法評価の流れを理解し、各評価の意義を説明できる ■
- 2. 代表的な疾患の理学療法評価の方法について説明できる ■
- 3. 身体各部位における理学療法評価の意義を説明できる ■
- 4. 身体各部位における理学療法評価の方法について説明できる ■

使用教材

^

ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学（医歯薬出版株式会社）

参考文献

^

特になし（随時提示します）

評価方法

^

筆記試験80%および毎回の小テスト20%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の小テストは次回の授業で解答・解説を行う。また、小テストの内容は前回の授業で扱った内容とし、授業内容の理解度についても小テストにてフィードバックを行う。

オフィスアワー

^

水曜1限（4号館4階413号室）

メールアドレス（#→@）

^

nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション ■	1	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5 h
2	バランス評価	1,2	教科書の該当ページを読み、内容を理解する。	0.5 h	教科書の該当ページの臨床評価指標を読み、内容を理解する。	2.5 h
3	バランス評価 2	1,2	教科書の該当ページを読み、内容を理解する。	0.5 h	バランス・平衡機能の評価を行う際のリスクについて確認し、その内容を理解する。	2.5 h
4	各疾患における理学療法評価の流れ ■	1,2	教科書の該当ページを読み、内容を理解する。	0.5 h	配布資料を読み、理学療法評価の流れを理解する。	2.5 h
5	運動器疾患の理学療法評価 ■	1,2	教科書の該当ページを読み、内容を理解する。	1.5 h	配布資料を読み、理学療法評価の流れを理解する。	3.5 h
6	運動器疾患の評価：Special test ■	1,2	人体の神経・血管系、骨、軟部組織の解剖について確認する。	0.5 h	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	2.5 h
7	運動器疾患の評価：各部位、疾患における評価（上肢） ■	3,4	上肢の代表的な運動器疾患について調べる。	0.5 h	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	2.5 h
8	運動器疾患の評価：各部位、疾患における評価（下肢） ■	3,4	下肢の代表的な運動器疾患について調べる。	0.5 h	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	2.5 h
9	運動器疾患の評価：各部位、疾患における評価（体幹） ■	3,4	体幹の代表的な運動器疾患について調べる。	0.5 h	配布資料を読み、評価結果の解釈について理解する。	2.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	機器を用いた評価：重心動揺計，筋電計	1,2	教科書の該当ページを読み，内容を理解する。	0.5 h	配布資料を読み，評価結果の解釈について理解する。	2.5 h
11	機器を用いた評価：等速性筋力，等尺性筋力	1,2	教科書の該当ページを読み，内容を理解する。	0.5 h	機器を用いた筋力評価の利点・欠点について理解する。	2.5 h
12	機器を用いた評価：呼吸・代謝系	1,2	呼吸・循環・代謝に関する基礎知識に関して復習し，理解する。	0.5 h	配布資料を読み，評価結果の解釈について理解する。	2.5 h
13	神経系疾患の評価：高次脳機能評価	1,2	高次神経機能に関係する基礎知識を確認する。	0.5 h	教科書の該当ページおよび配布資料を読み，評価結果の解釈について理解する。	2.5 h
14	神経系疾患の理学療法評価	1,2	教科書の該当ページを読み，その概要を理解する。	1.5 h	配布資料を読み，各疾患の評価の流れを理解する。	2.5 h
15	日常生活活動・生活の質の評価	1,2	教科書の該当ページを読み，内容を理解する。	0.5 h	教科書および配布資料を読み，その利用方法について理解する。	0.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



講義と実習を連続的に実施することで，基礎的な技術の習得ができるように学習します。グループワークや実技の際には複数の教員で各学生の状況を確認し，個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。
理学療法評価学実習Ⅱの内容と合わせて、適宜必要に応じて予習・復習を実施すると理解が深まります。
質問は随時受け付けます。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

理学療法評価学実習 I

英文名 : Practice of Physiotherapy Evaluation Method I

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PEC201

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

樋口大輔（科目責任者）、高橋裕子

科目に関連した実務経験

理学療法士として病院非常勤勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①理学療法評価学 I で修得した検査・測定を実践するのに必要な技能を高める。なお、この技能にはリスク管理を含む。
- ②学生同士で2人ないし3人組を作って実技練習を行うことを基本に授業を進める。なお、複数の教員で各学生の練習状況を確認し、個別指導を行う。

到達目標

- 【精神運動領域】理学療法評価学 I での学びに根差し、健常者を相手に基本的な検査・測定をやってみせることができる。■
- 【精神運動領域】理学療法評価学 I での学びに根差し、健常者を相手に必要なリスク管理をやってみせることができる。

■

3.【情意領域】理学療法検査・測定技術の修得に向けて、探求心を持って主体的に取り組む態度を示すことができる。

使用教材

ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学（医歯薬出版株式会社）
新・徒手筋力検査法 第10版（協同医書出版社）
配布資料

参考文献

必要に応じて授業で紹介

評価方法

以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。

- ・ 中間実技試験（50点）
- ・ 期末実技試験（50点）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中の練習課題に対する質問にはその場で回答する。
実技試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。

オフィスアワー

月曜日1・2時限（4号館4階414研究室）

メールアドレス（#→@）

higuchi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	視診・触診（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
2	バイタルサイン（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
3	形態計測（四肢長）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
4	形態計測（周径）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
5	関節可動域測定（体幹）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
6	関節可動域測定（上肢）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
7	関節可動域測定（下肢）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	関節可動域測定（まとめ）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
9	まとめ（第1～4回） ①健常者を想定した形態計測の確認	1,2	特に必要としない。	0h	第1～4回で取り上げられた実習内容をまとめる。	0.2h
10	まとめ（第5～8回） ②健常者を想定した関節可動域測定の確認	1,2	特に必要としない。	0h	第5～8回で取り上げられた実習内容をまとめる。	0.2h
11	徒手筋力検査法（体幹）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2	特に必要としない。	0h	第1～8回で取り上げられた実習内容をまとめる。	0.2h
12	徒手筋力検査法（上肢）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
13	徒手筋力検査法（下肢）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
14	徒手筋力検査法（まとめ）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
15	感覚検査（表在・深部感覚）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
16	感覚検査（複合感覚）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	
17	腱反射、病的反射（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
18	筋トーンス検査（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
19	協調運動機能検査（運動失調検査など）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
20	協調運動機能検査（片麻痺運動機能検査など）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
21	体力・運動耐容能評価（フィールドテスト）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h
22	体力・運動耐容能評価（機器を用いた検査）（学生2人1組による実技練習：アクティブラーニング）■	1,2,3	特に必要としないが、直前の講義をしっかりと理解して実習に臨む。	0h	特に必要としないが、実習時間中に集中して実技練習を行い、技術を習得する。	0h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
23	まとめ（第11～14回） ①筋力低下者を想定した徒手筋力検査法の確認	1,2	特に必要としない。	0h	第11～14回で取り上げられた実習内容をまとめる。	0.2h
24	まとめ（第15～22回） ②失調または片麻痺者を想定した感覚・反射検査および協調運動機能検査の確認	1,2	特に必要としない。	0h	第15～22回で取り上げられた実習内容をまとめる。	0.2h

合計時間（予習・復習）↑

1h

備考↑

■は実務経験に基づく内容を示す。
オンライン授業となる場合には、授業の進め方、評価方法、出席確認の方法について事前に説明する。

印刷 

理学療法評価学実習Ⅱ

英文名：Physiotherapy Evaluation Practice Ⅱ

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PEC211

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

4 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

中川和昌 ■

篠原智行

高橋裕子

科目に関連した実務経験

病院に理学療法士として勤務（過去）

非常勤理学療法士としてクリニック、スポーツ現場等に勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○	○	○				

「その他」のアクティブラーニング実施方法

実習科目なので原則アクティブラーニングです。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 「理学療法評価学Ⅰ」で学んだ内容を基に、代表的な疾患の評価方法を理解し、各疾患の特徴や評価結果を踏まえた理学療法評価の流れについて学び練習する。また、特別な機器を用いた評価方法について学ぶ。

② 対面講義および実習。一部グループワーク・発表等で展開する。

到達目標							^
1. 代表的な疾患・部位別の理学療法において、基本的な評価を適応し実践できる。■ 2. 特別な機器を用いた評価を実施し、その意義を説明できる。							
使用教材							^
ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学（医歯薬出版株式会社）							
参考文献							^
特になし（随時提示します）							
評価方法							^
実技試験60%および各種グループワークやプレゼンテーションの点数30%，出席点・授業態度10%で評価する。							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
プレゼンテーションの評価はルーブリック評価の採点基準に基づき数値化して採点し結果をフィードバックする。実技試験の結果は書面及び口頭にてフィードバックを実施する。							
オフィスアワー							^
水曜1限（4号館4階413号室）							
メールアドレス（#→@）							^
nakagaw-ka#takasaki-u.ac.jp							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	オリエンテーション	1	教科書の前書き，シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	適宜	講義内容，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを確認する。	適宜	
2	バランス評価 1	1	教科書の該当ページを読み，評価方法を理解する。	適宜	バランスの評価の流れを復習し，自分で測定できるように練習する。	適宜	
3	バランス評価 2	1	教科書の該当ページを読み，評価方法を理解する。	適宜	バランスの評価の流れを復習し，自分で測定できるように練習する。	適宜	
4	各疾患における理学療法評価の流れ■	1	教科書の該当ページを読み，評価結果の統合と解釈の方法を理解する。	適宜	配布資料を読み，各疾患における理学療法評価の流れを理解する。	適宜	
5	各疾患における理学療法評価の流れ 2■	1	教科書の該当ページを読み，評価結果の統合と解釈の方法を理解する。	適宜	配布資料を読み，各疾患における理学療法評価の流れを理解する。	適宜	
6	各疾患における理学療法評価の流れ 3■	1	教科書の該当ページを読み，評価結果の統合と解釈の方法を理解する。	適宜	配布資料を読み，各疾患における理学療法評価の流れを理解する。	適宜	
7	運動器疾患の評価：Special test（上肢）■	1	疼痛誘発テストの予測されるリスクとオリエンテーションについて考える。	適宜	各種Special Testの目的を復習し，自分で実践できるように練習する。	適宜	
8	運動器疾患の評価：Special test（下肢）■	1	疼痛誘発テストの予測されるリスクとオリエンテーションについて考える。	適宜	各種Special Testの目的を復習し，自分で実践できるように練習する。	適宜	

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	運動器疾患の評価：各部位、疾患における評価（頸椎）■	1	頸椎の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	適宜	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
10	運動器疾患の評価：各部位、疾患における評価（腰椎・骨盤）■	1	腰椎・骨盤の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	適宜	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
11	運動器疾患の評価：各部位、疾患における評価（上肢）■	1	上肢の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	適宜	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
12	運動器疾患の評価：各部位、疾患における評価（股関節）■	1	股関節の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	適宜	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
13	運動器疾患の評価：各部位、疾患における評価（膝・足関節）■	1	膝・足関節の代表的な運動器疾患の症状について調べる。	適宜	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
14	機器を用いた評価：呼吸・代謝系	2	呼気ガス分析装置で評価できる項目について確認する。	適宜	配布資料を読み、評価方法について理解する。	適宜
15	機器を用いた評価：重心動揺計	2	重心動揺計で評価できる項目について確認する。	適宜	配布資料を読み、評価方法について理解する。	適宜
16	機器を用いた評価：筋電計	2	筋電計で評価できる項目について確認する。	適宜	配布資料を読み、評価方法について理解する。	適宜
17	機器を用いた評価：等速性筋力、等尺性筋力	2	筋収縮様式について確認し、その特徴を調べる。	適宜	配布資料を読み、評価方法について理解する。	適宜
18	神経系疾患の評価：脳血管疾患に対する評価	1	脳血管疾患の症状について調べる。	適宜	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
19	神経系疾患の評価：高次脳機能評価	1	高次脳機能障害の症状について調べる。	適宜	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
20	神経系疾患の評価：各疾患における評価	1	代表的な神経系疾患の症状について調べる。	適宜	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
21	内部障害系疾患の評価：呼吸器疾患における評価	1	代表的な内部障害系疾患の症状について調べる。	適宜	学習した各評価の目的を復習し、自分で実践できるように練習する。	適宜
22	日常生活活動・生活の質の評価	1	教科書の該当ページを読み、その方法を理解する。	適宜	講義資料および教科書の臨床評価指標を確認し、評価方法を理解する。	適宜
23	統合と解釈（グループワーク）	1	教科書の該当ページを読み、評価結果のまとめ方について理解する。	適宜	次回プレゼンテーションが行えるよう資料をまとめる。	適宜
24	統合と解釈（プレゼンテーション・ディスカッション）	1	プレゼンテーションが円滑に行えるようリハーサルを行う。	適宜	ディスカッションで生じた課題に取り組み、評価結果の捉え方について学ぶ。	適宜

合計時間（予習・復習）

適宜



講義と実習を連続的に実施することで、基礎的な技術の習得ができるように学習します。グループワークや実技の際には複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。
理学療法評価学Ⅱの内容と合わせて、適宜必要に応じて予習・復習を実施すると理解が深まります。
質問は随時受け付けます。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

画像評価学

英文名 : Diagnostic Imaging

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PEC212

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

解良武士、高橋裕子

科目に関連した実務経験

理学療法士として、大学病院および急性期総合病院（経験）、非常勤理学療法士として慢性期病院勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○								

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①患者の病態を踏まえた合理的な理学療法介入、検査・測定計画を立てる際に画像情報が役立てられるようにする。
 ②画像診断機器の基本原則と画像診断の理論、ならびに、理学療法で扱う代表的な疾患の画像のみかたを学ぶ。スライドを用いて画像描出の仕組み、疾病の病理を踏まえた画像の理解を中心に進めていく。

到達目標

- レントゲン画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。
- CT、MRI 画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。■
- 超音波エコー画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。■

使用教材

PT・OTのための画像診断マニュアル（医学教育出版社）
配付資料

評価方法

事前課題20%、筆記試験 80%

課題・評価に対するフィードバック方法

都度、画像評価について質問と解説を繰り返す。また筆記試験に関する解説を行う。

オフィスアワー

各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

kera#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	画像診断装置の原理と画像の構成 解良	1,2	X線、CT、MRIの原理、主な正常画像について確認する。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
2	運動器疾患の画像評価（上肢・脊柱）高橋■	1,2	正常レントゲン画像を整理しておく	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
3	運動器疾患の画像評価（下肢）高橋■	1,2	正常レントゲン画像を整理しておく	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5h
4	脳血管疾患の画像評価（脳の機能局在と神経伝導路）解良■	1,2	正常な脳の画像について確認する。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容と課題を再確認する。	1.5h
5	脳血管疾患の画像評価（脳卒中、頭蓋内出血など）解良■	1,2	脳卒中について確認する。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容と課題を再確認する。	1.5h
6	呼吸・循環器疾患の画像評価 解良■	1,2	肺気腫・肺炎・心不全について確認する。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容と課題を再確認する。	1.5h
7	超音波画像診断装置の原理と局所解剖 高橋■	3	整形外科的領域の解剖学を確認する。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容と課題を再確認する。	1.5h
8	まとめ	1,2,3	これまでの講義資料を確認する。	1.5h	当日配布資料を用いて授業内容と課題を再確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す（解良）。

印刷 

臨床運動学

英文名：Clinical Kinesiology

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PEC300

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

正木光裕（科目責任者）、富田洋介

科目に関連した実務経験

理学療法士として常勤で療育センター、一般病院、訪問看護ステーションに勤務（過去）

身体運動学に関する著書を分担で執筆（過去）

理学療法士として非常勤で小児、成人の理学療法に従事（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼ ンテ ーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペ ーパー	そ の 他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

動作を通じた臨床思考過程を学び、それを通じて必要な基礎知識を再学習する。国家試験に必要な知識や動作解析に必要な最低限の知識に関しては講義形式で実施するが、実際の動作解析に関してはグループワーク中心に体験的に実施する。その際には複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開する。

到達目標

1. 正常な動作と比較して、動作の特徴を観察することができる。
2. 動作解析に必要な基礎運動学、物理的知識を理解することができる。

- 3.動作の特徴に関して専門用語を用いて、文章および口頭で説明することができる。■
- 4.疾患に特徴的な動作の特徴および障害・症候と動作との関係を理解できる。■
- 5.動作の特徴について、その原因を話し合うことができる。■

使用教材

^

身体運動学 関節の制御機構と筋機能、市橋 則明編集、メジカルビュー社、2017、7480円
配布資料

参考文献

^

必要に応じて授業で紹介

評価方法

^

毎回の小テスト、筆記試験で基礎知識面の評価を行う。毎回の講義でディスカッションや発表の評価を行う。筆記試験で思考過程、表現力の評価を行う。
筆記試験60%、毎回の小テスト30%、授業への参加状況10%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

毎回の小テストは次回の授業で答案を返却し、解説を行う。
期末試験後、問題の出題意図について説明する。

オフィスアワー

^

金曜3・4時限
(4号館4階415研究室)

メールアドレス（#→@）

^

masaki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、動作解析の目的	2	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.25h
2	動作解析と力学的視点1	2,3	運動学で学んだ内容を復習し、動作解析に必要な物理的知識を理解する。	0.5h	力学的視点から動作を解析しまとめる。	0.25h
3	動作解析と力学的視点2	2,3	運動学で学んだ内容を復習し、動作解析に必要な物理的知識を理解する。	0.5h	力学的視点から動作を解析しまとめる。	0.25h
4	動作解析と力学的視点3	4	運動学で学んだ内容を復習し、動作解析に必要な物理的知識を理解する。	0.5h	力学・運動学的視点から動作を解析しまとめる。	0.25h
5	動作解析と力学的視点4	1,3	運動学で学んだ内容を復習し、動作解析に必要な物理的知識を理解する。	0.5h	力学・運動学的視点から動作を解析しまとめる。	0.25h
6	物理的視点からの動作解析	1,3	第2～5回の講義の内容を復習しておく。	0.5h	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25h
7	基本動作の動作解析	1,3	日常生活動作で学習した基本動作に関して復習する。	0.5h	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	上肢帯の動作解析 ■	3	上肢の基礎運動学に関して復習しておく。	0.5h	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25h
9	体幹の動作解析	1,3	体幹の基礎運動学に関して復習しておく。	0.5h	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25h
10	下肢の動作解析 ■	1,2,3,4	下肢の基礎運動学に関して復習しておく。	0.5h	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25h
11	臨床における動作解析の実際 : 概論 ■	1,2,3,4	今まで配布した資料を確認し、動作解析の基礎を理解する。	0.5h	次回小テストにて復習内容を課すので内容を理解しておくこと。	0.25h
12	動作の解釈 ■	3	各動作に必要な専門用語を復習しておく。	0.5h	客観的な説明が出来るように練習しておくこと。	0.25h
13	臨床における動作解析の実際 : 運動器疾患 ■	1,2,3,4,5	課題の運動器疾患の特徴と概要について理解する。	0.5h	プレゼンテーション・ディスカッションで指摘された課題を整理する。	0.25h
14	臨床における動作解析の実際 : 神経系疾患	1,2,3,4,5	基本的な神経系疾患に関する知識を整理する。	0.5h	プレゼンテーション・ディスカッションで指摘された課題を整理する。	0.25h
15	臨床における動作解析の実際 : その他の疾患	1,2,3,4,5	課題の疾患の特徴と概要について理解する。	0.5h	プレゼンテーション・ディスカッションで指摘された課題を整理する。	0.25h

合計時間（予習・復習）



11.25h

備考



登学が困難となった場合はZoom等を利用し、オンラインにて講義を展開する。

質問は随時受け付ける。

※ 45分を1時間とみなす。

※ ■は実務経験に基づく内容を示す。

印刷



臨床運動学実習

英文名：Practice of Clinical Kinesiology

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PEC310

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

富田洋介 ■、正木光裕

科目に関連した実務経験

理学療法士として急性期・回復期リハビリテーションに従事(過去)
スケート部医科学スタッフとして身体機能測定・動作解析に従事（現在）
非常勤理学療法士として生活期リハに従事（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

「臨床運動学」で学んだ内容を基に、各種測定機器を使用しながら動作解析を実施し、その理解を深める。
また治療につながる動作の見方を、実際の体験を通じて学んでいく。

到達目標

1. 観察による動作解析結果を科学的・客観的に捉え、模擬症例に適応して他者に説明することができる。■
2. 専門用語を用いて動作の特徴を説明し、積極的にディスカッションをすることでレポートおよびプレゼンテーションをま

とめ、発表することができる。■
3.機器を用いた測定・解析を体験し、その特徴・意義についてレポートならびにプレゼンテーションで説明できる■

使用教材 ^

特になし

参考文献 ^

特になし（随時提示します）

評価方法 ^

レポート、発表及び参加状況をもとに評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

各グループのレポート、プレゼンテーションの点数を公開する。
期末試験終了後、グループ課題の出題意図について説明する。

オフィスアワー ^

月曜日18:00-19:00

メールアドレス（#→@） ^

tomita-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・動作解析の概要（復習）	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	適宜	講義内容，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを確認する。	適宜
2	オリエンテーション・動作解析の概要（復習）■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
3	動作解析の実際① 予測的姿勢制御－立ち上がり■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
4	動作解析の実際① 予測的姿勢制御－立ち上がり■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
5	動作解析の実際② 予測的姿勢制御－つま先立ち、片足立ち■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
6	動作解析の実際② 予測的姿勢制御－つま先立ち、片足立ち■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
7	動作解析の実際③ 反応的姿勢制御■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
8	動作解析の実際③ 反応的姿勢制御■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	動作解析の実際④ 感覚機能 ■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
10	動作解析の実際④ 感覚機能 ■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
11	動作解析の実際⑤ 安定性限界 ■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
12	動作解析の実際⑤ 安定性限界 ■	1	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
13	動作解析の実際⑥ 歩行 ■	1,2	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
14	動作解析の実際⑥ 歩行 ■	1,2	動作を観察するための基本知識を復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
15	グループワーク1 : 測定 (各グループで1動作決めて測定を実施) ■	1,2,3	被験者および動作の着眼点を決めておく	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
16	グループワーク1 : 測定 (各グループで1動作決めて測定を実施) ■	1,2,3	被験者および動作の着眼点を決めておく	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
17	グループワーク2 : データ解析 ■	1,2	1～7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
18	グループワーク2 : データ解析 ■	1,2	1～7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜	授業資料内の分からなかった専門用語について調べる。	適宜
19	グループワーク3 : 発表資料作成 ■	1,2,3	1～7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜	次回プレゼンテーションが行えるよう資料を準備する。	適宜
20	グループワーク3 : 発表資料作成 ■	1,2,3	1～7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜	次回プレゼンテーションが行えるよう資料を準備する。	適宜
21	グループワーク4 : 発表資料作成 ■	1,2	1～7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜	次回プレゼンテーションが行えるよう資料を準備する。	適宜
22	グループワーク4 : 発表資料作成 ■	1,2	1～7回の授業内容について再度復習しておく。	適宜	次回プレゼンテーションが行えるよう資料を準備する。	適宜
23	発表 ■	1,2	プレゼンテーションが円滑に行えるようリハーサルをする。	適宜	他グループのプレゼンテーションを聞いた上での疑問点を整理する。	適宜
24	発表 ■	1,2	プレゼンテーションが円滑に行えるようリハーサルをする。	適宜	他グループのプレゼンテーションを聞いた上での疑問点を整理する。	適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



国家試験に必要な知識や動作解析に必要な最低限の知識に関しては講義形式で実施しますが、実際の動作解析に関してはグループワーク中心に体験的に実施します。グループワークの際には複数の教員で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。

質問は随時受け付けます。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



運動器系理学療法学

英文名：Musculoskeletal Physiotherapy

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC210

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

樋口大輔（科目責任者）

科目に関連した実務経験

理学療法士として病院非常勤勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディベ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①運動器系疾患に対する理学療法を行うために必要な基本的知識を修得する。
- ②スライドを使用した講義を基本に授業を行うが、学生が意見を述べたりする場面をできるだけ多く設ける。

到達目標

- 1. 【認知領域】代表的運動器系疾患の概要を整理し、説明することができる。
- 2. 【認知領域】代表的運動器系疾患の特徴を踏まえて、理学療法検査・測定・調査項目を列挙することができる。■
- 3. 【認知領域】代表的運動器系疾患の理学療法を行う上で注意すべき点を述べることができる。

使用教材

参考文献 ^

必要に応じて授業で紹介

評価方法 ^

以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。

- ・グループ発表（20点）
- ・筆記試験（80点）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。

オフィスアワー ^

月曜日1・2時限（4号館4階414研究室）

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、総論	1	教科書（p1～9）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.7 5h
2	運動器の基礎理論（前半：運動・動作の原則、組織の修復）	1	教科書（p11～39）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2.2 5h
3	運動器の基礎理論（後半：運動器と疼痛、成長と加齢）	1,2,3	教科書（p11～39）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2.2 5h
4	変形性膝関節症に対する理学療法 Gr発表①	1,2,3	教科書（p91～113）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h
5	大腿骨近位部骨折（骨壊死性疾患含む）に対する理学療法 Gr発表②	1,2,3	教科書（p115～130）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h
6	脊椎椎体骨折に対する理学療法 Gr発表③	1,2,3	教科書（p131～147）を用いて下調べする。	0.7 5h	事前配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h
7	脱臼に対する理学療法	1,2,3	事前配布資料を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h
8	関節リウマチに対する理学療法 Gr発表④	1,2,3	教科書（p149～172）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h
9	脊椎疾患（非特異的腰痛含む）に対する理学療法 Gr発表⑤	1,2,3	教科書（p173～192）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h
10	脊髄損傷に対する理学療法 Gr発表⑥	1,2,3	教科書（p193～216）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	軟部組織損傷（靱帯損傷・半月板損傷）に対する理学療法 Gr発表⑦	1,2,3	教科書（p217～232）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h
12	肩関節疾患に対する理学療法 Gr発表⑧	1,2,3	教科書（p275～303）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h
13	絞扼性末梢神経障害に対する理学療法 Gr発表⑨	1,2,3	教科書（p305～326）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h
14	慢性疼痛疾患に対する理学療法 ■ Gr発表⑩	1,2,3	教科書（p327～349）を用いて下調べする。	0.7 5h	教科書および配布資料を参考に国家試験過去問題に取り組む。	2.2 5h
15	まとめ	1,2,3	教科書とこれまでの配布資料を用いて第1～14回の授業内容を総括する。	3.7 5h	これまでの配布資料を整理し、授業内容をまとめる。	0.7 5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



■は実務経験に基づく内容を示す。
オンライン授業となる場合には、授業の進め方、評価方法、出席確認の方法について事前に説明する。

印刷



運動器系理学療法学実習

英文名：Practice of Musculoskeletal Physiotherapy

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC300

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

中川和昌 ■

科目に関連した実務経験

病院に理学療法士として勤務（過去）

非常勤理学療法士としてクリニック、スポーツ現場等で勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 既習の理学療法基礎学・同実習、理学療法評価学・同実習および運動器系理学療法学の内容を踏まえて、運動器系理学療法における評価から治療の流れに関して、基礎知識とともに説明できる。また、運動器系の理学療法でよく用いられる評価手技および治療手技について、その理論的背景、適応を理解したうえで実技練習を行い、理解を深める。

② 対面講義および実習。一部グループワーク・発表等で展開する。

到達目標

- 1. 基本的な運動器系疾患に対する理学療法評価手技を説明し、基礎的手技を行うことができる ■
- 2. 基本的な運動器系疾患に対する理学療法の評価および治療の流れを説明することができる ■

3. 各時期に見合った評価・治療を適切に選択できる ■
4. 運動器疾患患者の生活を考えたアプローチの必要性について理解し，説明できる。

使用教材 ^

運動器系理学療法学テキスト（南江堂）および配布資料

参考文献 ^

特になし（随時提示します）

評価方法 ^

レポート・課題30%
筆記試験20%
実技テスト50%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

実技練習は適宜確認し，個人および全体にポイントをフィードバックする。
実技確認テストについても個別に点数を伝えフィードバックするとともに，全体に対しても注意点をフィードバックし，再度実技練習をする。

オフィスアワー ^

水曜1限（4号館4階413号室）

メールアドレス（#→@） ^

nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	肩関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理，評価，治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	肩関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
2	肩関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価，治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	肩関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
3	肘関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理，評価，治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	肘関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
4	肘関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価，治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	肘関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
5	手関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理，評価，治療および指導	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	手関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
6	手関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価，治療および指導	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	手関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
7	上肢疾患に対する理学療法（まとめ：アクティブラーニング）：ケーススタディ ■	1,2,3,4	前回までの講義で教わった内容について復習・練習する。	適宜	上肢疾患に対する理学療法の流れを整理して理解する。	適宜
8	頸部疾患への急性期理学療法 - リスク管理，評価，治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習してお	適宜	頸部疾患への急性期理学療法のポイントについて	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			く。		理解する。	
9	頸部疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	頸部疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
10	腰部疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	腰部疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
11	腰部疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	腰部疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
12	体幹（頸部・腰部）疾患に対する理学療法（まとめ：アクティブラーニング）：ケーススタディ ■	1,2,3,4	前回までの講義で教わった内容について復習・練習する。	適宜	体幹疾患に対する理学療法の流れを整理して理解する。	適宜
13	股関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	股関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
14	股関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	股関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
15	膝関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	膝関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
16	膝関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	膝関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
17	足関節疾患への急性期理学療法 - リスク管理, 評価, 治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	足関節疾患への急性期理学療法のポイントについて理解する。	適宜
18	足関節疾患への回復期・予防理学療法 - 評価, 治療および指導 ■	1,2,3	前期の座学で習った部分を復習しておく。	適宜	足関節疾患への回復期・予防理学療法のポイントについて理解する。	適宜
19	下肢疾患に対する理学療法（まとめ：アクティブラーニング）：ケーススタディ ■	1,2,3,4	前回までの講義で教わった内容について復習・練習する。	適宜	下肢疾患に対する理学療法の流れを整理して理解する。	適宜
20	その他の運動器疾患に対する理学療法 ①スポーツ外傷・障害 ■	1,2,3	前回までの講義で教わった内容について復習・練習する。	適宜	スポーツ障害・外傷に対する理学療法の流れを整理して理解する。	適宜
21	その他の運動器疾患に対する理学療法 ②末梢神経障害	1,2,3,4	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく。	適宜	末梢神経障害への理学療法のポイントについて理解する。	適宜
22	その他の運動器疾患に対する理学療法 ③関節リウマチ	1,2,3,4	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく。	適宜	関節リウマチへの理学療法のポイントについて理解する。	適宜
23	その他の運動器疾患に対する理学療法 ④切断・脊髄損傷	1,2,3,4	前期の座学で習った部分のノートを予習しておく。	適宜	切断・脊髄損傷への理学療法のポイントについて理解する。	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
24	まとめ（アクティブラーニング）■	1,2,3,4	これまでに学んだ部分を復習しておく。	適宜	運動器疾患への理学療法のポイントについて理解する。	適宜

合計時間（予習・復習）

^

適宜

備考

^

本講義は実習科目であり、運動器系理学療法学で学んだ内容を基に、臨床で使える知識・技術を盛り込みながら実技中心で展開していきます。実習中は各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。運動器系理学療法学の内容と合わせて、適宜予習・復習を実施すると理解が深まります。質問は随時受け付けます。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



神経系理学療法学

英文名 : Neurological Physiotherapy

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PTC211

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

吉田剛、富田洋介

科目に関連した実務経験

理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験）
非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○			○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

レポートと講義ノートに対してコメントを付けて返却

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

理学療法の主要対象の一つである神経疾患の中でも特に脳卒中に焦点を当て、その理学療法評価から治療までを体系的に学ぶ。

- ①神経系疾患に対する理学療法の基礎を理解する。
- ②脳卒中に対する理学療法を時期別におさえて、流れを理解する。
- ③神経系理学療法を行なう上でのリスクについて理解する。

④神経系理学療法の評価と治療の組み立てについて理解する。
⑤各種疾患についての理学療法についても基礎知識を身につける。
講義の一部は、教員のデモおよび解説に基づいて行い、実際のケースの動画などを見ながら実践的に学修する。

到達目標 ↑

- 1.基本的な神経系疾患に対する理学療法について概要を説明することができる。■
- 2.脳卒中の理学療法について各期で行う評価と治療のポイントを説明することができる。■
- 3.神経系理学療法を行ううえで必要なリスク管理項目を挙げることができる。■

使用教材 ↑

潮見泰蔵 脳卒中に対する標準的理学療法介入（第2版） 文光堂6500円+税

参考文献 ↑

- ①脳・神経系リハビリテーション 潮見泰蔵 羊土社 5700円+税
- ②脳卒中理学療法の理論と技術第3版 原寛美・吉尾雅春 メヂカルビュー 6500円+税
- ③標準理学療法学 専門分野シリーズ 神経理学療法学 吉尾雅春 医学書院 5000円+税
- ④理学療法MOOK 1・2 脳損傷の理学療法 吉尾雅春 三輪書店 各3300円+税
- ⑤15レクチャー 神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ 石川朗 中山書店 各2400円+税

評価方法 ↑

10回の小テスト20%、実習室講義ノート（4日分）10%、講義で出されるレポート3回分15%、期末試験50%、授業参加状況・授業態度5%で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

各回の小テストの点数を開示し、不足点はフィードバックする。講義ノートの取り方について10点満点で採点し、参考例を示してフィードバックする。レポートについても10点満点で採点し、全体にフィードバックする。

オフィスアワー ↑

金曜午後

メールアドレス（#→@） ↑

tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp
tomita-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 神経系理学療法の範囲とリハビリテーション	1	シラバスの内容とテキストを確認し、講義の目標などを学習する。	1.5h	神経系理学療法の範囲とリハビリテーションについて理解する。	1.5h
2	脳卒中治療ガイドラインにみるエビデンスと評価法	1	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5h	脳卒中治療ガイドラインにみるエビデンスと評価法について理解する。	1.5h
3	画像診断とリスク管理 ■	1,2,3	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5h	画像診断とリスク管理について整理し理解する。	1.5h
4	理学療法評価としての脳卒中評価（デモ） ■	1,2,3	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5h	脳卒中者に対する理学療法評価について整理し理解する。	1.5h
5	高次脳機能障害に対する理学療法（デモ） ■	2,3	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5h	高次脳機能障害に対する理学療法について整理し理解する。	1.5h
6	急性期理学療法（デモ） ■	2,3	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。 課題指向型アプローチに	1.5h	神経系疾患における急性期理学療法について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			についてのレポートを作成する。			
7	回復期理学療法（デモ）■	2,3	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 h	神経系疾患における回復期理学療法について理解する。	1.5 h
8	生活期理学療法 ■	2,3	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 h	神経系疾患における生活期理学療法について理解する。	1.5 h
9	脳卒中における様々な症状とA D Lへの対応■（富田）	2,3	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。 高次脳機能障害に対するレポートを作成する。	1.5 h	脳卒中における様々な症状とA D Lへの対応について理解する。	1.5 h
10	脳卒中者に対する装具療法 ■（富田）	2,3	使用教材の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 h	神経系疾患における装具療法について理解する。	1.5 h
11	パーキンソン病に対する理学療法■（富田）	1,2,3	参考書の該当箇所を読み、小テストに備える。	1.5 h	パーキンソン病に対する理学療法について理解する。	1.5 h
12	小脳疾患に対する理学療法（脊髄小脳変性症など）■（富田）	1,2,3	参考書の該当箇所を読み、講義に備える。	1.5 h	小脳疾患に対する理学療法について理解する。	1.5 h
13	進行性神経疾患に対する理学療法■（富田）	1,2,3	参考書の該当箇所を読み、講義に備える。	1.5 h	進行性神経疾患に対する理学療法について理解する。	1.5 h
14	神経疾患に対する理学療法の実際■	1,2,3	参考書の該当箇所を読み、講義に備える。	1.5 h	神経疾患に対する理学療法の実際についてケースに対する実際の治療を見て理解する。	1.5 h
15	まとめ	1,2,3	今までの授業を総合的に振り返り、理解する。 脳卒中の臨床的な評価のまとめレポートを作成する。	1.5 h	神経系理学療法について総合的に理解する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

デモ講義については、ノートに図入りで詳細な解説を加えながらまとめ、今後の専門的理学療法を学ぶためのスキルも同時に身につける。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



神経系理学療法学実習

英文名：Practice of Neurological Physiotherapy

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC301

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

吉田剛、富田洋介

科目に関連した実務経験

理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験）
非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

レポートに対してコメントを付けて返却

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

神経系理学療法でよく用いられる評価手技および治療手技について、その理論的背景、適応を理解したうえで、実技練習を行い、理解を深める。

脳卒中模擬患者に対する動作誘導、歩行練習、感覚刺激、認知面へのアプローチなどの治療手技について身につける。

本講義は実習科目であり2コマ連続で受講し、毎回実技試験で学修度を確認する。また、一部内容はグループ学習および発表を通して学修する。

到達目標

↑

- 1.基本的な神経系疾患に対する理学療法評価手技を説明し、基礎的手技を行うことができる。■
- 2.基本的な神経系疾患に対する理学療法治療手技を説明し、基礎的手技を行うことができる。■
- 3.各時期に見合った評価・治療を適切に選択できる。■
- 4.神経疾患患者の生活を考えたアプローチの必要について理解し、説明できる。■

使用教材

↑

神経系理学療法学テキストと同じ

参考文献

↑

神経系理学療法学の参考書と同じ

評価方法

↑

レポート20%、実技確認テスト10%、講義ノート10%、実技テスト50%、授業貢献度10%

課題・評価に対するフィードバック方法

↑

課題については10点満点で採点し、全体にポイントをフィードバックする。実技確認テストについても個別にその場で点数を伝え、全体に注意点をフィードバックする。

オフィスアワー

↑

金曜午後

メールアドレス（#→@）

↑

tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp

tomita-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	：脳卒中片麻痺者に対する理学療法評価1	1,2,3	前期の神経系理学療法学で学修した部分のノートを予習しておく。	0.5 h	片麻痺者への理学療法評価のポイントについて理解する。	1 h
2	：脳卒中片麻痺者に対する理学療法評価2	1,2,3	前回の講義で教わった実技について練習する。	0.5 h	片麻痺者への理学療法評価のポイントについて理解する。	1 h
3	片麻痺者への急性期理学療法1-①リスク管理，姿勢管理，評価■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について小テスト受験のための準備練習をする。	1.5 h	片麻痺者への急性期理学療法のポイントについて理解する。	1 h
4	片麻痺者への急性期理学療法1-②環境適応へのアプローチ■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について練習する。	0.5 h	片麻痺者への急性期理学療法のポイントについて理解する。	1 h
5	片麻痺者への急性期理学療法2-① 関節可動域へのアプローチ■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について小テスト受験のための準備練習をする。	1.5 h	片麻痺者への急性期理学療法のポイントについて理解する。	1 h
6	片麻痺者への急性期理学療法2-② 麻痺側運動促進■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について練習する。	0.5 h	片麻痺者への急性期理学療法のポイントについて理解する。	1 h
7	片麻痺者への急性期理学療法3-① 離床への準備（運動経験と身体図式）■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について小テスト受験のための準備練習をする。	1.5 h	片麻痺者への急性期理学療法のポイントについて理解する。	1 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	片麻痺者への急性期理学療法3-② 離床への準備（機能的座位）■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について練習する。	0.5 h	片麻痺者への急性期理学療法のポイントについて理解する。	1 h
9	片麻痺者への急性期理学療法4-① ベッドサイド立位および歩行■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について小テスト受験のための準備練習をする。	1.5 h	片麻痺者への急性期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
10	片麻痺者への急性期理学療法4-② ベッドサイド立位および歩行■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について練習する。	0.5 h	片麻痺者への急性期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
11	片麻痺者への回復期理学療法1-① 運動麻痺へのアプローチ（上肢）■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について小テスト受験のための準備練習をする。	1.5 h	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
12	片麻痺者への回復期理学療法1-② 運動麻痺へのアプローチ（下肢）■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について練習する。	0.5 h	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
13	片麻痺者への回復期理学療法2-① 両側同時活動を用いた運動療法■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について小テスト受験のための準備練習をする。	1.5 h	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
14	片麻痺者への回復期理学療法2-② 交互活動を用いた運動療法■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について練習する。	0.5 h	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
15	片麻痺者への回復期理学療法3-① 歩行獲得に向けたアプローチ■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について小テスト受験のための準備練習をする。	1.5 h	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
16	片麻痺者への回復期理学療法3-② 応用歩行練習■	4	前回の講義で教わった実技について練習する。	0.5 h	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
17	片麻痺者への回復期理学療法4-① ADL改善に向けたアプローチ■	4	前回の講義で教わった実技について小テスト受験のための準備練習をする。	1.5 h	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
18	片麻痺者への回復期理学療法4-② 退院準備のためのアプローチ■	4	前回の講義で教わった実技について練習する。	0.5 h	片麻痺者への回復期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
19	片麻痺者への生活期理学療法（評価）■	1,2,3	前回の講義で教わった実技について小テスト受験のための準備練習をする。	1.5 h	片麻痺者への生活期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
20	片麻痺者への生活期理学療法（アプローチ）■	1,2,3	前期の神経系理学療法学で学修した部分のノートを予習しておく。	0.5 h	片麻痺者への生活期理学療法の講義ノートを整理して理解する。	1 h
21	片麻痺者のADLとそれを保証する生活環境についての指導（グループ学習）■	1,2,3	前期の神経系理学療法学と日常生活活動学で学修した部分のノートを予習しておく。	1 h	片麻痺者のADLとそれを保証する生活環境について理解する。	1 h
22	片麻痺者のADLおよび生活環境についての指導について（発表）■	1,2,3	前期の神経系理学療法学と日常生活活動学で学修した部分のノートを予習しておく。	1 h		1 h
23	片麻痺者の装具療法と理学療法1■	1,2,3,4	前期の神経系理学療法学と義肢装具学で学修した部分のノートを予習しておく。	1 h		1 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
24	片麻痺者の装具療法と理学療法2 ■	1,2,3,4	前期の神経系理学療法学と義肢装具学で学修した部分のノートを予習しておく。	1 h		1 h

合計時間（予習・復習）

47 h

^

備考

学んだ実技内容が身につくように講義後に練習を行い、次の講義で行う実技小テストに備える。
生活に関する内容では、グループ学習および発表を行う。
予習・復習は、試験前の学習で適宜補完する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



内部障害系理学療法学

英文名 : Internal Physical Therapy

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PTC212

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

解良武士

科目に関連した実務経験

理学療法士として、大学病院および急性期総合病院（経験）、非常勤理学療法士として慢性期病院勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①理学療法に関わる呼吸・循環疾患の病態生理を理解し、各疾患の障害像を持てるようになる。これらの疾患を有する対象者に安全で、かつ効果的な理学療法を展開できるようになる。中枢疾患、運動器疾患にこれらの疾患が合併しても、配慮しながら理学療法介入が行えるようになる。

②講義を基本とし、一部実習を行う。授業内評価を2回実施し、段階的に知識の整理と確認を行う。

到達目標

- 1.代表的循環器疾患にかかる理学療法を説明できる。
- 2.代表的呼吸器疾患にかかる理学療法を説明できる。

3.運動生理学を踏まえ、運動負荷試験の原理と方法を説明できる。

使用教材 ^

解良武士編 Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 メジカルビュー社

参考文献 ^

三学会編 呼吸リハビリテーションマニュアル 運動療法 照林社
解良武士編 リハビリテーション運動生理学 メジカルビュー社。

評価方法 ^

筆記試験 70% 課題レポート等30%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

提出物については総評をフィードバックし、テストについてはテスト直後にできていない点を中心にフィードバックを行う。

オフィスアワー ^

水曜日2限目

メールアドレス（#→@） ^

kera#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	循環疾患に関わる解剖・生理学	1	循環の生理学について整理しておく。	1.5h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5h
2	呼吸に関わる解剖・生理・運動学	1	呼吸に関わる解剖生理学を整理しておく。	1.5h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5h
3	運動生理学の基礎知識 ■	1	運動時の呼吸循環代謝の生理反応について整理しておく。	1.5h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5h
4	心不全と理学療法評価 ■	1	心不全について整理しておく。基本的な心電図および不整脈について予習する。	1.5h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5h
5	心不全と理学療法 ■	1	心不全の病態について復習しておく。	1.5h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5h
6	虚血性心疾患 ■	1	虚血性心疾患について整理しておく。	1.5h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5h
7	末梢循環障害の理学療法 ■	1	末梢循環障害について整理しておく。	1.5h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5h
8	中間まとめ	2	第1～7回までの講義ノートを復習する。	1.5h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	呼吸不全と理学療法評価 ■ (呼吸器疾患の病態と評価について)	2	呼吸器疾患の病態について復習しておく	1.5 h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 h
10	呼吸不全と理学療法評価 ■ (フィジカルアセスメント；視診・触診・聴診・打診を中心に)	2	呼吸器疾患の病態について復習しておく	1.5 h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 h
11	呼吸リハビリテーション ■	2	呼吸器系の解剖、運動学、生理学を復習しておく	1.5 h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 h
12	慢性閉塞性肺疾患の理学療法 ■	2	慢性閉塞性肺疾患、肺炎、間質性肺炎など理学療法の機会が多い呼吸器疾患について整理しておく	1.5 h	ポートフォリオにまとめる。授業不足分を教科書で学習する。	1.5 h
13	理学療法評価実習1 ■	2	フィジカルアセスメント	1.5 h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
14	理学療法評価実習2 ■	3	6分間歩行試験、SWTの方法を練習しておく	1.5 h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	1.5 h
15	まとめ	1,2,3	第7～14回までの講義ノートを復習する。	1.5 h	これまでの講義内容を見直す。	1.5 h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- （■：実務経験に基づく内容を示す）
- ・本講は講義を中心に行いますが、一部は実技を行いますのでその際は実技講義にふさわしい服装で参加すること。
 - ・学習範囲が広いため講義時間内で学習内容が網羅できない場合は、不足する学習項目の時間外での自主学習を指示する。

印刷



内部障害系理学療法学実習

英文名：Practice of Internal Physical Therapy

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC302

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

千木良佑介、齊田高介

科目に関連した実務経験

大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）

非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○		○				

「その他」のアクティブラーニング実施方法

特になし

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①呼吸・循環・代謝疾患の理学療法でよく用いられる手技について、その理論的背景、適応を理解したうえで、実技練習を行い、理解を深める。

②呼吸理学療法では、介助呼吸手技や排痰法などの実技練習を行い、心疾患や糖尿病に対する運動療法では、リスク管理方法、運動処方などを実際に体験するよう実習を行う。

到達目標							^
1. 呼吸器疾患にかかる理学療法手技が実施でき、人工呼吸器、リスク管理など周辺知識が整理される。吸引が実施できる（モデル、生体）。 ■ 2. 循環器疾患の理学療法が実施でき、聴診、心電図、心肺運動負荷試験等、周辺知識が整理される。 ■ 3. 腎疾患、代謝系患にかかる理学療法が実施でき、説明できる。 ■ 4. 内部障害におけるトレーニング効果を説明できる。 ■							
使用教材							^
特になし							
参考文献							^
内部障害に対する運動療法 -基礎から実践まで- メジカルビュー社							
評価方法							^
筆記・実技試験80% 授業態度20%で評価する。 総合60%以上で合格とする。							
課題・評価に対するフィードバック方法							^
試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。							
オフィスアワー							^
金曜13：00～16：30							
メールアドレス（#→@）							^
chigira#takasaki-u.ac.jp							
授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	内部障害について	2,3,4	当該項目について調べておく。	期間中適宜	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	期間中適宜	
2	呼吸器疾患の理学療法Ⅰ 概論	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		
3	呼吸器疾患の理学療法Ⅱ 理学療法手技 聴診 ■	1,2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		
4	呼吸器疾患の理学療法Ⅲ 理学療法手技 コンディショニング① ■	1,2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		
5	呼吸器疾患の理学療法Ⅲ コンディショニング② ■	1,2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		
6	呼吸器疾患の理学療法Ⅳ 理学療法手技 呼吸介助① ■	1,2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		
7	呼吸器疾患の理学療法Ⅳ 理学療法手技 呼吸介助② ■	1,2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		
8	呼吸器疾患の理学療法Ⅳ 理学療法手技 呼吸介助③排痰 ■	1,2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		
9	呼吸器疾患の理学療法Ⅴ 理学療法手技 フィジカルアセスメント ■	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		
10	呼吸器疾患の理学療法Ⅵ 呼吸機能検査 パルスオキシメーター ■	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。		

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	循環器疾患の理学療法Ⅰ 概論	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
12	循環器疾患の理学療法Ⅱ 聴診 ■	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
13	循環器疾患の理学療法Ⅲ 心電図① ■	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
14	循環器疾患の理学療法Ⅲ 心電図② ■	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
15	外科の術前後の理学療法Ⅰ	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
16	外科の術前後の理学療法Ⅱ	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
17	人工呼吸器についてⅠ ■	1,2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
18	人工呼吸器についてⅡ ■	1,2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
19	排痰・吸引について ■	1,2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
20	排痰・吸引についてⅡ ■	1,2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
21	腎疾患の理学療法	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
22	糖尿病の呼吸理学療法	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
23	心肺運動負荷試験	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	
24	内部障害におけるトレーニング効果	2,3,4	当該項目について調べておく。		当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	

備考



授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。実技や実習が中心となった授業で進行していく。

予習復習時間は各自で適宜補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

日常生活活動学

英文名：Activities of Daily Living

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC200

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

篠原智行、田中繁弥

科目に関連した実務経験

急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①日常生活活動と生活関連活動の概念や範囲を知り、その評価方法を学習する。また、起居・移乗動作、食事、整容、更衣、排泄、入浴の各動作に必要な身体機能や要素を考察する。疾患特異的な制限、及び種々の障害により生じる制限を学び、その支援方法についても学習する。

②主に配布資料とパワーポイントを用いて授業を行う。グループ発表にあたっては、発表内容や方法を随時指導する。

到達目標

- 日常生活活動と生活関連活動、クオリティ・オブ・ライフについて説明できる。■
- 日常生活活動に必要な要素を考察し、説明できる。■

- 3. 疾患特異的な日常生活活動制限とその支援方法を説明できる。■
- 4. 障害により生じる日常生活活動制限とその支援方法を説明できる。■

使用教材

^

Crosslink理学療法学テキスト 日常生活活動学、臼田滋編集、メジカルビュー社

参考文献

^

指定なし。

評価方法

^

発表内容20%、筆記試験80%

課題・評価に対するフィードバック方法

^

発表の際にコメントをする。

オフィスアワー

^

篠原：木曜日3時限、4号館416研究室

メールアドレス（#→@）

^

shinohara-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	日常生活活動の概念■	1,2	教科書の該当範囲を読む。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
2	日常生活活動の評価■	1,2	教科書の該当範囲を読む。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
3	日常生活と基本動作■	1,2	教科書の該当範囲を読む。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
4	基本動作の評価■	1,2	教科書の該当範囲を読む。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
5	グループ発表①と解説	1,2	発表準備をする。	1.5h	発表された動作のポイントを整理する。	1.5h
6	グループ発表②と解説	1,2	発表準備をする。	1.5h	発表された動作のポイントを整理する。	1.5h
7	グループ発表③と解説	1,2	発表準備をする。	1.5h	発表された動作のポイントを整理する。	1.5h
8	グループ発表④と解説	1,2	発表準備をする。	1.5h	発表された動作のポイントを整理する。	1.5h
9	グループ発表⑤と解説	1,2	発表準備をする。	1.5h	発表された動作のポイントを整理する。	1.5h
10	自助具・日常生活用具■	1,3	教科書の該当範囲を読む。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
11	歩行補助具と車いす■	1,3	教科書の該当範囲を読む。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
12	疾患別ADL 脳血管障害■	2,3,4	教科書の該当範囲を読む。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
13	疾患別ADL 脊髄損傷■	2,3,4	教科書の該当範囲を読む。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	疾患別ADL 大腿骨頸部骨折術後 ■	2,3,4	教科書の該当範囲を読む。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	これまでの授業内容を振り返り、理解不十分な部分を把握しておく。	1.5h	これまでの配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



日常生活活動学実習

英文名 : Practice of Activities of Daily Living

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PTC213

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

篠原智行、田中繁弥

科目に関連した実務経験

急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①模擬的障害設定を行い、日常生活活動の制限を体験し、その解決方法を学習するとともに、適切な支援手技を習得する。また、対象者の特徴を踏まえ、対象者やその家族に対する支援方法の提案について学ぶ。
- ②実技の見本を見て、学生同士で手技を練習する。あるいは、授業テーマに沿った課題について、個人またはグループワークで演習を行う。

到達目標

- 対象者の日常生活活動の支援方法を考えることができる。■
- 対象者やそのご家族、他職種に伝えるように、日常生活活動の支援方法を説明できる。■

3. 実習に出た際に指導者の見守りのもと、対象者をベッドから起こし、車椅子に移乗する支援ができる。■

使用教材 ^

Crosslink理学療法学テキスト 日常生活活動学、臼田滋編集、メジカルビュー社

参考文献 ^

指定なし。

評価方法 ^

実技試験60%、レポート課題30%、授業態度10%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

実技テストの内容は個別に口頭にて解説する。レポート課題は評価して返却する。

オフィスアワー ^

篠原：木曜日3時限、4号館416研究室

メールアドレス（#→@） ^

shinohara-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	基本動作の誘導と評価（立ち上がり、移乗1）■	1,2,3	立ち上がりおよび移乗の特徴を把握する。	適宜	立ち上がりおよび移乗の介助や評価技術を練習する。	適宜
2	基本動作の誘導と評価（立ち上がり、移乗2）■	1,2,3	立ち上がりおよび移乗の特徴を把握する。	適宜	立ち上がりおよび移乗の介助や評価技術を練習する。	適宜
3	基本動作の誘導と評価（寝返り、起き上がり1）■	1,2,3	寝返りおよび起き上りの特徴を把握する。	適宜	寝返りおよび起き上りの介助や評価技術を練習する。	適宜
4	基本動作の誘導と評価（寝返り、起き上がり2）■	1,2,3	寝返りおよび起き上りの特徴を把握する。	適宜	寝返りおよび起き上りの介助や評価技術を練習する。	適宜
5	疾患特異的な基本動作（片麻痺1）■	1,2,3	片麻痺の運動機能の特徴を把握する。	適宜	片麻痺者の基本動作支援を練習する。	適宜
6	疾患特異的な基本動作（片麻痺2）■	1,2,3	片麻痺の運動機能の特徴を把握する。	適宜	片麻痺者の基本動作支援を練習する。	適宜
7	疾患特異的な基本動作（変形性膝関節症1）■	1,2,3	変形性膝関節症の運動機能の特徴を把握する。	適宜	変形性膝関節症者の基本動作支援を練習する。	適宜
8	疾患特異的な基本動作（変形性膝関節症2）■	1,2,3	変形性膝関節症の運動機能の特徴を把握する。	適宜	変形性膝関節症者の基本動作支援を練習する。	適宜
9	疾患特異的な基本動作（脊髄損傷1）■	1,2,3	脊髄損傷の運動機能の特徴を把握する。	適宜	脊髄損傷者の基本動作支援を練習する。	適宜
10	疾患特異的な基本動作（脊髄損傷2）■	1,2,3	脊髄損傷の運動機能の特徴を把握する。	適宜	脊髄損傷者の基本動作支援を練習する。	適宜
11	日常生活活動の指導1■	1,2,3	セルフケアについて復習する。	適宜	日常生活活動の指導の仕方を整理し練習する。	適宜
12	日常生活活動の指導2■	1,2,3	セルフケアについて復習する。	適宜	日常生活活動の指導の仕方を整理し練習する。	適宜

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	基本動作の手技の確認1	1,2,3	これまで学んだ基本動作の手技を復習する。	適宜	これまで学んだ基本動作の手技を復習する。	適宜
14	基本動作の手技の確認2	1,2,3	これまで学んだ基本動作の手技を復習する。	適宜	これまで学んだ基本動作の手技を復習する。	適宜
15	基本動作の支援の確認1	1,2,3	これまで学んだ基本動作の支援方法を復習する。	適宜	これまで学んだ基本動作の支援方法を復習する。	適宜
16	基本動作の支援の確認2	1,2,3	これまで学んだ基本動作の支援方法を復習する。	適宜	これまで学んだ基本動作の支援方法を復習する。	適宜
17	車いすの調節1 ■	1,2,3	車いすの名称や構造を把握する。	適宜	車いすの調整方法を整理し練習する。	適宜
18	車いすの調節2 ■	1,2,3	車いすの名称や構造を把握する。	適宜	車いすの調整方法を整理し練習する。	適宜
19	補助具の調節1 ■	1,2	補助具の名称や構造を把握する。	適宜	補助具の調整方法を整理し練習する。	適宜
20	補助具の調節2 ■	1,2	補助具の名称や構造を把握する。	適宜	補助具の調整方法を整理し練習する。	適宜
21	セルフケア、IADLの支援1 ■	1,2	セルフケア、IADLを復習する。	適宜	セルフケア、IADLの支援方法を復習する。	適宜
22	セルフケア、IADLの支援2 ■	1,2	セルフケア、IADLを復習する。	適宜	セルフケア、IADLの支援方法を復習する。	適宜
23	障がい者の社会活動支援1 ■	1,2	車いす利用者の環境のバリアを確認する。	適宜	障がい者の社会活動支援のあり方を復習する。	適宜
24	障がい者の社会活動支援2 ■	1,2	車いす利用者の環境のバリアを確認する。	適宜	障がい者の社会活動支援のあり方を復習する。	適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



義肢装具学

英文名：Prosthetics and Orthotics

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC214

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

千木良佑介

科目に関連した実務経験

大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）
非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①切断者に適応される義肢と様々な目的で用いられる装具について、その適応および種類、チェックアウトの方法などについて広く学ぶ。特に、大腿切断、下腿切断、上腕切断、前腕切断に対する、義肢の適応について、義肢の種類、パーツの種類、適合評価などを学ぶ。

②講義スライドを用い、並行してアクティブラーニングを行っていく。

到達目標

- 義肢の種類、適応について言える。
- 装具の種類、適応が言える。

3. 義肢・装具を用いた理学療法について説明できる。■

使用教材 ^

配布資料

参考文献 ^

【教科書】 石川 朗・永富史子（編）理学療法テキスト 義肢学 中山書店2010

評価方法 ^

筆記試験80% 授業態度20%で評価する。 総合60%以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

課題に対するフィードバック筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。

オフィスアワー ^

オフィスアワー ①金曜13：00～16：30

メールアドレス（#→@） ^

chigira#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（義肢とは・装具とは・装着を成功させるためにはなど）	1,2,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
2	切断の理学療法の流れ・処方因子と支給制度	1,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
3	切断の適応疾患と切断術	1,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
4	切断術後の合併症と術後管理 ■	1,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
5	大腿義足について（ソケット・膝継手・足継手・足部）	1,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
6	下腿義足・その他の義足について(種類・アライメントなど)	1,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
7	切断者の日常生活・断端管理法 ■	1,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
8	装具総論(適応疾患・処方因子と支給制度)	2,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
9	上肢・体幹装具について1（種類・チェックアウトなど） ■	2,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
10	上肢・体幹装具について2（種類・チェックアウトなど） ■	2,3	教科書の該当ページを確認してお	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認す	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			く。		る。	
11	下肢・靴型装具について1（種類・チェックアウトなど） ■	2,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
12	下肢・靴型装具について2（種類・チェックアウトなど） ■	2,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
13	下肢・靴型装具について3（種類・チェックアウトなど） ■	2,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
14	車椅子・歩行補助具について1（種類・適応・使用方法）	2,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
15	車椅子・歩行補助具について2（種類・適応・使用方法）	2,3	教科書の該当ページを確認しておく。	0.5h	当日配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。予習・復習の不足時間については、試験前の学習で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



義肢装具学演習

英文名：Practice of Prosthetics and Orthotics

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC303

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

千木良佑介

科目に関連した実務経験

大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）
非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①実際に義肢・装具の作成過程を体験し、また作成した補装具を用いた練習方法などについても学ぶ。また、どのように必要な補装具を選択するかについて、グループワークなどを利用し主体的に学ぶ。義足ソケット作成、アライメント調整、適合判定の一連の過程を経験する。また、義足完成後の歩行練習の実際についても学ぶ。簡易装具の作成についても経験し、装具を使用した歩行練習についても学ぶ。

②講義スライドを用い、並行してアクティブラーニングを行っていく。

到達目標

- 1. 義肢の種類、適応について説明できる。
- 2. 装具の種類、適応が説明できる。
- 3. 義肢装具を用いた理学療法が行える。■

使用教材

配布資料

参考文献

【参考資料】 石川 朗・佐竹将弘（編）理学療法テキスト 装具学 中山書店2010

評価方法

筆記試験80% 授業態度20%で評価する。 総合60%以上で合格とする（対面、オンライン同様）。
オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning上で行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

筆記試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。

オフィスアワー

金曜13：00～16：30

メールアドレス（#→@）

chigira#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	切断者の理学療法評価（ソケット・義足作成）Ⅰ	1,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
2	切断者の理学療法評価（ソケット・義足作成）Ⅱ	1,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
3	大腿義足・ソケット作成Ⅰ ■	1,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
4	大腿義足・ソケット作成Ⅱ ■	1,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
5	ベンチアライメント・ダイナミックアライメントⅠ ■	1,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
6	ベンチアライメント・ダイナミックアライメントⅡ ■	1,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
7	下腿義足の作成Ⅰ ■	1,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
8	下腿義足の作成Ⅱ ■	1,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
9	切断者の日常生活動作・断端管理・義足歩行模擬体験Ⅰ ■	1,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
10	切断者の日常生活動作・断端管理・義足歩行模擬体験Ⅱ ■	1,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
11	下肢装具のチェックアウト・靴型装具の適応と作成Ⅰ ■	2,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
12	下肢装具のチェックアウト・靴型装具の適応と作成Ⅱ ■	2,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	体幹・上肢装具のチェックアウトⅠ ■	2,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
14	体幹・上肢装具のチェックアウトⅡ ■	2,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h
15	車椅子操作・保守点検。歩行補助具の使い方 ■	2,3	該当項目について調べておく。	0.5h	当日の配布資料を用いて授業内容を再確認する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

^

15h

備考

^

授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



物理療法学 I

英文名：Physical Agents I

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC201

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

竹内伸行，斎田高介

科目に関連した実務経験

- ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験)
- ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○									

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①各種物理的刺激の性質と生体に対する作用を理解する。物理療法の適応となる症状や障害を理解し、適切な物理療法を選択できる知識を学ぶ。加えて、各物理療法の実践に関する基本的知識を理解する。

②教員が提示した資料を用いた講義および、それに基づいたディスカッションを行いながら、アクティブラーニングにより学習する。

到達目標

1. 物理療法の歴史や今日の医療における位置づけ、重要性を理解し、他者に説明できる。■
2. 物理療法の基礎的理論、適応、禁忌、リスクを理解し、他者に実践できる知識を習得する。■

3. 基本的な病態に応じた物理療法の選択およびその作用メカニズムを理解し、他者に説明できる。■
4. 各物理療法機器の名称や基本的操作方法を覚え、治療の流れを理解する。■

使用教材 ^

エビデンスから身につける物理療法 第2版、庄本康治編、羊土社、2023、5500円＋税
ISBN 978-4-7581-0262-9

参考文献 ^

最新物理療法の臨床適応 庄本康治編、文光堂、2012、8400円

評価方法 ^

筆記試験で評価する(100%)。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

課題レポートは、確認し個別にフィードバックを行う。

オフィスアワー ^

科目責任者のオフィスアワー：月曜6限、金曜6限(不在時はメールで問い合わせること)

メールアドレス（#→@） ^

ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、物理療法の歴史と分類 ■ ・理学療法における物理療法の歴史、位置づけとその分類を学ぶ。 ・物理療法の必要性、重要性を学ぶ。	1	物理療法の歴史、今日の医療および理学療法における物理療法の位置づけを理解する。	0.2 5h	物理療法の必要性や重要性を確認する。	0.5 h
2	生体における物理現象 ■ ・人間の身体における物理現象、物理的特性を学ぶ。また、その特性と物理療法の関係を学ぶ。	1,2, 3	生体で生じる物理現象を理解する。	0.2 5h	生体の物理的特性と物理療法の関連性を確認する。	0.5 h
3	物理的エネルギーと生体反応1 (温熱、寒冷) ■ ・熱とは何か、温熱および寒冷の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における温熱療法、寒冷療法とそれを応用した治療を学ぶ。	1,2, 3,4	熱、寒冷の物理学的性質を理解する。	0.2 5h	温熱療法、寒冷療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5 h
4	物理的エネルギーと生体反応2 (水) ■ ・水の物理的性質について学ぶ。 ・物理療法における水治療法とそれを応用した治療を学ぶ。	1,2, 3,4	水の物理学的性質を理解する。	0.2 5h	水治療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	物理的エネルギーと生体反応3(光) ■ ・ 光の物理的性質について学ぶ。 ・ 物理療法における光線療法とそれを応用した治療を学ぶ。	1,2,3,4	光の物理学的性質を理解する。	0.25h	光線療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5h
6	物理的エネルギーと生体反応4(紫外線、極超短波) ■ ・ 紫外線の物理的性質について学ぶ。 ・ 物理療法における紫外線療法とそれを応用した治療を学ぶ。 ・ 極超短波の物理的性質について学ぶ。 ・ 物理療法における極超短波療法とそれを応用した治療を学ぶ。	1,2,3,4	紫外線、極超短波の物理学的性質を理解する。	0.25h	紫外線療法、極超短波療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5h
7	物理的エネルギーと生体反応5(超音波) ■ ・ 超音波の物理的性質について学ぶ。 ・ 物理療法における超音波療法とそれを応用した治療を学ぶ。	1,2,3,4	超音波の物理学的特性を理解する。	0.25h	超音波療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを理解する。	0.5h
8	物理的エネルギーと生体反応6(電気) ■ ・ 電気の物理的性質について学ぶ。 ・ 物理療法における電気刺激療法とそれを応用した治療を学ぶ。	1,2,3,4	電気の物理学的特性を理解する。	0.25h	電気刺激療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5h
9	物理的エネルギーと生体反応7(拡散圧力波) ■ ・ 拡散圧力波の物理的性質について学ぶ。 ・ 物理療法における拡散圧力波とそれを応用した治療を学ぶ。	1,2,3,4	拡散圧力波の物理学的特性を理解する。	0.25h	拡散圧力波療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5h
10	物理的エネルギーと生体反応8(牽引) ■ ・ 牽引(脊椎に対する力学的負荷)の物理的性質について学ぶ。 ・ 物理療法における牽引療法とそれを応用した治療を学ぶ。	1,2,3,4	力の物理学的性を理解する。	0.25h	牽引療法の適応、禁忌、生理学的メカニズムを確認する。	0.5h
11	病態別物理療法1(疼痛) ■ ・ 痛みの生理学的メカニズムを学ぶ。 ・ 痛みに対する物理療法を学ぶ。	1,2,3,4	痛みの生理学的メカニズムを理解する。	0.25h	痛みに対する物理療法を確認する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	病態別物理療法2(軟部組織伸張性低下) ■ ・軟部組織伸張性向上のための物理療法を学ぶ。	1,2, 3,4	軟部組織伸張性低下の生理学的メカニズムを理解する。	0.2 5h	軟部組織伸張性低下に対する物理療法を確認する。	0.5 h
13	病態別物理療法3(筋委縮、筋力低下、運動麻痺) ■ ・筋委縮、筋力発揮、運動麻痺の生理学的メカニズムを学ぶ。 ・筋委縮の予防と改善、筋力向上、運動麻痺改善のための物理療法を学ぶ。	1,2, 3,4	筋力低下、運動麻痺の生理学的メカニズムを理解する。	0.2 5h	筋力低下、運動麻痺に対する物理療法を確認する。	0.5 h
14	病態別物理療法4(末梢循環障害、浮腫) ■ ・末梢循環障害および浮腫の生理学的メカニズムを学ぶ。 ・末梢循環障害、浮腫に対する物理療法を学ぶ。	1,2, 3,4	末梢循環障害、浮腫の生理学的メカニズムを理解する。	0.2 5h	末梢循環障害、浮腫に対する物理療法を確認する。	0.5 h
15	物理療法のトピックス ■ ・物理療法の研究成果を紹介し、最新の物理療法に関する知見を学ぶ。	1,2, 3,4	これまでに学んだ知識を整理する	0.2 5h	最新の物理療法研究の動向や成果を確認する。	0.5 h

合計時間（予習・復習）



11.25h

備考



基本は講義形式で各テーマの概要および詳細を説明する。各回の授業終了時に質疑応答形式で、理解が曖昧な部分を明確にしていく。

授業は教員が作成した資料および教科書を用いながら、またPCプレゼンテーションを使用して要点をまとめていく。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



物理療法学Ⅱ

英文名：Physical AgentsⅡ

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC215

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

竹内伸行，斎田高介

科目に関連した実務経験

- ・常勤理学療法士として病院に勤務(経験)
- ・非常勤理学療法士として病院に勤務(現在)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

模擬症例を用いて、実際に各物理療法を実施することで、治療やリスク管理等の知識やスキルを学ぶ。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①各種物理的刺激的の性質と生体に対する作用を理解し、物理療法の適応となる症状や障害を理解する。また、適切な物理療法を選択し、実践するための知識と技術を習得する。

②教員が提示した資料を用いて、実習形式で学ぶ。また提示した課題等に基づいたディスカッションを行いながら、アクティブラーニングにより学ぶ。

到達目標



1. 各物理療法について、適切な治療条件、リスク管理、適応、禁忌、機器の取り扱い等について述べることができる。■
2. 基本的な疾患、病態に対して、適切な物理療法を選択できる。■
3. 基本的な疾患、病態に対して、物理療法を安全かつ効果的に実践できる。■

使用教材



エビデンスから身につける物理療法 第2版、庄本康治編、羊土社、2023、5500円＋税
ISBN 978-4-7581-0262-9

参考文献



最新物理療法の臨床適応 庄本康治編、文光堂、2012、8400円

評価方法



筆記試験で評価する(100%)。

課題・評価に対するフィードバック方法



課題レポートは、確認し個別にフィードバックを行う。

オフィスアワー



科目責任者のオフィスアワー：月曜6限、金曜6限(不在時はメールで問い合わせること)

メールアドレス（#→@）



ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、各物理療法機器の概要、リスク管理、基本的操作について学ぶ。■	1	各種物理療法の概要を理解する。	0.2 5h	各物理療法の概要を確認する。	0.5 h
2	ホットパック療法■ ・ホットパック療法により表在性温熱療法を学ぶ。 ・ホットパック療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。	1,2, 3	ホットパック療法の概要を理解する。	0.2 5h	ホットパック療法の概要を確認する。	0.5 h
3	極超短波療法■ 極超短波療法により深部温熱療法を学ぶ。 ・極超短波療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。	1,2, 3	極超短波療法の概要を理解する。	0.2 5h	極超短波療法の概要を確認する。	0.5 h
4	超音波療法■ ・超音波療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。 ・超音波療法の温熱作用、非温熱作用を学ぶ。	1,2, 3	超音波療法の概要を理解する。	0.2 5h	超音波療法の概要を確認する。	0.5 h
5	電気刺激療法1：疼痛緩和のための経皮的電気刺激療法■ ・痛みに対する電気刺激療法の適応、	1,2, 3	疼痛緩和のための電気刺激療法の概要を理解する。	0.2 5h	疼痛緩和のための電気刺激療法の概要を確認する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。					
6	電気刺激療法2：局所的な筋機能改善のための筋電気刺激療法 ■ ・局所的な筋機能に対する電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。	1,2,3	筋機能に対する電気刺激療法の概要を理解する。	0.25h	筋機能に対する電気刺激療法の概要を確認する。	0.5h
7	電気刺激療法3：全身的な筋機能改善および代謝改善のための気刺激療法 ■ ・全身的な筋機能および代謝に対する電気刺激療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。	1,2,3	ベルト電極式骨格筋電気刺激法の概要を理解する。	0.25h	ベルト電極式骨格筋電気刺激法の概要を確認する。	0.5h
8	直線偏光近赤外線療法 ■ ・直線偏光近赤外線療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。	1,2,3	直線偏光近赤外線療法の概要を理解する。	0.25h	直線偏光近赤外線療法の概要を確認する。	0.5h
9	低出力レーザー療法 ■ ・低出力レーザー療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。	1,2,3	低出力レーザー療法の概要を理解する。	0.25h	低出力レーザー療法の概要を確認する。	0.5h
10	牽引療法1：頸椎牽引療法 ■ ・頸椎牽引療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。	1,2,3	頸椎牽引療法の概要を理解する。	0.25h	頸椎牽引療法の概要を確認する。	0.5h
11	牽引療法2：腰椎牽引療法 ■ ・腰椎牽引療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。	1,2,3	腰椎牽引療法の概要を理解する。	0.25h	腰椎牽引療法の概要を確認する。	0.5h
12	寒冷療法 ■ ・寒冷療法の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。	1,2,3	寒冷療法の概要を理解する。	0.25h	寒冷療法の概要を確認する。	0.5h
13	水治療法：渦流浴 ■ ・渦流浴の適応、禁忌を理解し、安全に且つ効果的に実施する方法を学ぶ。	1,2,3	渦流浴の概要を理解する。	0.25h	渦流浴の概要を確認する。	0.5h
14	各物理療法の適応、禁忌、リスク管理などについて振り返り、知識の定着を図る。 ■	1,2,3	各物理療法の適応、禁忌、リスク管理などについて理解する。	0.25h	各物理療法の適応、禁忌、リスク管理などについて確認する。	0.5h
15	最新の物理療法に関する文献を紹介し、今後の物理療法の可能性や最新の知見を学ぶ。 ■	1,2,3	国際的な物理療法の動向について理解する。	0.25h	国際的な物理療法の動向について確認する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

各回の授業はグループ毎に設定された内容に沿って実習を進めるが、質疑応答を行いながら不明確な点を明らかにしていく。

授業は教員が作成した実習資料および教科書を用いて要点をまとめていく。
■：実務経験に基づく内容を示す。



理学療法症例基盤型演習 I

英文名 : Practicum of Problem-based Learning 1

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PTC310

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 演習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 3 専門知識・技術の活用力
- 4 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

大野洋一、樋口大輔

科目に関連した実務経験

理学療法士として大学病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①運動器疾患、中枢神経疾患、内部障害など、主な理学療法対象疾患の模擬症例を通して、一連の理学療法過程を学ぶ。理学療法における評価、問題点抽出、治療計画立案の位置づけとその必要性を学習する。またこれらを実践するための知識・技術を学習する。理学療法士が接する機会の多い症例について、その症例検討の基礎的知識を身につける。そして、これらの学習をもとに高度な問題解決能力と創造力を有する理学療法士を目指す。

②各回の前半は講義形式で模擬症例を提示しながら、疾患や障害についての理解を深めるよう解説する。後半はグループワークによる演習を行いながら、質疑応答形式で進めていく。

授業は教員が作成した資料を用いて、紙面上およびPCプレゼンテーションを用いながら要点をまとめていく。質問は随時受け付ける。

出席は講義開始時に口頭にて確認する。

到達目標



1. 模擬症例を通して、代表疾患における基本的な理学療法過程を理解できる。■
2. 代表疾患における検査測定(評価)項目の列举、治療プログラム設定のための問題点の抽出、目標設定、治療計画立案ができる。■
3. 代表疾患における検査測定(評価)項目の列举、治療プログラム設定のための問題点の抽出、目標設定、治療計画立案を行い他者へ伝えることができる。■
4. 他の学生と協調しながら、一人の患者(模擬症例)の理学療法過程を考えることができる。

使用教材



担当教員が準備した資料を配布する。

参考文献



嶋田智明：ケースで学ぶ理学療法臨床思考：文光堂

評価方法



筆記試験80%、学習態度20%（対面・オンライン共通）

課題・評価に対するフィードバック方法



課題レポートは、確認し個別にフィードバックを行う。グループによる演習のレジュメは、グループごとに確認しフィードバックする（対面・オンライン共通）。

オフィスアワー



大野：月曜日 16：30～18：00

樋口：木曜日 9：00～12：15

メールアドレス（#→@）



大野：ohno#takasaki-u.ac.jp

樋口：higuchi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	・オリエンテーション ・理学療法における問題基盤型学習（problem based learning;PBL）について学ぶ■	1,2, 3,4	問題基盤型学習（problem based learning;PBL）の概要を理解する。	0.5 h	PBLの視点にたった理学療法対象疾患の学習方法について確認する。	0.2 5h
2	変形性膝関節症の理学療法過程(グループによる症例検討) ■	1,2, 3,4	一般的な変形性膝関節症の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5 h	一般的な変形性膝関節症の一連の理学療法過程を確認する。	0.2 5h
3	変形性膝関節症の理学療法過程(グループ発表)	1,2, 3,4	変形性膝関節症の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5 h	変形性膝関節症の一連の理学療法過程を確認する。	0.2 5h
4	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法過程(グループによる症例検討) ■	1,2, 3,4	一般的な腰椎椎間板ヘルニアの病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5 h	一般的な腰椎椎間板ヘルニアの一連の理学療法過程を確認する。	0.2 5h
5	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法過程(グループ発表)	1,2, 3,4	腰椎椎間板ヘルニアの病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5 h	腰椎椎間板ヘルニアの一連の理学療法過程を確認する。	0.2 5h
6	脳梗塞の理学療法過程(グループによる症例検討) ■	1,2, 3,4	一般的な大腿骨頸部骨折の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5 h	一般的な大腿骨頸部骨折の一連の理学療法過程を確認する。	0.2 5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	脳梗塞の理学療法過程(グループ発表)	1,2,3,4	脳梗塞の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5h	脳梗塞の一連の理学療法過程を確認する。	0.25h
8	大腿骨頸部骨折の理学療法過程(グループによる症例検討) ■	1,2,3,4	一般的な大腿骨頸部骨折の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5h	一般的な大腿骨頸部骨折の一連の理学療法過程を確認する。	0.25h
9	大腿骨頸部骨折の理学療法過程(グループ発表)	1,2,3,4	大腿骨頸部骨折の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5h	大腿骨頸部骨折一連の理学療法過程を確認する。	0.25h
10	パーキンソン病の理学療法過程(グループによる症例検討) ■	1,2,3,4	一般的なパーキンソン病の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5h	一般的なパーキンソン病の一連の理学療法過程を確認する。	0.25h
11	パーキンソン病の理学療法過程(グループ発表)	1,2,3,4	パーキンソン病の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5h	パーキンソン病の一連の理学療法過程を確認する。	0.25h
12	脊髄損傷の理学療法過程(グループによる症例検討) ■	1,2,3,4	一般的な脊髄損傷の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5h	一般的な脊髄損傷の一連の理学療法過程を確認する。	0.25h
13	脊髄損傷の理学療法過程(グループ発表)	1,2,3,4	脊髄損傷の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5h	脊髄損傷の一連の理学療法過程を確認する。	0.25h
14	慢性閉塞性肺疾患の理学療法過程(グループによる症例検討) ■	1,2,3,4	一般的な慢性閉塞性肺疾患の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5h	一般的な慢性閉塞性肺疾患の一連の理学療法過程を確認する。	0.25h
15	慢性閉塞性肺疾患の理学療法過程(グループ発表)	1,2,3,4	慢性閉塞性肺疾患の病態、理学療法評価、治療内容を理解する。	0.5h	慢性閉塞性肺疾患の一連の理学療法過程を確認する。	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

オンラインで実施する場合、出席はC-learning出席管理システムにて確認する。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

理学療法症例基盤型演習Ⅱ

英文名：Practicum of Problem-based Learning 2

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC400

学年：4年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 3 専門知識・技術の活用力
- 4 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

千木良佑介、大野洋一、富田洋介、高橋裕子

科目に関連した実務経験

大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）

非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○					

「その他」のアクティブラーニング実施方法

特になし

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①総合臨床実習に向けて、理学療法の評価・治療計画を立てて実施し、経過を追って治療の見直しができるまでに行う思考過程について学ぶ。■

広い視野で問題点の抽出と構造分析を行うために、評価項目の抽出と結果の統合と解釈、妥当な優先順位の判断と具体的な目標設定、それにリンクした治療計画の策定を行うまでについて理解を深める。

動作分析などの観察評価、徒手的操作による潜在能力の評価、立てたプログラムの施行とその中で行う評価について実施で

きるレベルを目標に学ぶ。そして、これらの学習をもとに高度な問題解決能力と創造力を有する理学療法士を目指す。
②グループワーク・発表を中心に演習形式で学ぶ。

到達目標 ^

- 1.症例を評価し、治療計画を考えるための臨床思考過程を実践する。■
- 2.症例基盤学的に患者を捉える思考過程が身につく。■
- 3.症例（対象患者）について総合的（内科的・神経的・整形外科的）に考えることができる。■

使用教材 ^

特になし

参考文献 ^

PT臨床評価ガイド 医学書院

評価方法 ^

レポート40%、グループ学習態度30%、授業への取り組み状況30%。
オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning上で行う。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

講義内にてフィードバックを実施する。

オフィスアワー ^

金曜13：00～16：30

メールアドレス（#→@） ^

chigira#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、情報収集講義	1,2,3	機能・能力診断学臨床実習を振り返り自分の問題点を把握する	0.5h	情報収集の理解	0.5h
2	情報収集、評価計画の立案、検査・測定の実施について講義	1,2,3	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習	0.5h	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解	0.5h
3	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画立案について講義	1,2,3	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画立案の事前学習	0.5h	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画立案の理解	0.5h
4	担当症例① 評価計画立案	1,2,3	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習	0.5h	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解	0.5h
5	担当症例① 統合と解釈 治療計画立案	1,2,3	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画の事前学習	0.5h	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画の理解	0.5h
6	担当症例② 評価計画立案	1,2,3	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習	0.5h	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解	0.5h
7	担当症例② 統合と解釈 治療計画立案	1,2,3	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画の事前学習	0.5h	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画の理解	0.5h
8	担当症例③ 評価計画立案	1,2,3	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習	0.5h	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	担当症例③ 統合と解釈 治療計画立案	1,2,3	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画の事前学習	0.5h	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画の理解	0.5h
10	担当症例④ 評価計画立案	1,2,3	評価計画の立案、検査・測定の実施の事前学習	0.5h	評価計画の立案、検査・測定の実施の理解	0.5h
11	担当症例④ 統合と解釈 治療計画立案	1,2,3	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画の事前学習	0.5h	統合と解釈（問題点の抽出）・治療計画の理解	0.5h
12	退院前訪問指導における生活面へのアプローチについて、まとめ①	1,2,3	退院前訪問指導と生活面へのアプローチに関する基礎知識の学習	0.5h	退院前訪問指導と生活面へのアプローチの理解	0.5h
13	退院前訪問指導における生活面へのアプローチについて、まとめ②	1,2,3	退院前訪問指導と生活面へのアプローチに関する基礎知識の学習	0.5h	退院前訪問指導と生活面へのアプローチの理解	0.5h
14	評価計画立案・治療計画立案について まとめ	1,2,3	評価計画立案・治療計画立案についてのまとめ	0.5h	評価計画立案・治療計画立案についての理解	0.5h
15	評価計画立案・治療計画立案について まとめ	1,2,3	評価計画立案・治療計画立案についてのまとめ	0.5h	評価計画立案・治療計画立案についての理解	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



授業は教員の作成するプリントを使用し実施していく。提示された症例に対し、評価計画を考え、評価内容について統合と解釈を行い、問題点の抽出をし、治療プログラムを立案する。その各過程はパワーポイントによる表・図を用い発表する。各講義時間において、前半はテーマについて概要を説明し、後半はグループワークを中心に質疑応答する形式で進める。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



理学療法技術実習

英文名：Physiotherapy Techniques

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC311

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

吉田剛、中川和昌

科目に関連した実務経験

理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験）
非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

特によく用いられる理学療法技術について、その理論的背景やコンセプトを学び、実技練習を通して技術を習得する。
各治療技術を学ぶ中で、対象者の身体に対する接触や徒手的操作を加えながら行う際のリスク管理および観察評価について学ぶ。

理学療法技術を提供する際に必要となる基本的対応について学ぶ。

本講義は実習科目であり2コマ連続で開講し、前回の実習内容について確認の実技試験を行う

到達目標

- 1.理学療法技術について基本的概念を身につける。■
- 2.対象者に対して安全かつ有効な徒手的操作を行うことができる。■
- 3.ボバース概念やPNFについて概要を理解し、説明および一部手技の実施ができる。■

使用教材

▲

配布資料

参考文献

▲

PNFハンドブック第4版 丸善出版 5900円+税、PNF原著第2版 医歯薬出版 10000円+税、DVD「PNFテクニック」(図書館貸出禁)、ボバース概念 ガイアブックス 3800円+税

評価方法

▲

実技試験70%、実技確認テスト20%、講義参加度10%

課題・評価に対するフィードバック方法

▲

実技確認テストについては、毎回個別に採点すると同時に全体にポイントをフィードバックする。

オフィスアワー

▲

金曜午後

メールアドレス(＃→@)

▲

tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp
nakagawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション, PNFの概念(吉田)	1,2,3	シラバスを確認してPNFについて参考文献を確認しておく。	1.5h	PNFの概念について理解し、修得する。	1h
2	PNF 肩甲帯パターン1■(吉田)	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5h	肩甲帯パターンについてポイントを理解し、修得する。	1h
3	PNF 肩甲帯パターン2+骨盤帯パターン1■(吉田)	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5h	PNF肩甲帯と骨盤帯パターンについてポイント理解し、修得する。	1h
4	PNF 骨盤帯パターン2■(吉田)	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5h	骨盤帯パターンについてポイントを理解し、修得する。	1h
5	PNF 上肢パターン1■(吉田)	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5h	PNF上肢パターンについてポイントを理解し、修得する。	1h
6	PNF 上肢パターン2■(吉田)	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5h	PNF上肢パターンについてポイントを理解し、修得する。	1h
7	PNF 下肢パターン1■(吉田)	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5h	PNF下肢パターンについてポイントを理解し、修得する。	1h
8	PNF 下肢パターン2■(吉田)	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5h	PNF下肢パターンについてポイントを理解し、修得する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	PNF 特殊テクニック■（吉田）	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 h	特殊テクニックについてポイントを理解し、修得する。	1 h
10	PNF 治療応用■（吉田）	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 h	PNFの臨床応用についてポイントを理解し、修得する。	1 h
11	神経発達学的アプローチ1 ボバース概念■（吉田）	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 h	ボバース概念についてポイントを理解し、修得する。	1 h
12	神経発達学的アプローチ2 治療的ハンドリング■（吉田）	1,2,3	基礎学実習で学修したハンドリングについてノートを参考に予習する。	1.5 h	治療的ハンドリングについてポイントを理解し、修得する	1 h
13	神経発達学的アプローチ3 運動の促通■（吉田）	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 h	運動の促通についてポイントを理解し、修得する	1 h
14	神経発達学的アプローチ4 コアへのアプローチ■（吉田）	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 h	コアへのアプローチについてポイントを理解し、修得する	1 h
15	神経発達学的アプローチ5 治療の組み立て■（吉田）	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 h	ボバース概念の治療の組み立てについてポイントを理解し、修得する	1 h
16	神経発達学的アプローチ6 治療経験■（吉田）	1,2,3	前回の実技内容について実技試験に向けた練習を行う。	1.5 h	模擬患者の治療についてポイントを理解し、修得する	1 h
17	関節に対する徒手療法（関節モビライゼーション 1） ■（中川）	1,2,3	事前に徒手療法に関する書籍に目を通しておく。	1.5 h	関節モビライゼーションについてポイントを理解し、修得する	1 h
18	関節に対する徒手療法（関節モビライゼーション 2） ■（中川）	1,2,3	配付資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 h	関節モビライゼーションについてポイントを理解し、修得する	1 h
19	関節に対する徒手療法（DYJOCトレーニングなど） ■（中川）	1,2,3	配布資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 h	DYJOCトレーニングについてポイントを理解し、修得する	1 h
20	筋に対する徒手療法（マッサージ、筋膜リリースなど）■（中川）	1,2,3	配布資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 h	筋膜リリースについてポイントを理解し、修得する	1 h
21	筋に対する徒手療法（ストレッチング）■（中川）	1,2,3	配布資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 h	ストレッチングについてポイントを理解し、修得する	1 h
22	運動療法（各種トレーニング）■（中川）	1,2,3	配布資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 h	各種トレーニングについてポイントを理解し、修得する	1 h
23	トランスファーテクニック■（吉田）	1,2,3	配布資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 h	トランスファーテクニックについてポイントを理解し、修得する	1 h
24	まとめ（吉田）	1,2,3	配布資料を参考に、自己学習を行う。	1.5 h	トランスファーテクニックについてポイントを理解し、修得する	1 h

備考



予習・復習については、試験前の学習で補完すること

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 

障害・症候別理学療法学

英文名 : Symptomatological Disability

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PTC304

学年 : 3年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

千木良佑介、齊田高介

科目に関連した実務経験

大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）

非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○		○			○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

特になし

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- 理学療法の専門分野や治療学で扱われにくい症例の理学療法実践について学ぶ。
 - 機能的制限をきたしている動作から、その原因を症候障害学的に捉える思考過程を学ぶ。
 - 症状が生じる原因について総合的（内科的・神経的・整形外科的）に考える基礎を学ぶ。
- スライドによる講義と並行し、アクティブラーニングを行う。

到達目標

^

1. 理学療法の専門分野や治療学で扱われにくい症例の理学療法実践について説明できる。 ■
2. 症候障害学的に患者を捉える思考過程が身につく。
3. 症状が生じる原因について総合的（内科的・神経的・整形外科的）に考えることができる。 ■

使用教材

^

配布資料を中心として行う。

評価方法

^

試験・課題提出70%、授業への取り組み状況30%
総合60%以上で合格とする（対面、オンライン同様）。
オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning上で行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

課題は10点満点で評価し、そのポイントについてフィードバックする。

オフィスアワー

^

金曜13：00～16：30

メールアドレス（#→@）

^

chigira#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	障害・症候別理学療法とは	1	障害・症候について調べる。	1.5h	障害・症候についてポイントを整理してまとめる。	1.5h
2	熱傷に対するの理学療法 ■	1,2,3	熱傷について整理してまとめる。	1.5h	熱傷の評価方法について、整理する。	1.5h
3	精神疾患に対する理学療法 ■	1,2,3	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5h	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5h
4	その他の障害（視覚障害・めまい・排泄障害）に対する理学療法	1,2,3	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5h	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5h
5	廃用症候群に対する理学療法 ■	1,2,3	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5h	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5h
6	悪性新生物・緩和ケアに対する理学療法 ①周術期 ■	1,2,3	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5h	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5h
7	悪性新生物・緩和ケアに対する理学療法 ②化学療法・放射線療法 ■	1,2,3	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5h	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5h
8	悪性新生物・緩和ケアに対する理学療法 ③緩和ケア ■	1,2,3	臨床評価項目と治療との関係について調べる。	1.5h	学んだ模擬症例について考え方を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

授業は教科書を参考に、教員の作成するプリントを使用し要点をまとめていく。パワーポイントによる図の提示を行い理解を促す。特殊な領域であるので症例検討や、状況によっては実技も行っていく。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

発達障害系理学療法学

英文名：Physiotherapy for developmental disease

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTC305

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

正木光裕（科目責任者）、高橋裕子、臼田由美子

科目に関連した実務経験

理学療法士として常勤で療育センター、一般病院、訪問看護ステーションに勤務（過去）

小児理学療法学に関する著書を分担で執筆（過去）

理学療法士として非常勤で小児、成人の理学療法に従事（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

乳幼児期の正常発達や異常発達について、運動発達と精神発達を関連付けて理解できる。その知識を基礎として、脳性麻痺およびその他の小児疾患、また小児疾患に対する理学療法について習得する。講義はオムニバス形式で行い、スライドの資料を配布、実際の治療場面をビデオや写真で示しながら進める。

到達目標

- 乳幼児期における正常運動発達について説明することができる。
- 運動発達障害に関わる代表的疾患の概要を説明することができる。

3. 発達障害に応じた理学療法やリスク管理について述べるができる。■
4. 発達障害に対する理学療法に必要な環境設定について家族との関わりを含め述べるができる。■

使用教材 ^

配布資料
予習用テキストとして：2年生前期「運動学」で使用した基礎運動学（医歯薬出版）

参考文献 ^

必要に応じて授業で紹介

評価方法 ^

以下の3項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。
期末試験（50点）
脳性麻痺に関するレポート課題（30点 内容は備考欄参照）
講義への参加態度（20点）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポート課題はコメントを付して返却する。
期末試験後の問題に関する質問については個別に対応し、説明する。

オフィスアワー ^

木曜3・4限
（4号館4階415研究室）

メールアドレス（#→@） ^

masaki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	小児の理学療法と正常発達	1	基礎運動学p. 441～466「運動発達」の範囲を読む。	1h	配布資料を用いて授業内容を再確認する。	2h
2	脳性麻痺の基礎知識	1,2	脳性麻痺の概要と分類について下調べする。	1h	脳性麻痺のタイプ別の特徴について配布資料を用いて再確認する。	2h
3	小児整形疾患に対する理学療法	2,3,4	二分脊椎、发育性股関節形成不全、ペルテス病の概要について下調べする。	1h	小児整形疾患に対する理学療法とリスク管理について配布資料を用いて再確認する。	2h
4	小児遺伝性疾患に対する理学療法■	2,3,4	基礎運動学p.72～88「骨格筋」の範囲を読む。	1h	進行性筋ジストロフィーの理学療法とリスク管理について配布資料を用いて再確認する。	2h
5	脳性麻痺に対する理学療法（評価と治療）■	2,3,4	脳性麻痺に対する理学療法評価バッテリーについてまとめる	2h	脳性麻痺に対する関わりや必要な環境設定について配布資料を用いて再確認する	1h
6	NICUにおける理学療法■	1,3,4	NICUの概要について下調べする。	1h	NICUでの理学療法におけるリスク管理や家族との関わりについて配布資料を用いて再確認する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	その他、小児領域の理学療法（染色体異常、呼吸器疾患、先天性心疾患）■	1,2,3,4	基礎運動学p.167～187「呼吸、血液と循環」の範囲を読む。	1h	小児領域の理学療法の関わりやリスク管理について配布資料を用いて再確認する。	2h
8	まとめ■	1,2,3,4	これまでの配布資料を用いて発達障害に対する理学療法について復習する。	2h	まとめの内容を振り返り、学びを整理する。	1h

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

スライドを用いて講義形式で授業を進める。
レポート課題は脳性麻痺のタイプ別特徴と脳性麻痺に対する理学療法評価バッテリーについてまとめる。

※ 45分を1時間とみなす。

※ ■は実務経験に基づく内容を示す。

※ オンライン授業で実施する場合の変更点

①評価方法：上記対面授業の場合と同様であり、C-learningを使用して期末試験、レポート提出を実施する。

②課題に対するフィードバック：上記対面授業の場合と同様であり、C-learningを使用して期末試験、レポート提出においてフィードバックを実施する。

③出席方法：C-learningを使用して各回の出席管理を実施する。

印刷



栄養・嚥下理学療法学

英文名 : Physiotherapy for Nutrition and Dysphagia

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PTS400

学年 : 4年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

吉田剛、富田洋介

科目に関連した実務経験

理学療法士として長年総合病院に勤務し、臨床実習指導を行ってきた（経験）
非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○			○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- 現在行われているリハビリテーション栄養および摂食嚥下リハビリテーションについて理解する。
- 栄養・嚥下理学療法を行うために必要な基礎知識について学ぶ。
- 栄養・嚥下理学療法を行うために必要な評価について学ぶ。
- 栄養・嚥下理学療法の実践について学ぶ。

講義中心ではあるが実際のケースの写真や動画をみながら実践的に学び、2回の実習を行って実践的な知識となるように講義を行う。

到達目標

- 1.リハ栄養と摂食嚥下リハの流れについて説明することができる。
- 2.栄養と嚥下に関する基礎知識を身につけ、理学療法につなげて考えられるようになる。
- 3.理学療法士として、栄養・嚥下理学療法を行うための評価と基本的理学療法について説明することができる。

使用教材

配付資料中心

参考文献

理学療法実践レクチャー栄養・嚥下理学療法 医歯薬出版 4600円+税

評価方法

筆記テスト80%、実習時の学修状況20%で評価

オフィスアワー

木曜日の1時限（9：00－10：30）

メールアドレス（#→@）

tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	リハビリテーション栄養および摂食嚥下リハビリテーション	1	参考書の該当ページを読む。	1.5h	リハ栄養と摂食嚥下リハのポイントをノートに整理し理解する。	1.5h
2	栄養理学療法に必要な基礎知識	1,2	参考書の該当ページを読む。	1.5h	栄養理学療法に必要な基礎知識についてノートに整理し理解する。	1.5h
3	嚥下理学療法に必要な基礎知識	1	参考書の該当ページを読む。	1.5h	嚥下理学療法に必要な基礎知識についてノートに整理し理解する。	1.5h
4	栄養・嚥下理学療法に必要な評価法■	1,2	参考書の該当ページを読む。	1.5h	栄養・嚥下理学療法に必要な評価法について整理し理解する。	1.5h
5	栄養・嚥下理学療法評価の実際（実習）■	3	参考書の該当ページを読む。	1.5h	栄養・嚥下理学療法評価の実際についてノートに整理し理解する。	1.5h
6	嚥下理学療法の実際■	3	参考書の該当ページを読む。	1.5h	嚥下理学療法についてノートに整理し理解する。	1.5h
7	嚥下理学療法の実技練習■	2,3	参考書の該当ページを読む。	1.5h	講義で行った実技練習について理解する。	1.5h
8	この分野のエビデンスと研究■	2,3	参考書の該当ページを読む。	1.5h	講義で修得した内容について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

予習・復習については、試験前の学習で補完すること。

■：実務経験に基づく内容を示す。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『食・農健康学コース』の対象科目である。

副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。

スポーツ理学療法学

英文名：Sports Physiotherapy

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PTS401

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

中川和昌 ■

科目に関連した実務経験

病院に理学療法士として勤務（過去）

非常勤理学療法士としてスポーツクリニックに勤務、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとして各種スポーツ現場で活動（現在）

中級パラスポーツ指導員として県内のパラスポーツの推進に貢献（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① スポーツ外傷・障害に対する理学療法およびアスレティックリハビリテーションの概要，その予防について学ぶ。また幅広い分野でスポーツ理学療法を捉え，健康づくりも含めたスポーツにおける理学療法の応用・可能性について考える。

② 原則対面講義。一部実技体験、グループワーク等を含めて展開する。

到達目標

- 1. スポーツ理学療法の範囲を理解し、その活動のために必要な知識・技術を学ぶ■
- 2. 基本的なスポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解し、説明できる■

使用教材

^

必要な資料等は配布します。

参考文献

^

特になし

評価方法

^

授業貢献度50%，プレゼンテーション課題20%，レポート課題30%とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

口頭にて適宜実施する。

オフィスアワー

^

水曜1限 (4号館4階413号室)

メールアドレス（#→@）

^

nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：スポーツ理学療法概論■	1	シラバスに目を通し、到達目標を確認する。スポーツ理学療法の範囲を考える。	1.5h	配布資料を読み、必要な知識について確認する。	1.5h
2	スポーツ外傷・障害に対する理学療法 1 上肢・下肢■	1,2	四肢の運動器疾患に対する理学療法を復習する。	1.5h	配布資料を読み、必要な知識について確認・整理する。	1.5h
3	スポーツ外傷・障害に対する理学療法 2 体幹・その他■	1,2	頸部・腰部の運動器疾患に対する理学療法を復習する。	1.5h	配布資料を読み、必要な知識について確認・整理する。	1.5h
4	スポーツフィールドにおける理学療法活動■	1,2	自らのスポーツ経験やスポーツ外傷について理学療法士の視点から振り返る。	1.5h	配布資料を読み、必要な知識について確認・整理する。	1.5h
5	年齢・性別から見たスポーツ理学療法（成長期・女性・中高年者）■	1,2	年齢や性別によるスポーツ分野での理学療法士の関わりについて考えてみる。	1.5h	配布資料を読み、必要な知識について確認・整理する。	1.5h
6	パラスポーツの意義と理念■	1	パラスポーツの歴史と背景について調べてくる。	1.5h	配布資料を読み、必要な知識について確認・整理する。	1.5h
7	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫■	1	障がいを抱えた方に対するパラスポーツの指導・適応に関して考えてみる。	1.5h	パラスポーツにおける理学療法士の役割を考えてみる。	1.5h
8	スポーツ外傷・障害予防の実践：実技■	1,2	スポーツ現場に特異的な手技を調べてくる。	1.5h	講義で修得した内容について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

原則講義形式で実施しますが、理解を深めるためにグループワークや実技実習も実施します。グループワークや実習の際には担当教員の方で各学生の状況を確認し、個別指導およびフィードバックを適宜実施しながら展開します。

登学が困難となった場合はZoom等の利用し、オンラインにて講義を展開します。

質問は随時受け付けます。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

生活環境支援学

英文名：Living Environmental Support

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PCC300

学年：3年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 3 論理的思考力
- 1 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

篠原智行、田中繁弥

科目に関連した実務経験

急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○		○	○	○		○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①対象者の特徴を踏まえて生活環境を評価する方法を学ぶとともに、対象者が安全かつ豊かに生活するための支援や工夫の方法を学習する。また、生活環境に関連する制度や福祉用具について学び、福祉用具については適切に調整する方法を学ぶ。

②主に配布資料とパワーポイントを用いて授業を行う。グループワークにあたっては、発表内容や方法を随時説明する。

到達目標

1. バリアフリーとユニバーサルデザインの概念について説明できる。■
2. 関連する保健・医療・福祉制度を挙げることができる。■

3. 福祉用具や住宅改修の提案ポイントを説明できる。■
4. 生活や社会活動を支援するための理学療法を説明できる。■

使用教材 ^

指定なし。

参考文献 ^

Crosslink理学療法学テキスト 生活環境学、臼田滋編集、メジカルビュー社

評価方法 ^

確認試験60%、レポート課題30%、授業態度10%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

発表の際にコメントをする。

オフィスアワー ^

篠原：木曜日3時限、4号館416研究室

メールアドレス（#→@） ^

shinohara-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	法的諸制度と在宅支援サービス■	1,2	介護保険法およびそのサービスについて調べておく。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
2	高齢者の転倒と環境、公共交通■	1,2,3	転倒要因となるものを考察する。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
3	ポジショニングとシーティング■	3,4	身体の解剖学的特徴を理解しておく。	1.5h	配布資料および授業メモを見返す。	1.5h
4	生活環境の評価と改善計画■	1,2,3,4	生活環境評価の仕方を把握する。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h
5	グループワーク発表による家屋評価と住宅改修案1■	1,2,3,4	グループでの発表準備。	1.5h	グループ内でフィールドワーク発表資料を作成する。	1.5h
6	グループワーク発表による家屋評価と住宅改修案2■	1,2,3,4	グループでの発表準備。	1.5h	他グループの発表内容も踏まえて、自身の資料を整理する。	1.5h
7	模擬症例の家屋評価と住宅改修案の検討■	1,2,3,4	グループでの発表準備。	1.5h	他グループの発表内容も踏まえて、自身の資料を整理する。	1.5h
8	確認試験とまとめ	1,2,3,4	これまでの配布資料を用いる。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返す。	1.5h

合計時間（予習・復習） ^

24h

備考 ^

■：実務経験に基づく内容を示す。

地域在宅理学療法学

英文名 : Community-based Physiotherapy

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PCC310

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

解良武士、田中繁弥

科目に関連した実務経験

慢性期病院、通所リハビリテーション施設、介護老人福祉施設（経験）、地域住民対象の介護予防活動（行政および自主グループ）（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

高齢化社会の到来にともない、地域社会の中で生活する障がい者およびその家族に対して支援する地域理学療法的重要性は保健・医療・福祉の分野のみならず、社会・経済の観点からも注目されつつある。地域理学療法の様々な場面でどのような理学療法を提供すればよいか学習する。

②講義の実施方法

毎回配布する資料などを用いて各回のテーマに沿って解説する。ケース検討については、ペーパーペイシエントを提示するので、それに基づきグループワークを行う。

到達目標



1. 生活期のリハビリテーションの必要性について理解する。
2. 生活期のリハビリテーションの評価について理解する。
3. 生活期リハビリテーションの具体的介入について理解する。

使用教材



配付資料、学生発表資料

評価方法



小テスト50% 課題レポート・発表 50%

課題・評価に対するフィードバック方法



提出物については総評を、演習については発表の場で制作物を中心にフィードバックする。

オフィスアワー



各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）



kera#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域理学療法概論・地域包括ケア■	1	地域理学療法の概念、地域連携等について整理しておく	1.5h	用語について再確認する。	1.5h
2	高齢者に関連する福祉関連法的諸制度■	1	福祉関連法的諸制度、関連用語について整理しておく。	1.5h	関連法規やサービスの種類・内容を再確認する。	1.5h
3	生活期リハビリテーションに必要な評価について■	2	フィジカルアセスメント、身体機能評価について整理しておく。	1.5h	対象者の評価・リスク管理について再確認する。	1.5h
4	生活期リハビリテーション：通所リハビリテーションについて■	3	通所リハビリテーションの概略について整理しておく。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5h
5	生活期リハビリテーション：訪問リハビリテーションについて■	1,3	訪問リハビリテーションの概略について整理しておく。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5h
6	事例検討（グループワーク・発表資料作成）	1,3	通所リハ・訪問リハについて整理しておく。	1.5h	作成した資料をまとめる。	1.5h
7	ケース検討発表会	3	作成した資料をまとめる。	1.5h	グループワークの内容をまとめる。	1.5h
8	講義まとめ	3	第1回～第7回までの講義についてまとめておく。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す（解良）。

予防理学療法学

英文名 : Physiotherapy for prevention

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PCC311

学年 : 3年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

解良武士, 吉田剛, 中川和昌, 篠原智行

科目に関連した実務経験

理学療法士として総合病院、大学病院、地域予防活動に関わる（経験）、非常勤理学療法士として病院および施設で指導（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①予防理学療法とは何か、どのような領域があるのかについて知り、自分が興味を持てる分野について関心を高める。さらに様々な対象者やステージ、場面によってどのように予防理学療法を適応させることができるかを学習する。

②講師の専門分野についてオムニバス形式で行い、テキストと配布資料を用いて、予防理学療法をイメージできるように行う。特に興味をもてる分野を学生自身も調べてまとめてもらう。

到達目標

1. 予防理学療法の定義や領域について説明することができる。
2. 様々な場面における予防理学療法についてポイントを整理してまとめることができる。

3. 予防のために必要な評価や介入の特徴を整理してまとめることができる。
4. 様々な対象に対して予防の視点がもてるようになる。

使用教材 ^

必要に応じて印刷資料、またはC-learningを利用して配布・公開する。

参考文献 ^

予防理学療法学要論 大淵修一ら 医歯薬出版 4600円＋税

評価方法 ^

課題レポート30％，期末試験60％，講義への貢献度10％で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

講義内での解説、質問等への回答で行う。

オフィスアワー ^

各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	予防理学療法の定義・領域と関連する制度 ■ 解良	1	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	予防理学療法の定義・領域と関連する制度についてまとめる。	0.5 h
2	予防理学療法に関するエビデンスと研究法 ■ 篠原	1,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	予防理学療法に関するエビデンスと研究法についてまとめる。	0.5 h
3	地域住民における健康増進と参加の促進 ■ 篠原	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	地域住民における健康増進と参加の促進についてまとめる。	0.5 h
4	学童期の健康増進と予防（姿勢など） ■ 中川	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	学童期の健康増進と障害予防についてまとめる。	0.5 h
5	NCD'sの予防（メタボを含む） ■ 解良	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	NCD'sの予防についてまとめる。	0.5 h
6	ロコモティブシンドロームの予防 ■ 解良	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	ロコモティブシンドロームの予防についてまとめる。	0.5 h
7	循環器の健康増進（脳卒中予防を含む） ■ 解良	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	循環器の健康増進と疾病予防についてまとめる。	0.5 h
8	呼吸器の健康増進 ■ 解良	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	呼吸器の健康増進と疾病予防についてまとめる。	0.5 h
9	認知機能低下の予防 ■ 中川	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	認知機能低下の予防についてまとめる。	0.5 h
10	産業領域における予防 ■ 吉田	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	産業領域における健康増進と疾病予防についてまとめる。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	スポーツ傷害の予防 ■ 中川	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	スポーツ傷害の予防についてまとめる。	0.5 h
12	ウィメンズヘルス・メンズヘルス領域の予防 ■ 中川	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	ウィメンズヘルス・メンズヘルス領域の予防についてまとめる。	0.5 h
13	低栄養，オーラルフレイルの予防 ■ 吉田	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	低栄養，オーラルフレイルの予防についてまとめる。	0.5 h
14	誤嚥性肺炎の予防 ■ 吉田	2,3,4	これまでの他の講義資料や参考書テキストの該当ページを読んでおく。	0.2 5h	誤嚥性肺炎の予防についてまとめる。	0.5 h
15	まとめ	2,3,4	これまでの内容を復習する。	1.5 h	介護予防理学療法につながるように学んだことを整理する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）



11.25h

備考



■：実務経験に基づく内容を示す（それぞれの担当者）。

印刷



地域・国際理学療法学

英文名：Community based and International Physical Therapy

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PCS400

学年：4年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

中川和昌 ■

科目に関連した実務経験

理学療法士として病院に勤務

地域における理学療法活動および国際学会等での発表，海外研修等の経験あり

大学の国際交流委員およびモンゴル，ドイツにおいて教員経験あり

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○		○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

地域に根付いた理学療法士の活動および，海外の理学療法に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。地域や各国の実情に合わせた理学療法の展開において必要な知識を学び，その内容に関する基礎的なディスカッションができることを目標とする。また本講義では，学生が実際に地域や海外に赴き実体験として地域・国際理学療法の事情を見聞することを強く推奨する。

到達目標

- 1. 国内における地域の事情を理解し説明できる
- 2. 国内における地域の事情に合わせた理学療法 of 展開に関して説明できる ■
- 3. 諸外国の文化的背景や医療状況を理解し、日本との違いを説明できる ■
- 4. 諸外国における理学療法の実情の特徴を理解し、日本との違いを説明できる ■

使用教材

^

特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献，教材を探すこと。

参考文献

^

特になし

評価方法

^

最終レポート（50％），提出物（20％），発表，討論など授業参加度（30％）
海外研修参加者は，事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30％），研修レポート（30％），研修中のパフォーマンス（40％）にて評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートや提出物については，コメントを付して返却する。発表や討論等のパフォーマンスについては，その都度コメントやアドバイスを伝える。

オフィスアワー

^

水曜1限（4号館4階413号室）

メールアドレス（#→@）

^

nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション	1,2	シラバスを熟読し，講義の概要や目標を理解しておく	1.5 h	自分の興味のある地域や国の医療事情リサーチを開始する	1.5 h
2	国内における地域理学療法 ■	1,2	日本の地域理学療法に関する知識を予習しておく	1.5 h	講義内容の復習，特に世界で進行中の医療の国際化についてしっかりと理解する	1.5 h
3	先進国（アメリカ，イギリス，オーストラリア，ドイツ等）の理学療法 ■	3,4	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 h
4	中進国（台湾，シンガポール，中国など），途上国（ベトナム，インドネシア，タイなど）の理学療法 ■	3,4	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 h
5	学生プレゼンテーション（計画）	1,2, 3,4	過去3回分の講義を復習し，自信が興味のある活動に関してまとめる	1.5 h	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5 h
6	地域に根付いた理学療法とは（CBR，CBPT）	1,2, 3,4	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5 h	講義内容の復習と興味ある地域や国の理学療法に関する発表準備	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	学生プレゼンテーション（実際）	1,2,3,4	発表原稿とプレゼンテーションの準備	1.5h	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5h
8	学生プレゼンテーションとまとめ	1,2,3,4	発表原稿とプレゼンテーションの準備	1.5h	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

地域における理学療法士の活動に参加，または海外研修に参加して，実際に国内の地域活動および海外の理学療法現場を経験することを強く勧める。その際，どのような視点を持ってリサーチするかの示唆と，見聞したことの要約法・分析法を教授する。リサーチ原稿の作成と発表までをもって1クールとする。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



介護予防理学療法学

英文名 : Physiotherapy on Preventative Care for Elderly People

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PCS401

学年 : 4年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

3 論理的思考力

1 チームへの貢献力

1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

解良武士、篠原智行、田中繁弥

科目に関連した実務経験

慢性期病院、通所リハビリテーション施設、介護老人福祉施設（経験）、地域住民対象の介護予防活動（行政および自主グループ）（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①サルコペニアやフレイルといった前介護状態や要介護への進展を予防することは極めて重要な事項である。本講義では、介護保険および自治体の活動、地域住民における介護予防活動について学習し、この領域での理学療法士の役割と活動について理解を深める。

②主に介護予防にかかわるテーマを中心にグループワークを中心に行う。

到達目標

- 介護保険下での理学療法の制度について理解する。
- 老年症候群について理解する。

3. 介護予防における理学療法士の役割について説明できる。■

4. 介護予防における理学療法について説明できる。■

使用教材

大淵修一・浦辺幸夫 監修 予防理学療法学要論 医歯薬出版
その他資料を随時配布する

評価方法

課題レポート・発表

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物については総評を、演習については発表の場で制作物を中心にフィードバックする。

オフィスアワー

各教員により異なるため、質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

kera#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	介護予防が必要とされる背景と介護予防における理学療法の概要について 解良■	1,2	介護予防の必要性について整理しておく。	1.5h	配布資料および授業メモを読み返し復習する。	1.5h
2	介護予防に必要な評価について1（GW）解良■	3	予防給付事業・介護予防活動で活用されている評価指標等について調べる	1.5h	予防給付事業・介護予防活動で活用されている評価指標等についてまとめる	1.5h
3	介護予防に必要な評価について2（GW）解良■	1	発表のための資料を作成する。	1.5h	作成した資料をまとめる。	1.5h
4	地域高齢者の評価と介入について 篠原■	2,3,4	これまで学んだ検査・測定を整理しておく。	1.5h	地域高齢者に対する検査・測定と介入をまとめる。	1.5h
5	総合事業について 篠原■	2,3,4	本邦の介護保険の復習をしておく。	1.5h	総合事業における理学療法士の関わりを整理する。	1.5h
6	地域ケア会議について（演習）篠原■	2,3,4	地域ケア会議について調べる。	1.5h	地域ケア会議での理学療法士の役割についてまとめる。	1.5h
7	認知機能低下予防のための介入について1（演習）田中■	2,3,4	具体的な理学療法介入について調べておく。	1.5h	具体的な理学療法介入についてまとめる。	1.5h
8	認知機能低下予防のための介入について2（学生発表）田中■	2,3,4	発表のための資料を作成する。	1.5h	作成した資料をまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す（それぞれの担当者）。

グループワーク（プレゼンテーション）を多く行うため積極的に議論に参加する学生を求める。

理学療法早期体験実習

英文名：Early Clinical Practicum

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PPC110

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 2 論理的思考力
- 2 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

田中繁弥、正木光裕、富田洋介、齊田高介

科目に関連した実務経験

理学療法士として病院、介護保険施設での勤務経験あり（田中）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- 各病院・施設の特徴及び役割を理解するとともに、理学療法及び理学療法士の役割や施設内での位置づけ、リハビリテーション関連機器の使用目的など理学療法の業務内容を理解する。
 - 各病院・施設等におけるリハビリテーションの場において、障害者と向き合うスタッフの支援活動や方法を見学し、スタッフとのやり取りの中で臨床の雰囲気を感じる。理学療法における臨床実習に臨む姿勢、態度、行動を確認する。
 - 各病院・施設の見学を通じて、発症からの期間や障害の種類により、対処すべき問題が様々であることを知る。そして今後の学習意欲の向上と学生個人の将来像構築の一助とする。
- 上記を踏まえ、高度な問題解決能力と創造力を有する理学療法士となる基盤を構築する。

到達目標

- 1.臨床で重要な基本的態度を身につける ■
(対象者への共感的態度、適切な身だしなみを心掛け、対象者との関係性構築に向けた基本的態度が必要とされる。)
- 2.理学療法部門及びその関連職種部門の見学により理学療法業務の内容を理解する。 ■
(医療職としての心得、部門のルールの理解、指導者との適切な関係性構築、他職種連携を理解できる)
- 3.見学・体験実習から既修科目の復習及び今後の学習意欲を高める。 ■
- 4.臨床実習に必要な積極的な学習態度を身につける。

使用教材

^

早期体験実習の手引き

評価方法

^

実習態度（60％）、レポートの成績（40％）

課題・評価に対するフィードバック方法

^

レポートノートを提出期限内に提出した学生には、授業担当者からのコメントを付して返却する。実習報告に向けて作成したレジュメはセミナーⅠで配布を予定している。

オフィスアワー

^

火曜 13:00-14:30
(4号館4階409研究室)

メールアドレス（#→@）

^

tanaka-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	指定された実習施設において、実習指導者の指導のもと見学する。理学療法業務全般を学習するため、様々な分野の病院、施設を見学する。その内容も、単に治療場面の見学のみならず、理学療法士の1日の流れに合わせて様々な業務を見学する。患者（家族）、理学療法士や他職種のスタッフなど理学療法に関連する人を理解するため、質問や見学内容をまとめる。	1, 2, 3,4	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	適宜	期間中適宜 実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備	適宜

合計時間（予習・復習）

^

適宜

備考

^

事前に実習施設の特色を調べ、見学したい内容や目標を決める。実習後は自己評価表の作成、実習内容や実習時にわからなかった事を調べたレポート等を作成し提出すること。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。また、セミナーⅠでの報告会を各実習終了後に予定している。
■：実務経験に基づく内容を示す。

機能・能力評価臨床実習 I

英文名：Practice of Functional Assessment I

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PPC210

学年：2年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 2 論理的思考力
- 2 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

樋口大輔（科目責任者）、理学教員

科目に関連した実務経験

理学療法士として病院非常勤勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①理学療法士として必要な基本的技能および態度をバランスよく習得し、高度な問題解決能力と創造力を備える理学療法士の基盤をつくる。
- ②医療提供施設において、患者／利用者の協力のもと実践的訓練を行うことを基本に授業を進める。

到達目標

- 1. 【情意領域】理学療法学生として、高い倫理観に根差したふさわしい態度で対象者や理学療法士等と接することができる。
- 2. 【精神運動領域】対象者に対して情報収集および検査・測定を実行してみせることができる。■
- 3. 【認知領域】実施した検査・測定の結果を筋道を立てて整理し、記述することができる。

- 4.【認知領域】理学療法部門の役割や業務内容、多職種との連携について説明することができる。
- 5.【情意領域】自己研鑽を行うことへの意欲を示すことができる。

使用教材 ↑

臨床実習の手引き
臨床実習チェックリスト

参考文献 ↑

これまでの授業の教科書および配布資料

評価方法 ↑

実習後面談（100点）で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ↑

臨床実習後の面談等でフィードバックする。

オフィスアワー ↑

月曜日1・2時限（4号館4階414研究室）

メールアドレス（#→@） ↑

higuchi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ↑

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療提供施設において、理学療法評価に必要な情報収集ならびに基本的検査・測定を実践するとともに、行った検査・測定の結果をまとめ、記録する。■	1～5	実習期間中、実習内容に関連する事項を下調べする。	2.5 h	実習期間中、指導されたことを再確認する。	2.5 h

合計時間（予習・復習） ↑

5h

備考 ↑

学外の医療提供施設において理学療法検査・測定の実習を行うことを基本に5日間終日（8時間/日、合計40時間）の実習を行う。その間、医療・福祉施設に在籍する臨床教育者と協働して指導にあたる。

■は実務経験に基づく内容を示す。

この科目は「理学療法セミナー2」で実施されるBasic OSCEに合格しなければ履修できない。



機能・能力評価臨床実習Ⅱ

英文名：Practice of Functional Assessment 2

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PPC310

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：4単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 2 論理的思考力
- 2 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

[すべて開く▼](#)[すべて閉じる▲](#)

担当教員

大野洋一 ■、理学教員

科目に関連した実務経験

理学療法士として大学病院に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①理学療法の対象者が有する問題を解決するために、情報の収集および理学療法評価における各種検査・測定を計画し、実践する能力を修得するとともに、結果の分析と解釈を学び、高度な問題解決能力と想像力を有する理学療法士を目指す。

②学外の医療・福祉施設において理学療法検査・測定の練習を行うことを基本に授業を進める。

医療・福祉施設に在籍する臨床教育者と協働して指導にあたる。

1日あたり9時間（自宅学習時間含む）の実習が行われる。

到達目標

- 1.対象者に必要な理学療法評価項目を列举することができる。
- 2.対象者の情報収集および検査・測定が実施することができる。■

- 3.情報収集および検査・測定の結果を適切に記録し、報告することができる。
- 4.理学療法士としての基本的態度を身につける（対象者への接遇や職員との良好な関係の構築に足る基本的態度を身に付ける）。
- 5.理学療法士と他職種の関わりから、理学療法部門および他部門の役割や業務内容、多職種の連携を理解する。
- 6.以後の臨床実習のための積極的学修学習態度を身につける。
- 検査・測定の結果を統合・解釈し全体像を捉えることができる。■

使用教材 ^

- ・機能・能力診断学臨床実習の実施要項
- ・これまでの授業の教科書および配布資料

評価方法 ^

- 以下の2項目で評価を行い、100点中60点以上を獲得した場合を合格とする。
- ・臨床実習到達目標の達成状況（70点）
 - ・臨床実習後提出物および学内発表（30点）

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

- ・臨床実習の日々の状況、成果については臨床実習指導者がフィードバックする。
- ・提出物、学内発表に関する質問については個別に対応し、説明する。

オフィスアワー ^

月曜日 16：30－18：00

メールアドレス（#→@） ^

大野洋一（ohno#takasaki-u.ac.jp）

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	医療・福祉施設における理学療法検査・測定の計画・実践、および、その記録の体験 ■ 検査・測定結果の統合と解釈の体験 ■	1,2,3,4,5,6	なし		なし	

備考 ^

- は実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

地域在宅理学療法臨床実習

英文名：Practice of Community-based Physiotherapy

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PPC311

学年：3年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 2 論理的思考力
- 2 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

篠原智行

科目に関連した実務経験

急性期、回復期、生活期の病院にて理学療法士として勤務経験あり。生活期の病院および老人保健施設にて非常勤理学療法士として勤務。また、介護予防・日常生活支援総合事業に従事。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①地域理学療法の場面での経験を通して、地域包括ケアシステム（特に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。これによって、生活期における理学療法の対象者を包括的に捉え、環境や制度の知識と統合させた問題解決能力を培う。

②施設実習前に課題を行い、実習後にはグループに分かれてセミナーを実施する。施設実習は配置された施設で行う。

到達目標

- 1. 通所リハビリテーション利用者（個別、集団）に対する理学療法を見学、経験する。■
- 2. 訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学、経験する。■

3. 入所施設における理学療法について説明できる。■
4. ケアプランにおける理学療法の位置づけを見学、経験する。

使用教材 ^

指定なし。

参考文献 ^

指定なし。

評価方法 ^

実習課題（事前課題、デイリーノート、発表会資料）60%、セミナー発表20%、実習態度20%

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

学内セミナーの発表の際に、発表内容を踏まえてセミナー担当教員よりコメントをする。

オフィスアワー ^

篠原：木曜日3時限、4号館416研究室

メールアドレス（#→@） ^

shinohara-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	【事前学内実習】0.5日分；4時間 介護保険制度と通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションについて調べてまとめ、施設実習に臨む準備をする。■ 【施設実習】0.5日分；合計32時間 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションなどの施設に行き、見学実習を行う。 ■ 【事後学内実習】0.5日分；4時間 各自が報告書を作成し、学内セミナーで発表しディスカッションをする。実習経験や知識を共有する。■	1,2,3,4	実習課題について調べておく。	1h	施設実習やセミナーを振り返り、以降の臨床実習に備える。	1h

合計時間（予習・復習） ^

2h

備考 ^

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

理学療法総合臨床実習 I

英文名 : Comprehensive Clinical Practicum 1

科目区分 : 専門科目

科目ナンバリング : PPC410

学年 : 4年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 6単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 2 論理的思考力
- 2 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

千木良佑介、理学療法学科教員

科目に関連した実務経験

大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）

非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形外科クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
○	○	○	○	○	○				

「その他」のアクティブラーニング実施方法

特になし

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①4年生前期までに学習した理学療法に関する知識や技術、対象者への対応等を臨床の場で総合的に学習する。
 - ②指定施設において実習を行う。各臨床実習施設の実習指導者の指導・監視の下で症例を担当することにより、評価から治療までの一連の過程を体験することにより、高度な問題解決能力と想像力を有する理学療法士を目指す
- 担当教員は学生と実習先との連絡調整を行い、実習地訪問等を通して実習中の個別指導を十分に行う。

-

- ・実習開始前に、【学内における臨床実習の前後評価】の実習前評価を行う。
 - ・実習開始前に解剖学、生理学、運動学といった人体の基礎となる知識の復習と、理学療法の実践に関わる理学療法評価、理学療法、物理療法などの技術の復習をしっかりと実施する。
 - ・実習開始前に、明確な目標を立て、実習訪問担当教員に確認・指導を受ける。
 - ・実習終了後はセミナー発表で指摘を受けた箇所について修正し臨床思考過程について整理し、理学療法士として社会に出ることを見据えて臨床実習期間中に学習しきれなかった課題を抽出し取り組む。
- *本科目は理学療法セミナー4で実施されるAdvanced OSCEに合格していないものは受講資格無しとする。
- 尚、実習における【学内における臨床実習の前後評価】を行い実習Ⅰ期・Ⅱ期について単位を認定する。
- （■：実務経験に基づく内容を示す。）

印刷 

理学療法総合臨床実習Ⅱ

英文名：Comprehensive Clinical Practicum 2

科目区分：専門科目

科目ナンバリング：PPC411

学年：4年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：7単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

- 1 豊かな人間性と倫理観
- 4 専門知識・技術の活用力
- 2 論理的思考力
- 2 チームへの貢献力
- 1 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

千木良佑介、理学療法学科教員

科目に関連した実務経験

大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）

非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形外科クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィードバック	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○	○				

「その他」のアクティブラーニング実施方法

特になし

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①4年生前期までに学習した理学療法に関する知識や技術、対象者への対応等を臨床の場で総合的に学習する。
- ②指定施設において実習を行う。各臨床実習施設の実習指導者の指導・監視の下で症例を担当することにより、評価から治療までの一連の過程を体験することにより、高度な問題解決能力と想像力を有する理学療法士を目指す。
- 担当教員は学生と実習先との連絡調整を行い、実習地訪問等を通して実習中の個別指導を十分に行う。

到達目標



- 1.実際の理学療法の理解を深め、治療志向的な評価、統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案を行うことができる。■
- 2.理学療法課程全般を実体験して、知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。■
- 3.卒後の理学療法業務に直結できるようにする。
- 4.理学療法士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。

使用教材



学科作成の実習の手引き

参考文献



特になし

評価方法



臨床実習評価表、実習前後評価60%、セミナー20%、教員評価20%

課題・評価に対するフィードバック方法



臨床実習指導者より毎日、各施設で課す課題に対するフィードバックを実施する。
セミナー後は、内容、改善点について教員より説明する。

オフィスアワー



オフィスアワー ①金曜13:00~16:30

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	実習先に6週間（1日8時間、週5日）通い、上記の到達目標達成に向けて実習を実施する。 【学内における臨床実習の前後評価】を1単位分（1週間）行い評価する。 ※実習内容の詳細は配属される実習先によって異なる。 実習目標 1. 理学療法における知識・技術を臨床の場で総合的に学習する。 2. 理学療法士としての資質を高める。 3. 理学療法士としての評価技術・臨床思考過程 ・基本的な治療法を学習する。 4. 治療志向的な評価、統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案を学生が主体的に行う指定された臨床実習施設において、実習指導者の指導・監視の下、症例担当制により理学療法全般を学習（実習）する。同一患者で評価から治療までの一連の過程を体験し、実際の理学療法の理解を深めることで、治療志向的な評価及び統合と解釈、目標の設定、治療計画の立案が行えることを目標とする。■	1, 2, 3,4	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	期間中適宜	実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備	期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適官

備考



・実習開始前に解剖学、生理学、運動学といった人体の基礎となる知識の復習と、理学療法の実践に関わる理学療法評価、理学療法、物理療法などの技術の復習をしっかりと実施する。

- ・実習開始前に、明確な目標を立て、実習訪問担当教員に確認・指導を受ける。
 - ・実習終了後はセミナー発表で指摘を受けた箇所について修正し臨床思考過程について整理し、理学療法士として社会に出ることを見据えて臨床実習期間中に学習しきれなかった課題を抽出し取り組む。
 - ・実習終了後は【学内における臨床実習の前後評価】の実習後評価を行う。
- *本科目は理学療法セミナー4で実施されるAdvanced OSCEに合格していないものは受講資格無しとする。
- 尚、実習における【学内における臨床実習の前後評価】を行い実習Ⅰ期・Ⅱ期について単位を認定する。
- （■：実務経験に基づく内容を示す。）

印刷 

卒業研究

英文名：Graduation Research

科目区分：卒業研究

科目ナンバリング：PRC310

学年：3/4年

開講期：後期/前期

選択・必修：必修

単位数：4単位

講義形態：演習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

3 専門知識・技術の活用力

4 論理的思考力

1 チームへの貢献力

2 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

理学療法学科教員

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディバ ート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

理学療法士の専門的知識・技術を研究し、倫理的判断力・実践能力・国際的視野を兼ね備えた、高度な問題解決能力と創造力を有する理学療法士になるために下記の内容について学ぶ。

1. 学んだことの中からリサーチエスチョンを抽出し、主体的にテーマを選ぶ方法を学ぶ。
2. 文献検討を踏まえて研究目的を明らかにする手法を学ぶ。
3. 目的に沿った研究計画を立案する過程を学ぶ。
4. 倫理的配慮に基づいてデータの収集、分析を行い、結果を考察して発表するまでの過程を学ぶ。
5. 科学的論文の作成方法に基づき卒業論文を作成する過程を学ぶ。

②講義の実施方法

ゼミでの学習を中心に、適宜、資料等を使用して進める。

質問は随時受け付ける。

出席は講義開始時に口頭にて確認する。

到達目標

^

1. 学んだことの中からリサーチクエストを抽出し、主体的にテーマを選ぶ。
2. 文献検討を踏まえて研究目的を明らかにする。
3. 目的に沿った研究計画を立案する。
4. 倫理的配慮に基づいてデータの収集、分析を行い、結果を考察して発表する。
5. 科学的論文の作成方法に基づき卒業論文を作成する。

使用教材

^

理学療法研究法に準じる。

参考文献

^

研究遂行に必要なもの。

評価方法

^

研究計画30%、論文30%、発表30%、研究への取り組み10%で、指導教員が総合的に判断する（対面・オンライン共通）。

課題・評価に対するフィードバック方法

^

逐次研究ゼミの中で具体的にフィードバックする（対面・オンライン共通）。

オフィスアワー

^

各指導教員の示す時間

メールアドレス（#→@）

^

指導教員のメールアドレス

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	関心を持つテーマに関連の深い指導教員の研究ゼミに所属し、ゼミ単位で研究計画の作成までを3年後期に行い、必要な審査を経て4年前期に研究計画に基づいて研究を行う。3年後期希望で出された研究テーマを元に、関連論文の考証を行ってテーマを絞り、研究目的に合った方法を抽出しながら研究計画を立てる。研究計画は3年後期に計画発表会で発表し指導を受ける。4年前期データ収集および結果をまとめて考察を行い、発表および論文作成の準備を行う。研究結果は卒業研究発表会で発表し、卒業研究論文にまとめる。	1, 2, 3, 4, 5	毎回のゼミで予定されている発表ができるよう、準備を行い、資料を作成する。	45h	研究ゼミで指導されたポイントをまとめて、次回のゼミに備える。	15h

合計時間（予習・復習）

^

90h

備考

^

オンラインで実施する場合、出席はC-learning出席管理システムや課題提出にて確認する。

運動指導実践論

英文名：Exercise Coaching

科目区分：健康運動

科目ナンバリング：PHC200

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択必修

単位数：1単位

講義形態：講義

学位授与方針との対応：

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

5 専門知識・技術の活用力

4 論理的思考力

0 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

入澤孝一

科目に関連した実務経験

中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験

日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験

JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○				○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①身体活動の指導方法についての基礎理論を理解し、指導者としての指導力を育成する。

トレーニングの原理原則を理解し、トレーニング計画の作成ができる指導者を育成する。

②対面方式

到達目標

^

- 1 安全で効果的な運動指導プログラム（計画）の作成と指導方法について理解する。
- 2 指導者の資質として必要な知識を理解する。
- 3 指導効果を上げるためのコミュニケーション能力を身に付ける。

使用教材

^

健康運動実践指導者養成用テキスト及び自作教材

参考文献

^

指導力養成関係の文献

評価方法

^

毎回の課題レポート 8 0 % 最終授業の試験レポート 2 0 %

課題・評価に対するフィードバック方法

^

始業時に前の授業内容について小テストを実施し内容の定着を図る
提出レポートにコメントをつけて返却する

オフィスアワー

^

水曜日 3号館3階 入澤研究室

メールアドレス（#→@）

^

irisawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	指導者に必要な資質 ■	1,2 ■	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
2	組織をまとめる指導者のリーダーシップ ■	2	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
3	スポーツ現場での体罰と指導倫理について ■	2	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
4	指導者に必要なコミュニケーションスキル ■	3	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
5	信頼関係と動機付けの声掛け ■	2,3	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
6	N C A A 米国大学スポーツ・学校部活動の現状について理解する ■	2,3	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
7	発育段階に応じたトレーニング計画 ■	1,2,3 ■	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
8	動きの構成と技術スキルの指導方法 ■	3 ■	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
9	トレーニングの原理原則を踏まえたフィジカルトレーニングの方法 ■	2 ■	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
10	トレーニングの原理原則を踏まえたフィットネス向上のためのエネルギー ■	2 ■	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	トレーニングの原理原則を踏まえた筋フィットネスの方法■	2■	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
12	指導の原理原則を踏まえた技術の向上を目的とした指導プログラムの作成と指導方法■	2■	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
13	持久力向上を目的としたトレーニングプログラムの作成と指導方法■	2■	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
14	筋力・パワーの向上を目的としたトレーニングプログラムの作成と指導方法■	1,2,3■	事前配布資料を確認する	1h	課題レポートを作成し、理解度を深める。	1h
15	最終総括レポートと筆記試験	1,2,3	配布資料を見直す。課題を確認する	1h	最終総括レポートと筆記試験結果について、修正、再確認する。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

^

備考

対面授業とし、授業資料は事前にC-learningにアップする
課題レポート提出により出欠を確認する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

^

印刷



運動指導の心理学的基礎

英文名 : sports and social psychology

科目区分 : 健康運動

科目ナンバリング : PHS200

学年 : 2年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 講義

学位授与方針との対応 :

比重 DP

1 豊かな人間性と倫理観

4 専門知識・技術の活用力

5 論理的思考力

0 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

入澤孝一

科目に関連した実務経験

中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験

日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験

JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワ ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①運動実践指導者として必要な社会・心理・環境要因を理解する。動の実践を促すための具体的な方法について理解する。
(行動変容を促す)

② 対面方式

到達目標



- 1 人間の行動変容を起こすための心理的理論について理解する。
- 2 コーチング理論を理解する。
- 3 行動変容プログラムを作成できる。

使用教材



健康運動実践指導者養成用テキスト及び自作教材

参考文献



行動変容に関する著書、コーチングに関する著書

評価方法



授業終了時の課題レポート 60% 講義参加状況、筆記試験 40%

課題・評価に対するフィードバック方法



毎時間のレポートに対するコメント

オフィスアワー



水曜日 3号館3階 入澤研究室

メールアドレス（#→@）



irisawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション及び授業概要運動環境に係る現状について理解する。 健康運動実践指導者の役割について理解する。	1,2,3	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで講義の目標を理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	運動の心理・社会的効果について理解する。■ 運動を妨げる要因について理解する。	1	教科書7章 1・2を読んてくる。	0.5h	成人における身体活動と決定要因との関連について確認する。	0.5h
3	行動変容のモデル及び技法について理解する。■ 身体活動の効果とモチベーションについて理解する。	1	教科書7章 3について読んてくる。	0.5h	行動変容プロセスと介入方法を確認する	0.5h
4	指導のミスマッチについて理解する アスリートの運動継続動機について理解する■	1	教科書7章 5について読んてくる。	0.5h	指導と受講のミスマッチと解決方法を確認する。	0.5h
5	コーチングスキルの概要をビデオ教材（動機付けの継続） 競技者に対する心理的スキルについて理解する。■	2	コーチングスキルの概要について事前配布資料を読んてくる。	0.5h	コーチングスキルの概要（目的、方法等）について確認する。	0.5h
6	ビデオ教材を参考として、コーチングスキルを実践する。 （実践例：可能性への挑戦）	2	コーチングスキルの実践内容について、事前配布資料を読んてくる。	0.5h	コーチングスキルを確認する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	行動変容モデルについて理解する。■					
7	不活動者に対する運動動機付けについて理解する。（実践例：ラグビー指導者）■	2	事前配布資料によりを確認する。	0.5 h	評価された内容について確認し、修正する。	0.5 h
8	運動継続（行動変容）のためのサポートについて理解する。■ 実践例：陸上競技指導者の実践	2	事前配布された資料を確認する。	0.5 h	実践例からレポート課題を作成する。	0.5 h
9	指導の方法、技術を習得する。（不活成人の行動変容）■	2 ■	事前配布された資料を確認する。	0.5 h	実践例からレポート課題を作成する。	0.5 h
10	個別指導における動機付けとカウンセリング方法について理解する1,2 ■ 肥満に対する行動変容	2	事前配布された資料を確認する。	0.5 h	実践例からレポート課題を作成する。	0.5 h
11	行動変容の実践例を参考とする ■ 高齢者に対する行動変容	2	高齢者の行動変容について考えてくる	0.5 h	実践例についてレポートを作成する。	0.5 h
12	行動変容の実践例を参考とする 行動変容につながる体育授業の意義と役割 ■	2 ■	トップアスリートの行動変容について考えてくる	0.5 h	実践例についてレポートを作成する。	0.5 h
13	行動変容の実践例を参考とする 指導者の理念と行動から、選手の行動変容を考える ■	3 ■	指導者の指導理念について資料を確認し考えてくる。	0.5 h	実践例についてレポートを作成する。行動変容プログラムを確認し修正する。	0.5 h
14	バーンアウトの問題について考える ■	3 ■	事前配布資料を確認する。	0.5 h	課題についてレポートを作成する。	0.5 h
15	筆記試験・レポート	1,2,3	14回分の資料を確認する。	0.5 h	レポート課題を作成し提出する。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

授業の流れ

授業資料はC-learning上で事前配布する。

本時の検討課題について、課題レポートを提出する。

出欠及び評価は、レポート提出によって行う。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

エアロビックダンスの実際

英文名：Theory and Practice for Aerobic Dancing

科目区分：健康運動

科目ナンバリング：PHS201

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

8 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

0 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

河野さゆり

科目に関連した実務経験

エアロビックインストラクター、高校非常勤講師、ダンススタジオインストラクター（現在）

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①少子超高齢化社会を健康で活力あるものにするには、病気の早期発見や早期治療だけでなく、健康増進、発病予防（第1次予防）を重視していかなければなりません。健康運動実践指導者は、「適切な運動プログラムを構成する能力」「自ら見本を示せる実演能力」を併せ持った指導者の資格です。

エアロビックダンスの正しい模範的な動きと、対象者に正しくタイミングよく伝達する指導能力を学び、楽しく運動して、健康増進ができるような指導者を目指していきましょう。みんなで楽しくエアロビックダンスを行いましょう。

授業の進め方は、エアロビックダンスの特性を学び、ステップの習得、エアロビックダンスの指導力を身につける。
②実技形式で行う。

到達目標 ^

- 1 エアロビックダンスの健康に対する効果や特性について理解する
- 2 ウォームアップやクールダウンで使用するストレッチングについて正しく理解、実践できるようにする ■
- 3 エアロビックダンスの正しい動きを習得し、模範となる動きを実演できるようになる ■
- 4 エアロビックダンスの指導法を学び、受講者に適切な配慮をもって指導できる ■
- 5 健康運動実践指導者としての自覚をもって、運動の効果や特性を説明できる

使用教材 ^

教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」
公益財団法人 健康・体力づくり財団 発行
なお、随時資料配布して指導実習を行う。

参考文献 ^

教科書「健康運動実践指導者養成用テキスト」

評価方法 ^

実技試験（実演能力・実演指導能力）2回、70%、レポート3回30%で評価する。
総合評価 70%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法 ^

レポートについては、コメントをつけて返却する。
実技試験について、できない内容については、個別で対応、再指導する。

オフィスアワー ^

水曜日、質問はメールでも受け付けます。

メールアドレス（#→@） ^

sayuriaerobic1023#gmail.com

授業計画表 ^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	教科書の第8章D エアロビックダンスに目を通す	0.5h	講義資料を見て、次回からの目標を確認しておく	1.5h
2	エアロビックダンスのレッスン体験（流れとストレッチングの理解） ■	1,3	教科書 第8章D 5エアロビックダンスの実際に目を通す	0.5h	教科書に付属されているDVD（ステップ）を見ておく	1h
3	エアロビックダンスの基本ステップ（ローインパクト）とストレッチングの習得① ■	2,3	教科書 第8章D 5エアロビックダンスの実際に目を通す P173 ステップの種類に目を通す	0.5h	学習したストレッチングの動き、ステップを練習しておく	0.5h
4	エアロビックダンスの基本ステップ（ローインパクト）とストレッチングの習得② ■	2,3	教科書 第8章D 5エアロビックダンスの実際に目を通す P173 ステップの種類に目を通す	0.5h	学習したストレッチングの動き、ステップを練習しておく	1h
5	エアロビックダンスの基本ステップ（ハイインパクト）とストレッチングの習得③ ■	2,3	教科書 第8章D 5エアロビックダンスの実際に目を通す	0.5h	学習したストレッチングの動き、ステップを練習しておく	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			P 174 ステップの種類に目を通す			
6	ウォームアップとウォームダウンの留意点と正しいストレッチングの習得 ■	2	教科書の第8章B ストレッチングに目を通す	1h	出来なかったステップについて、確認、練習しておく	1h
7	エアロビックダンスの実演能力の試験の練習 ■	3	教科書に添付されているDVD（ステップ）を見ておく	0.5h	出来なかったステップについて、確認、練習しておく	0.5h
8	エアロビックダンスの実演能力の試験 ■	3	試験の課題動作を練習しておく	1.5h	試験で不明確なステップについて、確認、練習しておく	0.5h
9	エアロビックダンスの指導テクニックを学ぶ（指示だし、声かけ） ■	4	教科書に添付されているDVD（ステップ）を見ておく	0.5h	音楽を聞きながら、指導のタイミングを練習しておく	0.5h
10	エアロビックダンスの指導練習① ■	3,4	教科書に添付されているDVD（ステップ）を見ておく	1h	指導課題のステップを正確にダイナミックにできるように練習する	0.5h
11	エアロビックダンスの指導練習② ■	3,4	教科書に添付されているDVD（ステップ）を見ておく	0.5h	指導法についてまとめる（レポート作成）	0.5h
12	エアロビックダンスの実演指導試験の練習① ■	1,3,4,5	教科書に添付されているDVDを見ておく	0.5h	課題のステップを指導する練習をしておく	0.5h
13	エアロビックダンスの実演指導試験の練習② ■	1,3,4,5	教科書に添付されているDVDを見て、指導のイメージをつかんでおく	0.5h	課題のステップを指導する練習をしておく	0.5h
14	エアロビックダンスの実演指導試験 ■	3,4,5	実演指導試験の練習をしておく	1h	試験でできなかった課題の練習をする	0.5h
15	エアロビックダンスの理論について理解する（レポート）	1,5	教科書に添付されているDVDや教科書を参考に、レポートを作成する	1h	返却されたレポートを見て、できなかった箇所を確認しておく	0.5h

合計時間（予習・復習）

21h

備考

授業はウォーミングアップから始まり、課題のステップの確認、指導の練習を行う。授業内で教科書や教員の作成するプリントを使用する。

オンライン授業を行った場合の評価方法は、レポート課題や自分で動画を撮って提出する課題を評価する。出席はC-learningサイトからアンケートに回答し出席とする。個別にレポート課題や動画課題に対してフィードバックを行う。

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

ジョギング・ウォーキングの実際

英文名：Walking/Jogging

科目区分：健康運動

科目ナンバリング：PHS100

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

8 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

0 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

入澤孝一

科目に関連した実務経験

中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験

日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験

JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題 解決型学 習）	反転 授業	ディスカッ ション、ディ ベート	グルー プワー ーク	プレゼン テーショ ン	演習、実 験、実習、 実技	フィー ルドワ ーク	指導案作 成、模擬授 業	リアクシ ョンペー パー	そ の 他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

目標 座学・実技をとおしてジョギング・ウォーキングの理論と指導方法を理解する。

目標 ジョギング・ウォーキング実技により、示範できる正しい動きを習得する。

実施方法 座学によって理論的な学習をし、実技（実践）により見本となる動作に習熟する。

到達目標

1. ジョギング・ウォーキングが人間の健康にとって重要な役割を果たすことを理解する。
2. 個に応じた適切な運動プログラムが作成できる。

- ①実技の示範ができる
- ②運動プログラムを自ら実施し課題を検討・修正できる。■

使用教材

▲

健康運動実践指導者養成用テキスト及び自作教材

参考文献

▲

ジョギング・ウォーキングに関する著書

評価方法

▲

授業終了時の課題レポート60％ 講義参加状況、筆記試験40％

課題・評価に対するフィードバック方法

▲

毎時間のレポートに対するコメント

オフィスアワー

▲

水曜日 3号館3階 入澤研究室

メールアドレス（#→@）

▲

irisawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

▲

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（授業概要・評価方法・、事前テスト）	1,2,3	教科書第8章 C ウォーキングとジョギング 1 について読んでくる。	0.5h	授業の概要、到達目標、評価方法等について確認する。	0.5h
2	実施上の留意点、安全上の対策及び年齢や性差による歩行速度・特徴について理解する	1	教科書8章 p161～165を読んでくる。	0.5h	ウォーキングの特性、安全上の留意点について確認する。	0.5h
3	ウォーミングアップ及びクーリング`ダウンの効果と必要性について理解する。 姿勢・靴・歩行動作を習得する	1	教科書8章 p167～168 を読んでくる。	0.5h	アップとダウンの方法について確認する。	0.5h
4	ウォーキング実践①（ウォーミングアップ及びクーリング`ダウンの運動プログラムを作成し、実践する ■	1,2	教科書8章 p165～167 を読んでくる。	0.5h	プログラムを実践し、結果について確認し、修正する。	0.5h
5	ウォーキング実技② 60分間ウォーキングの実践 歩数計での計測 ■	1,2	教科書8章 160～161を読んでくる。	0.5h	速度と時間・距離・心拍数の関係について確認する。	0.5h
6	ウォーキング実技③ 60分ウォーキングの実践 歩数計での計測 ■	1,2	1日1時間のウォーキング実践を1週間実施してくる。	0.5h	速度と心拍数・主観的運動強度について確認する。	0.5h
7	ウォーキング実技④ 60分間ウォーキングの実践 歩数計での計測 ■	1,2	1日1時間のウォーキング実践を1週間実施してくる。	0.5h	速度の違うウォーキングと運動効果について確認する。	0.5h
8	実技 ウォーキング実技データ整理とまとめ ■	1,2	4週間の実践記録を表とグラフにまとめる。	0.5h	レポート内容の評価反省	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	ジョギングの特徴について理解し、障害リスクやシューズの選定、水分摂取方法等指導上の留意点について理解する。（ジョギングの知識：特徴・効果）■	1	教科書8章 p160～168を読んでくる。	0.5h	安全なジョギングを行うための方法について確認する	0.5h
10	ジョギング [※] によるエネルギー消費量を速度と時間の関係から理解し、消費カロリーを基準とした運動プログラムを作成する。（ジョギングの生理）■	3	教科書8章 p156～160を読んでくる。	0.5h	エネルギー消費量について確認する。	0.5h
11	ジョギング実技① 姿勢や体幹支持の必要性を理解し、身体に負担の少ない基本的なフォームを習得する。■	2,3	教科書8章 p152～155を読んでくる。	0.5h	毎日30分程度のジョギングを実施する。	0.5h
12	実技② 3種類の速度と継続時間を設定してジョギングを実施し、走行距離、心拍数や主観的運動強度の関係を理解する。（ジョギング・ウォーキングのビデオ撮影①）■	2,3	3速度のジョギングを事前に練習しておく。	0.5h	速度と継続時間による身体に対する負担を確認する。	0.5h
13	実技③ 60分ジョギング実習 歩数計による計測。■	2,3	ジョギングとランニングの練習を実施しておく	0.5h	ジョギング [※] 、ウォーキングの相違と基本動作について確認する。	0.5h
14	実技④ 60分ジョギング実習 歩数計による計測。■	1	ジョギング [※] 、ウォーキングの正しいフォームを練習しておく。	0.5h	自分のジョギング・ウォーキング、の基本について確認し、修正する。	0.5h
15	ジョギング実習データのまとめとレポート作成■	1,2,3	ジョギング計測値のデータ整理	0.5h	レポート内容の評価と修正	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

授業の流れ

- ①授業1～3回は、座学 4回～8回はウォーキング実習 9回～10回は座学授業 11回～14回ジョギング実習
 - ②授業8回目と15回目は実習のまとめ、レポート作成
 - ③C-learningによる自学授業を併用する。評価はレポート提出により行う。
 - ④座学は対面授業とする。実習はオンラインにより各自の時間帯で実施しレポート提出をする。
 - ⑤レポートにより欠席確認と評価を実施する。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

[HOME](#) > 水泳・水中運動の実際

水泳・水中運動の実際

英文名 : Swimming & Underwater exercise

科目区分 : 健康運動

科目ナンバリング : PHS101

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択必修

単位数 : 1単位

講義形態 : 実習

学位授与方針との対応 :

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

8 専門知識・技術の活用力

2 論理的思考力

0 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く すべて閉じる 

担当教員

三吉学、入澤孝一

科目に関連した実務経験

中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験

日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験

JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

水の性質、水中での利点、注意点を理解する。（バイタルサインや衛生管理）

水中レジスタンス運動及び各泳法を習得する。

健康運動実践指導者として、指導計画を作成し、グループ編成で指導を実践する。

到達目標



1. 水中運動の注意点、バイタルサインのチェック法、救急法について理解する
2. 各種レジスタンス運動、泳法に習熟し指導方法を習得する。
3. 指導計画を作成し、グループ編成による指導を実践し、指導力を高める。

使用教材



健康運動実践指導者養成用テキスト 及び自作教材

評価方法



授業終了時の課題レポート 60% 講義参加状況、筆記試験 40%

課題・評価に対するフィードバック方法



実技・指導内容をc-learningによるレポート提出により定着を図る

オフィスアワー



水曜日 3号館3階 入澤研究室

メールアドレス（#→@）



irisawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（アンケート 水泳実績 等について）■	1	シラバスの確認	0.5 h	授業の内容について確認する。	0.5 h
2	水泳水中運動の特性についてレポート提出■	1	テキストp178～179を読んでくる	0.5 h	水泳水中運動の特性についてまとめる。レポート作成	0.5 h
3	水泳・水中運動の生理学について理解する レポート提出■	1	テキストp179～181を読んでくる	0.5 h	水泳水中運動の生理学についてまとめる。レポート作成	0.5 h
4	水泳・水中運動の効果について理解する レポート提出■	1	テキストp181～182を読んでくる	0.5 h	水泳水中運動の効果についてまとめる。レポート作成	0.5 h
5	健康のための水泳水中運動の実際について理解する。レポート提出■	1	テキストp182～185を読んでくる。	0.5 h	健康のための水泳水中運動についてまとめる。レポート作成	0.5 h
6	安全に対する留意点について理解する レポート提出■	1	テキストp185～186を読んでくる。	0.5 h	安全についての留意点についてまとめる。レポート作成	0.5 h
7	テキストDVDにより水中レジスタンス運動を練習する。■	2	DVDにより動きの練習。自分で動画を撮影し自己評価する	0.5 h	練習内容を動画にする。動画を見て評価する。自己評価結果表を作成	0.5 h
8	テキストDVDにより水中レジスタンス運動を練習する。■	3	DVDにより動きの練習。自分で動画を撮影し自己評価する	0.5 h	練習内容を動画にする。動画を見て評価する。自己評価結果表を作成	0.5 h
9	テキストDVDにより水中レジスタンス運動を練習する。自己評価表の提出■	3	DVDにより動きの練習。自分で動画を撮影し自己評価する	0.5 h	練習内容を動画にする。動画を見て評価する。自己評価結果表を提出する	0.5 h
10	水中レジスタンス運動課題 1 指導計画を作成する。指導計画案提出■	3	指導案を考えてくる。	0.5 h	指導計画の評価・修正する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	クロールについてDVD教材により学習する。レポート提出■	2	クロールの事前学習を行う	0.5h	クロールの基本的な動作についてレポートを作成する	0.5h
12	平泳ぎについてDVD教材により学習する。レポート提出■	2	平泳ぎの事前学習を行う	0.5h	平泳ぎの基本的な動作についてレポートを作成する	0.5h
13	背泳ぎについてDVD教材により学習する。レポート提出■	2	背泳ぎの事前学習を行う	0.5h	基本的な動作についてレポートを作成する	0.5h
14	バタフライについてDVD教材により学習する。レポート提出■	2	バタフライの事前学習を行う	0.5h	バタフライの基本的な動作についてレポートを作成する	0.5h
15	筆記試験	2	テキスト内容について事前学習	0.5h	試験結果の復習	0.5h

合計時間（予習・復習）



15h

備考



授業の流れ

- 民間プールを利用し、対面で実技中心の授業を実施する。
- C-learningに課題レポートを提出する。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷



ストレッチングおよび補強運動の理論と実際

英文名：Theory and practice of resistance training and Stretch

科目区分：健康運動

科目ナンバリング：PHS202

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択必修

単位数：1単位

講義形態：実習

学位授与方針との対応：

比重 DP

0 豊かな人間性と倫理観

5 専門知識・技術の活用力

5 論理的思考力

0 チームへの貢献力

0 生涯学習力

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

入澤孝一、高橋裕子

科目に関連した実務経験

中学校・高等学校保健体育教員 県教委指導主事としての実務経験

日本スケート連盟上級コーチ及び医科学スタッフとしての指導研究経験

JOCコーチ、オリンピックヘッドコーチとして指導経験

履修を必須とする資格

健康運動実践指導者

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

健康運動実践指導者には、積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力が求められる。

目標 ストレッチやレジスタンストレーニングの基本を学び適切なプログラムを構成できる能力、自ら動きの見本を示せる能力、治療できる能力を身につけることを目標とする。

講義の実施方法は、対面による講義及び実技とする

到達目標



- 1 ストレッチングの目的を理解し、正しい技法を習得し、指導ができる。
- 2 レジスタンス運動の目的を理解し、自重及びフリーウエイトを使ったレジスタンス運動の動作ができる
- 3 レジスタンス運動のプログラムを作成し指導ができる

使用教材



健康運動実践指導者養成用テキスト及び自作教材

評価方法



授業終了時の課題レポート60% 講義参加状況、筆記試験40%

課題・評価に対するフィードバック方法



毎時間のレポートに対するコメント

オフィスアワー



水曜日 3号館3階 入澤研究室

メールアドレス（#→@）



irisawa#takasaki-u.ac.jp

授業計画表



回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 筆記テスト	1,2,3	教科書 p141～150について読んでくる。	0.5h	講義目標、・内容・評価方法などについて確認する。	0.5h
2	ストレッチングの基礎 ストレッチングの意義と効果、静的、動的ストレッチングの相違について理解し、目的に応じたストレッチング種目の選択について理解する。■	1	教科書 p141～142について読んでくる。	0.5h	ストレッチングの意義と効果について確認する。	0.5h
3	実習①ストレッチングの実際 上肢各部位の静的ストレッチングの実習を通じて、安全な方法や留意点について理解する。■	1	参考書：ストレッチングの基本事項について目をとおしてくる。	0.5h	実習したストレッチについて友達同士で確認する	0.5h
4	実習②ストレッチングの実際 下肢下肢各部位の静的ストレッチングの実習を通じて、安全な方法や留意点について理解する。■	1	参考書：ストレッチングの基本事項について目をとおしてくる。	0.5h	実習したストレッチについて友達同士で確認する	0.5h
5	実習③ストレッチングの意実際 体幹体幹体幹目的や運動種目別に応じたストレッチ種目の選択について理解し、プログラムを作成する■	1	参考書：種目別ストレッチについて目をとおしてくる。	0.5h	種目別プログラムを実践する。	0.5h
6	実習④ダイナミックストレッチングダイナミックストレッチング■	1	基本的なストレッチ種目について練習してくる。	0.5h	実技練習を実施し技術の向上につなげる。	0.5h
7	ストレッチングの適応と指導■	2	指導方法についてテキストで確認してくる	0.5h	二人組でストレッチ指導に復讐により習熟する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	実技テスト 正しいストレッチ方法の実技テストを実施する。 ■	2	基本的なストレッチ種目について練習してくる。	0.5h	実技テストの結果を評価し、技術の向上につなげる。	0.5h
9	レジスタンス運動の基礎理論について ■	2	テキストにより予習する。	0.5h	レジスタンス運動についてレポート作成・提出	0.5h
10	実技①自重負荷のレジスタンス運動と筋カトレニングプログラムについて ■	2	事前配信した動画によりスクワットについて練習	0.5h	授業中撮影した動画の確認	0.5h
11	実技②フリーウエイトを使ったスクワット及びデッドリフト実技 ■	2	事前配信した動画によりスクワットについて練習	0.5h	授業中撮影した動画の確認	0.5h
12	実技③スクワット・デッドリフト・ベンチプレス（バーベルシャフト使用 ダンベル使用） ■	2	事前配信した動画によりスクワットについて練習	0.5h	授業中撮影した動画の確認	0.5h
13	実習④レジスタンス運動 指導動画を撮影（フリーウエイト・自重負荷） ■	2	指導テキストのDVDによって予習する。	0.5h	正確な動きができるように自主練習する	0.5h
14	実習⑤指導者の立場でレジスタンス運動の指導練習 ■	3	テキストDVDにより指導者として実施するレジスタンス運動予習する	0.5h	自己の指導動画を見て修正、反復練習する	0.5h
15	実技テスト 自重負荷・フリーウエイトによるレジスタンス運動の指導実技テスト ■	3	指導練習をしてくる	0.5h	自己の指導についてVTRを見て修正・改善する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

授業の流れ

- 対面授業及び集団での実技授業が不可能の部分は、テキストのDVDと動画を使用しての授業とする。
- C-learningでの授業は、オンデマンドとし、レポート提出により出欠確認と習熟度を評価する。
- ：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 